

創立60周年記念

NPO法人磐田市体育協会 体育史

～合併からの飛躍～



I W A T A

2000 ▶ 2009

CONTENTS

●目次	1	磐田ゴルフ連盟	76
●フラッシュ・TALKY O	3	磐田バドミントン協会	78
●発刊のことば	13	磐田市水泳協会	80
杉山 元 (NPO法人磐田市体育協会会長)		磐田市相撲連盟	82
●祝 辞	14	磐田市ボウリング連盟	84
齊藤斗志二 (財団法人静岡県体育協会会長)		磐田トライアスロンクラブ	86
渡部 修 (磐田市市長)		磐田市アーチェリー協会	88
八木 啓仁 (磐田市議会議長)		磐田ゲートボール協会	90
飯田 正人 (磐田市教育委員会教育長)		磐田市ラグビーフットボール協会	92
●磐田市体育協会の沿革と現況	19	磐田市グラウンドゴルフ協会	94
●組織図	26	磐田アマチュアボクシング協会	96
●役員名簿 (H21年度)	27	社団法人日本3B体操静岡県支部西グループ磐田	98
●役員名簿 (H12年度～21年度)	28	特定非営利活動法人磐田剣道連盟	100
●加盟団体一覧表	30	豊田合気道クラブ	102
●合併までの沿革	33	少林寺拳法	104
福田町体育協会の沿革	34	磐田市柔道協会	106
竜洋町体育協会の沿革	35	磐田市インディアカ協会	108
豊田町体育協会の沿革	37	磐田サーフィンクラブ	110
豊岡村体育協会の沿革	39	磐田ファミリーバドミントン協会	112
合併協定書	41	(財)日本少年野球連盟磐田支部	114
●競技団体 (34団体)	47	●地区体育部 (15地区)	117
磐田市陸上競技協会	48	長野地区体育委員会	118
磐田市バレーボール協会	50	向笠地区体育委員会	119
磐田卓球協会	52	大藤地区体育部	120
静岡県野球連盟磐田支部	54	西貝地区体育部	121
静岡県野球連盟福田支部	56	見付地区体育部	122
磐田市空手道連盟	58	岩田地区体育部	123
磐田山の会	60	御厨地区体育部	124
磐田サッカー協会	62	南御厨地区体育部	125
磐田バスケットボール協会	64	田原地区体育部	126
磐田市テニス協会	66	南地区体育部	127
磐田市ソフトテニス協会	68	中泉地区	128
磐田市バウンドテニス協会	70	福田地区	129
磐田市ソフトボール協会	72	竜洋地区	130
磐田弓道協会	74	豊田地区	131
		豊岡地区	132

●磐田市スポーツ少年団（66団体）……………	133	青城ジュニアフットボールクラブスポーツ少年団…	171
富士見スポーツ少年団……………	135	豊田南サッカースポーツ少年団……………	172
磐田空手道スポーツ少年団(社)日本空手協会磐田支部	136	豊田グリーンズスポーツ少年団……………	173
新田野球スポーツ少年団……………	137	豊田クラブスポーツ少年団……………	174
見付北クラブスポーツ少年団……………	138	日本空手協会豊田支部スポーツ少年団……………	175
磐田スモールキング野球スポーツ少年団……………	139	磐田豊田バレーボールスポーツ少年団……………	176
中泉クラブスポーツ少年団……………	140	豊田町卓球スポーツ少年団……………	177
浜の子パワーズスポーツ少年団……………	141	竜洋野球スポーツ少年団……………	178
福田バレーボールスポーツ少年団……………	142	竜洋ミニバスケットボールスポーツ少年団…	179
福田ベースボールクラブスポーツ少年団……………	143	竜洋F Cスポーツ少年団……………	180
福田スポーツ、サウンド、クラブスポーツ少年団…	144	竜洋西卓球スポーツ少年団……………	181
磐田南クラブスポーツ少年団……………	145	竜洋空手スポーツ少年団……………	182
田原フットボールクラブスポーツ少年団……………	146	テニス（硬式）スポーツ少年団……………	183
豊田ジュニアフットボールクラブスポーツ少年団…	147	竜洋V S Cスポーツ少年団……………	184
磐田北F C・P O L A R S T A Rスポーツ少年団…	148	豊岡野球スポーツ少年団……………	185
ヤマハジュビロサッカースクールスポーツ少年団…	149	磐田豊岡J F Cスポーツ少年団……………	186
豊岡J V Cスポーツ少年団……………	150	竜洋東卓球スポーツ少年団……………	187
磐田第一ジュニアフットボールスポーツ少年団…	151	向笠サッカー愛好会チームフレンドリースポーツ少年団…	188
磐田東野球スポーツ少年団……………	152	豊岡南剣道教室スポーツ少年団……………	189
磐田向陽スポーツ少年団……………	153	磐田東部バレーボールクラブスポーツ少年団…	190
テンマサッカークラブスポーツ少年団……………	154	二之宮南ソフトボールスポーツ少年団……………	191
向陽フットボールクラブスポーツ少年団……………	155	磐田松涛館スポーツ少年団……………	192
A S K Aサッカークラブスポーツ少年団……………	156	南みくりソフトボールスポーツ少年団……………	193
磐田南フットボールクラブスポーツ少年団…	157	NPO法人いわた体操クラブ……………	194
バディフットボールクラブスポーツ少年団…	158	尚道塾（空手）……………	195
修空会スポーツ少年団……………	159	豊岡東剣道教室……………	196
F C A Z U R Iスポーツ少年団……………	160	豊岡ミニバスケットボールクラブ……………	197
見付バレーボールクラブスポーツ少年団……………	161	豊田ミニバスケットボールクラブ……………	198
福田卓球スポーツ少年団……………	162	御厨子供会ソフトボール倶楽部……………	199
福田サッカースポーツ少年団……………	163	龍池舎……………	200
福田本町スポーツ少年団……………	164		
福田剣道スポーツ少年団……………	165	●体育賞に輝いた方々……………	201
福田柔道クラブスポーツ少年団……………	166		
福田ミニバスケットボールスポーツ少年団…	167	編集後記……………	205
豊田北部少年剣道クラブスポーツ少年団……………	168		
豊田南部少年剣道クラブスポーツ少年団……………	169		
豊田柔道クラブスポーツ少年団……………	170		

—フラッシュ・TAIKYO—



ジュビロ磐田 中山雅史選手の号砲でスタート



先導車のジュビロカー



ジュビロ磐田の若手選手と一緒に



ジュビロ磐田 メモリアル マラソン



入賞者の皆さん、おめでとう!!



ボランティアの皆さん、ご苦労さま

いかまい
磐田100キロ
ウォーク



りゅうよう風竜ウォーク



とよおか里山ウォーク



いかまい君



ふくてくウォーク



熊野の里ウォーク



とんぼの里ウォーク



**第35回
日独スポーツ少年団
同時交流事業**



ドイツ団歓迎会



スポーツ交流



旧赤松邸見学



富士山麓山の村にて

静岡県
市町村対抗
駅伝競走大会



車椅子ツイン バスケットボール 大会

於：アミューズ豊田



創立60周年記念

NPO法人 磐田市体育協会 体育史 ～合併からの飛躍～



発刊のことば

NPO法人磐田市体育協会
会長 杉山 元

磐田市体育協会は、昭和23年の市制施行の翌年、昭和24年に、陸上、野球、庭球、柔道の各競技団体関係者の熱意と努力によって設立されて以来、本年で60周年を迎えることになりました。

その間、歴代の会長をはじめ各競技団体、体育、スポーツ関係者によって市民の健康、体力づくりはもとより、競技力向上とスポーツの振興を図るため毎年各種大会及び諸事業を実施しております。

平成17年4月1日に、旧磐田市、旧福田町、旧竜洋町、旧豊田町、旧豊岡村の5市町村が合併して新「磐田市」が誕生しました。

当体育協会も行政の合併に合わせて平成14年に磐南体育協会合併連絡会を発足し、話し合いを進め、旧市町村5体育協会が合併しました。

合併前には、旧磐田市体育協会は、平成13年4月2日に、NPO法人格を取得（体育協会としては全国4番目）しました。

平成16年4月、磐田市体育施設指定管理者に認定を受け15施設の管理運営がスタートしました。

平成19年には、全国の体育協会として前例のないISO9001、ISO14001を認定取得し、組織の強化を図りました。

また、平成20年度～25年3月の5年間、磐田市体育施設指定管理者として磐田市総合体育館外11施設、福田屋内スポーツセンター外13施設、東大久保運動公園外3施設を競争入札により落札し管理運営することとなりました。

思い起こせば、平成13年、W杯日本代表のベースキャンプ地に磐田スポーツ交流の里ゆめりあに決定。平成14年、ジュビロ磐田Jリーグ完全優勝達成。平成15年、「NEW!!わかふじ国体」では軟式野球、バスケットボール、自転車ロードレース、サッカー。「わかふじ大会」は、サッカーを開催しました。また、ラグビーではヤマハ発動機ジュビロがトップリーグに参戦。

平成16年には、天皇杯でジュビロ磐田優勝。磐田市が全日本高等学校女子サッカー選手権大会開催地となりました。アテネオリンピック大会には、ジュビロ磐田の山本昌邦監督、石井、菅野コーチ、菊池直哉選手が出場し、大いに市民の関心を集めることとなりました。全国高等学校総合体育大会では、棒高跳びで磐田南高校の川口直哉選手優勝。全国中学生テニス競技大会では城山中学校の原田恵美、松島美智留ペア優勝。平成17年には、磐田東高校サッカー部が全国大会出場。平成19年には、竜洋サッカースポーツ少年団が県大会優勝、全国大会出場。平成20年、全国小学生卓球選手権大会で豊田町スポーツ少年団の伊藤美誠さんが優勝、全国中学生相撲大会で神明中学校の太田雅章君が優勝。北京パラリンピック大会のマラソン競技で、新野正仁さんが第19位。平成21年に入り、世界卓球選手権大会ダブルスで水谷隼君が第3位とさまざまな活躍が見られました。

このような時期に当会で「磐田市体育協会創立60周年記念誌」を発刊し、磐田市の体育、スポーツの発展と軌道を辿り、一層の飛躍を期待するものです。

本誌が多くの皆さんに活用されますことを念願するとともに、編集にあたられた方々や、原稿を執筆して下さった方々に厚くお礼申しあげ、発刊のことばといたします。

創立60周年記念

NPO法人 磐田市体育協会 体育史 ～合併からの飛躍～



祝 辞

財団法人静岡県体育協会
会長 齊藤 斗志二

NPO法人磐田市体育協会の創立60周年にあたり、協会の創設当時からこれまでの足跡を振り返り、新しい歩みのための記念誌を発刊することは、誠に意義深く心からお祝い申し上げます。

貴協会におかれましては、昭和24年赤松市長を初代会長として創設以来、近隣町村の合併を重ねながら、今日まで着実にスポーツの振興と発展に寄与されてこられました。

平成13年には、全国でも早々に「特定非営利活動法人格」を取得し、NPO法人磐田市体育協会として、県下初の自立した協会運営の在り方を実証していただきました。それと同時期に開始された、地域還元を目的とした「ポイントエコマネー」のシステム導入は、スポーツボランティア活動の必要性と意義を高く評価した画期的なスポーツ振興の手段となり、併せて地域振興につなげた功績は特筆すべきものであります。

更に、平成17年の磐南5市町村の合併では、磐田市、福田町、竜洋町、豊田町、豊岡村の各地域の伝統的なスポーツイベントの特色を生かしながらも、スポーツの斬新な企画が求められている今日、新たな行事として全市町を巻き込んだ「いかまい磐田100キロウォーク」をいち早く立ち上げ、市内外に磐田市を広報すると共に、生涯スポーツの重要性を住民に提供していただいた取組みは、サッカーJリーグ「ジュビロ磐田」のホームタウンにふさわしく、「サッカーのまち磐田・スポーツのまち磐田」として貴協会の活力を反映させるものであります。

これらは、貴協会の創設当初から脈々と受け継がれている地域重視の献身的な取組みや、後継者の連携の素晴らしさを物語るものであり、これからの貴協会の成長の可能性を期待するものでもあります。

終わりに、貴協会が現杉山元会長を筆頭に、磐田市にとどまらず、西部地域体育協会のまとめ役として、今後ともスポーツの振興にご尽力いただくことを願ってやみません。60周年記念を機に、益々のご発展を祈念し、発刊に寄せる祝辞といたします。

創立60周年記念

.....
NPO法人 磐田市体育協会 体育史
～合併からの飛躍～



祝 辞

磐田市長
渡 部 修

磐田市体育協会が創立60周年を迎えられ、記念誌が発刊されますことは、大変意義深いことであり、心からお祝いを申し上げます。

磐田市は、子どもから高齢者まですべての市民が様々なスポーツに親しみ、健康増進・体力向上や地域の活性化を目的に「スポーツ交流健康都市宣言」を行い、「スポーツのまちづくり」を推進しています。特に小中学校の校庭の芝生化、スポーツによる健康づくり、全日本高等学校女子サッカー選手権大会を毎年開催するなど、各種スポーツ大会等の開催や誘致などを積極的に取り組んでいます。また、サッカーJリーグ「ジュビロ磐田」のホームタウンとしても知られています。

貴協会は、平成13年に体育協会としては全国で4番目にNPOを取得され、法人化の利点を最大限に活用しつつ、スポーツの振興を図り、市民の健康増進に役立つ体育協会となるよう努めてこられました。また平成17年の市町村合併にともない5つの体育協会が合併して更なるスケールアップがされました。平成19年には全国で最初のISO9001、ISO14001認証を取得。平成20年には磐田市体育施設指定管理者として認定され、現在では30箇所の公共体育施設を良好に管理いただいています。

さらに、「ジュビロ磐田メモリアルマラソン」「車椅子ツインバスケットボール大会」「スポーツ指導者養成講座」「いかまい磐田100キロウォーク」など特色あるスポーツイベントを積極的に展開し、磐田市のスポーツ振興に重要な役割を果たしていただいています。

今後も市のパートナーとして、より一層のご支援とご協力をお願いしたいと思います。

結びに、本誌編さんにあたりご尽力された方々に対して深く感謝を申し上げるとともに、磐田市体育協会のますますのご発展を祈念してお祝いの言葉とします。

創立60周年記念

NPO法人 磐田市体育協会 体育史 ～合併からの飛躍～



祝 辞

磐田市議会
議長 八木 啓 仁

NPO法人磐田市体育協会が、栄誉ある創立60周年を迎えられたこと、また更なる飛躍に向けての記念誌を発刊されることについて、たいへん意義深く、市議会を代表して心よりお慶びを申し上げます。

厳しい経済・社会環境の変遷の中で、ゆるぎない実績のもと今日では市の体育施設指定管理者として多くの施設の管理運営に、市民の気持ちに立って日々ご努力されていることに、改めて敬意と感謝を申し上げる次第であります。文武において健康な体には健康な精神が宿るとは言いますが、特に昨今の貴協会の振興と活動はめざましく、今年で13回目を迎える「ジュビロ磐田メモリアルマラソン」も、毎回J1ジュビロ磐田の選手を迎え、今では参加者が約5千人に上っています。また5年目になる「いかまい磐田100キロウォーク」、そして静岡駿府公園を中心に行われる「静岡県市町村対抗駅伝競走大会」は、陸上競技協会と連携をとる中で、選手の育成に努め市の代表としての奮起により、常に立派な成績をおさめられてきました。これらは多くの市民に共感を与え、同じ目標に向かって年齢や地域を越えた選手間の関わりに、大きく役立っているものと確信を致しております。

磐田市と致しましても、平成17年磐田市・福田町・竜洋町・豊田町・豊岡村の1市3町1村合併後、昨年まで確立されていなかった都市宣言を制定し、「スポーツ交流健康都市」を目指して努力していくこととなりました。そういった意味合いにおいても、広く市民が、いつでもどこでも気軽にスポーツに親しめる条件整備に努力すると共に、スポーツに対する意識や、体位向上と競技力の高揚、ひいては身も心も健康が図られることがなによりであります。

今後とも貴協会と一体となって、スポーツの普及・啓発、ひいてはより健康な町づくりを目指して、更に発展させていく所存です。貴協会のなお一層のご活躍ご発展を心からご祈念申し上げまして、お祝いのご挨拶とさせていただきます。

創立60周年記念

NPO法人 磐田市体育協会 体育史 ～合併からの飛躍～



祝 辞

磐田市教育委員会
教育長 飯田 正人

NPO法人磐田市体育協会創立60周年を記念して記念誌を発刊されますことを、心からお祝い申し上げます。

同体育協会は昭和24年創立とお聞きしています。60年の長い期間にわたり、磐田市の社会体育の充実とスポーツの振興にご尽力されてきましたことに、心から敬意を表したいと存じます。

磐田市民の皆さんのスポーツに対する思いは、大変熱いものがあり、そのことが同体育協会の様々な活動に反映されてきていると感じています。かつて、磐田市内の高等学校にはプールが無く、防火用水槽を自分たちの手で造り、そこで水泳の練習を行ったと聞いたことがあります。水泳競技に対する市民の皆さんの思い入れは人一倍強いものがあり、今日でも各年齢層において、県大会や全国大会で活躍する選手がみられているところです。その他の競技においても、同体育協会の委員の皆さんや多くの関係する団体の皆さんの長年にわたるご指導・ご支援により、昨年度の北京オリンピックで活躍された卓球の水谷隼選手をはじめ、様々な競技で活躍する方々を輩出しています。

さて、磐田市体育協会がNPO法人となったのは平成13年のことでした。その後、平成17年の市町村合併により、1市3町1村の体育協会が統合し、新磐田市の体育協会としての活動が始まりました。また、平成19年にはISO9001、ISO14001を認証取得し活動が進められています。同体育協会も世の中の大きな動きの中で、少しずつ変化してきていることを感じます。現在、同体育協会は磐田市体育施設の指定管理者として指定され、市内30施設の管理運営を行っていて、市民の皆さんに親しまれ、利用し易い施設管理を目指しているとお聞きしています。

同体育協会の実施事業としては、静岡県市町村対抗駅伝競技大会、ジュビロ磐田メモリアルマラソン、車椅子ツインバスケットボール大会、いかまい磐田100キロウォーク、その他各種スポーツ教室、小中学生対象の各種大会があります。各事業ともに年々盛んになってきていて市民の皆さんのスポーツへの関心の高さが伺えると同時に、同体育協会の委員の皆さんの献身的な運営によるところが大きいと感じる次第です。

結びに、NPO法人磐田市体育協会の益々の発展と市民の皆さんがこれからもスポーツを愛し、健康に過ごされますことを祈念申し上げ、発刊の祝辞とさせていただきます。

磐田市体育協会の 沿革と現況

磐田市体育協会の沿革と現況

○合併前の足取り

～磐南5市町村体協の変遷～

旧磐田市体育協会

昭和24年9月1日に磐田陸上競技協会、野球連盟磐田支部、磐田柔道協会、磐田庭球協会の4団体を傘下に設立した磐田市体育協会（以下磐田体協）は、赤松則彦市長が初代会長となり、その歴史を歩み始めた。昭和30年の市町村合併、昭和35年の旧体育館完成、昭和46年「市民体育のつどい」の開催、昭和59年文部大臣賞受賞などが、主な出来事として挙げられる。また磐田体協のメイン事業であるジュビロ磐田メモリアルマラソン（以下ジュビロマラソン）は、平成5年にJリーグへ昇格したジュビロ磐田（旧ヤマハ発動機サッカー部）を記念するものであり、平成10年より現在まで続いている。

大きな転機が訪れたのは、平成11年のことである。市の補助金が財政難により減少する中、磐田体協独自の道を歩むべく、平成10年に施行された特定非営利活動促進法により、当時事務局長の鈴木勝氏を中心に特定非営利活動法人（以下NPO法人）化の検討が始まった。当時の予算規模では有給職員は1名しか雇えず、事務局長は無償であったが、自販機の契約を見直すなどし、事務局長へ報酬を支払えるような組織に改編していった。2年の勉強期間を経て、平成13年4月2日、全国の体育協会では4番目、県内の体育協会では初のNPO法人格の取得を無事果たすこととなる。磐田体協の法人化については、旧来より「組織運営に必要な安定的な基盤形成」のため移行を検討していたが、当時、体育協会が法人化を目指すとなると、財団法人や社団法人しか選択肢がなく、これには設立時に莫大な費用がかかることから、検討むなしかった。NPO法人格のメリットは、資本金がいらぬことや、権利の主体となりうることだが、法人格取得後は市との契約、業者との契約がスムーズに行なわれることとなった。

またNPO法人では、社員を置くこと、理事を置くことが義務付けられており、これにより、旧来の理事、評議員制度の抜本的見直しを図ることとなる。特に各専門部には、理事、評議員の数を指定し、選出してもらっていたものが、法人格取得後は社員の数を定めず、また理事は35名までの人員制限を設け、選挙により選出することとなったのは、大きな組織改編だった。設立当初の理事は31名、社員は92名であった。

当初資産はなく、資本金は0円からのスタートであり、運転資金を確保することが現在まで続いている大きな課題である。また利益が出た場合、配当等に分配することが法律上禁止されている為、市内のスポーツ振興等、非営利活動に使用しなくてはならないが、平成21年のここに来て、ようやくその目途が立ち始めた。

NPO法人化と同時期にスタートしたものに、地域通貨「ポイントエコマネー（通称ポエマ）」の運用がある。当時、所属団体への補助金は、3万円から16万円と組織の規模による差があったが、ジュビロマラソン等の使役に対し参加率が低い団体があり、参加率が高い団体から不満が上がっていた。これを補う為に検討されたのがポエマであり、補助金を全団体2万円と定額にし、使役分をポエマで支給すれば、参加率に応じて補助額が増減するため不満は解消されることが狙いであった。また現金を支給すると、個人に対して源泉徴収をせざるを得ないため金券方式とした。1ポイント100円で市内の契約した商店で使うことが出来、ジュビロマラソン18ポイント、ウォーキング12ポイントなど、使役の時間を目安にしてポイント数は規定されている。現在では、年間200万円分以上の発行があり、市内の登録加盟店も30店舗以上に増え、市内経済にも多少の効果を得ていると実感している。

平成16年には、磐田市総合体育館を中心とする磐田市内16社会体育施設の指定管理を委託されることとなる。それまでは市内の社会体育施設、文化施設は財団法人磐田市振興公社が随意契約で管理していた。しかし生き残る道として財源確保を模索していた磐田体協は、磐田市と交渉を重ね、合併までの一年間ということで、それまで磐田市振興公社が管理していた施設を随意契約にて委託していただくことができた。契約は、

平成16年は単年度、17年～19年度で3年契約を結んだ。この管理の経験があったからこそ、指定管理者としての入札も行ったことを考えると、合併直前に随意契約を行ったことは価値があったと考えている。そして平成19年には、全国の体育協会として初めてISO9001、ISO14001を取得することとなる。

これまでの磐田市との関わり方だが、NPO法人格を目指すまでは、磐田市教育委員会社会体育課内に事務局があり、係長が事務局長の役職についていた。平成13年頃の県内74体育協会中、財団法人の浜松市、静岡市を除く72全ての体育協会は、自治体の教育委員会に事務局があり、行政職員が事務局を担当していた。NPO法人化を目指すため、平成11年に初めて事務局長を体育協会の内部から選任し、行政ではなく民間主導の事務局となったが、事務局は引き続き社会体育課に籍を置かせていただいていた。平成13年、NPO法人格取得後は、法人住所を現会長杉山元宅に、事務局は引き続き社会体育課に置かせていただいた。平成16年、指定管理の委託を受けてからは、事務局を総合体育館内に移動したが、法人住所を磐田市見付4075へ移動したのは平成18年4月からである。磐田市の組織改編は平成17年にあり、社会体育課はスポーツのまちづくり推進課に統合され、市長部局へと移動した。磐田市のこの10年の大きな出来事としては、平成14年に開催されたサッカーの日韓ワールドカップで、磐田市が日本代表のベースキャンプ地に指定され「ゆめりあ」で練習が行なわれたことや、平成16年のNEWわかふじ国体では、旧磐田市ではサッカー（成年女子）、バスケットボール（成年男子）、軟式野球（一般B）、旧豊田町ではバスケットボール（成年女子）、旧福田町、旧豊岡村は軟式野球（成年）、旧磐田市、旧竜洋町、旧福田町は自転車（ロード・レース）が開催された。現在では、平成15年から磐田市で継続開催している「全日本高校女子サッカー選手権大会」が磐田市の一番の大きな事業である。またスポーツのまちづくり磐田ボランティアクラブの方々にはジュビロマラソンなど運営のお手伝いをしていただくなど、相互で協働をして磐田市のスポーツのまちづくりを推進している。

旧福田町体育協会

旧福田町では、野球と水泳の盛り上がりを背景に、昭和34年8月鶴飼徳雄氏を初代会長に、5団体（水泳、野球、陸上競技、バドミントン、卓球クラブ）を傘下に福田町体育協会（以下福田体協）が発足した。

福田体協としての主な事業としては、暁杯野球大会等の6大会と親子ふれあい教室があった。この他、町教育委員会主催の駅伝大会や町主催のオリンピックの開催年にあわせて行なっていた町民ふれあい運動会にも役員として参加し、運営を支えた。

平成16年には、12部（野球、ソフトボール、男子バレーボール、女子バレーボール、卓球、空手道、剣道、柔道、陸上、テニス、バスケットボール、サッカー）があった。

旧竜洋町体育協会

旧竜洋町では、昭和34年4月、島田健次郎氏を会長とし、竜洋中学校の運動部の活躍や、当時既にあった野球連盟と柔道愛好者会を総合して、発展させるように竜洋町体育協会（以下竜洋体協）が設立された。設立時は、野球、柔道、バレー、駅伝の4種目の部門を傘下にしていった。

竜洋体協の主な事業は、竜洋町体育大会、水泳大会、駅伝大会、健康マラソンを4大会と位置付け、全加盟団体協力のもと実施していた。

平成16年は、スポーツ少年団を含めて、13部会3地区会で構成していた。

旧豊田町体育協会

旧豊田町では、昭和34年4月、当時豊田村長であった伊藤左一氏を初代会長とし、豊田村体育協会（以下豊田体協）が設立された。設立時は、陸上競技部、野球部、排球部、卓球部、水泳部、剣道部、柔道部の7種目の部門によって組織していた。

豊田体協では、「集める体育協会から、集まる体育協会へ」をスローガンに、町民1人1人に注目される

協会を目指した。

また指導者育成に力を入れた他、主な事業として長藤マラソン大会、豊田駅伝大会を実施していた。

旧豊岡村体育協会

旧豊岡村では、昭和33年4月、昭和32年に開催された静岡国体による、村民のスポーツへの関心が高まり、大須賀謙一氏を会長とし、豊岡村体育協会が設立された。設立時は、村民体育大会を主要行事としていた。

平成16年は、11の専門部（野球、ソフト、バレー、テニス、弓道、バドミントン、剣道、卓球、ゲートボール、陸上、射撃）と体育指導委員会及びスポーツ少年団で構成し、主な事業は駅伝大会及び村民体育大会であった。

○合併の足跡

経緯

平成14年、磐南5市町村首長による磐南合併に向けた検討会議が活発に開催されていることを受け、平成14年8月20日、磐南5市町村体育協会合併研究会議の立ち上げ案についての第1回会合が開催され、市町村体育協会合併の第一歩がスタートした。そして平成14年10月11日には、磐南5市町村の各体育協会会長が、磐南合併推進本部長の磐田市市長へ報告することにより、磐南体協合併連絡協議会が発足した。磐南体協合併連絡協議会会長には、杉山元氏（現会長）が就任し副会長に各町村体育協会会長4名、以下委員18名、事務局はNPO法人磐田市体育協会においた。

磐南体協合併連絡協議会

磐南体協合併連絡協議会（以下協議会）は、磐南5市町村の合併が推進される中で、磐南5市町村に所在する各体育協会が一つに結集し地域住民の健康増進、スポーツ振興に寄与する為の方針、施策を協議することを目的として結成した。協議会では、1）磐南5市町村に所在する体育施設の調査及び研究、2）各体育協会に所属する競技団体その他の調査及び合併後の競技団体のあり方に関する研究、3）各体育協会の歳入、歳出の現状把握と合併後の財政運営についての研究、4）地域スポーツの振興、生涯スポーツの支援拡大に関する調査、研究等を事業として推進した。

協議会は合併に向けて一歩ずつ進み、「磐南体協として望まれる姿」や、役員数、理事数、社員数をはじめとした組織、磐田市からの補助金額等々、議論を重ね、合併後の磐南体協の形を検討した。平成16年7月には、平成17年4月1日をもって、「ゆるやかな合併」にすること、平成18年4月1日をもって正式に合併することが決定した。注釈だが「ゆるやかな合併」とは、4町村体育協会の機能は従前どおりとし、支部を称するということが決定されたが、非常に多くの議論が出ていた部分でもある。また、具体的な部分は事業小委員会、組織小委員会にて検討をした。合併での大きな変革は、組織をNPO法人磐田市体育協会として一元化することや、各市町村より委託事業として位置づけられていた事業が補助事業として一元化されること、旧町村体育協会の名称は、NPO法人磐田市体育協会〇〇支部とすることが挙げられる。

平成16年12月5日、NPO法人磐田市体育協会臨時総会にて合併へ向けた定款の変更を行い、また平成17年3月6日NPO法人磐田市体育協会臨時総会にて、合併調印式を3月13日に行なうことや合併の新体協役員について事由説明を行なった。

合併協定書

平成17年3月13日磐南5市町村体育協会により、合併調印式が行なわれた。調印式では合併協定書への署名調印が行なわれた。この調印式を経て、磐南5市町村体育協会は対等合併し、平成17年4月1日より新NPO法人磐田市体育協会が発足した。合併協定書は、資料を別途添付する。

○合併後の飛躍

～新磐田市体育協会発足後の経過～

組織

平成17年4月1日、平成17年3月13日に結ばれた合併協定書により、5支部、33団体にて新NPO法人磐田市体育協会がスタートした。役員は会長1名、副会長5名（支部長を兼ねる）、理事長1名、副理事長6名（磐田支部2名、他支部1名）、専務理事1名、理事17名、社員約200名の体制でスタートした。部会は、競技体育部会、地区体育部会、スポーツ少年団部会、障害者部会の4部会。委員会は、総務委員会、事業・指導者育成委員会、施設委員会、広報委員会の4委員会で構成した。

合併より3年間が経過し、平成21年度には組織改編を総務委員会にて検討し、平成22年度より副会長3名、副理事長4名、専務理事廃止、支部（地区）の定数廃止、部会を廃止し代わりに競技スポーツ委員会、生涯スポーツ委員会、スポーツ少年団委員会を新たに作り、合併の礎を経た一本化した組織となった。

スポーツ磐田

昭和57年より創刊された「スポーツ磐田」は、合併するまで旧磐田体協で発刊し続けた。ここでは体協の活動は基より、市内のスポーツイベントや各スポーツ団体の活動のPRとして活用された。合併以後も年2回の発刊を続けており、全市民の目に届くよう全戸配布をしている。

ホームページ

世の中で情報受発信の主流になっていたインターネットを活用する為、当会でもHPの必要が叫ばれ、平成18年3月より準備を進め6月より運用を始めた。体協のスケジュールや組織はもとより、申請様式のデータをダウンロードできるようにしたことは、加盟団体や利用者に喜ばれると共に、事務局にあっても事務手続きの効率化につながった。

HPの運営は主として現在、広報委員長である山下安範副理事長によるところが大きく、日々記事の更新を始め、磐田体協のPRに大きく貢献している。

いかまい磐田100キロウォーク

平成18年度より「第1回いかまい磐田100^キウォーク」がスタートした。これは、旧市町村でそれぞれ行なわれていた「とんぼの里ウォーク」「ふくてくウォーク」「熊野の里ウォーク」に加え、旧竜洋地区、旧豊岡地区を歩く、「りゅうよう風竜ウォーク」「とよおかり山ウォーク」の2大会をあわせ、合併後の5地区を「歩こう、見よう、感じよう」というスローガンの下、開催している。5大会全てにほぼほどコース（7km）、がんばるぞコース（12km）、いかまいコース（20km）のウォーカーの力量に合わせたコース設定をし、いかまいコースを5大会歩くと100キロに到達するため、100^キウォークというネーミングになった。また、当初より「磐田観光ボランティアふれあいガイドの会」の協力により、観光スポット案内や現在では各コースに「観光ガイドコース」を設定してもらい、ウォーカーの人気を集めている。また「磐田市健康づくり食生活推進協議会」による磐田の地場産品を使用したお菓子プレゼントも好評を頂いているなど、磐田体協のみならず他団体との交流の場としても積極的に活用をし、磐田の地域おこしの一翼を担っている。

ジュピロ磐田メモリアルマラソン

先述したように、ジュピロ磐田のJリーグ昇格を記念して企画されたジュピロ磐田メモリアルマラソン（以下ジュピロマラソン）は、平成10年よりスタートした。本大会は健全なスポーツの場であり、体力向上に貢献し、参加者と見学者に「交通安全」を呼びかけ、交通事故の撲滅を語ることも、ひとつの目的としている。コースは、3km、3kmファミリー、5km、10km、ハーフである。第1回から第4回までは、今之

浦の磐田市民文化会館前をスタートし、ヤマハスタジアム桶ヶ谷沼付近を通過するコースであった。しかし、市内の交通事情の変化により、また「ゆめりあ」が完成したことにより、第5回大会より、「ゆめりあ」をスタートゴールに大藤、向笠地区を疾走するコースに変更された。第1回は3,897名の参加があったが、第2回では2,468名と減少した。しかしその後、参加者数は上昇傾向にあり、平成18年度第9回大会では、初めて4,000名を超え、それ以降もマラソンプームに押され、参加者数は伸び続けている。地域に根ざしたスポーツクラブである(株)ヤマハフットボールクラブ様においては、第1回より現在まで、選手、スタッフ全員が協力して大会を盛り上げてくださっていることに感謝したい。また近隣住民を始めとした大藤、向笠、岩田地区の自治会のみならず、磐田警察署、(社)日本プロサッカーリーグ、賛助協賛して下さる企業の方々、中学生ボランティア、一般ボランティアの方々にも多大なるご支援とご協力をいただき感謝している。

車椅子ツインバスケットボール

旧豊田町で平成12年度より開催していた「豊田町長杯車椅子ツインバスケットボール大会」は、合併をもって、「磐田市長杯車椅子ツインバスケットボール大会」となり、磐田市スポーツのまちづくり推進課による主催事業であった。磐田体協は平成19年度より磐田市から事業を移管され、補助事業として開催している。平成19年度までは、近畿ブロックから関東ブロックまで全6チームにより行なわれていたが、平成20年度より中四国ブロック及び東北ブロックが追加され、全8チームで行なわれている。当大会には社会福祉法人磐田市社会福祉協議会、東海福祉専門学校、中学生ボランティア、磐田北高校等市内高校バスケットボール部に多大なるご支援とご協力をいただき感謝している。

静岡県市町村対抗駅伝競走大会

平成12年度より静岡新聞社・静岡放送による「静岡県市町村対抗駅伝競走大会」が静岡市内で開催されている。磐田市でも合併前は各市町村にて1チームずつ編成し、大会を盛り上げていた。各チーム最高順位は、第2回大会磐田チーム7位入賞、第3回大会福田チーム6位入賞、第5回大会竜洋チーム7位入賞第3回大会豊田チーム10位入賞、第5回大会の豊岡チーム5位入賞である。合併後は、平成17年度5チーム、平成18年度は磐田市南、磐田市中央、磐田市北による3チーム、平成19年度より1チームの編成としている。また平成18年度までは、市町村の行政がそれぞれ事務局を担っていたが、平成19年より、磐田市より磐田体協に移管され、事務局を担い補助事業となっている。磐周地区は昔から陸上の強い地域といわれており、市町村合併によるチーム数の減少により大会規模が縮小している大会関係者より、複数チームでの出場を要望されているとの話もある。磐田体協が事務局を務めるようになった平成19年からの成績は以下の通りである。

平成19年度 第8回大会 9位 2時間20分18秒 (入賞)

平成20年度 第9回大会 9位 2時間21分42秒 (入賞)

平成21年度 第10回大会 8位 2時間20分28秒 (入賞)

○指定管理者制度

平成16年度～19年度まで

磐田体協では平成16年度より磐田市の指定管理者となり磐田市内の社会体育施設の管理を委託されている。平成16年度は1年契約、平成17年度～平成19年度までは3年契約で随意契約により指定管理者となった。管理施設は、旧磐田市の社会体育施設であり、総合体育館、城山球場、市民プール、陸上競技場など15施設の管理を行った。他にも合併後は、天竜川の河川敷の草刈りなど手広く市からの委託を受け管理を行った。資本金0円から発足した組織であったため、運転資金を確保し、組織を維持することが大きな課題であった。

ISO

平成17年、森理事長によるISO取得に向けて調査が始まった。これは当時から続く寄り合い所帯的な組織から、「誰がやっても質が変わらない経営と組織」を目指したものである。浜松に籍を置くインテグラ技術研究所(株)のコンサルティングのもと、日本能率協会のISO9001とISO14001の認証取得を目指してスタートした。平成18年4月には現事務局長の草地氏が管理責任者となり準備を進め、9月に第一次審査、12月に第二次審査を経て、1月に認証を取得した。認証を得た範囲は、受託事業本部と有人4施設である。体育協会では全国で初めてのことであり、NPO法人でも全国で4番目と聞いている。また一般企業と比較しても、ISO9001とISO14001を同時に統合システムで認証取得した企業は少なく、認証機関である社団法人日本能率協会からも非常に高い評価を得た。

この認証取得により、構築されたマネジメントシステムが、後々指定管理者の入札において莫大な力を発揮することは、森理事長の先見の明によるほかないと考えている。

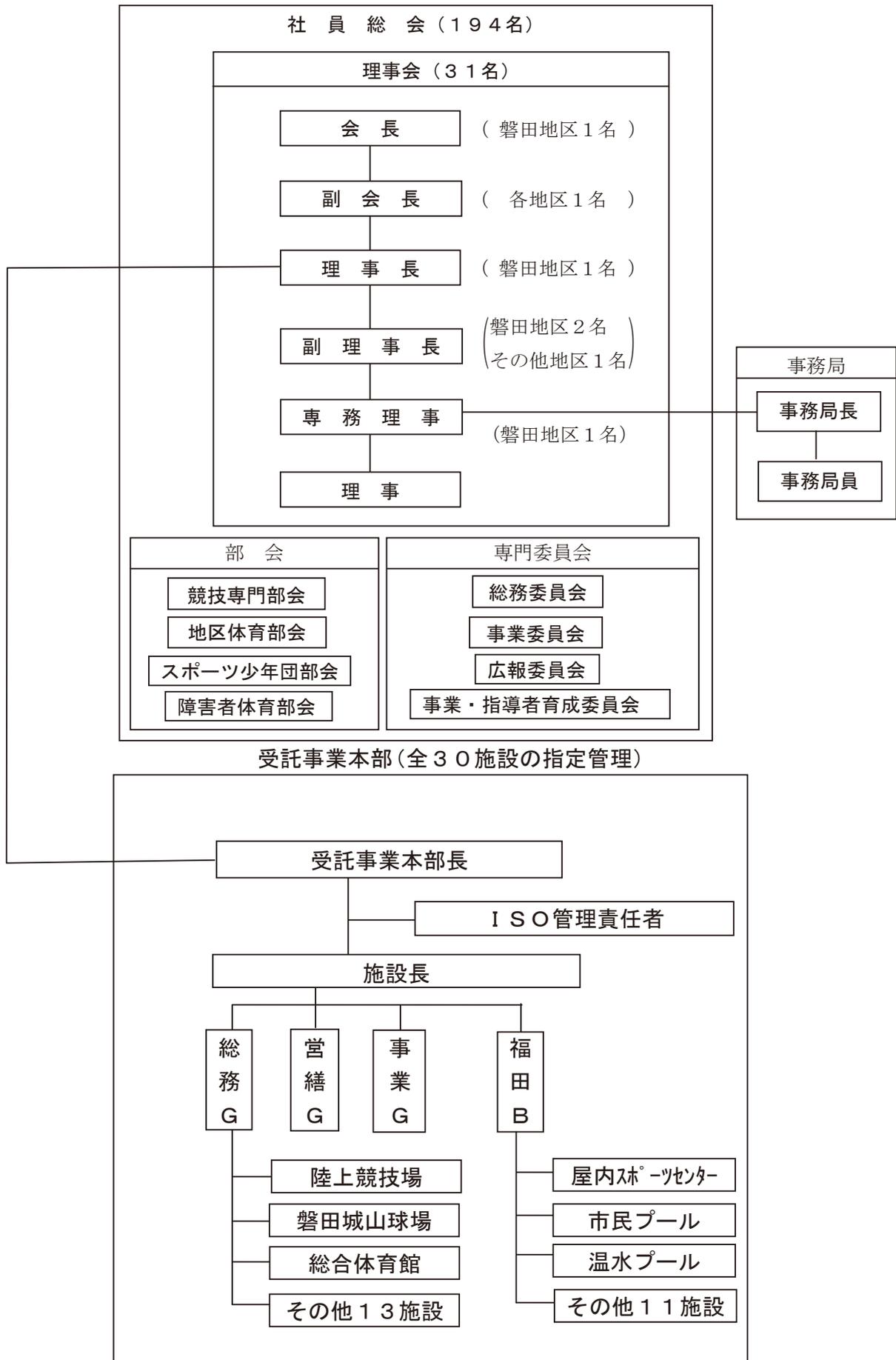
平成20年度～

平成19年度までの随意契約による指定管理から打って変わり、平成20年度からは一般競争入札による指定管理者制度となることが磐田市より発表されたのは、平成19年8月であった。市内の社会体育施設が旧市町のブロックに分けられ、磐田市総合体育館外13施設など5つのブロックに分けられ入札をした。ISOをはじめ、それまでに徐々に準備はしていたものの、東京に本社を置く一般民間企業たちの入札には気が抜けず、最後まで戦々恐々とし入札資料を作成し、提案を行った。磐田体協としてはすべてのブロックを入札したが、応札できたのは磐田市総合体育館外13施設、福田屋内スポーツセンター外15施設、東大久保運動公園外3施設である。提案の際に最もPRした部分は、NPOである磐田体協としての市民性、または市民への還元であり、そこが評価されたと自己評価をしている。平成20年度より指定管理者として、利用者へ安全に安心して提供できる空間を作り出す管理を今日まで続けている。また平成19年度までは約1億円だった事業規模が、平成20年度に約2億8千万円となり、運転資金の確保が課題となったが、平成21年現在では、安定した経営を行うことができている。

○磐田市体育協会のこれから

これからのNPO法人磐田市体育協会の歩む道を考えてみたい。これまでの10年間は、磐田体協にとって激動の10年間であり、時代の状況を常に模索し、毎年事業や組織の見直しを行い、自分達の生き残る道を探し、走り続けた期間であった。NPO法人化、磐田市からの施設管理、数々のスポーツ事業の運営などを通じ、全体の予算規模は20倍近くに成長し、NPO法人格取得前の懸案だった事業活動を継続していくための財源については、目処がたったといえるのではないかと考えている。これからの10年間は、これまでの事業を継続させ、さらに発展させるためにも、理念や目的をしっかりと位置づけるとともに、安定した財源を得つづけることを第一義としなくてはならない。このためには、指定管理者としての事業を誠実にやり、市民の皆様が安全に安心して利用していただけることを組織として遂行していく必要がある。利用者である市民の皆様が満足を得られることが、磐田市からの信用にもつながり、継続的に指定管理者としての委託をしていただくことになると考えられる。また磐田体協の理念や目的を根底においた、非営利事業こそ体育協会の存在意義である。加盟団体への諸々のサポートをはじめ、磐田体協としてどのように市民一人一人にスポーツに触れ合ってもらおうか、また健康づくりをしていただくかの取り組みを、磐田市と一丸となって推し進めなくてはならない。そして指定管理者で得た収益を、スポーツのまちづくりのために、またスポーツ少年団、中学生、高校生のために効率的に利用したいと考えている。その一つ一つの取り組みが、これからの磐田市体育協会の発展につながっていくと信じ、役員一同、職員一同誠実に仕事を進めていくことで、磐田市体育協会は継続し続ける。

平成21年度 N P O法人磐田市体育協会組織図



特定非営利活動法人磐田市体育協会 平成21年度役員名簿

役 職	氏 名	所 属
会 長	杉 山 元	静岡県野球連盟磐田支部
副 会 長	長谷川 寿 一	磐田バスケットボール協会
副 会 長	三ツ谷 金 秋	福田地区
副 会 長	松 下 孝	竜洋地区
副 会 長	鈴 木 康 之	豊田地区
副 会 長	小 出 幸 雄	豊岡地区
理 事 長	森 泰二郎	磐田市ソフトボール協会
副理事長	松 下 静 雄	磐田市ソフトボール協会
副理事長	堀 内 昌 文	磐田バスケットボール協会
副理事長	寺 田 光	福田地区
副理事長	山 下 安 範	竜洋地区
副理事長	水 野 貞 男	豊田地区
副理事長	掛 井 鉄 也	豊岡地区
専務理事	草 地 博 昭	磐田市陸上競技協会
理 事	川 出 静 夫	静岡県野球連盟磐田支部
理 事	安 形 勝 彦	磐田市テニス協会
理 事	高 橋 正	磐田市陸上競技協会
理 事	儘 下 崙 育	磐田卓球協会
理 事	青 島 安 宏	静岡県野球連盟磐田支部
理 事	宇 藤 栄 治	磐田市バレーボール協会
理 事	高 橋 一 良	磐田市相撲連盟
理 事	中 嶋 英 明	磐田卓球協会
理 事	大 庭 常 道	福田地区
理 事	寺 田 廣 之	福田地区
理 事	大 庭 隆 一	竜洋地区
理 事	金 田 一比己	竜洋地区
理 事	佐 藤 康 夫	豊田地区
理 事	清 水 万 大	豊田地区
理 事	高 田 欣 洋	豊田地区
理 事	佐 藤 智 洋	豊岡地区
理 事	松 島 正 司	豊岡地区
監 事	中 野 眞	磐田地区
監 事	寺 田 悦	豊田地区
監 事	上 野 陽一郎	竜洋地区

特定非営利活動法人磐田市体育協会

平成12年度～21年度役員名簿

	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
顧問	鈴木 望				
	松下 英一	田之上康成	江塚 重尋	桑原全太郎	桑原全太郎
	寺田伊勢男	寺田伊勢男	寺田伊勢男		
	安間 英雄	安間 英雄	安間 英雄		
	内海 雄	内海 雄	内海 雄		
参与	伊藤 英明				
	東 功一	富田 幹男	富田 幹男	富田 幹男	時久 健
会長	杉山 元				
副会長	大場 基好	大場 基好	森 泰二郎	森 泰二郎	森 泰二郎
	森 泰二郎	森 泰二郎	石川 操	石川 操	石川 操
	石川 操	石川 操	河島 直明	河島 直明	
理事長	尾高 利男	尾高 利男	尾高 利男	尾高 利男	森 泰二郎
副理事長	河島 直明	河島 直明	松下 静雄	松下 静雄	松下 静雄
			高橋 正	高橋 正	高橋 正
			堀内 昌文	堀内 昌文	堀内 昌文
専務理事		鈴木 勝	鈴木 勝	鈴木 勝	鈴木 勝
監事	中野 眞				
	増田 英雄				
常任理事	尾高 利男	松下 静雄	鈴木 猛	鈴木 猛	鈴木 猛
(平成13年から は理事)	河島 直明	藤田 明弘	井口 高男	川出 静夫	大庭 正裕
	河合 修平	高橋 正	中山 守	中山 守	宇藤 栄治
	藤村 博美	藺田 健次	儘下 崑育	藤田 明弘	藺田 健次
	松下 静雄	鈴木 猛	藺田 健次	藺田 健次	田中 都夫
	高橋 正	松本 寿夫	宇藤 栄治	松本 寿夫	高橋 一良
	半場 久博	川出 静夫	川出 静夫	寺田 和弘	半場 久博
	片倉 正	寺田 和弘	長谷川寿一	井口 高男	半場 久博
	中山 守	中山 守	藤田 明弘	儘下 崑育	寺田 和弘
	大島 利仁	井口 高男	青島 安宏	長谷川寿一	安形 勝彦
	藺田 健次	堀内 昌文	松本 寿夫	宇藤 栄治	柳下 泰子
	伊藤 幸広		寺田 和弘	青島 安宏	井口 高男
	山下 眞里			安形 勝彦	村松 勝一
	川出 静夫			磯部 知明	中嶋 英明
	大村 晃司			内田 啓吾	儘下 崑育
	松本 寿夫			榎本 行宏	磯部 知明
	井熊 茂美			大庭 正裕	長谷川寿一
	寺田 和弘			後藤 仁志	鈴木 晴美
	井口 高男			佐久間民子	佐久間民子
会長氏名理事	河島 直明			鈴木 晴美	青島 安宏
	鈴木 源市			高林 要則	松本 寿夫
	藤田 明弘			田中 都夫	内田 啓吾
	八神 英典			村松 勝一	
				柳下 泰子	
事務局長	鈴木 勝				

平成12年度は上記のほか以下の役職がありました。

専門部理事	金沢 成光 福沢富美子 儘下 崑育 鈴木金太郎 田中都夫 神谷美農留 飯田 明弘 尾高 義則	山本 好夫 堀内 昌文 高橋 文弥 安形 勝彦 山田 茂雄 大野 正 寺田 幸夫 青葉 裕之	川島 文雄 杉浦 弘 渥美又十郎 伊藤 英司 半場 久博 鈴木 淑文 鷹取 英史 青島 安宏	地区理事	大場 正純 千田 龍明 伊能 博 磯部 知明 寺田 澄治 田代 佳弘 井口 利昭 高男	神埼 正和 平野 正也 馬淵 保夫 寺田 和弘	学校理事	伊藤 道明 松本 寿夫 松井 禮子
評議員	山下 恭弘 吉本 仁 柴田 照夫 坂井 弘子 大庭 正裕 中嶋 英明	青島 健直也 大杉 直也 寺田 光均 平谷 均 杉浦 大祐 小林 孝一	江間 治人 野末 訓弘 青野 晴男 鈴木 良一 宮本 豊久 駒形 一路	鈴木 勝則 角川 重晴 後藤 仁志 大場 隆史 伊藤 悦夫 牧野 弘昭	酒井 正信 飯田 秀文 青島 武男 長谷川典生 飯田 清 安部テル子	佐々木 薫 山下 智健 大場 彰 大塚 安孝 山下 幸一 内野 時彦	高橋 立治 清水 誠夫 永田孝太郎 杉山 悟 鈴木 雅美 久保田真悟	永田 献栗 三浦 兼佳 山岸 至 佐野 順 金子 忠義 永見 基全

	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
会長	杉山 元				
副会長	長谷川寿一	長谷川寿一	長谷川寿一	長谷川 寿一	長谷川寿一
	三ツ谷金秋	三ツ谷金秋	三ツ谷金秋	三ツ谷金秋	三ツ谷金秋
	松下 孝				
	鈴木 康之				
	小出 幸雄				
理事長	森 泰二郎				
副理事長	松下 静雄				
	堀内 昌文				
	相場 良造	相場 良造	相場 良造	西島 温行	寺田 光
	山下 安範				
	水野 貞男				
	緩鹿 秀夫	緩鹿 秀夫	緩鹿 秀夫	掛井 鉄也	掛井 鉄也
専務理事	高橋 正	高橋 正	鈴木 猛	鈴木 猛	草地 博昭
監事	中野 眞				
	寺田 悦				
	上野陽一郎	上野陽一郎	上野陽一郎	上野陽一郎	上野陽一郎
理事	川出 静夫				
	安形 勝彦				
	鈴木 猛	鈴木 猛	高橋 正	高橋 正	高橋 正
	儘下 峯育				
	青島 安宏				
	宇藤 栄治				
	高橋 一良				
	中嶋 英明				
	本間 郁朗	本間 郁朗	本間 郁朗	大庭 常道	大庭 常道
	寺田 廣之				
	石田 昌宏	石田 昌宏	石田 昌宏	石田 昌宏	大庭 隆一
	鈴木 雅夫	鈴木 雅夫	鈴木 雅夫	金田一比己	金田一比己
	佐藤 康夫				
	清水 万大				
	高田 欣洋				
	氏原 勝美	氏原 勝美	氏原 勝美	佐藤 智洋	佐藤 智洋
	掛井 鉄也	掛井 鉄也	掛井 鉄也	松島 正司	松島 正司
事務局長	高橋 正	高橋 正	鈴木 猛	鈴木 猛	草地 博昭

平成21年度磐田市体育協会加盟団体一覧表

No	加盟競技団体	代表者氏名	会員数	連絡責任者
1	[陸上] 磐田市陸上競技協会	会 長 金澤 成光	85人	〒438-0088 磐田市富士見台4-9 高 橋 正 TEL 34-9231
2	[バレーボール] 磐田市バレーボール協会	会 長 佐藤 広海	64チーム 760人	〒438-0061 磐田市刑部島25-4 山 田 利 起 TEL 34-5296
3	[卓球] 磐田卓球協会	会 長 儘下 高育	64チーム 1,600人	〒437-1101 袋井市浅羽2236-7 中 嶋 英 明 TEL 23-7295
4	[野球] 静岡県野球連盟磐田支部	支部長 川出 静夫	50チーム 994人	〒438-0056 磐田市小島277-9 池 田 弘 人 TEL 34-6899
5	[野球] 静岡県野球連盟福田支部	支部長 大石 勝馬	17チーム 405人	〒437-1203 磐田市福田545 鈴木 義里 TEL 55-5633
6	[空手] 磐田市空手道連盟	会 長 前島 教次	3チーム 120人	〒438-0086 磐田市住吉町1320 永 見 基 全 TEL 32-3264
7	[山岳] 磐田山の会	会 長 池田 修造	28人	〒438-0074 磐田市二之宮1381-3 佐 藤 文 弥 TEL 32-3668
8	[サッカー] 磐田サッカー協会	会 長 安間 英雄	67チーム 2500人	〒438-0038 磐田市鎌田2196 井 波 務 TEL 34-9711
9	[バスケットボール] 磐田バスケットボール協会	会 長 長谷川寿一	75チーム 1080人	〒437-0022 袋井市方丈6-4-3 角 川 重 晴 TEL 43-5469
10	[庭球] 磐田市テニス協会	会 長 中山 守	12チーム 482人	〒438-0078 磐田市中泉108-11 大 石 博 之 TEL 32-8425
11	[ソフトテニス] 磐田市ソフトテニス協会	会 長 安達 紘	40人	〒438-0005 磐田市匂坂上413-3 田 中 文 博 TEL 38-2848
12	[バウンドテニス] 磐田市バウンドテニス協会	会 長 小沢ハル子	6チーム 82人	〒438-0082 磐田市元天神町1907-308 小 沢 ハル子 TEL 32-0832
13	[ソフトボール] 磐田市ソフトボール協会	会 長 安間 英雄	61チーム 1,452人	〒438-0025 磐田市新貝1470-2 内 山 清 雄 TEL 36-1118
14	[弓道] 磐田市弓道協会	会 長 石井日出雄	98人	〒438-0811 磐田市一言3259 元 澤 汎 TEL 33-2781
15	[ゴルフ] 磐田ゴルフ連盟	会 長 三ツ谷金秋	13チーム 148人	〒438-0086 磐田市見付127-44 寺 田 政 善 TEL 37-4663
16	[バドミントン] 磐田バドミントン協会	会 長 増田 英雄	8チーム 155人	〒438-0077 磐田市国府台51-1 山 下 智 健 TEL 32-2669
17	[水泳] 磐田市水泳協会	会 長 川島 文雄	70人	〒438-0056 磐田市小島1896-2 寺 田 良 博 TEL 34-6521
18	[相撲] 磐田市相撲連盟	会 長 高橋 一良	15人	〒438-0812 磐田市海老塚733-2 内 野 時 彦 TEL 32-6755

No	加盟競技団体	代表者氏名	会員数	連絡責任者
19	[ボウリング] 磐田市ボウリング連盟	会 長 渥美又十郎	10人	〒438-0078 磐田市西町322-1 大 島 利 仁 TEL 34-9271
20	[トライアスロン] 磐田トライアスロンクラブ	会 長 杉山 悟	18人	〒438-0072 磐田市鳥之瀬町218 杉 山 悟 TEL 32-4119
21	[アーチェリー] 磐田市アーチェリー協会	会 長 河島 直明	28人	〒438-0044 磐田市大泉町5-13 山 中 正 三 TEL 37-4995
22	[ゲートボール] 磐田ゲートボール協会	会 長 大島 敏男	25チーム 146人	〒438-0084 磐田市城之崎1-2-14 伊 藤 か ね TEL 32-0763
23	[ラグビー] 磐田市ラグビーフットボール協会	会 長 鈴木 亨司	125人	〒438-0232 磐田市川袋1186-6 矢 島 一 彦 TEL 66-6062
24	[グラウンドゴルフ] 磐田市グラウンドゴルフ協会	会 長 鎌田要之助	185人	〒438-0234 磐田市掛塚1049-1 天 野 哲 夫 TEL 66-2790
25	[ボクシング] 磐田アマチュアボクシング協会	会 長 佐藤 文俊	83人	〒438-0803 磐田市富丘915-2 山 本 一 人 TEL 33-2330
26	[3B体操] 社団法人 日本3B体操協会 静岡県支部西グループ磐田	会 長 中島 康子	2チーム 32人	〒433-0811 磐田市一言3092-217 中 島 康 子 TEL 36-4875
27	[剣道] 特定非営利活動法人 磐田剣道連盟	会 長 寺田 廣之	420人	〒438-0077 磐田市国府台51-2 大 場 隆 史 TEL 37-7589
28	[合気道] 豊田合気道クラブ	会 長 水野 恵助	8チーム 154人	〒438-0821 磐田市立野186-3 水 野 恵 助 TEL 33-0285
29	[少林寺拳法] 少林寺拳法	会 長 鈴木 和夫	30人	〒438-0234 磐田市掛塚1199-1 鈴 木 和 夫 TEL 66-5069
30	[柔道] 磐田市柔道協会	会 長 西島 温行	3チーム 300人	〒437-1203 磐田市福田1168 西 島 温 行 TEL 55-5247
31	[インディアカ] 磐田市インディアカ協会	会 長 渡瀬 訓孝	43チーム 320人	〒438-0078 磐田市中泉1562-6 渡 瀬 訓 孝 TEL 35-3090
32	[サーフィン] 磐田サーフィンクラブ	会 長 芦川 和美	20人	〒437-0041 磐田市西之島18 芦 川 和 美 TEL 21-0181
33	[ファミリーバドミントン] 磐田ファミリーバドミントン協会	会 長 中津川年弘	25チーム 319人	〒437-1101 袋井市浅羽2236-7 中 嶋 英 明 TEL 23-7295
34	[少年野球] (財)日本少年野球連盟磐田支部	会 長 福重 俊二	1チーム 24人	〒438-0216 磐田市飛平松50-1 福 重 俊 二 TEL 66-0481
35	[スポーツ少年団] 磐田市スポーツ少年団会	本部長 大庭 隆一	66団体 1,800人	〒438-0086 磐田市見付4075 総合体育館内 小 泉 美和子 TEL 33-3443

No	加盟地区	代表者氏名	連絡責任者・体協社員
1	[岩田地区] 岩田地区自治会 体育部	体育部長 青島 和美	〒438-0006 磐田市寺谷330 夏 目 邦 夫 TEL 3 8 - 1 8 4 7
2	[大藤地区] 大藤地区 体育部	公民館長 鈴木 勲	〒438-0002 磐田市大久保887-181 熊 谷 茂 晴 TEL 3 8 - 1 1 5 2
3	[向笠地区] 向笠地区自治会連合会 体育委員会	自治会連合会長 安間 孝美	〒438-0012 磐田市向笠新屋740-32 石 田 充 TEL 3 8 - 1 1 4 6
4	[田原地区] 田原公民館 体育部	公民館長 山下 幹種	〒438-0019 磐田市明ヶ島原13-12 永 井 俊 光 TEL 3 5 - 4 2 6 9
5	[御厨地区] 御厨公民館 運営協議会	運営協議会長 井口 高男	〒438-0038 磐田市鎌田2507 鈴 木 宏 幸 TEL 3 4 - 9 6 5 1
6	[南御厨地区] 南御厨公民館 体育部	公民館長 絹村 和弘	〒438-0036 磐田市大立野555-2 神 崎 正 和 TEL 3 5 - 6 4 2 7
7	[西貝地区] 西貝地区公民館運営協議会体育部	運営協議会長 戸崎 一夫	〒438-0026 磐田市西貝塚1571 磯 部 知 明 TEL 3 4 - 4 0 1 9
8	[南地区] 南地区 体育部	公民館長 近藤 正臣	〒438-0054 磐田市浜部456 寺 田 和 弘 TEL 3 4 - 0 0 4 9
9	[長野地区] 長野地区 体育委員会	連合自治会長 松山 捷利	〒438-0056 磐田市小島734 清 水 秀 信 TEL 090-4214-2034
10	[見付地区] 見付公民館 体育振興部	公民館長 宮野 紀夫	〒438-0086 磐田市見付4180-2 伊 藤 孝 久 TEL 3 4 - 6 3 4 7
11	[中泉地区] 自治会連合会磐田支部中泉地区	中泉地区長 金原 市衛	〒438-0064 磐田市国府台55-7 山 下 六 機 TEL 3 5 - 3 3 5 6
1	[福田地区] 福田地区	地区長 三ツ谷金秋	〒437-1204 磐田市福田中島2781 寺 田 光 TEL 5 5 - 4 3 2 5
2	[竜洋地区] 竜洋地区	地区長 松下 孝	〒438-0231 磐田市豊岡6518 松 下 孝 TEL 6 6 - 4 7 6 0
3	[豊田地区] 豊田地区	地区長 鈴木 康之	〒438-0804 磐田市加茂965 水 野 貞 男 TEL 3 4 - 1 8 1 6
4	[豊岡地区] 豊岡地区	地区長 小出 幸雄	〒438-0113 磐田市新開121 小 出 幸 雄 TEL 0 5 3 9 - 6 2 - 3 1 5 4

合併までの沿革

- 福田町体育協会
- 竜洋町体育協会
- 豊田町体育協会
- 豊岡村体育協会

- 合併協定書

福田町体育協会の沿革

福田町体育協会の発足を語るには、福田の野球歴史を抜きでは語る事が出来ない。

昭和4年に静岡商業高校を卒業した、高須 廉 氏、当時は静岡高校の近くに住み、静高野球部の練習コーチ指導をしておりました。その後、高須さんが福田に移り住んで来た頃、同じ時に掛川西高校で野球の経験を持つ佐藤八策（中島）・浜松師範卒業の石川初男（鮫島）神谷元一（竜洋中瀬）大竹 修（福田）らが福田小学校教師に赴任、当時銀行員の内山 覚（福田）らの若者に野球を指導した事により、福田に野球に掛ける情熱が高まってまいりました。

当時の福田小学校6年生で、『鶴野 洋、寺田猪八、鈴木庄一、鈴木嘉二、後藤種晴』同じく5年生で『鈴木武夫、百鬼末太郎、田島 寛』らで、昭和7年には『福田クラブ』が結成され、古沢嘉男、植田安由、投手・鶴野洋、捕手・鈴木庄一、古沢嘉男、寺田兼良、杉浦甚助、鈴木武夫、伊藤修二郎、落合正人、1塁手・石津正彦、2塁手・三ツ谷富士雄、3塁手・寺田猪八、遊撃手・田島 寛、右手・百鬼末太郎、中手・鈴木武夫、左手・後藤種晴らが中心選手で福田小学校校庭や見付小学校、二俣小学校等の対抗試合にも参加した。指導は佐藤八策、大竹 修代理教員らであった。そして戦争に出役で一時中止する。

その後昭和21年度に再び福田野球が復活し『暁クラブ』組織を結成、投手に鈴木武夫、捕手・寺田清太郎、落合正人、1塁手・石津正彦、2塁手・後藤種晴、3塁手・百鬼末太郎、遊撃手・鈴木嘉二、右手・田中浦司、中手・太田竹十、左手・伊藤修二郎らが中心選手、相手チームは、袋井の猛虎、二俣岡田ゴム・掛川は曙、福田は暁、見付は朝日、磐田は番人チームなど若者が近隣市町との定期戦を各小学校の校庭を借用し開催した。地区外では、浜松の繊維関係で、カネ三織物、測候所、裁判所職員等とも浜商グラウンドにて試合を行った。また、森町にも遠征した。ユニホームはコール天生地で作り、健康ボールは三ツ谷富士雄さんが役場に勤めており、配給制度により1ケ8銭で購入使用する、特に野球の後援会にも理解してくれた。寺田祐一、高須 廉、鈴木弥一、加藤善一、寺田徳三郎各位には資金面や対外試合での支援と指導に感謝する。

○昭和11年の五輪大会 第11回ベルリン大会に水泳の部1500m自由形で伊藤 登選手（旧姓寺田）が金メダル優勝し、豊浜村の伊藤三郎選手は平泳200m（2分47秒6）で第5着、陸上競技、明治神宮大会1500mに加藤博選手が出場し活躍した。

最近では、平成4年第25回バルセロナ、オリンピック大会女子柔道52kg級に溝口紀子選手が銀メダル入賞、続いて第26回アトランタ、オリンピック大会にも連続出場、健闘する成績をおさめた。

平成7年にはオリンピック出場者の偉業を顕彰し、温水プール・武道場を備えた福田町屋内スポーツセンターが竣工した。

○昭和32年10月には第12回国民体大会が静岡県内を会場に開催された。

その折り浜部出荷場から大原経由で、豊浜江川橋までの区間町民の声援を受け国体旗が27分間沿道を走破して浅羽町に渡された。

○国会法律で体育省が設置され、スポーツの重要視から各市町村に体育課を置く様になる。町は、佐藤八策、百鬼末太郎、伊藤修二郎の3名を青少年の心身の健全とスポーツ認識と振興の為、体育指導員に任命し活動を願った。

○同じ時、町は若草会を発足させ、青少年の不良化防止と保護育成に力を入れた活動組織が出来上がった。

○昭和33年12月には福田小学校グラウンドにて年齢別野球大会が開催され、21才から28才までのチームで野球連盟と町商店会の協賛で野球大会を開催し25才チームが優勝した。この大会も引き続き開催された。

○福田野球連盟も静岡県連盟、全国連盟の組織の中で昭和33年11月15日開催の静岡県下都市対抗野球大会に磐周代表とし、福田キングが出場、三島三共製薬と対戦し4対3で惜敗する。

○町はスポーツを通し青少年育成を図る目的で、若草会に体育組織作りを呼び掛け、各自治会にスポーツに理解と熱心な方の推薦を願い、若草会組織に体育系の選出を願った。

◎体育協会の設立は、昭和34年8月29日会長鶴飼徳雄で福田町体育協会役員組織が発足した。

○昭和34・35年福田町は文部省から青少年スポーツ活動の研究指定を受け、町教育委員会の協力のもと青少年層への指導が展開された。

○町体育協会と青少年スポーツクラブ組織が互いに協力し、若草会体育協会と協賛し部落対抗ソフト、バレー

ボール大会を開催する。第3回大会には各部落から75チームが出場。ソフトボールには、44チーム・バレーボールには31チームが参加、珍プレー・迷い技などを交えての競技大会であった。

- 昭和37年8月22日、磐田北小学校グラウンドに磐田郡、周智郡が一同にかいし、中遠子供ソフトボール大会が、開催された。
- 昭和39年10月東京オリンピック大会が開催され、福田町からは20名の聖火リレー隊を編成、10月4日に袋井から掛川の区間1.7kmに参加した。
- 昭和39年11月8日国際身体障害者スポーツ大会（パラリンピック）に静岡県代表で鶴飼徳雄（46才）が水泳50m平泳で金メダルと陸上100m競争で銀メダルを獲得、戦傷の身でありながら、精神的な努力で身体障害者に明るい希望を与えてくれた。
- 町民駅伝大会は、昭和38年2月から平成18年までの間、実施された。
- 平成15年度10月第58回国民体育大会NEW!!わかふじ国体が開催、福田町はロードレースと軟式野球の会場となりました。ロードレースは、国道150号線を通すだけでしたが、軟式野球は数試合が福田公園野球場で行われ町内の幼児・小学生・中学生が応援に駆けつけ試合を盛り上げてくれました。
- 平成16年度の体育協会組織は12部門でありました。野球、ソフトボール、男子バレーボール、女子バレーボール、卓球、剣道、柔道、空手道、陸上、テニス、バスケット、サッカーで、町内外の大会に積極的に参加していました。町内各スポーツ団体は、主催大会に、会長杯・町長杯・天龍社杯・農協杯などを冠に大会を開催、継承してきました。
- 体育協会の活動としては、幼児向けの体操教室、プール教室など多くの町民参加型の活動を行い、指導・助言を行ってまいりました。
- 平成16年度役員は、以下の方々でした。
 - ・会長 三ツ谷 金秋
 - ・副会長 相場 良造
 - ・副会長 田中 公仁
 - ・副会長 本間 郁朗
 - ・理事長 寺田 廣之

竜洋町体育協会の沿革

昭和34年、社会環境も大分落ち着きを取り戻した中、健全なスポーツ活動を願う人達の熱意が実り、県や町当局の要望に応じて竜洋町に“体育協会”が誕生しました。その誕生を記念し“第1回竜洋町民体育大会”が開催され、以後、平成16年の竜洋町体協の最後の年まで46回を数えるまで回を重ねて開催を続けました。

“竜洋町体協”が誕生する以前は町内のスポーツ愛好者のグループが野球や柔道、テニス、水泳等を行っていましたが、それぞれ体育協会の組織に加入をして活動を始めました。

初代会長には当時農協組合長の島田健次郎氏（白羽）が選ばれ、昭和37年12月12日、県体育協会加盟が承認されました。

当時は野球が中心で、本町の大澄昌司氏、砂町高塚季夫氏・鶴田時二氏等が中心となり町内の若者達に呼びかけてチーム作りや大会運営等に尽力されました。

柔道は杉島六二氏、中村功氏等が中心になり、掛塚の保育園を借り寒稽古など熱心に行われました。

昭和37年度は竜洋中学校運動部の黄金時代で素晴らしい成績をおさめ、野球も県大会優勝をとげる等、町民のスポーツ熱は益々高まり、竜洋町体協も応援の資金集めに大いに協力をしたものです。

昭和37年度までの4年間、島田会長を中心に竜洋町体育協会の基礎も固まり、翌38年度より新村慶治氏（横町）が第2代会長となりました。

昭和39年の東京オリンピックには水泳競技に川袋の大隈潔選手と堀之内の服部公子選手（旧姓佐藤）が出場しました。当時体協顧問であった稲勝正太郎氏が後援会長となり、体協も郷土出身選手の応援激励に全面的に協力をしました。

昭和40年度は石井信市氏（砂町）が会長に就任しました。この頃には体協役員も60数名を数えるに至り、昭和41年度には磐田郡下では初めての“竜洋町スポーツ少年団”が誕生しました。

昭和46年度は社会体育施設に関する嘆願書を町当局に提出、そしてこの頃「南天竜グラウンド」も整備されて来ました。

昭和48年度には高安淳司氏（中平松）が会長に就任し、益々事業内容も充実し役員も130数名を数え、各部門の活発な活動が展開され、300歳ソフトボール大会など自治会単位で70数チームが出場した程の盛り上がりを見せました。

その他、バレーボール、卓球、弓道や駅伝大会等、体協各部役員の努力により社会体育底辺の拡大に努めてきました。

昭和49年度に体協の組織として各部門の代表者を“常任理事”とし、昭和50年度には少林寺拳法が加盟し、体協の組織も9部門を数えるに至りました。

昭和53年には蒲ヶ原勇熊氏（白羽）が会長に就任。この年より無差別ソフトボール大会、農協組合長杯バレーボール大会が行われました。又この年“勤労者体育センター”が完成。室内競技の主会場として、多くの団体が利用し、一層充実した練習が出来るようになりました。

昭和55年には天竜川河川敷に西堀グラウンドが完成し、ソフトボールなどが盛んに行われました。

昭和57年度には、鈴木勤氏（宮本）が会長に就任。この年、10月に竜洋町体育協会が長年に渡り社会体育の普及振興に努めた事が認められ「文部大臣賞」を受賞をしました。

また、この年より南天竜地区の開発が計画され、翌58年4月にB & G財団の竜洋海洋センターが完成し、体育館、プール、海洋訓練に必要なボートやカッターなどを備えた艇庫が完成し、竜洋町のスポーツの拠点となりました。

昭和59年に「竜洋海洋公園多目的広場」が完成。昭和60年「海洋公園野球場」「海洋公園親水プール」が完成をしました。

昭和61年度には松本義雄氏（駒場）が会長に就任。この年、海洋公園内に弓道場が完成したのを契機に、休部をしていた弓道部が復活して活動を始めました。

そして昭和63年度に4面を有する“屋内テニスコート場”が完成。これを機に「テニス部」が発足加盟。竜洋町体協も10部体制になり、さらに元号も「平成」に改まった平成元年に「空手部」が加入し11部体制になりました。

平成2年度に相場三智雄氏（竜洋中島）が会長に就任。平成4年、活動を続けてきた「弓道部」が活動休止。翌5年、「ゲートボール部」が体協に加盟をしました。

平成6年度に大庭隆一氏（中町）が会長に就任。平成8年度に“竜洋スポーツ公園（サッカー場）”が完成をしたのを機に「サッカー部」が、また「トライアスロン部」が体協加盟。さらに平成15年度には「ボクシング部」「グラウンドゴルフ部」が加盟をして15部となりました。

平成16年度に松下孝氏（江口）が会長に就任すると同時に“体協合併協議”が本格化。合併協議を進める一方、「竜洋町体育協会」としての行事の整理を始めました。その結果、竜洋町最大のスポーツイベントである「第46回竜洋町民体育大会」は最大の盛り上がりを見せて、46年の歴史を閉じました。

そして長期間の合併協議の結果、平成17年4月1日をもって「NPO磐田市体育協会」として対等合併。結果「竜洋町体育協会」としての歴史を閉じました。

歴代会長在職一覧

氏名	地区名	在職期間	氏名	地区名	在職期間
島田健次郎	白羽	昭和34年～昭和37年	鈴木勤	宮本	昭和57年～昭和60年
新村慶治	横町	昭和38年～昭和39年	松本義雄	駒場	昭和61年～平成元年
石井信市	砂町	昭和40年～昭和47年	相場三智雄	中島	昭和2年～平成5年
高安淳司	中平松	昭和48年～昭和52年	大庭隆一	中町	昭和6年～平成15年
蒲ヶ原勇熊	白羽	昭和53年～昭和56年			

平成17年4月1日磐田市体育協会合併

豊田町体育協会の沿革

豊田町のスポーツ活動は、昭和30年頃よりいくつかの地域でスポーツのサークルができ、地域の運動会とか他地域のサークルとの親善試合が行われるようになりました。

そこで昭和34年に行政主導による豊田町体育協会が設立されました。当時は小中学校の校内運動会や地区運動会を中心とした陸上競技にレクリエーションが加わったものが主流に行われるようになっていましたが、体育協会の発足により球技スポーツの普及が図られ、豊田地区のスポーツの発展の基礎が築かれました。

発足当時の体育協会は、伝統の陸上競技部をはじめ野球部、排球部、卓球部、水泳部、剣道部、柔道部、の7部によって組織されていました。

このようにしてスタートした豊田町体育協会は、設立の関係した多くの人達によってめざましい発展をとげた、なかでも住民の理解と参加を得る方策として、バレーボールの技術指導と講習会を町内各地を巡回して実施すると共に、体育指導者の養成や社会体育の復興のためのPR活動はすばらしい成果をあげることができました。この結果協会発足初年度にもかかわらず、水泳大会、卓球大会、野球大会、バレーボール大会、村民体育大会等各種大会を開催するに至り町民多数の参加を得ることの出来たことは、社会体育が、体育協会発足と共に住民の生活の中に浸透してきたものと考えられます。

その後も各種大会を継続すると共に、スポーツ人口の拡大を図る一つの大きな事業として村民体育大会を村を上げて盛大に実施してきました。

しかし、これまで純農村として発展してきた豊田町も昭和40年代に入り、浜松、磐田市のベッドタウンとして人口が急増し、町民の2人に1人は他市町村からの転入者が占め、新旧住民の地域における連帯意識はうすれつつありました。

このような状況下町ではスポーツを通じて地域住民の人づくりと望ましい人間関係をつくるため、昭和48年には全町民の体力づくりを提唱し、各種施設にも予算が振りあてられました。これを受け、体育協会においても組織の強化をはかると共に、これまで体育協会長は、村長、町長が兼務していたものを、会長を民間へという働きかけをしました。その結果民間のスポーツ指導者が昭和51年に会長に就任しました。それ以来地域と濃い関係をもったきめこまやかな活動が行われ、老若男女だれもが自ら求め、やるスポーツの機会づくりに努め、スポーツの人口の増加と大衆化を図るようになりました。更に、スポーツを住民各層に普及させるため、町内の各行政区に、体育部を設置し地域独自のスポーツ活動を盛り上げようとする気運が高まり、昭和48年に6地区で体育部が誕生しその後順次結成され昭和51年度には、全行政区に組織され、体育協会の傘下に入り、その後めざましい発展が見られるようになりました。

行政区の体育部の躍進により多岐色の濃かった体育協会も、競技種目を専門的に行う競技団体が組織されるようになり、11競技団体が加盟しました。そのことにより競技団体が体育協会の核となり活動盛り上げるようになりました。しかしその競技団体も個々の活動のみ熱心になり縦割り化が目立ち豊田町のスポーツ復興や普及といった、もっと広域的に目を向けていこうとの考えから、まず組織が組織として機能していないのではということになり、その見直しを図ることになりました。

「集める体育協会から、集まる体育協会へ」のスローガンを掲げ町民一人一人に注目される体育協会を目指しました。体育部や競技団体から、優秀な指導者や役割をピックアップし、総務部を構成、それに行政の職員を交え、表面化していた問題点、課題などにつき議論をはじめましたが、予想以上の問題点が浮上、その問題点解決のために長い時間がかかりました。まず総務委員会の中に三つの委員会を作り、共通問題の議題を半分、委員独自を半分で話し合いをし、毎月第一金曜日に全体会を開き徹底的に議論を重ねました。途中なぜこのような問題点が想像以上に多くなったのかが大きな話題になりました。議論の末でた結論はその場しのぎの場当たり的な対応が原因ではないかと考えました。この時のことはそれから後の問題解決や目標決定に大きな役割をはたすことになりました。

二年の徹底的な議論の末、競技団体あるいは体育部でそれぞれに抱えていた問題点につき各団体で意見交換が可能となり、共通の意識を持つことができるようになりました。

この重要な役を果たした総務会は合併するまで活動を続けるようになりました。体育協会の雰囲気づくりに一役担っていました。

試行錯誤の上自分達の好きなスポーツを自分達だけで楽しむのではなく、すべての町民が、楽しめるような地域に密着した組織活動に目を向け始めました。そういった体育協会自体の意識改革をすることにより、加盟団体も増え、大会も増えると共に、参加者が急増するなど、町全体の意識の改革につながっていきました。

これらの成果が評価され、財団法人日本体育協会スポーツ少年団より、豊田スポーツ少年団が表彰されました。また同じ平成5年、文部省より豊田北ジュニアフットボールクラブが、社会体育優良団体として表彰され、平成6年度には、文部大臣より、豊田町体育協会が、社会体育優良団体として表彰され、平成7年度には、静岡県ソフトテニス協会より、健友「ソフトテニスのスポーツ少年団」が、優良団体賞を受賞しました。

平成に入る頃より、行政サイドでは体育施設の改良、手直しに力を注いでくださり、スポーツ環境も大きく変化をしました。

スポーツの拠点アミューズ豊田完成

スポーツ環境の大きな変化は、平成4年着工、平成6年に完成した、アミューズ豊田が大きく影響しました。これを機に、今まで話し合ってきたことの実現に向けて、一気に加速することになりました。

毎年の目標も過去の二の舞にならぬよう後々のことを考え決定しました。またそれと同時に合言葉、「自分が動けば人は動く、動く人の周りに人は集まる、人が集まればアクションを起こせる」この合言葉は、総務会の中で折にふれ話し合われ、多くの面で効果を生むようになりました。

しかし残念なことに今まで盛んに実施されてきた町民体育大会が、生活様式の変化、人々の趣味の多様化など様々な要因により休止ということになってしまいました。

体育協会の組織改革を実施して5年までには、それまでの問題点は略改善されてきました。しかし新手の問題が表面化してきました。今まで、スポーツ活動の拠点は学校体育及び部活動が中心を担っていたのが、現状維持できなくなってきたのです。指導者不足は中学校だけでなく、体育協会としても問題化してきていたのです。

今後のことを考えた時、地域が、スポーツの推進の担い手になるであろうと考え、総合型地域スポーツクラブの学習会を始めました。その中で学校週5日制の受け皿としても、幼少期から高齢期まで一環したスポーツ教育、指導を受けることができるようなシステムを作る上でも、優秀な指導者の育成が、急務であると考えました。

そこで、競技団体、スポーツ少年団の指導者を対象に、平成10年に指導者養成講座を開催しました。と同時に、小学校3年4年を対象に、スポーツスクールも始めました。毎月第2第4土曜日に、他種目のスポーツを行いました。このスポーツスクールは現在も継続されています。

平成11年には、豊田ラブリバー公園テニスコートが完成多くのテニスの大会が開かれるようになりました。また平成12年には、3年ほど前から模索していた車椅子ツインバスケットボール大会が実現されました。同時に長藤マラソンに障害者の方も一緒走ろうと呼びかけをし、聴覚障害の人のため手話による開会式を、視覚障害の人には伴走者つけるようにしました。車椅子ツインバスケットボール大会は、最初、関東、東海、近畿、から6チームの参加で実施されましたが、本年は中四国が入り8チームで行われました。また長藤マラソンで走り始めた視覚障害者の新野正仁選手は、日本代表として北京パラリンピックに出場しました。長藤マラソンも現在継続されています。

平成15年に豊田グラウンド「軟式野球場」が落成しました。ここまでの間に、小中学校全体に夜間照明が設置され、駐車場が拡張整備され、地域のスポーツ活動の活性化に大きく寄与しました。

体育協会の組織力が発揮された第58回国民体育大会

平成15年10月26日（日）から29日（水）までの4日間、第58回国民体育大会「NEWわかふじ国体」バスケットボール競技会成年女子の部が、豊田町「アミューズ豊田」「豊田南中学校」を会場に開催されました。

この国体は、平成12年4月から本格化し、平成14年に16民泊協力会全ての組織ができ、国体選手達を温かく歓迎する母体が完成しました。何から何まで初めてのことだけに不安と緊張の中で進められました。その中で、各種の実行委員会、民泊協力会の中核となったのが体育協会でした。中でもチームの応援は、民泊協力会が中心となり老若男女入り混じっての大応援団でした。選手達を勇気付け、共に闘い喜びや悲しみを分かち合いました。心に残る感動的な「わかふじ国体」になりました。

体育協会設立より、いくつかの節目の中で一番大きなものは、アミューズ豊田の完成でした。環境が人を造

るまさにその言葉の通り大きく伸展しました。

そこで真価が発揮されたのは、皆で進めてきた体育協会の組織改革でした。組織が組織として機能することのすばらしさを体験することができました。



豊岡村体育協会の沿革

協会の歩み

昭和30年4月1日 広瀬村、野部村、敷地村の三ヶ村が合併し豊岡村が発足した。合併当時村内におけるスポーツ活動は青年団によるスポーツ大会が行われる程度であったが、昭和32年第12回国民体育大会（静岡国体）が開催されるにあたり、村民の中に、スポーツによる体力向上を計ろうという気運が盛り上がり昭和33年4月1日豊岡村体育協会が結成されました。初代会長に大須賀謙一氏があたり村民体育大会を主要行事として活動した。

活動の内容

昭和33年発足した体協は2代会長、藤森常次郎氏が昭和34年就任以来「村づくりは人づくりから、人づくりは教育から」をモットーに、この基本理念を目指し、その一手段としてスポーツの振興に意を注いできたが、国の高度経済対策に伴い若者たちは村を離れ都会の職場へと出て行った為、過疎の村と化した。その為、村のスポーツ振興は遅々としてすすまなかった。従って体協結成当時の会則は実状にあわなくなり昭和45年4月1日会則の大改正を行った。

目的

体協結成当時から愛好者が集まり細々と活動してきた部門も、過疎の中で特に進展を見ることが出来なかった。（昭和45年5月3日豊岡村総合センター運動場開き）

昭和45年7月、天竜川に浜北大橋が完成し、村内には大企業が進出して来るとともに、過疎化の現象も好転し人口増加の傾向が見られるようになって来た。その頃から、村民の間にスポーツによる余暇利用として、父親ソフトボール、婦人バレーボール熱が盛んになると同時に、小グループによるスポーツ同好会が生まれつつある。この間にも村内出身の選手が国民体育大会等の全国大会へ出場して活躍しているが、その成果は輝かしいものがある。各自治会、各種団体及び種目別体育団体を育成し組織されているが、主要行事としている行事はやはり村民体育祭であり、種目別体育団体も、野球部、ソフトボール部、テニス部3部門のみである、しかし最近各種のスポーツ愛好会が生まれつつあり、この愛好会を結集し種目別体育団体を充実させた。

事業

種目別体育団体による自主的協会に組織改善の為の準備を進め、昭和53年4月1日より新体制で発足に至る。

体育協会が競技団体として歩み始めではや10年を過ぎようとしており、発足当時はスポーツ人口もすくなく村のスポーツ振興の基盤づくりを目標に村当局、各スポーツ団体及び村民の協力の結果、野球部会、ソフトボール部会、テニス部会をはじめ、バレー部会、剣道部会、弓道部会、陸上部会、を立ち上げた、平成元年の県スポーツ祭に於いては参加53町村の内、第8位に入賞し、県教育会館において表彰式が行われ栄えある賞を受賞した。今回の受賞を機に豊岡村のスポーツが益々盛んになるよう一層の努力を行っていく。

平成年度に入り益々競技団体加盟が増し、卓球部、ゲートボール部会、インディアカ部会、射撃部会等が加わりスポーツ人口の増加につながった。

しかし、平成15、16年頃より少子高齢化に伴いスポーツ人口が激減し各競技団体の部とも減少した。1977年（昭和52年）第1回、とよおか村駅伝競走大会がスタートした。

各自治会単位でのチーム編成、村民総動員で一喜一憂した。

平成15年10月4日 第58回国民体育大会、大会旗、炬火リレーを浜北市より受け継ぐ。（豊岡総合センターより、豊岡村役場まで。）

平成15年10月26日～29日 国体軟式野球大会実施（豊岡村民野球場にて）

組織

初代会長 故大須賀 謙一

二代会長 故藤森 常次郎 副会長 市川 清雄

三代会長 市川 清雄 副会長 故西田 壮夫

四代会長 故西田 壮夫 副会長 故井上 伸司 副会長 深田 益弘

五代会長 故井上 伸司 副会長 秋山 勝 副会長 深田 益弘

六代会長 秋山 勝 副会長 小出 幸雄 副会長 金子 勝弘

磐南5市町村合併と体協

平成17年4月に磐南5市町村（磐田市、福田町、竜洋町、豊田町、豊岡村）が合併したことにより、新磐田市となり、組織が変わる。

NPO法人磐田市体育協会豊岡支部となる。

支部長 小出 幸雄 副支部長 緩鹿 秀夫

豊岡村駅伝競走大会について

競技の終わり、1977年（昭和52年）第1回豊岡村駅伝競走大会がスタートした、長きにわたり豊岡村各自治会単位でチーム編成し歴史の一ページとなる。

豊岡村を東西南北一周（22.8km 13区間）総合センター多目的運動場発着。

小学生（男女不問）又は40歳以上男女不問 2名

中学生（男女不問）又は30歳以上男女不問 2名

20歳以上 2名

40歳以上 1名

フリー 6名

合 併 協 定 書

平成17年 3月13日

特定非営利活動法人

磐田市体育協会

福田町体育協会

竜洋町体育協会

豊田町体育協会

豊岡村体育協会

- 第1条 合併の方式
磐田市、磐田郡福田町、同郡竜洋町、同郡豊田町、同郡豊岡村の
体育協会は、対等合併とする。
- 第2条 合併の期日
合併の期日は、平成17年4月1日とする。
- 第3条 合併後の名称
合併後の名称は特定非営利活動法人（略称 NPO法人）磐田市体育
協会とする。
- 第4条 事務所の位置
事務所の位置は、磐田市見付4，075番地とする。
また、磐田市、福田町、竜洋町、豊田町、豊岡村にはそれぞれ支部を置
く事ができる。
- 第5条 その他細則
合併に伴うその他細則は別途定める。

調 印 書

磐田市、磐田郡福田町、同郡竜洋町、同郡豊田町、同郡豊岡村の
体育協会は、合併協議書により合併に関する協議が調ったので
ここに署名調印する。

平成 17年 3月 13日

特定非営利活動法人磐田市体育協会

会長

杉山 元



福田町体育協会

会長

三ツ岩 金秋



竜洋町体育協会

会長

松下 孝



豊田町体育協会

会長

於木 康之



豊岡村体育協会

会長

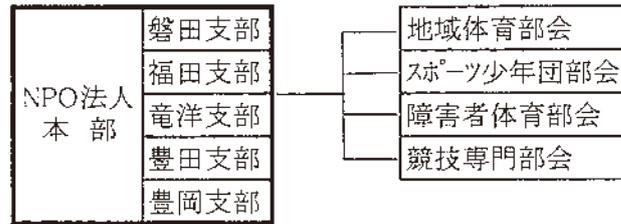
秋 山



その他細則

- 会計 会計処理方法
平成18年度以降の会計処理方法は本部一括方式とする。
- 2 残余財産の取り扱い
各体育協会の所有する残余財産は、平成18年3月31日現在において、すべて新体育協会に引き継ぐ。
- 社員・理事 各支部の社員資格取得数と手続き
磐田市体育協会を除く各支部においては、新規社員登録を平成17年5月15日までに行う。その登録社員数は最低支部の理事数の3倍以上を必要とする。
- 2 理事推薦手続き
理事候補者の要件として、社員10名以上の推薦を必要とする。
社員1名は理事候補者を3名まで推薦出来る。
- 3 理事の定数及び任期の取り扱い
(1)磐田市の理事については、残任期間である平成18年第1回社員総会の終了時までとする。
(2)福田町、竜洋町、豊田町、豊岡村の体育協会は平成17年5月15日までに次項に定める理事候補者数を選出する。その任期は平成17年第1回の社員総会において承認された後、平成18年第1回社員総会の終了時までとする。
- 4 各体育協会より選出する理事候補者数は下記のとおりとする。
理事候補者数
磐田市 14名
福田町 4名
竜洋町 4名
豊田町 5名
豊岡村 4名
- 役員 役員は平成17年度は次の通りとし、平成18年度改選期には全体会議により推薦を行う。
平成17年度役員
会長 1名 磐田市より選出
副会長 5名 5支部より1名宛選出（支部長兼務）
理事長 1名 磐田市より選出
副理事長 6名 磐田市2名、福田町・竜洋町・豊田町・豊岡村各1名選出
専務理事 1名 磐田市より選出
- 議決権 議決権数
平成18年度の事業計画ならびに予算案の決議数はそれぞれの体育協会は理事候補者数と同じとする。

組 織 平成18年度より組織編成は次の通りとする。(詳細図 別紙)



2 委員会組織

各種委員会の設置は、平成17年度において理事会において定め、その実行は平成18年度より開始する。

平成17年度内は、合併前のそれぞれの体育協会の組織を継続し実行する。ただし、4支部(福田～豊岡)の委員は協議内容によっては磐田支部の既存の委員会に必要あれば参加出来る。

事 業 事業

平成17年度事業は各支部毎に実施し、その内容は平成16年度並に各支部の任意により開催する。

平成18年度事業より理事全員の合議により決定する。

2 17年度事業費用

平成17年度事業費用は、合併前のそれぞれの体育協会において調達し、事業遂行を行う。

3 17年度各事業に使用する表彰状の取り扱い

平成17年度中に発行する各支部の表彰状の表記は次の通りとする。

名称 NPO法人磐田市体育協会〇〇支部

支部長 〇〇 〇〇

(角印はNPO法人磐田市体育協会〇〇支部長角印使用)

規 則 各種規定・規則の取り扱い

平成 17年度内において発生する各支部の事業遂行上必要とする規定規則については、合併前のそれぞれの体育協会の規定により実施する。

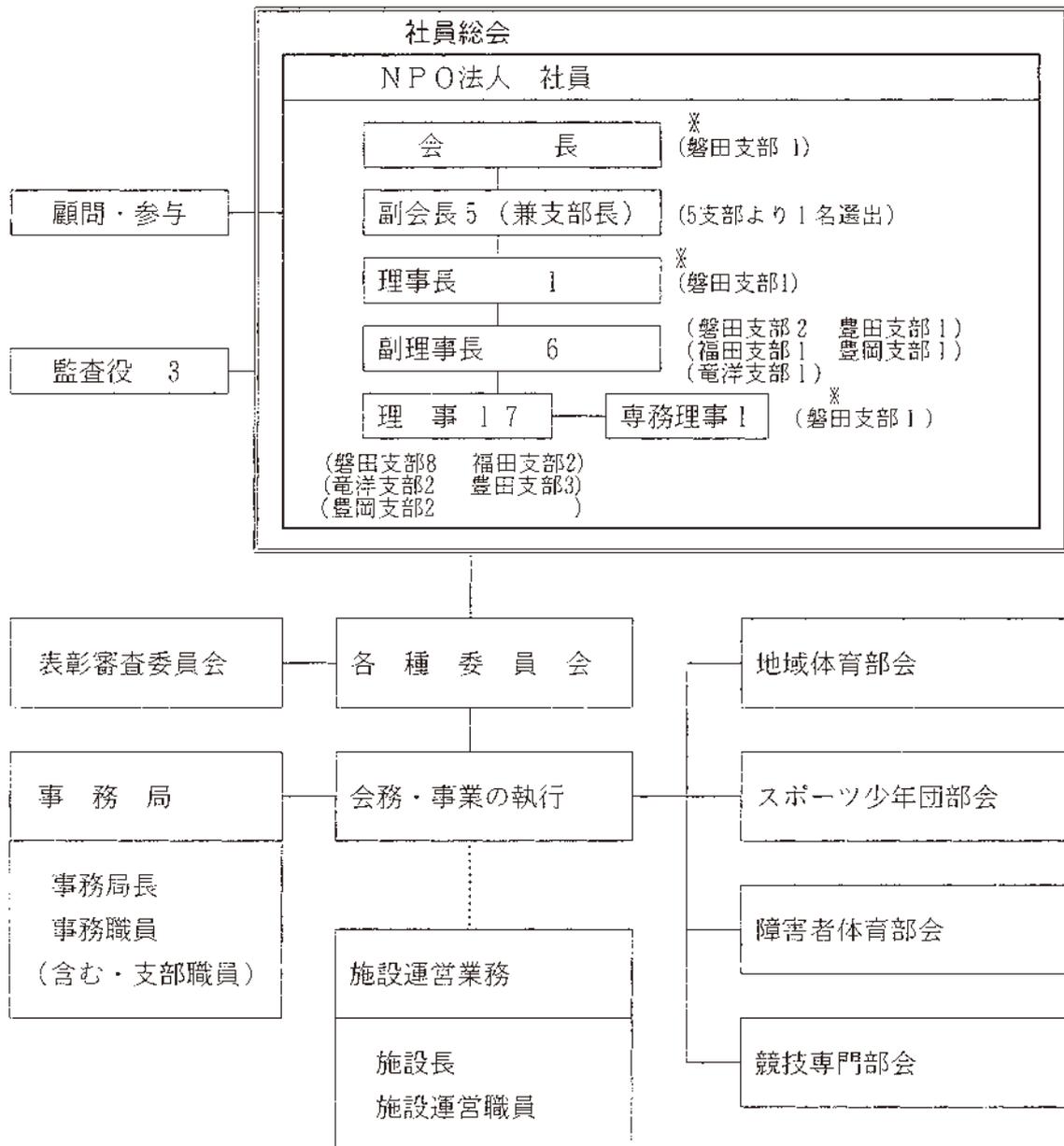
平成18年度以降の各種規定・規則については、平成17年度内において、新組織として構成される各種委員会等において成案し、理事会において可決した後、効力を発する。

認証手続

本合併協定書にかかざる各項目の内、特定非営利活動促進法にもとづく手続き過程において、静岡県が公示する定款の変更部分に、県民より異議の申出のあった場合には、その該当部分の全部又は一部を変更することがある。

以上

NPO法人磐田市体育協会 組織図



脚注・①組織図内人員中各支部の※印部分は平成17年度計画であり、

平成18年度からは推薦または選挙により決定する。

②平成17年度以降の各地区より選出する理事数は下記の通りとする。

磐田支部	14名	
福田支部	4名	
竜洋支部	4名	合計31名
豊田支部	5名	
豊岡支部	4名	

— 競技団体 —

磐田市陸上競技協会

会 長 金澤 成光

会 員 数 85名

設立年月日 昭和24年 9月

10年間陸上競技協会のあゆみ

平成11年 8月 磐田市陸上競技場が完成し、市内の陸上競技のメッカとし、中学・高校の陸上競技部の部活動の場として沢山の競技者が競技場に集まってきました。

3種公認競技場として立派な施設と競技設備を備えた競技場で、皆練習に励み、各種競技会において活躍をしております。中・高校生においては、毎年数多くの選手が全国大会に出場し、優秀な成績を挙げております。

全国大会に入賞された方々は下記の通りです。

全国高校総合体育大会

平成14年 木下 剛 (磐田南高) 棒高跳 4位
平成15年 矢部小織 (磐田農高) 槍投げ 8位
平成16年 三浦研人 (磐田東高) 槍投げ 6位
川口直哉 (磐田南高) 棒高跳 1位
平成17年 川口直哉 (磐田南高) 棒高跳 1位
平成19年 大城彩貴 (浜松商業) 走高跳 8位
平成20年 加藤由記 (磐田農高) 円盤投 7位

全日本中学校陸上競技選手権大会

平成11年 鈴木勝也 (竜洋中学) 砲丸投 3位
平成14年 川口直哉 (竜洋中学) 棒高跳 1位
天野 猛 (竜洋中学) 棒高跳 2位
石田純一 (竜洋中学) 砲丸投 6位
平成15年 原田拓也 (神明中学) 3種競技 7位
平成16年 小林実央 (向陽中学) 100MH 2位
平成17年 大城彩貴 (竜洋中学) 走高跳 8位

国民体育大会

平成14年 木下 剛 (磐田南高) 棒高跳 5位
平成16年 川口直哉 (磐田南高) 棒高跳 2位
平成17年 川口直哉 (磐田南高) 棒高跳 3位

年間行事

ジュビロ磐田陸上競技大会
磐田市駅伝競走大会
磐周中学新人陸上競技大会
月例記録会 (3回)
磐田市陸上競技教室

平成20年 平松 巧至 (磐田南高) 100m 8位
中村真悠子 (磐田北高) 800m 7位
青島 綾子 (磐田農高) 棒高跳 5位

競技会

①ジュビロ磐田陸上競技大会

昭和55年に始まった磐田市陸上記録会は磐田農高・磐田南高グラウンドと会場を変え、平成11年には新装なった磐田市陸上競技場で行われた。幼稚園児から小学生・中学・高校生・一般マスターズと幅広く参加者を集め、記録も写真判定装置による全自動計時 (電気計時) で実施しました。

平成18年からは、記録会から大会に変更し、(株)ヤマハフットボールクラブのご協力により、第1回ジュビロ磐田陸上競技大会が行われた。

参加者も西部地区全般で、浜松から袋井・掛川小笠菊川方面からの参加もあり、第4回大会には1300名を越す大会として盛り上がった。

②磐田市駅伝競走大会

平成11年に第16回を迎えた磐田市駅伝競走大会も毎回日本たばこ産業東海工場を起点とするコースで中学・高校・一般の部において、盛況に行われていました。

平成21年2月の大会からは新市合併後の新しい駅伝競走大会として、生まれ変わりました。

今までの中学・高校・一般の部に加え、新たに、小学生の部と磐田市内中学校区対抗の部を設けました。中学校区対抗の部は毎年行われている静岡県市町村対抗駅伝競走大会の市内版として、チーム構成も小学生から中学・高校・一般・壮年の部で行いました。会場もスズキ(株)竜洋テストコースをお借りし、今年度は中学校区対抗の部10チーム (1チームは風邪のため棄権) を含め115チームの参加で行いました。

中学校区対抗の部は、今後、磐田市内の長距離選手の底辺拡大・強化のため、充実した大会にして行きたいと思っています。

陸上競技教室

①磐田市陸上競技教室

平成5年度より実施している磐田市陸上競技教室も磐田南高・磐田第一中学と会場を変えてまいりましたが、磐田市陸上競技場の完成に伴い、陸上競技場に会場を移し、毎月第4土曜日に小・中学生対象に行っております。

全天候のトラック・芝生のフィールドと整った環境のもと、200人程の受講生は指導者のもと楽しく行っています。

②磐田陸上

陸上競技教室の受講生の中には大会に出場して記録を狙いたい、専門的に陸上競技に取り組みたい等の希望により、磐田陸上が誕生しました。現在4年生以上の小学生・中学生が毎週、水曜日・第2土曜日練習に励んでいます。

水曜日の練習には、静岡産業大学陸上部員の皆さんに指導をして頂いております。小学生も大学生をお兄さん・お姉さんのように慕い、練習に頑張っております。

大会は、春・秋にエコパで行われる西部小学生陸上大会、静岡草薙で行われる静岡リレーカーニバル、県小学生陸上大会等に参加します。

今まで、静岡国際陸上(平成15年)中学女子リレーで優勝、浜松中日カーニバル(平成17年)中学男子リレーでは静岡県中学新記録で優勝しております。

また、個人では平成13年に小林実央さんが80mHに県小学生新記録で優勝し、全国小学生陸上大会に出場しました。

静岡県市町村対抗駅伝競技競走大会

①合併前の各市町村の活躍

第1回市町村対抗駅伝競走大会は平成11年12月開催、全県下74市町村すべてがエントリーされ静岡県庁をスタートで行われました。

合併前の5市町村も市の部・町村の部とそれぞれに出場し、大変よい成績を挙げることが出来ました。合併前(第1回～6回)の各市町村の成績は右記の通りです。

市の部 町村の部

	磐田	福田	竜洋	豊田	豊岡
1回	9位	21位	13位	25位	6位
2回	7位	8位	21位	13位	16位
3回	14位	6位	27位	12位	15位
4回	11位	9位	19位	14位	24位
5回	14位	16位	7位	10位	5位
6回	12位	24位	13位	21位	10位

区間賞

第1回	第1区	早津佳映	豊岡
第2回	第1区	早津佳映	豊岡
第3回	第3区	西山 忍	福田
第4回	第4区	山田茂樹	豊田
	第9区	三谷裕淑	豊田
第5回	第4区	伊藤将太	竜洋

②合併後の活躍

合併の第7回大会は3チーム、第8回大会以降は統一1チームで出場しております。昨年の第9回大会において、小学生1500mは男女アベック優勝の快挙をなし遂げました。

第7回	磐田市	13位
	磐田市南	27位
	磐田市北	20位
第8回	磐田市	9位
第9回	磐田市	9位
第9回	小学生男子1500m	大塚悠介 1位
	小学生女子1500m	佐藤祐実 1位



磐田市バレーボール協会

加盟チーム数 64チーム
 加盟人数 760名
 代表者 佐藤 広海
 創立年 昭和52年度より～



(協会マーク)



磐田市バレーボール協会
 (5市町村合併記念マーク)

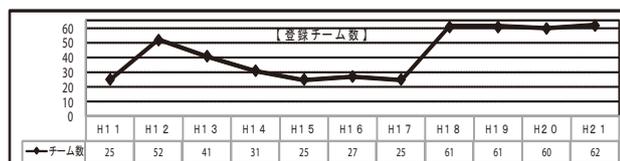
【協会の概要】…平成11年度より

磐田市バレーボール協会創設今年で35年目を迎え、磐田市民に年齢関係なく愛好者の親しみやすいように、役員平均80名・チーム登録会員人数約760名で運営され、年齢関係なくバレーボールの発展を目指して役員・チーム一丸となって努力し盛り上げようと、これからも生涯スポーツとして新たな改革を求めながら前進したいと考えております。

◆ 協会とは ◆

『ある目的のために集まった会員が協力して
 組織、維持して行く団体』

— チーム数の変動 —



— 役員の返還 —

- ◆ (平成11～12年度) ・会 長 橋本 秀夫
 ・副会長 渥美 孝三 福澤 富美子
 ・理事長 宇藤 栄治
- ◆ (平成13年～20年度) ・会 長 宇藤 栄治
 ・副会長 (平成13年～14年) ・福澤 富美子
 ・副会長 (平成15年～19年) ・桑原 町子
 伊藤 滋朗 ・理事長 藤村 博美
- ◆ (平成21年度～) ・会 長 佐藤 広海
 ・副会長 藤村 博美 ・理事長 吉岡 伊作

— 協会組織の返還 —

- ◆ (平成11年～19年) *会長 副会長 顧問 理事長 体育協会 *推進協議会 (会長、副会長、理事長、副理事長、各部長、各委員長、事務局長)
- ◆ (平成20年～*会長 副会長 顧問 理事長 (平成21年～参与) *理事会 (会長、副会長、理事長、副理事長、理事、各部長、事務局長)

【市町村合併】… (平成17年度)

市町村合併が体育協会より緩やかに落とし込みが来る中、バレーボール協会は各地区の活動を確認し理解、考え方を整理する事から進めて行くのが適切と判断し、経験とチームワークで新しい風と共にバ

レーボール協会を市民と力を合わせ築いて来ました。

- ◆ (平成18年度)
 組織の一部見直し、旧市町村各2名 (正・副) 選出して指導者普及部を設けきめ細かに連携を取り、活力と楽しい協会を目指して行く。
- ◆ (平成19～20年度)
 5市町村と活動し始めて、新顔ぶれ共心配なく推進が出来ました。組織の変更で旧市町村より理事を選出 (八木 伸一・平田 朗・松島正司・松村あや子・金田一比己・市村 智) して理事会にて一緒に協会の事業をやって来ました。
- ◆ (平成21年度)
 5年目を迎え各支部代表を取り除き新磐田市より役員を選出し、新しい改革にチャレンジする。

【現在の活動状況】

各専門部 (小学部・クラブ部・家庭婦人部・婦人部・シニア部・ソフトバレー部・中高部) により年間事業各部2～6計画に沿って実施している。

第22回 磐田信用金庫理事長杯 (後援) が開催継続出来るのも磐田信用金庫様のご支援の賜です。



(第22回 磐田信用金庫理事長杯 開会式風景)

- ◆シニア部第1回目は70名参加が、H20年は180名と2倍の参加となり、年々多くの仲間が一端去った、男子40歳、女子45歳以上で個人・チーム男女混合の参加大会です。



(第37回 シニアフレンズ大会 開会式・試合風景)

【優秀選手の紹介】

バレーボール少年団（磐田豊田V S Cの選手）
東海新人大会（男子）出場報告（磐田市役所）



(東海大会で健闘を誓う磐田豊田V S Cの選手)

【今後の目標】

①総会資料で年間の事業計画を各専門部が企画した大会等を確実にこなして行く。今期は、大幅な役員編成と共に新規一転しての改革を新役員と推進して行く事が磐田市バレーボール協会の発展に繋がると考えている。

②各専門部より、今後の取り組み展望

◆小学部…（部長：市川 良一）

平成21年加盟、9団体・17チームで小学部は、スポーツ少年団で活動している。近年、団員数の減少を食い止め、増加を目指し頑張っていく。

◆クラブ部…（部長：佐野 琢之）

年4回の大会を、[男女9人制・男女混合・高校、一般合同6人制]を実施。一般のバレー人口減少に伴い部員一同増加目指し、喜ぶ活動を考えて行く。

◆家庭婦人部…（部長：中井 きよ子）・固定

10年前は、3部制～2部制に高齢化で世代交代出来ないチームが増え、減少傾向をたどり今後は若い人を呼び込み、チーム存続が現在の課題です。

◆婦人部…（部長：村松 恵子）・ローテ

ローテーションは全てのポジションが体験でき、初心者でも楽しむ事が出来ます。今後は誰でも参加しやすい環境作りが大切だと痛感しています。

◆シニア部…（部長：高野 千恵）

全盛期に活躍した世代が多く参加し、自己の体力の目安と親睦を深め男女混合大会とあって年々増加傾向に有り、定着目指して頑張ります。

◆ソフトバレー部・（部長：佐藤 誠徳）

老若男女で、ボールは大きく柔らかくネットも低いので初心者もすぐ楽しめる競技で、最近の上昇ソフトバレーで、一緒にプレーをしませんか。

③【会長 佐藤 広海 : 今後の展望】

日本の環境が好転する中で専門部の充実を図り、資金不足を体育協会と共に補い進んで来ました。生涯親しく明るく豊かな地域社会作り等意識し、手軽に楽しめるソフトバレー・シニア部を取り入れ、市民参加の健康増進へ体力向上にお互いの交流を深め、市民の中に溶け込めたらと思っている。



磐田卓球協会

磐田市中泉375 リバーラ磐田101
会 長 儘下 高育
設立年月日 昭和53年7月
加盟団体数 64団体
加盟人数 約1,600名



<卓球協会の概要>

卓球人口の増加に伴い、関係者の努力により昭和53年7月磐田卓球協会が設立され、今年が30年目にあたります。

この小さな協会の中から関係指導者の努力により日本の代表選手としてオリンピックに出場し、ダブルスの部で第3位に入賞した「水谷隼」選手を輩出したことは、サッカーの「ジュビロ磐田」と並んで磐田市の誇りでもあります。今後も磐田市体育協会のために微力ながら努力したいと思っております。



オリンピック壮行会（アミューズ豊田にて）

<現在の活動状況>

毎年、各関係団体からご支援をいただき、大会を定期的 to 実施しています。なかでも、いわしん理事長杯及びジュビロ杯の大会は、小学、中学、高校生を中心として年々盛大に開催されています。



平成21年度全日本卓球選手権大会（ホープス・カブ・バンビ）
神戸総合運動公園内体育館

また、スポーツ少年団の活躍も目覚ましく、全国大会において団体優勝を成し遂げ、個人戦バンビの部において、平成20年度に伊藤美誠選手、平成21年度に桑原穂実選手（いずれも豊田町卓球スポーツ少年団）が、連続優勝と輝かしい成績を残しております。



平成21年度全日本卓球選手権大会（ホープス・カブ・バンビ）
神戸総合運動公園内体育館

<平成21年度協会主管大会>

- 全日本選手権大会（カデットの部）西部地区予選
- 全日本選手権大会（ダブルスの部）県予選
- ジュビロ杯争奪小笠・磐周中学生卓球大会

<協会主催大会>

- 会長杯争奪卓球大会
- T S P 杯争奪卓球大会
- 磐田市民卓球大会
- ニッタク杯争奪卓球大会
- いわしん理事長杯争奪卓球大会
- セントラル杯争奪卓球大会

<役員名簿> (平成21年4月現在)

会 長 儘下高育
 副 会 長 尾高利男
 顧 問 片岡繁輝 内山 毅 鈴木信好
 川合修平
 理 事 長 大須賀 勝
 副理事長 西脇基生
 事務局長 中嶋英明
 総 務 中田伯良
 常任理事 田中晃人 松場智恵子 三室康史
 太田修司 高橋由紀子 仲村保宣
 池島弘典 佐久間民子 永井睦人
 海野嘉明 安間千代子 安井 誠
 田中赫子 村岡明日美 鈴木千恵
 石川史江 伊藤しのぶ 山本淑恵
 会計監査 鈴木重晴



磐田市民卓球大会優勝者(平成11年度～)

年度	回	一 般		高 校		中 学 以 下		50歳以上	家庭婦人	初 心 者		ラージボール		
		男 子	女 子	男 子	女 子	男 子	女 子			男 子	女 子	男 子	女 子	
平成11年	第42回	川山浩司	茂野文誉	金子敏宏	川崎純子	澤柳雄一郎	金原悠美	金子宗充			岩島祥介			
		磐信	磐信	磐西高	磐西高	磐一中	城山中	卓友会			障害者卓友会			
平成12年	第43回	伊藤高志	落合紗代	樋口友洋		水谷雄城	河田智恵	宮村隆			高橋美代子			
		磐信	磐西高	磐南高		城山中	城山中	NTN			卓友会			
平成13年	第44回	川山浩司	茂野文誉	大須賀匠	増田知香	後藤竜平	河田智恵	宮村隆	鈴木雅子	七星芳馬	今川慶子			
		磐信	磐信	神明中	磐農高	磐一中	城山中	NTN	白拍子	仲よし会	見付ピンポンクラブ			
平成14年	第45回	川山浩司	河田智恵	水谷雄城		片野尚史	三上陽子	金子宗充	原田裕美	伊藤春雄	青島洋子			
		磐信	城山中	豊田ス		磐一中	磐南中	卓友会	卓友会	仲よし会	磐田ラリークラブ			
平成15年	第46回	伊藤高志		寺田雄太郎	鈴木奈津樹	眞鍋隆紀	河野紗弓	宮村隆	高橋美代子	大和田健雄	柴田寿子			
		磐信		磐西高	磐西高	磐一中	城山中	NTN	卓友会	仲よし会	仲よし会			
平成16年	第47回	川山浩司	土屋佐衣子	後藤竜平	鈴木奈津樹	伊藤誠弥	高山恵子	宮村隆	佐久間民子	山下敦史				
		磐信	磐信	磐東高	磐西高	磐一中	城山中	NTN	磐卓	NTN				
平成17年	第48回	伊藤誠	横原寛子	水谷雄城	細谷友美佳	鈴木克英	寺田美貴	新貝良男	鈴木しん	伊藤春雄	大石まち子	内山毅	田仲花子	
		卓精会	磐信	浜北高	磐西高	豊田ス	豊南中	卓友会	磐田ラリークラブ	仲よし会	仲よし会	磐田ラリークラブ	磐田ラリークラブ	
平成18年	第49回	秋野邦守	横原寛子	鈴木総介	池谷西	鈴木克英	平野依里	竹内則之	山城貞子	大和田健雄	大石まち子	内山毅	山城貞子	
		NTN	磐信	磐西高	磐西高	豊田ス	豊南中	卓友会	卓友会	仲よし会	仲よし会	卓友会	卓友会	
平成19年	第50回	小柳津航		鈴木達大	小木映里奈	伊藤大樹	森下実樹	山田藤夫	佐久間民子			内山毅	山城貞子	
		磐南高		城山中	磐南高	豊岡中	豊田中	卓友会	掛川レディース			磐田ラリークラブ	卓友会	
平成20年	第51回	秋野邦守		伊藤大樹	森下実樹	中屋敷正文	鈴木友菜	竹内則之	大石まち子		石川紀枝子	山崎修平	田仲花子	
		NTN		磐西高	豊スポ	竜洋中	城山中	卓友会	仲よし会		仲よし会	磐田ラリークラブ	磐田ラリークラブ	

静岡県野球連盟磐田支部

加盟チーム数 50(一般36、少年7、学7)
加盟人数 994名
代表者 川出 静夫
創立年 昭和24年

【組織】

昭和24年静岡県野球連盟磐田支部を結成

歴代支部長

初代 故 山本金一 S24～S63
二代 杉山 元 S64～H10
三代 故 藤田明弘 H11～H17

現役員

支部長 川出静夫
副支部長 鈴木利之、青島安宏、鈴木房夫
理事長 田中都夫
副理事長 鈴木啓司、鈴木大介
常任理事 鳥居慶司、鶴川 進、熊谷通彦
金子成智、川島健司、石川貴晴
平谷 均、青島久彦、田代孝治
監事 大場秋寿、鈴木芳明
事務局 池田弘人、
少年部長 木下 功
審判部長 金井勝裕
審判副部長 大村 正
審判部会計 一柳賢一



平成21年度静岡県野球連盟磐田支部役員

【現在の活動状況】

1. 支部大会

登録チームがA, B, Cの3クラスに分かれ各クラスとも年間5大会に参加している。

(Aクラス)

東海5県軟式野球大会

国民体育大会軟式野球競技、

(Bクラス)

東日本軟式野球大会1部

高松宮賜杯全日本軟式野球大会1部

(Cクラス)

東日本軟式野球大会2部

高松宮賜杯全日本軟式野球大会2部

山本杯兼会長旗争奪軟式野球大会

磐田市議長杯軟式野球大会

(A, Bクラス)

天皇賜杯全日本軟式野球大会

磐田市長杯軟式野球大会

(A, B, Cクラス)

県下都市対抗軟式野球大会

2. 高校野球磐田市内大会

平成11年度から磐田北高校が加わり、市内5校の参加により、4月29日(祝)に準決勝、決勝を行っている。本年度で第28回を数え、伝統ある大会である。第18回～27回の優勝は、磐田西4回、磐田南3回、磐田東2回、磐田北1回となっている。

3. 中学新人野球磐田大会

本年度で第52回を数える伝統ある大会で、優勝チームは来春の県選抜大会の出場権を得る。過去10年間の優勝校は浅羽中が4回、磐田南部3回、福田2回、磐田東1回となっている。

4. 硬式野球教室

平成11年から磐周南地区の中学3年生を対象に高校野球部の監督を講師として開催している。教室の参加者が市内高校に進学し甲子園に出場することを期待している。

【過去10年間の全国大会の記録】

平成13年度

NTN磐田製作所が第56回国民体育大会（一般B）に出場したが、1回戦で東京都代表の東京ガスに0-1で惜敗した。



NTN磐田製作所野球部

平成15年度

第58回国民体育大会（NEW!!わかふじ国体）に於いて磐田城山球場をメイン会場として軟式野球競技（一般B）が開催された。

開催県代表の本田技研浜松が石川県代表に2対1で勝利し見事優勝。会場に詰め掛けた大応援団が大いに盛り上がり大成功の大会であった。

- 1回戦 青森県代表 9-0
- 2回戦 広島県代表 2-1（延長14回）
- 準決勝 北海道代表 3-0
- 決勝戦 石川県代表 2-1



本田技研浜松メンバー

平成17年度

高松宮賜杯第49回全日本軟式野球大会（1部B級）に静岡県代表として、クライムが出場し、ベスト8に進出した。

- 1回戦 巖原マリナーズ 9-0
- 2回戦 J Aあさひかわ 3-1
- 3回戦 三洋電機加西 3-9



クライムメンバー

平成19年度

DUPLEXが第29回東日本軟式野球大会（2部C級）に静岡県代表として出場し2回戦でボッシュ・レロックス(株)と対戦したが、5-8で敗退した。



DUPLEXメンバー

平成20年度

NTN磐田製作所が第58回東海五県軟式野球大会に出場したが、1回戦で前年度優勝の(株)ニッセイと対戦し、0-2で敗退した。

静岡県野球連盟福田支部

加盟チーム数 17チーム
加盟人数 405名
代表者 大石 勝馬
創立年 昭和27年4月

【組織】

・組織の概要

旧福田・竜洋・豊田地域のいずれかに居住又は、勤務所を有するもので編成されたチームを主体に構成している。

・歴代支部長

初代 百鬼末太郎
2代 寺井 祐二
3代 中村 房市
4代 佐藤須美男
5代 寺田 弘司
6代 太田 竹十
7代 古川 行雄
8代 加藤 徳郎
9代 鈴木 秀治

・主催大会の概要

静岡県野球連盟下部組織として下記大会を実施
東海5県軟式野球支部予選
東日本軟式野球1部支部予選
東日本軟式野球2部支部予選
高松宮軟式野球1部支部予選
高松宮軟式野球2部支部予選
国民体育大会軟式野球支部予選
天皇賜杯軟式野球支部予選
都市対抗軟式野球支部予選
会長旗争奪軟式野球支部予選
暁杯軟式野球大会
支部長杯軟式野球大会
全日本少年軟式野球支部予選
その他

○福田支部設立について

この福田地区には、戦前から野球熱が高く昭和7年には福田クラブが設立されていた。戦後昭和21年に再び福田に野球が復活し、その後静岡県野球連盟が設立されその傘下にはいる。

○暁杯軟式野球大会について

この大会は、戦後の荒廃した世相に青少年達を明るくする為に設立されたクラブチームで福田にあった暁チームの名前を冠とし、後世に名前を残すようにした。又このチームは、天竜・磐田・袋井の磐田郡下に於いて敵なしと言われた強豪チームであった。昭和35年度に創設。

○支部長杯軟式野球について

この大会は、野球連盟の発展を願い昭和51年に創設した。この野球大会には、福田町内の野球好きなら連盟に登録していなくても誰でも参加できるのが特徴。

○中学生大会について

中学生は、連盟の大会が全日本少年野球大会しかなく福田支部では、これらを解消するため独自にクラブ交流福田大会及び磐周地区中学新人野球大会を企画して運営している。

○学童野球大会について

学童については、県連盟大会のほか福田支部独自の大会が4大会ある、選抜野球福田大会・竜洋カップ新人育成大会・ビックスポーツ杯4年生大会・遠州若潮杯選抜少年野球大会など福田支部で運営企画をして野球の底辺拡大に努めている。又この学童野球の経験者らが高校に進み甲子園で活躍した選手もいる。



少年野球大会



少年野球大会



社会人大会



社会人大会



H15年 “NEW !! わかふじ国体” 閉会式と閉会式

磐田市空手道連盟

加盟チーム数 3チーム
加盟人数 120名
会 長 前島 教次
創 立 年 平成4年4月

組織

社団法人日本空手協会磐田支部
和道会修空会
ヤマハ発動機空手部の3団体で構成

役員

会 長 前島教次
副会長 小林孝一
理事長 密岡恭之
副理事長 鈴木堅司・大庭信博
事務局長 永見基金
理 事 木村浩一・岩本一輝
寺田正子・高橋征史
山田忠明

昭和34年9月 見付地脇町の宣光寺御住職の空手道に対する温かいご理解とご協力により、初めて磐田市に道場を開設。

道場とは言え、寺院境内の一隅を借用し裸電球の下練習を開始、これが磐田支部発祥の基となる。(磐田支部の母団体 日本空手協会は唯一文部科学省正式認可の公益法人)

この年の11月磐田市教育委員会・中日新聞社の協賛を得て磐田市公会堂において、この年東海地方を襲った伊勢湾台風の災害救助募金を兼ねた第1回演武会を開催したのである。当日来賓でご出席頂いた当時の教育長が大変感激され、早速体育協会加入のご努力をいただき、磐田市体育協会に加盟を承認された。

平成4年4月 かねてより親交のあった和道会に呼びかけ、(社)日本空手協会・和道会の2流派5団体にて新に磐田市空手道連盟を発足。各道場合同の技術向上の合同練習及び演武会や大会等を行い錬成に努めている。

平成6年10月 県民スポーツ祭では磐田市で空手の大会が催され運営等を担当する。

平成7年10月 「市民体育のつどい」では日本・ブラジル修好100周年記念スポーツ交流大会演武会が行われ、ブラジル人の選手も交えて試し割りや型を披露。

平成18年まで磐田市代表として毎年県民スポーツ祭に参加。(この年をもって県スポは終了)



空手協会磐田支部の指導員と道場生



和道会修空会支部の指導員と道場生

活動状況

平成18年まで開催されていた県民スポーツ祭には、磐田市代表として多数の選手が参加していた。

年1回の合同練習及び演武会を開催。

また、各流派ごとの大会に於いては精進と努力を重ね、その成果は県大会は勿論、東海大会においても度重なる優勝を遂げ、全国大会においては3年連続優勝という輝かしい実績を残している。

優秀選手の紹介

小田俊也選手

和道会全国大会 優勝

静岡県少年少女空手道選手権 優勝

石川恭平選手

和道会全国大会 準優勝

和道会静岡県大会 準優勝

石川泰市

和道会全国大会 第3位

静岡県少年少女空手道選手権 優勝

磯部加奈子

和道会静岡県大会 優勝

静岡県中学1・2年空手道大会 準優勝



空手協会磐田支部、和道会修空会、ヤマハ発動機空手部の合同練習



少年による組手



日本・ブラジル修好100周年記念でのブラジル選手による型の演武

磐田市体育協会 山岳部

(磐田山の会)

部員数 28名

代表者 池田 修造

創立年 昭和39年3月

山岳部創設と市民登山ハイキング

昭和30年代は、山岳小説「氷壁」の影響もあり登山ブームであった。大きなリュック、重い登山靴、山の麓から頂上をめざす、スポーツ登山の全盛期であった。大学の山岳部の合宿風景はよく報道され、健康な体力作りが注目された時期である。

山岳部の母体の「磐田山の会」は来年、創立50周年を迎えることになった。昭和35年の設立当時は、新進気鋭揃いであったが、今や50年経過し、それぞれが中高年登山ブームの真っ只中の一端を担っているといえよう。

山岳部設立以来、市民登山ハイキング大会を42回にわたり開催し、北遠の山、奥大井、安倍奥、富士山とその周辺、愛鷹連峰、毛無山塊、箱根、伊豆、奥三河、岐阜、中央アルプス方面等、バラエティーに富んだコースを選択し、現在まで延べ3,000人余の参加を得て盛況裡に推移してきた。

市民登山ハイキング大会、登山教室年表

(第15回まで省略)

第16回〈昭和55年5月25日〉		
愛鷹連峰「越前岳」1,505m		参加62名
第17回〈昭和56年5月3日〉		
春野町「岩岳山」1,369m		参加52名
第18回〈昭和57年5月23日〉		
天竜川奥「常光寺山」1,439m		参加48名
第19回〈昭和58年11月6日〉		
天竜川奥「櫃山」1,258m		参加40名
第20回〈昭和59年10月14日〉		
天竜川奥「白倉山」1,027m		参加54名
第21回〈昭和60年10月20日〉		
箱根「金時山」1,213m		参加62名
第22回〈昭和61年11月9日〉		
大井川奥「無双連山」「高山」1,094m		参加41名
第23回〈昭和62年11月8日〉		
水窪町「青崩峠」1,082m		参加54名
第24回〈昭和63年10月23日〉		
安倍川奥「八紘嶺」1,917m		参加57名
第25回〈平成元年11月19日〉		
大井川奥「蕎麦粒山」1,627m		参加81名
第26回〈平成2年11月11日〉		
愛知県東栄町「明神山」1,016m		参加74名

第27回〈平成3年11月10日〉		
愛鷹連峰「越前岳」1,505m		参加90名
第28回〈平成4年11月8日〉		
水窪町「熊伏山」1,653m		参加84名
第29回〈平成5年11月14日〉	健脚向	
身延町「毛無山」1,945m		参加77名
第30回〈平成6年11月6日〉		
水窪町「麻布山」1,685m		参加89名
第31回〈平成7年11月5日〉		
水窪「奈良代山とシャウゾ山」1,835m		参加95名
● 登山教室〈平成8年5月19日〉		
奥三河「岩古谷山」799m		参加36名
第32回〈平成8年11月10日〉	健脚向6時間	
「天子ヶ岳」「長者ヶ岳」1,336m		参加82名
● 登山教室〈平成9年4月24日〉		
愛知県「日本ヶ塚山」1,107m		参加56名
第33回〈平成9年11月9日〉		
奥三河「宇連山」930m		参加91名
● 登山教室〈平成10年5月10日〉		
精進湖西「三方分山」1,422m		参加50名
第34回〈平成10年11月8日〉		
大井川奥「高塚山」1,621m		参加105名
● 登山教室〈平成11年5月16日〉	5時間	
三河奥「明神山」1,016m		参加49名
第35回〈平成11年11月7日〉		
山梨県「黒岳」1,792m		参加78名
第36回〈平成12年10月22日〉	4時間30分	
山梨県「竜ヶ岳」1,485m		参加94名
第37回〈平成13年11月11日〉		
山梨県「三国山」1,320m		参加73名
第38回〈平成14年11月10日〉		
山梨県「石割山」1,413m		参加82名
第39回〈平成15年11月9日〉		
安倍川奥「青笹山」1,550m		参加87名
第40回〈平成16年11月7日〉		
天城「伊豆中央山稜」1,034m		参加79名
第41回〈平成17年11月6日〉		
安倍川奥「山伏」2,014m		参加59名
第42回〈平成18年10月29日〉		
駒ヶ根市「戸倉山」1,681m		参加53名、駒ヶ根市 72名参加
● 登山教室〈平成20年4月27日〉		

「入手山」1,212m、「岩岳山」1,369m 参加12名
 ● 登山教室〈平成20年11月9日〉
 岐阜県「位山」1,529m 参加23名

駒ヶ根市との登山、交流

“しっぺい”太郎伝説からの友好が深められる中、昭和39年7月「駒ヶ岳」へ市民登山ハイキング大会を実施した。市役所を訪問、歓迎、激励の挨拶を受け伊勢滝登山口にむかった。当日は低気圧の煽りで雨天登山となった。山小屋到着前の30分は天候が急変し霧と激しい風雨で困難を極め、疲労で立往生する市民参加者の手を引き、背負った。小屋の鐘の音が救いの声に聞こえ、駆け込んだ。翌日頂上まであと25分の山小屋で天候の回復を待ったが、断念し下山する。「引き返す勇気を持って」とよく言われるがその時は、全員の安全が第一。偵察隊が先発し、沢の増水を避け安全な下山道を確保、誘導にも細心の注意を払い、無事下山し事無きを得た。

昭和42年1月12日に両市から友好宣言がされて以来、駒ヶ根市体育協会から登山大会への招請があり毎年数名の部員が参加している。平成7年駒ヶ根市民登山大会で「八ヶ岳・赤岳」へ会員・市民16名が参加し熱烈な歓迎を受けた。平成10年「空木岳」駒峰ヒュッテの再建完成時には、友好の鐘を贈り、アルピニスト達への警鐘となり、鳴り響いている。平成18年初めての試みとして、駒ヶ根市「戸倉山」に両市民登山大会を10月29日の同一日に設定し、両市から125名の参加があった。山頂の交流の場で市体協より特別参加の杉山会長から挨拶と磐田市からのメッセージを伝えた。今後も登山を通じ友好を深めていきたい。

駒ヶ根への登山年表（市民登山大会）

第5回〈平成4年9月5日～6日〉
 南アルプス「塩見岳」3,052m 部員参加3名
 第6回〈平成5年8月21日～22日〉
 南アルプス「甲斐駒ヶ岳」2,967m 部員参加3名
 第7回〈平成6年8月27日～28日〉
 南アルプス「北岳」3,193m 部員参加5名
 第8回〈平成7年9月2日～3日〉
 八ヶ岳「赤岳」2,899m 部員と市民参加16名
 第9回〈平成8年8月24日～25日〉
 中央アルプス「木曾駒ヶ岳」2,956m 部員参加7名
 第10回〈平成9年8月23日～24日〉
 中央アルプス「空木岳」2,864m 部員参加10名
 第11回〈平成10年8月22日～23日〉
 中央アルプス「木曾駒ヶ岳」2,956m
 部員参加8名

第12回〈平成11年8月21日～22日〉
 中央アルプス「空木岳」2,864m 部員参加1名

駒峰ヒュッテ 小屋番応援

●〈平成11年7月18日～23日〉 部員1名
 ●〈平成12年7月22日～27日〉 部員2名
 ●〈平成13年7月22日～26日〉 部員1名
 ●〈平成14年7月19日～24日〉 部員1名
 ●〈平成15年7月25日～30日〉 部員2名
 ●〈平成16年7月23日～27日〉 部員1名

第19回駒ヶ根市民登山大会「木曾駒ヶ岳」2,956m
 〈平成19年8月25日～26日〉 部員3名

第20回駒ヶ根市民登山大会
 〈平成20年8月23日～24日〉
 「唐松岳」2,696m、「五竜岳」2,841m 部員5名

山岳部の現況

中高年主体の部員となったが、毎月第2木曜日の定例会、月1回の定例山行、四季の山行等、年間のスケジュールで積極的な活動に終始している。

見付たのしい文化展では、毎年山岳写真展を開催し、山岳紹介など啓蒙に努めている。また、最近の大きな遭難事故は、悪天候での強行が大きな原因で、年々増加する遭難者のうち、60歳以上が半数を占める。「山の高齢化」はこれからも進むだろう。疲労の回復には年齢の影響もあり、経験の過信も仇となる。近年、難易度の高い山を軽装で、短期間で踏破する登山ツアーが多い。他人任せの山行となり、急変する山の自然との対決は、あくまでも個人である。問題視されている現況に、山岳部として、部外講師に、外科医、歯科医、テーピング会社の職員等を招き、山の基礎知識と、健康、体力維持、応急処置、救急法、天気図、ザイルワーク、装備、登山届、山岳保険加入等を、定例会、実施訓練、登山教室等で研鑽し、事故をおこさない楽しい登山に努めている。

－文責・青野晴男－



磐田サッカー協会

加盟チーム数 67チーム
加盟人数 約2500名
代表者名 磐田サッカー協会会長
安間 英雄

設 立 年 昭和56年から磐田
サッカー協会規約を実施。設立は
それ以前。

(1) 年間行事

- ・社会人（第1種）
磐周社会人サッカー大会
- ・高校（第2種）
磐田市長・市議長杯サッカー大会
磐田・袋井サッカーフェスティバル
- ・少年（第4種）
磐田1年生サッカー大会
磐田2年生サッカー大会
磐田3年生サッカー大会
磐田4年生サッカー大会
磐田5年生サッカー大会
- ・磐田サッカー協会総会（5月）
- ・磐田サッカー協会役員会
（5・7・9・11・1・3月）

(2) 活動状況

磐田サッカー協会の常時活動として、奇数月にヤマスタジアムにおいて役員会を実施している。また、年1回の総会は、毎年5月に行っている。大会やトレセン活動については、各種別ごとに実施している。

・社会人（第1種）

社会人の大会は、磐田市を中心として、袋井市や掛川市のチームも参加して磐周社会人サッカー大会を行っている。今年で29回目を迎える。

大学では、静岡産業大学の活躍はすばらしい。大会での好成績はもちろんであるが、高校女子の全国大会の運営や審判や技術指導等で地域へ大きく貢献している。

・高校（第2種）

磐田市長・市議長杯サッカー大会を毎年冬休みである12月末に行っている。今年で26回目を迎える。また、3月末には、磐田・袋井サッカーフェスティバルを実施しており、県内外からチームを招待して地元のチームの強化を図っている。

また、磐田東高校は、東海プリンスリーグに加入するなど大きな成果をあげている。ジュビロユースは、連続して全日本クラブユースに出場し、大変活躍している。トレセン活動では、高校1年生の中から選手を選考し、半年間技術面での育成を図ってい

る。5年前から九州遠征を実施し、強化に努めている。

・中学（第3種）

磐田サッカー協会としての大会はないが、天竜東地区として御前崎までの広い範囲で大会を実施している。中体連とクラブは別々に大会を行っているが、冬に行われる中日旗サッカー大会では、中体連チームとクラブチームとの交流を図るため、一緒に大会を実施している。トレセン活動は、中体連チームの中で選手を選考し、磐田市と袋井市を併せて磐田トレセンとして、学年ごとに活動している。

・少年（第4種）

磐田サッカー協会の活動として、小学校1年生～5年生まで学年ごとに大会を行っている。今年で7回目を迎える。小学校1・2年生は、大会というよりも交流試合形式で実施している。学年ごとに大会が行われるため、毎週のように大会が行われ、少年団の活動は大変活発である。一昨年に竜洋FCが全日本少年サッカー大会静岡県予選において見事に優勝し、全日本の大会に出場したことは、記憶に新しい。磐田地区のチームが県大会で優勝するのは今までに無く、歴史に残るすばらしい快挙である。



2007年 磐田4年生サッカー大会
優勝 バディFC 準優勝 豊岡FC
3位 テンマSC 福田SSS

・女子（第5種）

全日本高等学校女子サッカー選手権大会が磐田市で開催されるようになり、女子サッカーが盛んに

なってきた。磐田東高校・磐田北高校・ジュビロ磐田レディース・ヤマハジュビロレディース・静岡産業大学磐田レディースなどのチームが活動し、各大会で好成績を取っている。今年の全日本高等学校女子サッカー選手権大会に磐田東高校が東海地区第3位で出場し、大会を盛り上げた。地元の女子小学生や中学生に大きな夢を与えている。

・シニア（50歳以上）

シニアの活動として一年を通じて芝生の上で練習を行い、技術や体力の維持・親睦を目的として活動している。練習には、50歳未満の方も参加している。シニアリーグにも参加し、練習の成果を試す活動もしている。リーグ戦では、交代選手が多ければ多いほどありがたいので、参加していただける選手の方を募集している。

・磐田トレーニングセンター韓国遠征

今年は実施していないが、昨年まで数年にわたって小学6年生と中学2年生を対象に、韓国遠征を実施してきた。「日韓共同未来プロジェクト磐田市日韓交流事業」という名称で、磐田市役所職員と磐田サッカー協会の指導者が協力して選手の日程調整や試合の運営を行った。韓国のチームの特徴は、中学生では、身体が大きく、スピードがある選手が多い。ゲーム中の運動量も豊富で、磐田トレセンの選手は、スピードと運動量で劣っていると感じた。技術的には磐田トレセンの選手の方が優れている面もあり、中学年代での強化が必要だと感じた。国際試合であり、当初は落ち着いてプレーできなかったが、今では物怖じすることなくプレーできるようになった。普段では経験できない国際試合を経験し、他国の選手と触れあうことは、小中学生にとって貴重な経験になったと感じられた。

・その他

地元のジュビロ磐田からは、多大な御協力をいただいている。幼稚園、小学校、中学校等では、サッカーの技術指導をしていただいている。また、小・中・高の大会では、決勝戦をヤマハスタジアムで実施させてもらっている。ホームゲームの観戦でも配慮していただいている。トップチームは、昨年J2降格の危機であったが、見事に残留を決めることができた。今年は、開幕当初こそ足踏みしたが、徐々に順位を上げている。後半戦の闘いに期待し、磐田サッカー協会として心から応援していきたい。

(3) 磐田サッカー協会役員一覧

No	役 職	氏 名
1	会 長	安間 英雄
2	副 会 長	石川 操
3	副 会 長	河島 直明
4	副 会 長	三浦 哲治
5	副 会 長	山本 好夫
6	理 事 長	駒形 一路
7	副 理 事 長	山田 智章
8	理 事	大石健太郎
9	理 事	大石 光治
10	技 術 部 長	新井 達雄
11	〃 副部長	永田 厚
12	審 判 部 長	烏居 節夫
13	〃 副部長	烏居 節夫
14	ジュビロ磐田	壺下 直之
15	社 会 人 部 長	瀬下 俊久
16	大 学 部 長	斉藤 智洋
17	高 校 部 長	松浦 克行
18	中 学 部 長	新井 達雄
19	少 年 部 長	佐藤 智洋
20	女 子 部 長	波多野雅士
21	女子高校部長	北野 宗克
22	シ ニ ア	鈴木 康之
23	事 務 局 長	壺下 直之
24	事 務 局 員	井浪 務



磐田バスケットボール協会

加盟チーム数 75チーム
加盟人数 1,080名
代表者 長谷川寿一
創立年 昭和55年

【組織】

1 組織の概要

(1) 設置している部

- ・小学生の部（ミニバスケットボール）
- ・中学生の部
- ・高校生の部
- ・一般社会人の部
- ・市民全般の部（車椅子ツインバスケットボール含む）

(2) 理事会

- ・会長1名 ・副会長1名
- ・理事長1名 ・副理事長1名
- ・理事 各部門数名ずつ
- ・事務局長1名
- ・袋井市バスケットボール協会理事

2 役員の変遷

(1) 昭和55年から

- ・会長 折井孝一郎 ・副会長 鈴木源市
- ・理事長 長谷川寿一

(2) 平成3年から

- ・会長 鈴木源市 ・副会長 長谷川寿一
- ・理事長 堀内 豊

(3) 平成20年から

- ・会長 長谷川寿一 ・副会長 榎本行宏
- ・理事長 堀内昌文

【年間行事】

1 理事会 年間6回開催

- ・4月・6月・8月・10月・12月
- ・2月 ※6月は、総会を兼ねて行う。

2 主要大会

(1) 小学生の部

- ・会長杯ミニバスケットボール大会
- ・磐田ミニバスケットボール選手権大会
- ・磐田ジュニア大会
- ・理事長杯ミニバスケットボール大会
- ・各チーム招待大会

(2) 中学生の部

- ・県会長杯争奪バスケットボール大会西部地区予選
- ・中学生新人バスケットボール大会
- ・中学1年生大会

(3) 高校生の部

- ・磐田高校バスケットボール大会

(4) 市民全般の部

- ・市民バスケットボール教室（年間）
- ・磐田市民3on3バスケットボール大会
- ・磐田市市長杯争奪車椅子ツインバスケットボール大会

3 審判講習会

毎年8月の「磐田高校バスケットボール大会」に合わせ、各部門から公認審判（日本公認、県公認）を目指す若者に対して、審判技術の向上を目指した講習会を実施している。

【平成11年度以降の活動状況の紹介】

1 平成11年度

(1) WJBL豊田町大会を主管

- ・日時 平成12年2月26日
- ・会場 アミューズ豊田
- ・対戦 シャンソン vs 日立戸塚

(2) 競技力向上対策事業（ジュニアスポーツクラブ事業）として、小学生の部、中学生の部においてトレーニングセンターを開催

※平成17年度まで実施

2 平成12年度

(1) 国体視察 10月14・15日 富山県

(2) 磐田市体育協会表彰

- ・功労者表彰 堀内豊 堀内昌文
- ・優秀指導者 萩原正男 鈴木勝則
池谷真理子

3 平成13年度

- (1) 平成15年の国民体育大会へ向けて審判講習会の充実を図る。
- (2) 高知国体ブレ大会視察 8月
- (3) WJBLファイナル第2戦
静岡大会を主管
 - ・日時 平成14年3月9日
 - ・会場 エコパアリーナ

4 平成14年度

- (1) 静岡国体ブレ大会実施 8月
- (2) 国体視察 10月26・27日 高知県

5 平成15年度

- (1) 第58回国民体育大会「NEW!!わかふじ国体」
バスケットボール競技開催
 - ・磐田市総合体育館、磐田第一中学校
成年男子（静岡県準優勝）
 - ・アミューズ豊田、豊田南中学校
成年女子
 - ・エコパアリーナ 少年男子
- (2) JBL（スーパーリーグ）静岡大会を主管
 - ・日時 平成16年3月7日
 - ・会場 エコパアリーナ
 - ・対戦 トヨタ vs アイシン

6 平成16年度

- (1) JBLスーパーリーグ、WJBL第6回Wリーグ
静岡大会を主管
 - ・日時 平成17年2月6日
 - ・会場 エコパアリーナ
 - ・対戦 トヨタ vs 三菱電機
シャンソン vs 日立HT

7 平成17年度

この年まで競技力向上を目指したトレーニングセンターを実施



第18回理事長杯 豊田対磐田

8 平成18年度

- (1) 磐田地区からインターハイ、国体へ出場
インターハイ：池谷瑠美（常葉学園）
国体：高田和果（磐田北高）
- (2) WJBL第8回Wリーグ静岡大会を主管
 - ・日時 平成19年1月27日
 - ・会場 エコパアリーナ
 - ・対戦 日本航空 vs JOMO
シャンソン vs トヨタ

9 平成19年度

- (1) WJBL第9回Wリーグ磐田大会を主管
 - ・日時 平成19年11月18日
 - ・会場 アミューズ豊田
 - ・対戦 シャンソン vs トヨタ

10 平成20年度

- (1) 役員改選 会長：長谷川寿一
副会長：榎本行宏
理事長：堀内昌文
※鈴木源市、堀内豊 両名は顧問となる。
- (2) 車椅子バスケットボールが市民の部に所属することになる。
第4回磐田市長杯争奪車椅子ツインバスケットボール大会を主管
 - ・日時 平成20年8月24日
 - ・会場 アミューズ豊田
- (3) WJBL第10回Wリーグ静岡大会を主管
 - ・日時 平成20年11月29日
 - ・会場 エコパアリーナ
 - ・対戦 シャンソン vs JOMO



シャンソンカップ西部支部ミニバスケットボール大会 磐田対舞阪

磐田市テニス協会

加盟団体(人数) 12団体(482名)

代表者(会長) 中山 守

設立年月日 昭和52年8月

【概要】

磐田市テニス協会(旧 磐田庭球協会)は昭和52年8月にソフトテニス、硬式テニスを包括した組織として設立した。

当協会はテニスを振興し健康増進とスポーツ精神を養い、会員相互の親睦を図ることを目的として事業展開をしている。平成17年の5市町村合併後1年間協議を重ね、平成18年4月豊田地区、竜洋地区のテニス部会と共に「磐田市テニス協会」が発足した。

尚、それを機にソフトテニスは独自の協会を設立し、当協会は硬式テニスの競技団体に変遷している。

(沿革)

- ・昭和52年8月
磐田庭球協会を設立し磐田市体育協会に加盟。
- ・平成9年10月
20周年記念行事に記念式典、記念試合、を催し、記念誌発刊。
- ・平成17年6月
5市町村合併に伴い、近隣地区テニス部会との合併を推進させる準備会がスタート。
- ・平成18年4月
磐田市テニス協会と名称を変え、組織を改変し新発足。加盟団体11団体。
- ・平成19年4月
静岡県テニス協会に加盟。
- ・平成19年11月
静岡県テニス協会からコーチ派遣によるレベルアップテニス教室を開催。

(歴代会長)

磯部英一 昭和52年8月～昭和54年2月
新井智一 昭和54年2月～平成17年2月
中山守 平成17年2月～

(歴代理事長)

高橋昌弘 昭和52年8月～昭和56年3月
杉田史郎 昭和56年3月～昭和58年3月
中島達明 昭和58年3月～昭和60年3月
中山守 昭和60年3月～平成17年2月
安形勝彦 平成17年2月～

【活動内容】

磐田市テニス協会の事業は、大きな3本柱で構成されている。

1. テニス教室の開催

地域のテニス振興には重要な事業であると捉え、設立当初から実施している。時代の世相により参加者数が激変するが、まずは継続することが大事と考えている。練習内容も改善しながら当会員がコーチを担当し、ボランティア精神で協力して頂いている。ここに感謝の意を表します。

(平成20年度の記録)

- ・初心者硬式テニス教室
5月7日～(全8日間) 参加者10名
- ・前期初心者テニス教室
5月9日～(全7日間) 参加者36名
- ・前期テニススクール
5月27日～(全6日間) 参加者20名
- ・ジュニア硬式テニス体験教室
7月30日～(全5日間) 参加者5名
- ・後期初心者テニス教室
9月5日～(全7日間) 参加者33名
- ・後期テニススクール
9月23日～(全6日間) 参加者25名

2. 試合の開催

この事業は前述のテニス教室とは異なり、会員および近隣のテニス愛好家の親睦を目的として取り組んでいる。試合に出場しテニスレベルを刺激しながら、テニスを楽しんでもらいたい。年齢別やミックス、レベルによるクラス別けなど、楽しめる企画を考えて主催している。

平成20年度は下記に記載している15試合を開催し、大変盛況に実施できているのは会員相互の協力の賜物と感謝している。

- ・第23回中遠ダブルス大会
- ・第2回磐田市BC級ダブルス大会
- ・第31回神谷杯ダブルス大会
- ・第4回春季大会 60チーム
- ・第11回竜洋リバーサイド男子団体戦
- ・第11回竜洋リバーサイド女子団体戦
- ・第8回ジュビロ磐田カップ
- ・第3回磐田市テニス協会交流大会
- ・平成20年度磐田市市民大会
- ・第31回双葉杯争奪シングルス大会
- ・第3回高校女子シングルス大会
- ・第11回高校男子ダブルス大会
- ・第19回竜洋リバーサイド大会<男子の部>
- ・第19回竜洋リバーサイド大会<女子の部>
- ・第12回高校女子ダブルス大会



平成21年ジュビロカップ大会風景

3. 磐田市体育協会主催行事への参画

当協会はNPO法人磐田市体育協会の加盟団体であり、その主催行事には積極的に協力し参加している。

平成20年度は、第27回長藤マラソン大会（スタッフ3名派遣）、りゅうよう風竜ウォーク（スタッフ1名派遣）、とんぼの里ウォーク（スタッフ1名派遣）、

第4回スポーツ指導者養成講座の参加、第11回ジュビロ磐田メモリアルマラソン（ボランティア41名派遣）、熊野の里ウォーク（スタッフ1名派遣）、とよおか里山ウォーク（スタッフ1名派遣）の活動に参加している。

今後も市体協のスポーツ振興の事業運営には協力していきたいと思っている。

4. その他

テニス競技において磐田市在勤、在住、在学から優秀な成績を収めている選手の広報に努めている。特にジュニア選手には全国的に優秀な成績を収めても報告する場がなかったが、当協会が微力ながらもその橋渡しを行っている。



市長表敬訪問
古橋弘章選手インターハイ優勝報告

【今後の課題】

磐田市内のテニスコートの整備が目下の急務である。市民全体を会して開催できる大会会場がなく、当協会では平成6年と平成16年に要望書、平成18年に署名活動報告書を磐田市に提出し、市営テニスコート拡充を要望し続けている。

未だに実現していないが、磐田市近隣のテニス振興には不可欠の課題であり、協会一丸となって市に働きかけてゆかなければと思っています。

磐田市ソフトテニス協会

加盟チーム数 4チーム
加盟人数 40名
代表者 会長 安達 紘
創立年 平成18年3月

【組織】

(磐田市ソフトテニス協会設立前までの活動)

○ 旧磐田市

磐田庭球協会の活動の中で、磐田市民中学生大会・初心者教室等の開催をし、ソフトテニスの普及・発展に努めてきた。

○ 旧竜洋町

旧竜洋町体育協会テニス部として中学生大会をはじめとし、一般の大会・年間を通してテニス教室の開催をし、普及・発展に努めてきた。

○ 旧豊田町

旧豊田町体育協会テニス部として中学生大会をはじめとし、一般の大会を開催し、普及・発展に努めてきた。その母体としては、豊田健友クラブが中心となり活動し、年間を通してのジュニア育成にも努力をしてきた。

(磐田市ソフトテニス協会の設立)

磐南5市町村合併に併せ、当協会の設立に向け関係者での話し合いを持ち、平成18年3月17日に設立した。

(ソフトテニスの歴史)

明治30年頃、日本で始まったもので、硬式にかわってゴムボールによるテニス、軟式テニスの名で普及したもので、大正・昭和と衰退・隆盛を繰り返し、現在に至っている。

平成元年に、軟式テニスからソフトテニスに名称も変わり、平成5年に国際競技規則(国際ルール)が定められ、平成16年には競技規則が改正されている

【現在の活動状況】

(現在までの活動状況)

○ 平成18年度

- 5/6 第21回豊田中学生女子春季大会
女子100チーム
- 7/9 第10回竜洋リバーサイド
親睦大会 一般男女 34チーム
- 9/2 第21回豊田中学生女子秋季大会
女子 93チーム
- 9/10 磐田市民中学生大会
男子40チーム、女子55チーム



市民大会開会式の様子

- 10/8 豊田ミックス大会
一般16チーム

- 11/5 第19回リバーサイド大会
中学男子44チーム

中学女子42チーム
 11/25 第5回中学校対抗竜洋大会
 女子団体戦 14チーム
 1/20 豊田中学生女子選抜インドア大会
 43チーム
 1/28 豊田インドア年齢別ミックス大会
 一般31チーム
 2/3 第5回磐南地区中学生大会
 1年女子42チーム
 3/3 第3回磐周地区中学生大会
 1年男子64チーム
 年間テニス教室参加者数 90名

○平成19年度

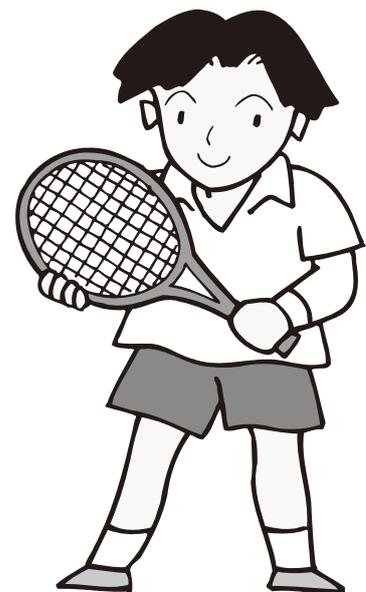
5/26 第22回豊田中学生女子春季大会
 女子93チーム
 7/8 第11回竜洋リバーサイド親睦大会
 一般男女 34チーム
 9/1 第22回豊田中学生女子秋季大会
 女子 94チーム
 9/16 磐田市民中学生大会
 男子45チーム、女子53チーム
 10/28 豊田ミックス大会
 一般16チーム
 11/24 第6回中学校対抗竜洋大会
 女子団体戦 14チーム
 第20回リバーサイド大会
 1/12 中学男子44チーム
 1/19 中学女子48チーム
 1/20 豊田インドア年齢別ミックス大会
 一般30チーム
 2/2 第6回磐南地区中学生大会
 1年女子48チーム
 3/1 豊田中学生女子選抜インドア大会
 女子39チーム
 3/1 第4回磐周地区中学生大会
 1年男子68チーム
 年間テニス教室参加者数 90名

○平成20年度

5/24 第23回豊田中学生女子春季大会
 女子94チーム
 7/6 第12回竜洋リバーサイド親睦大会
 一般男女33チーム
 9/6 第23回豊田中学生女子秋季大会
 女子 92チーム

9/14 磐田市民中学生大会
 男子48チーム、女子57チーム
 10/26 豊田大会
 一般男女30チーム
 11/15 第7回中学校対抗竜洋大会
 女子団体戦 14チーム
 第21回リバーサイド大会
 1/10 中学男子50チーム
 1/17 中学女子69チーム
 1/17 豊田中学生女子選抜インドア大会
 46チーム
 1/18 豊田インドア年齢別ミックス大会
 一般37チーム
 2/7 第7回磐南地区中学生大会
 1年女子44チーム
 3/7 第5回磐周地区中学生大会
 年男子74チーム
 年間テニス教室参加者数 76名

協会設立以来、以上の各種大会開催の他、年間を通して教室の開催をした。



磐田市バウンドテニス協会

代 表 者 小沢ハル子
加盟クラブ数 6クラブ
加 盟 人 数 82名
創 立 年 昭和61年

【組織】

昭和61年 磐田市社会体育課主催の婦人体操教室においてバウンドテニスの指導を受けその後サークル活動を始める。(現スポーツのまちづくり推進課)

平成12年 磐田バウンドテニス協会を設立これまでに愛好者を増やす為の普及活動として年1回初心者教室を開く。協会主催の親善交流大会を行う(平成7年第1回)今年度も9月21日に第13回目を開催した。

平成17年 磐田市体育協会に加盟磐田市バウンドテニス協会と改める。5市町村合併を機に豊田BTCも入会。磐田クラブ、ひまわりドリーム磐田、豊田BTC、ジョイSAKURAの6チームとなる。

【目的】バウンドテニスとは？

バウンドテニスは
いつでも! どこでも! だれでも! 楽しめる生涯スポーツとして、常に普及活動に励み大勢の仲間づくりをして楽しんでいただきたいと思います。

【現在の活動状況】

県内にとどまらず県外各地の交流大会及び練習会、スポーツレクレーション東海ブロック大会などに参加、近年は全国大会にも出場、昨年度東京体育館で行われた、第26回全日本バウンドテニス選手権大会では、SAKURAの立石芳見さんが、男子シングルス、ミドルの部で見事に優勝しました。今年度も6月に第27回全日本バウンドテニス選手権大会が有り、東海ブロック選手権大会、女子シングルス、フリーの部を優勝した、SAKURAの内山依佐子さん、静岡県選手権男子ダブルスミドルの部優勝、SAKURAの立石芳見・松浦利治組、男子シングルスフリーの部優勝、豊田の大橋卓也さん同2位ドリームの境伸英さん、女子シングルスミドルの部2位、佐藤廣子さん男子シングルス、シニアの部2位、磐田クラブの村田裕さん6名と第一シードの立石さんが出場しました。結果は立石さんが4位入賞、その他の人も2回戦～3回戦と健闘しました。各クラブで週1～3回の練習で技術向上に励んでいます。会員は男女を問わず幅広く楽しんでいきます。(20代～70代)



全日本バウンドテニス選手権会場 東京体育館 (左側開会式・右側試合風景)

【主な行事】

初心者教室をアミューズ豊田、磐田市総合体育館にて各年1回

磐田市バウンドテニス協会主催親善交流大会

豊田BTC親善交流大会

磐田市体育協会主催事業への協力

(ジュビロ磐田メモリアルマラソン、いかまい磐田100キロウォーク等)

【クラブの紹介】

クラブ名	創部
磐田クラブ	昭和61年
豊田BTC	昭和60年
ひまわり	平成15年
ジョイ	平成15年
ドリーム磐田	平成19年
SAKURA	平成19年

年	月日	大会名
20	5月17日	第19回静岡県すこやか長寿祭バウンドテニス競技大会
	5月25日	浜北BT親善交流大会
	6月14日	第11回日本BTゴールド京都大会
	6月22日	第15回県民スポーツレクリエーション祭BT競技大会
	6月28日	第26回全日本BT選手権大会、一日目男女各ダブルス
	6月29日	第26回全日本BT選手権大会、二日目男女各シングルス
	7月6日	焼津市BT協会親善交流大会
	8月3日	2008フラワーカップBTインアダチ(レディース交流会)
	8月24日	第7回東海ブロックミックスマックスダブルスBT大会
	9月21日	第12回磐田市BT協会親善交流大会
	9月28日	第10回一関市長杯BT黄金王国大会
	10月5日	函南町BT協会親善交流大会
	11月2日	第4回男まつりBT大会
	11月16日	第17回豊田町BT親善交流大会
	11月23日	第17回東海ブロック親善交流大会
	11月30日	第3回伊豆の国BT大会
	12月7日	第13回ふじさんCUP BT大会
21	1月24日	第6回きんさいBT大会
	1月25日	静岡県BT協会西部大会兼第25回袋井BT協会親善交流大会
	2月8日	第4回東海ブロックBT選手権大会
	3月8日	第25回静岡県BT選手権大会



磐田クラブ練習風景



磐田市総合体育館

磐田市ソフトボール協会

加盟チーム数 61チーム
加盟人数 1452名
代表者 会長 安間 英雄
創立年 昭和46年協会設立

協会のあゆみ

【磐田支部主管県大会及び県出場主成績】

平成12年

静岡県ソフトボール協会副会長に、森泰二郎就任
静岡県ソフトボール協会審判長に、松下静雄就任
*静岡県ソフトボール協会50周年記念第48回静岡県一般男子ソフトボール大会開催
*第30回静岡県スポーツ少年団ソフトボール大会開催
*第21回静岡県クラブ女子ソフトボール選手権大会にて（磐田）MAGICAL 準優勝
*第38回静岡県一般女子選抜ソフトボール大会にて（磐田）MAGICAL 準優勝

平成13年

*第14回静岡県シニアソフトボール大会開催
*第46回静岡県一般男子選抜ソフトボール大会開催
*第22回静岡県クラブ女子ソフトボール選手権大会にて（磐田）MAGICAL 準優勝し東海地域大会に出場
*第39回静岡県一般女子選抜大会出場（磐田）MAGICAL 優勝

平成14年

理事長に、山田茂雄就任
*静岡県男子リーグ2部に、IWATACLUB 新規加入
*第48回静岡県一般男子ソフトボール選手権大会開催
*第56回静岡県一般女子ソフトボール選手権大会開催
*第23回全日本クラブ選手権大会に出場（磐田）MAGICAL 準優勝で、東海地域大会に出場し準優勝 全国大会（浜松開催）に出場。
*第50回静岡県一般男子ソフトボール大会に（磐田）クエッション優勝し、第26回東海地域総合選手権大会に出場。

平成15年

*エース保険カップ争奪第34回静岡県父親ソフトボール大会を（城山球場・天竜川運動公園にて）開催
*第24回静岡県クラブ女子ソフトボール選手権大会（磐田）MAGICAL 優勝し第24回東海地域

クラブ女子ソフトボール選手権大会出場 第3位
*NEW！わかふじ国体 第58回国民体育大会（10月26日～29日）各地区に審判員・記録員を派遣。

平成16年

*日立ソフトウェア（日本女子リーグ1部 磯野監督）によるソフトボール教室開催 中・高校生対象に実施
*第42回一般女子選抜大会で（磐田）MAGICAL 優勝

平成17年

*新「磐田市」誕生記念兼磐田ソフトボール協会30周年記念事業第38回日本女子ソフトボールリーグ1部5節大会開催
日本女子ソフトボール1部6チームによる前期最終戦を実施。6月4日・5日2日間で4000名の観客があり、6試合中1点差の試合が5試合と高試合・高レベルの試合を展開し観客を魅了しました。

大会風景



*日立ソフトウェア（日本女子リーグ1部 磯野監督他）によるソフトボール教室開催 中・高校生対象に

平成18年

*磐田市ソフトボール協会に名称変更
*日立ソフトウェア（日本女子リーグ1部 齊藤監督・選手）によるソフトボール教室開催 中・高校生対象に実施
*静岡県一般男子ソフトボール大会兼成年男子国体選考会開催
*第60回県民スポーツ祭市対抗の部開催1部 藤

本監督・選手)によるソフトボール教室開催 中・高校生対象に実施

平成19年

*日立ソフトウェア(日本女子リーグ)

平成20年

*静岡県静甲ソフトボールチーム(日本女子リーグ2部 三井監督・選手)によるソフトボール教室開催

*ナガセケンコー旗争奪第12回静岡県小学生男子・女子ソフトボール大会開催



*第29回静岡県総合男子・女子ソフトボール選手権大会開催



*第9回磐田市・袋井市・森町ナガセケンコー杯ソフトボール大会開催

磐田市ソフトボール協会内活動

*年度登録1月度中旬にチーム・審判員・記録員・指導者の登録を実施

*2月に協会 総会を実施します

*3月に審判員・記録員の本年度の伝達研修会を実施。

協会内大会

*Aクラス1・II リーグ戦

*Bクラス1・II リーグ戦

*市長杯大会 Cクラス トーナメント

*市議長杯大会 Cクラス トーナメント

*会長杯大会 Cクラス トーナメント

*理事長杯大会 Cクラス トーナメント

*ナガセケンコー杯大会 全チーム
トーナメント



【審判員伝達研修会】

市民参加大会

*父親大会は、各地区学区内チームで35歳以上の選手により編成し協会内大会で優勝チームを県大会出場に推薦する。

*磐田市民ソフトボール大会ファーストピッチ

*磐田市民ソフトボール大会スローピッチ

*実年・壮年大会開催

近隣大会開催

*西部地区大会(磐田・袋井・浜松・浜北・湖西・菊川・掛川・御前崎)順番開催

*中学校大会にも協力しております。

3月後半から協会内大会・県大会・近隣大会等を開催し12月の中旬の納会(納会時は、優秀選手・優秀チームの表彰を実施)を行い1年間の活動を終了します。

役員名簿(平成21年7月10日現在)

顧問 土井通雄

参与 大杉修

会長 安間英雄

副会長 森泰二郎 松下静雄 青島光治 石野泉

理事長 山田茂雄

副理事長 酒井正信 内山清雄 飯田秀文 那須正
常任理事

木俣周吉 白井達巳 鈴木正良 村松知志郎

藤田哲夫 加藤三典 永井光男 竹島孝

浅山守生 小林春男 安川直孝 田嶋謙一

鈴木忠 鈴木輝夫 寺沢好雄 中村至穂

松下美穂 大石秀雄 伊藤隆 青島一憲

鈴木民治 初川徹也 鈴木静雄 安間正幸

成瀬秀次 藤田邦汎 伊藤孝博 高木広和

【監事】寺田昌司 井上研一

磐田弓道協会

協会員数 98名

(協会役員紹介)

会 長 石井日出雄

支 部 長 山下 哲章、

副 会 長 杉本 信博

顧 問 加藤 力、古田 敏秀

会 計 川嶋和香余、鮫嶋三千代

体協社員 田中 勇二、元澤 汎

競技役員 渡邊 義貴、加藤 真健、

牛ノ濱晴喜



(弓道協会の発足から現在まで)

磐田弓道協会は、見付旧専売公社で産声を上げ、昭和24年に静岡県弓道連盟が新たに結成されたと同時に加入、昭和47年には磐田体育協会に加盟し、現在に至っております。

(磐田弓道協会の現状)

現在会員数は80名以上で県弓道連盟に所属する支部でも「TOP5」に入る会員数です。

年齢層は10代から80代までと幅広く、初心者から級位、段位、称号者まで均等に在籍しているのが近隣弓道協会にはない特徴であり強みです。

(道場の紹介)

発足当時は「見付旧専売公社内弓道場」、その後「市営弓道場」が昭和51年に城山球場北側に建てられ、平成4年にかぶと塚公園内に現道場が立てられ現在に至っています。

道場の使用可能時間は8時30分～21時45分まで(休館日毎月第2火曜日)と、年配者、主婦、学生、会社員という日々弓道に費やせる時間が異なる様々な協会員にもうれしい環境です。

(現在の活動状況及び結果)

磐田弓道協会の年間行事は主に、月例会(1回/月)、磐田市長杯弓道大会(毎年6月)、射初会(元旦)、年度末総会(毎年3月)、初心者弓道教室(毎年9月～11月)があり、その他外部(他支部)での大会・審査・講習会にも積極的に参加しています。

主な大会・審査・講習会は以下の通りです。

静岡県西部地区春季、秋季大会(4月、9月)、国民体育大会静岡県選手選考会(6月～7月)、静岡県支部対抗戦(8月)、各支部開催射会、県連主催講習会(随時)他。

【団体戦成績】

- ・静岡県支部対抗弓道大会
優勝3回、準優勝3回、3位入賞4回
- ・県民スポーツ祭(市の部)
優勝3回、準優勝1回、3位入賞6回
- ・静岡県西部地区大会
優勝、入賞多数

【個人成績】

協会員から国民体育大会、ねんりんピックの県代表選手が誕生しており、その他にも全国大会、東海大会、県大会、西部地区各大会で優勝や上位入賞と優秀な成績が数多く残っています。

【昇段審査】

協会員は的中数を競う大会だけではなく、射法、射技の全てが審査される「昇段審査」にも積極的にチャレンジし、毎年数多くの昇段者が誕生しています。

(今後の磐田弓道協会について)

弓道は精神力の向上、体力維持を両立できると同時に世代を超えた交流を簡単に可能にできるすばらしさも併せ持っています。

この「弓道」をこの地で後世に残していくことも我が協会の使命であると考えています。その為には、まず現会員が更に弓道を「好き」になり、各自の目標を達成できる環境整備を常に行っていく必要があると考えております。

また、近隣弓道協会との積極的な交流や大会・審査で優秀な成績を残し、「磐田の弓道」を多方面にアピールしていくことで磐田弓道協会の存在価値をさらに高めると同時に、初心者弓道教室などを通じ弓道の素晴らしさや面白さを未経験者へ伝え、また、経験者には弓道を再開するきっかけ作りの方法を協会全体で考え、積極的に行っていく事で弓道の普及及び会員数の増加につなげて行ければと考えております。

磐田弓道協会は今後も更なる成長を求め日々修練をして参ります。



磐田ゴルフ連盟

加盟チーム数 13チーム
加盟人数 148名
代表者 三ツ谷金秋
創立年 昭和42年10月

【組織】

現在のゴルフ連盟の組織は

会長 1名
副会長 5名
会計 1名
監事 1名
常任理事 6名
理事 6名
事務局 2名

となっています。クラブ年会費と会員登録費および賛助金で運営しています。

副会長5名は

- (1) 会長補佐
- (2) 競技委員会
- (3) 総務委員会
- (4) 運営
- (5) ジュニア

を担当しています。総会と役員会にて年間のスケジュールを決定し各役員会で細部を決定し実施しています。

【活動状況】

静岡県ゴルフ連盟主催の大会と磐田ゴルフ連盟主催の大会があります。

磐田ゴルフ連盟では

クラブ対抗戦（1チーム4名の合計スコアで争います）

平成21年度は第10回記念大会となり16チーム（64人）が参加しました。

市民大会（個人戦と団体戦）市民大会は毎年10月の体育の日に開催しています。クラブに所属しない一般の方も参加できます。例年150～200人が参加して盛大に行われます。

この大会は設立以来開催され本年は第42回となります。

また、チャリティーホールを設定してふれあい基金に献金しています。

静岡県ゴルフ連盟では

静岡県都市対抗ゴルフ選手権大会を開催しています。

この大会は本年が第94回大会と歴史のある大会です。

磐田ゴルフ連盟では磐田市の選手選抜大会を実施して6名の選手と1名の補欠を選び参加しています。本年度は県下28チームが参加し浜松カントリークラブで開催されましたが、磐田は第5位と健闘しました。

このほかに健康長寿財団主催のすこやか長寿祭スポーツ大会や厚生労働省主催のねんりんピックなどにも参加しています。

【ゴルフの魅力】

幅広い年齢のゴルファーと一緒にプレーできるスポーツです。市民大会には小学生から80歳代の方まで参加して和気あいあいにラウンドします。

現在は乗用カートを用意しているゴルフ場が普通になりましたが、これを使用しないで徒歩にてプレーすれば1ラウンドで1万から1万5千歩にもなりません。競技性を重んじる方から健康第一と考える方まで幅広く愛好されています。

ゴルフのもう一つの特徴はハンディキャップ制があることです。これにはゴルフ場の会員（クラブ員）となり提出したスコアカードから算出された数値を基にハンディキャップ委員会により決定されるオフィシャル・ハンディキャップと呼ばれるものがあります。

各ゴルフ場の競技会はこのハンディキャップを用いて行われます。

シングルハンデと言われる一桁のハンデキャップは各クラブで10パーセント以下となかなか高い壁となっています。

私的な集まりでは数ラウンドの結果から独自にハンディキャップを決めて用いたりします。

これとは別に、市民大会などでは隠しホールを6～12個設けて、そこでの打数からハンディキャップを算出する方式で行います。結果勝負ですが運・不運があってもおもしろいハンデ算出方法です。

【最近の変化】

近年、ジュニアのゴルフが目覚しく広がっています。現在活躍しているプロゴルファーはジュニア出身者が多く小学校くらいから始めています。アメリカではファーストティーと呼ばれていますが、日本ではスナッグゴルフが盛んです。

小学生の全国大会があります。本年は森町の宮園小学校がこの地区の代表として6月6日に宍戸ヒルズカントリークラブで行われたJGT O（日本ゴルフツアー機構）カップ全国大会に出場し、準優勝しました。

このように小さいときからプレーしてゴルフ人口の増加となればいいですね。

【加盟クラブ】

現在磐田ゴルフ連盟に加盟しているクラブ

- 磐田三師会
- 磐田ロータリークラブ
- いわしん信和会
- 豊田ゴルフクラブ
- JT O Bクラブ
- 磐田ゴルフクラブ
- 竜光ゴルフクラブ
- 竜洋ゴルフガーデン
- リバーサイドゴルフクラブ
- 磐田市同好会
- 豊岡クラブ
- 磐田化学
- 磐田CCIクラブ

クラブ数は減少傾向にあり連盟としても対応が必要と考えています。

ぜひ、みなさんも現在あるクラブに参加してください。各クラブでは連盟とは別のコンペを企画して活動しています。

【技術の向上】

(1) ゴルフを競技の立場から技術の向上を目指すにはより高度な大会に参加することです。県連盟ではアマチュアゴルフ選手権大会が行われ1次予選、2次予選、決勝大会とレベルが高くなっていきますが、これに挑戦していくことによりゴルフの技術が上がります。また、55才以上を対象とした県レベルのシニア選手権大会が年2回行われています。熟年ゴルファーも成長しています。

(2) もう一つの技術はゴルフのルール（規則）に精通することです。

各種大会の競技委員をしたり、ルール講習会に参加して向上させます。

本年度は日本スポーツマスターズ 富士山静岡大会と全国都道府県対抗アマチュアゴルフ選手権大会の2つの全国大会が静岡県であります。

磐田ゴルフ連盟からも競技委員として参加します。

(3) 20年くらいしか経験していませんがゴルフの用具（クラブやボール）の進歩には目を見張るものがあります。時には過熱気味のところもありますがゴルファーにとってはプラスの面が多々あります。飛距離が伸び、スイートスポットが広がって打球の差が少なくなったりとゴルフがやさしくなりました。



第41回市民大会表彰式での万歳三唱



第42回 市民ゴルフ大会

磐田バドミントン協会

加盟チーム数 8チーム
加盟人数 155名
代表者名 増田 英雄
設立年 昭和50年6月

《年間行事》

- * 磐田市民バドミントン大会
- * 磐田市豊田バドミントン大会
- * 初心者バドミントン教室

バドミンントンの起源についてはいろいろな説がありますが、一番有力な説としてインドのプーナと言うゲームがイギリスに伝わって近代スポーツとして発展したとされています。1800年代のインドで行われていたプーナと言うゲームは皮製の球をネット越しにラケットで打ち合うものでした。1873年頃イギリスの貴族ビューフォート公の別荘（グロスター州バドミントン）で開かれたパーティーに於いてインドから帰国した軍人がシャンペンの栓に鳥の羽根を差しテニスラケットで打ち合ってみせました。この後イギリス中に広がり、最初に紹介された地名からバドミントンと名づけられました。1893年にはイギリスにバドミントン協会が設立され、競技規則も統一され近代スポーツとして発展してきました。また1899年にロンドンにおいて第一回全英選手権が開催され、今日世界で最も権威ある大会として続いています。その後ヨーロッパを中心に各国に広がり1921年カナダ、1930年デンマーク、オランダ、フランスに協会が設立され1934年には国際バドミントン連盟が設立されました。日本には18世紀後半からバドミントンに似た遊びが伝わっていますが、競技として広まったのは終戦後です。1946年日本バドミントン協会が設立され、1949年国民体育大会に採用され普及してきました。そして1992年のバルセロナ・オリンピックより正式種目に採用されました。

バドミントンは、一般のイメージでは羽根突きで手軽にできるスポーツと思われがちです。バドミントンラケットは、どこの家庭でも必ずとっていいほど普及しており、風のない日であれば老若男女誰でも屋外で手軽にシャトル（羽根）を打ちあうことのできるレクリエーションのスポーツと思われがちです。日本では、バドミントンは大変マイナーなスポーツであることから、テレビ中継なども少ないため野球・サッカー等の知名度に比べれば大変知名度が低いとスポーツとしての正しい評価がなされてい

ません。

近年では、バドミントン競技が取りざたされる機会が増えてきました。なかでも2007年世界選手権大会での池田信太郎・坂本修一ペア（イケサカ）、小椋久美子・潮田玲子ペア（オグシオ）の3位入賞という快挙、さらには2008年北京オリンピックの末綱聡子・前田美順ペア（スエマエ）の4位入賞といった活躍などがあげられ、スポーツとしてのバドミントンが認知されスポーツとして正しい評価を受けるまでになっています。

このようなトッププレーヤーとして君臨するには、どんなスポーツと同じように大変ハードな基礎トレーニング・ウエイトトレーニングが必要となるのです。

世界の舞台で活躍するためには、小さい頃からトップクラスのコーチのもとで技術・戦術を磨いていかななくてはなりません。底辺の拡大をしてバドミントン人口の増加を図りオリンピックで日本からメダリストが輩出されればバドミントンを取り巻く環境が大きく変化し、バドミントン強国としてバドミントンに対する一般のイメージも大きく変化することとなります。

磐田市におけるバドミンントンの歴史は、かつての世界的女子プレーヤーであった静岡県立掛川西高等学校出身の中山紀子（旧姓高木）が、旧磐田市総合体育館で練習を積んだことに始まっていると言われています。磐田市内の高等学校には、クラブ活動としてのバドミントン部があり大変盛んであると思われます。しかし、バドミントンを始める時期は全員高校生になってからです。この時期から始めるのでは、世界のトッププレーヤーとして活躍するにはあまりに遅すぎます。この磐田市内から世界のトッププレーヤーが輩出される環境は整っていません。どんなに遅くとも中学生から初めてバドミントン経験者のもとで競技としてのバドミントン競技力に不可欠な要素である「技術」や「身体資質」に関して運動生理学的な側面から分析するとともにその他の要素についても総合的に分析し、それらにもとづいて選手の個々人が日々の練習やトレーニングにおいて目標を設定して取り組むべきです。

磐田バドミントン協会は、磐田市体育協会に昭和50年6月に18番目の専門部として加盟が承認され初代理事として中村久男氏が就任しました。就任後、磐田市のバドミントンの普及と育成に尽力をして磐田市総合体育館で磐田市民バドミントン大会を実施するまでになりました。その後、毎年磐田市市民バドミントン大会が開催され、参加者の増加と技術力のアップが図られてきています。学生の頃から始めた経験者から社会人となつてから始めた初心者が、自分のレベルにあったランクに参加して競技力のアップをしています。

また、生涯スポーツと健康増進及びバドミントンの普及を目指して、初心者バドミントン教室を毎年実施しています。この教室には中学生からご年配の方まで約40名前後の方が参加しております。参加目的は、バドミントンに興味を持って少しでも競技としてのバドミントンを知りたい方から、健康を維持するため体を動かしてみたいというご年配の方まで様々な方が参加をしています。

初心者バドミントン教室にジュニアを参加させてジュニアから選手としての育成をして磐田市から世界で活躍できる選手を輩出させることおよび、現状以上にバドミントン人口を増加させ底辺の拡大をすることが磐田市バドミントン協会の目標です。



初心者バドミントン教室練習風景

磐田市水泳協会

構成人数 約70名

設 立 昭和59年5月25日

現 役 員 会 長 川島 文雄 副理事長 鈴木 猛
副会長 杉山 悟 事務局長 寺田 良博
理事長 大塚 安孝

【活動内容等】

本会の平成11年以前の変遷については、体協50周年記念史に掲載してあります。

会長は、大杉信孝が平成11年3月まで務め、2代目は川島文雄で現在に至っています。

市町村体協の合併に伴い、平成18年5月に竜洋町水泳部と合併しました。

主な事業は、小学生水泳教室、小中学生水球教室、水泳大会の開催で、その実績については以下のとおりです。

(1) 夏季小中学生水球教室

毎年6月中旬から9月中旬にかけて、磐田南高校等で開催しており、参加者は、磐田市内外から30人～50人を集めています。

指導員は南高校の出身者が務めていますが、教室開催中にも、高校生が隣で練習をしているため、良い見本と刺激になっています。

水球教室の参加者が数人、南高校の水泳部に入部しています。

(2) 冬季小中学生水球教室

毎年11月中旬から3月中旬までの期間、福田屋内スポーツセンタープールで開催していましたが、平成20年度から会場の営業上の都合から磐田カルチャーSCに移しました。

参加者は30～40人程度で、教室参加者でチームを編成し、ジュニアオリンピックにも出場したこともあります。



平成15年1月冬季水球教室

(3) 小学生水泳教室（磐田地区）

毎年8月のお盆の時期に4日間開催しており、参加者は80～90人程度です。

会場は諸事情から、平成11年～13年が南部中学、平成14年～17年が中部小学校、平成18年から市民プールで開催しています。



平成20年8月教室 前組

(4) 小学生水泳教室（竜洋地区）

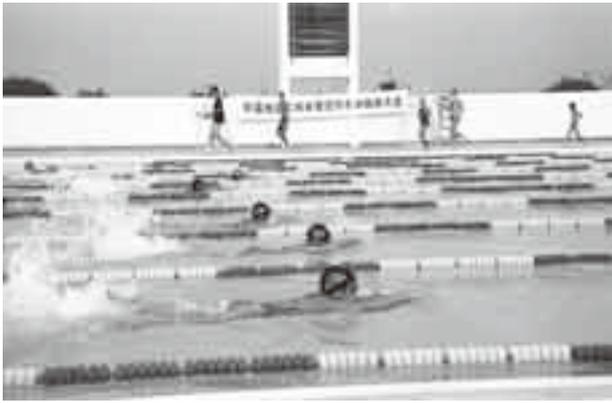
年度	開催期日	会 場	参加者
平18	7 / 6 ~ 7 / 22	B&G海洋センター	37人
平19	7 / 5 ~ 7 / 21	〃	62人

竜洋地区の水泳教室は、平成19年で事業廃止となりました。

(5) 中遠地区広域兼磐田市水泳競技大会

この水泳大会は、市民プールが広域施設として建設された経緯から、市民プールを会場に、昭和59年から実行委員会形式で開催し、水泳協会が主管しています。

毎年300～380人の参加者を集めており、平成16年には第20回を記念した記念行事を開催しました。



平成16年 第20回記念大会のピート板レース

【平成11年～20年の特筆すべきできごと】

(1) 競泳

ア 中学・高校の水泳部

天竜川東では、小、中学生の全国レベルの選手は少ないのですが、高校では磐田農高が昔から抜きん出ています。

紙面の都合からその成績の紹介を省きますが、平成11年から20年の間にも、毎年高校総体や国体で入賞し、体協の優秀選手表彰を受けています。

イ マスターズスイミング

平成11年の環太平洋マスターズ水泳選手権大会（パース）で鈴木雄二が3種目に優勝しました。平成12年のミュンヘン世界大会、平成16年のローマ世界大会でも入賞しており、平成21年、81歳の現在も個人メドレーで日本記録を出しています。

全国健康福祉祭（ねんりんピック）には磐田市からも数名の選手が出場していますが、大塚安孝が平成16年の群馬大会、平成18年の静岡大会で優勝しています。

福田屋内温水プールでは磐田カルチャーSCが、市の委託を受けて毎年マスターズの大会を開催しており、全国から大勢の参加者を集めています。

(2) 飛込み

磐田市出身の内藤姉妹の活躍は特筆すべきですが、所属が中学から大学まで磐田市外の学校でした。

姉の内藤未妃、妹の内藤有美の2人とも中学から大学、そして卒業後も飛込み競技を続け全国中学総体、高校総体、国体等で常に上位入賞をしています。

(3) 水球

水球は、平成3年の高校総体に備えて、磐田南高校のプールが水球仕様に造られているので、専ら磐田南高校が主流となっており、毎年夏には全国各地の高校が合宿にも来ています。

平成13年8月にはシニアカップ水球大会が開催され、平成14年9月にはスペインの水球選手を招聘しています。

磐田南高は平成10年、11年には東海高校総体で2連覇をしています。

長年顧問をされた丹生敬人の功績は非常に大で、その指導を受けた卒業生がまた各高校で水球競技を指導しています。

【磐田市の水泳】

磐田市内には磐田カルチャースイミングセンター(株)、JSS磐田スイミングスクール（ホイッスル磐田）、スポーツクラブアクトス磐田の3者のスイミングクラブがあります。

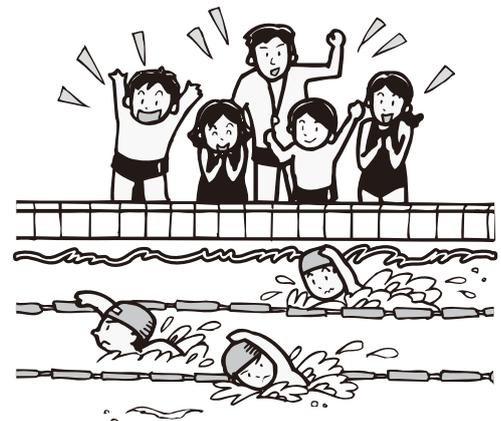
体育協会もNPO法人化され、施設管理を受託しているように、スイミングクラブも市の水泳施設の管理を受託しています。

市・学校・体協・民間スイミングクラブの間にあって水泳協会の事業や立場が不透明で、微妙になりつつあります。

各学校の水泳部やスイミングクラブも児童生徒の減少に伴い、厳しい運営を強いられています。

生涯スポーツとしてマスターズスイミングにも目を向け、引き続き水泳競技の振興に努めていきたいと思います。

文責 磐田市水泳協会
事務局長 寺田良博



磐田市相撲連盟

会員数 15名
代表者 会長・高橋 一良
設立年 昭和31年

【年間行事】

- ・元旦祭、土俵清め式
- ・年間優秀選手表彰式並びに卒業祝いの会
- ・各種対外相撲大会への参加
全国小中学生木曾福島大会
静岡県小学生すもう大会
会長杯中学生相撲選手権大会
わんぱく相撲県・全国大会
国民体育大会静岡県選考会（相撲の部）
静岡県相撲選手権大会
中体連県大会・東海大会相撲競技
全国都道府県中学生相撲選手権大会
しずおかスポーツフェスティバル 等
- ・若宮八幡宮奉納相撲・取り仕切り
- ・わんぱく相撲磐田場所・運営
- ・ジュビロ磐田杯争奪市民相撲大会・主催
- ・年間を通じて週数回の稽古

【この10年の主な活動報告】

〈平成11年度〉

高橋剛志（5年）と中村慶太（4年）が第15回わんぱく相撲全国大会に出場。第22回県少年相撲選手権大会において、上記2名と青島一路（6年）が準々決勝に進出県ベスト8となる。

〈平成12年度〉

第21回県小学生すもう大会において、江塚貴亮（4年）3位、中村慶太（5年）2位（東海大会出場権獲得）高橋剛志（6年）8位となり、団体の部で県3位となる。わんぱく相撲全国大会には上記3名が揃って出場。中学総合体育大会相撲競技では、城山中チームが第2位となり東海大会へ出場した。54回県民スポーツ祭相撲競技では高橋剛志が第2位となった。

〈平成13年度〉

第22回県小学生すもう大会において、中村慶太（6年）が3位となり、中村雅弘（4年）江塚貴宏（5年）の団体でも3位を獲得した。わんぱく相撲全国大会には、県大会2位となった中村慶太が出場した。

〈平成14年度〉

第23回県小学生すもう大会において、鈴木悠仁（4年）が優勝、東海大会出場を果たし、東海でも

県代表として活躍、県代表は団体3位となる。わんぱく相撲全国大会には、鈴木悠仁と松下俊輔（5年）が出場、東京両国国技館の土俵を踏んだ。第25回県少年相撲選手権大会では、原田翔太（6年）中村雅弘（5年）松下俊輔（5年）の磐田Aチームが3位となった。なお、第41回全国教職員相撲選手権大会には、伊藤幸広、山下幸一、内野時彦、杉浦弘の4名が審判員として参加した。

〈平成15年度〉

第24回県小学生すもう大会において、太田雅章（4年）が2位（東海大会出場）鈴木悠仁（5年）が3位となり、後藤喬雄（4年）、中村拓也（5年）、松下俊輔（6年）もベスト8に進出、団体戦で見事、県優勝を勝ち取った。わんぱく相撲では、太田（2位）、鈴木悠（5位）、松下（5位）が県予選を通過し、団体では3位となった。第19回わんぱく相撲全国大会では、太田、鈴木悠は2回戦、松下は1回戦で敗退した。太田雅章は、東海地区代表として、第52回全日本相撲選手権少年の部個人戦に出場したが、1回戦で敗れた。中学では、第23回県会長杯中学生相撲選手権大会において、3位となった高橋剛志が全国大会に出場した。

〈平成16年度〉

この年より磐田として初めて参加した第2回小学生木曾福島相撲大会において、太田雅章（5年）鈴木悠仁（6年）を擁し、団体で第2位となった。第25回県小学生すもう大会において、個人戦で太田が2位、鈴木悠も2位となり、4年生の中村大輔を加えた団体戦も準優勝を勝ち取った。わんぱく相撲全国大会には、上記3名が出場したが、鈴木悠は4回戦まで進んだ。なお、わんぱく女子の部で、鈴木結加利（4年）が県大会に出場した。

〈平成17年度〉

第3回木曾福島大会では、太田雅章（6年）が準優勝。第26回県小学生すもう大会においては、太田、中村大輔（5年）伊藤龍之介（4年）のチームが準優勝。わんぱく相撲大会では、太田が県優勝、伊藤が準優勝、中村も5位に食い込み、団体では見事優勝の栄冠を勝ち取った。全国大会には、太田、伊藤が進出、太田は全国ベスト16となった。第28回県少

年相撲選手権大会でも、太田が個人戦優勝、団体でも準優勝となった。太田は第5回全国小学生相撲優勝大会において準々決勝まで進んだ。中体連の大会には、松下俊輔（2年）中村拓也（1年）鈴木悠仁（1年）でチームを組んだが、上位進出はできなかった。また、この年は一般の部で久々に入賞者を得た。第40回県相撲選手権大会において、白澤隆志が青年の部個人戦で3位に入った。白澤は東海大会、2位の躍進力となった。なお、団体戦の磐田チームのメンバーは、白澤、太田雅弘、内野時彦。第59回県スポーツ祭相撲競技の部においても、白澤が優勝を飾るなど、磐田選手陣が大活躍した。当年度の「県番付」には小学生横綱として、当支部としては初めて太田雅章が選ばれた。盛大に祝賀会が湯川荘で催された。

〈平成18年度〉

第27回県小学生すもう大会において、中村大輔（6年）が3位となった。わんぱく相撲全国大会には、県大会で準優勝した中村、井田昇吾（4年）が出場した。県わんぱくは団体で2位。中1となった太田雅章の活躍は目を見張るものがあった。第26回県会長杯中学生相撲競技で3位、中体連県大会で優勝、県代表として東海大会、全国大会に出場した。この結果、1年生ながら、「県番付」の中学生横綱に輝いた。

〈平成19年度〉

第28回県小学生すもう大会において、伊藤龍之介（6年）が3位となった。わんぱく相撲大会でも、伊藤は県3位で全国大会に出場した。中2となった太田雅章は第27回県会長杯大会で優勝、（2年の中村拓也は5位入賞）中体連県大会でも優勝、東海、全国大会に進んだ。東京両国国技館で開催された全国都道府県大会ではベスト8まで勝ち残った。この結果、2年連続の県中学生横綱となった。祝賀会は袋井支部と合同で周南中学全国優勝を祝う会を兼ね、上海飯店で催された。なお、この年より、ジュピロ杯市民相撲大会とわんぱく相撲磐田場所は、磐田JCとの合同開催となった。

〈平成20年度〉

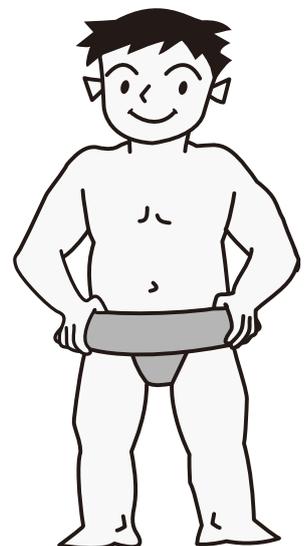
第29回県小学生すもう大会において、平野昌希（3年）が優勝、八木裕真（1年）が準優勝。わんぱく相撲全国大会の出場は果たせなかったが、低学年に新しい芽が生まれた。中3となった太田雅章は、県内敵なし、すべての県大会で優勝した。中村大輔（中1）も会長杯で3位、中体連で6位に入った。太田は、東海大会3位、全国都道府県ベスト8にと

どまったが、最後に歓喜が待っていた。第33回全国中学生相撲選手権大会において、強敵を撃破、優勝杯を手にし見事全国中学生横綱となった。その祝賀会は当支部主催により、磐田グランドホテルにおいて、磐田市長を初め来賓、県内相撲関係者など140名の出席の元、盛大に開催された。

なお、永井明慶（磐田南高教員）は、県国体相撲チームの一員として連続出場している。



祝賀会終了後、太田雅章君（中央・拳を挙げている）を囲み記念撮影。太田君家族と磐田市相撲連盟関係者



磐田市ボウリング連盟

加盟人数 10名

代表者 渥美又十郎

創立年 昭和53年6月

【組織】

◎歴代支部長

1999～ 渥美 又十郎

◎磐田クラブ長

1999～ 大島 利仁

【主催大会の紹介】

ボウリング競技の普及のため、ふれあいリーグ、ボウリング教室、産業人ボウリング大会、2人チーム大会を開催してきた。

現在は、毎月2回のふれあいリーグ、ボウリング教室及び毎年2回の2人チーム大会を開催し多くのボウラーの参加を得ている。

◇大会成績にみる連盟の歩み

《全国大会》

- 2002 第40回全日本選手権大会
出場 袴田 好男
- 2002 第36回全日本選抜選手権大会
出場 袴田 好男
- 2002 第35回全日本シニア選手権大会
10回出場 鈴木 五朗十
- 2003 第41回全日本選手権大会
第3位 袴田 好男
- 2003 第37回全日本選抜選手権大会
出場 袴田 好男
- 2003 第36回全日本シニア選手権大会
出場 鈴木 五朗十
- 2004 第37回全日本シニア選手権大会
出場 大庭 正
- 2005 第33回全国都道府県対抗選手権大会
混合4T 第6位 袴田 好男
- 2006 第34回全国都道府県対抗選手権大会
混合4T 第2位 袴田 好男
個人 第6位 袴田 好男

《東日本大会》

- 2001 第38回東日本選手権大会
4人チーム戦 準優勝 袴田好男
- 2001 第21回東日本シニア選手権大会
個人戦 第5位 袴田 好男
4人チーム戦 優勝 袴田 好男

《東海大会》

- 2000 第14回東海地区年代別選手権大会
60才以上 準優勝 渥美 又十郎
- 2000 第17回東海地区選手権大会
4人チーム戦 準優勝 袴田 好男
- 2002 第16回東海地区年代別選手権大会
50才代 第4位 袴田 好男
- 2004 第21回東海地区選手権大会
4人チーム戦 優勝 袴田 好男

《県内大会》

- 2000 第25回静岡県選手権大会
個人戦 準優勝 袴田 好男
4人T 準優勝 袴田・渥美・鳥居・鈴木
- 2001 第26回静岡県選手権大会
個人総合 優勝 袴田 好男
- 2002 第27回静岡県選抜選手権大会
優勝 袴田 好男
- 2002 第27回静岡県選手権大会
個人戦 準優勝 袴田 好男
2人チーム戦 第6位 袴田・渥美
- 2003 第28回静岡県選抜選手権大会
第6位 袴田 好男
- 2003 第29回静岡県3人T選手権大会
第3位 袴田 好男
- 2004 第30回静岡県3人T選手権大会
第3位 袴田 好男
- 2005 第29回静岡県選手権大会
2人チーム戦 優勝 袴田・山下

《シニア大会》

- 2002 第18回静岡県シニア選手権大会
第5位 袴田 好男
- 2003 第19回静岡県シニア選手権大会
優勝 袴田 好男
- 2004 第20回静岡県シニア選手権大会
第5位 袴田 好男

《主催大会》

◆産業人ボウリング大会◆

2000 第34回優勝 NTN-A
第35回優勝 かつら電気

2001 第36回優勝 小松工業
第37回優勝 TYN

2002 第38回優勝 JBC
第39回優勝 磐田市立病院

2003 第40回優勝 JBC

◆磐田地区2人チームボウリング大会◆

2003 第1回優勝 Passo (鈴木・安原)

2004 第2回優勝 豊田シルバース
(大石・藤原)

第3回優勝 高橋孝吉・山田一雄

2005 第4回優勝 M/M (密岡・密岡)

◆磐田市2人チームボウリング大会◆

2005 第1回優勝 T・U (寺田・植月)

2006 第2回優勝 アンパンマン
(袴田・袴田)

第3回優勝 JBC (吉田・大島)

2007 第4回優勝 ガンバ (梓・加藤)

2008 第5回優勝 JBC (大島・吉田)

第6回優勝 エックス (大庭・寺田)

2009 第7回優勝 U・I (浦・岩森)

《県民スポーツ祭ボウリング競技》

1999 (市の部 第5位)

20歳代の部 優勝 岡本 弥剛

40歳代の部 優勝 鈴木 敏則

40歳代の部 第3位 仲田 純子

50歳代の部 準優勝 密岡 節子

2000 (市の部 第6位)

20歳代の部 準優勝 岡本 弥剛

50歳代の部 優勝 鈴木 敏則

40歳代の部 準優勝 仲田 純子

50歳代の部 優勝 清水とり子

50歳代の部 第3位 鈴木千恵子

2001 (市の部 第6位)

20歳代の部 第3位 岡本 弥剛

30歳代の部 優勝 川瀬 晴二

50歳代の部 準優勝 鈴木 敏則

40歳代の部 第3位 仲田 純子

2002 (市の部 第6位)

小学生の部 第3位 清水かすみ

40歳代の部 第3位 鈴木 仁

2003 (市の部 第6位)

中学生の部 第3位 山田 直輝

小学生の部 第3位 梶田 彩

30歳代の部 準優勝 梶田 幸枝

50歳代の部 準優勝 密岡 節子

2004 (市の部 第8位)

50歳代の部 準優勝 溝口 明子

50歳代の部 第3位 密岡 節子

2005 (市の部 第6位)

50歳代の部 準優勝 大島 利仁

60歳代の部 第3位 太田 恵子

2006 (市の部 第6位)

60歳代の部 準優勝 太田 恵子

《支部王座決定戦》

1999 優勝 渥美又十郎 2位 吉田 昭二

2000 優勝 袴田 好男 2位 大島 利仁

2001 優勝 袴田 好男 2位 渥美又十郎

2002 優勝 大島 利仁 2位 大庭 正

2003 優勝 大島 利仁 2位 吉田 昭二

2004 優勝 大庭 正 2位 植月 信善

2005 優勝 渥美又十郎 2位 大島 利仁

2006 優勝 大島 利仁 2位 吉田 昭二

2007 中止

2008



磐田トライアスロンクラブ

代表者 杉山 悟

加盟人数 18名

トライアスロンの歴史は、30数年前ハワイで15名の参加で水泳（スイム）、自転車（バイク）、マラソン（ラン）の種目を続けて競技する事から始まり、以後その競技の過酷さが話題を呼ぶ様になりました。その後世界中にブームが起り競技人口が増加して、1981年に鳥取県の皆生温泉で日本最初の大会が開催されました。1985年には沖縄県の宮古島での第1回大会をNHKが継続的に1日放映した事に依り国内の認知度が高まった次第です。

以上のようなトライアスロン全体の流れの中で1981年に「磐田トライアスロンクラブ」が産声を上げました。当時磐田市中心のマラソン愛好家らが伊藤英司（旧磐田市議）を会長として10名の仲間クラブを発足させました。ある意味で県内のトライアスロン先駆者達と云えるのではないかと思います。当時の水泳練習は福田の磐南温水プールで練習し、自転車は各人或いは数人で御前崎や春野町往復（80km～100km位）の練習を行い、さらにはランニングと厳しいトレーニングを積み各人それぞれの大会に参加してまいりました。トライアスリートの憧れでありますハワイアイアンマン大会に参加資格を得て当クラブ員3名の選手が出場し、又入賞もして「磐田トライアスロンクラブ」の名を知らしめました。

1989年、事務局を磐田カルチャースイミングセンターに移し、第2期がスタートしました。クラブ員も一時は50名位に達しました。1980年代にはブームが起き日本各地でトライアスロンの大会が開催される様になり、クラブ員も日本だけではなく海外のレースにも参加し活躍してきました。1992年に当クラブも磐南地域のスポーツ活性化、町おこしの一環として微力ではありますが大会を地元竜洋町初めス

ズキ(株)様、体協、竜洋中学校の皆さまのご協力を頂きまして「第1回サンライズ磐田IN竜洋大会」を開催するに至りました。距離はミドルタイプとし参加者は回を追うごとに増加してまいりました。



その2年後にラン・バイク・ランの競技を「第1回フレンドリーデュアスロン竜洋町大会」の競技も開催しました。トライアスリートはもちろん水泳の苦手な選手や、小学生、中学生、高校生も参加出来るフレンドリーな大会としました。この大会ももちろん回を追うことに参加人数は増加してまいりました。

又、当クラブでは練習会とトライアスロン教室を行い、各駅伝大会等にも積極的に参加し、会員の増強に努めてきました。1988年に磐田市の体育協会に加盟し、ますますの活躍をしてまいりました。

2006年には静岡県スポーツフェスティバル「スイム、ラン」の競技を開催し本年も継続いたします。しかし近年トライアスロンブームが下火となり競技を辞めていく人も増え各地の大会も消滅したりと、それまでの熱気が嘘の様な時期に入り大会の参加者も半数以下とクラブ員の減少と大会運営が非常に厳しくなってきました。

2000年シドニーオリンピックでトライアスロン競技が正式種目となり、また本年は新潟国体で公開競技として大会が開催されます。そしてTVのバラエティ番組でトライアスロン競技が放映され一般の関心が強まり飛躍の段階に差し掛かっていると思われます。現に本年の「第16回フレンドリーデュアスロン大会」「第18回サンライズ磐田IN竜洋大会」参加者が昨年を大きく上回っています。後は地道にクラブ員の増強を計り競技者としての技術力と友情と親睦を目指すクラブとしたいと思っています。

又、当クラブは静岡県のトライアスロンの先駆者としての自負が有り、他のクラブよりの強い要望に依り静岡県トライアスロン協会会長が当クラブより選出されています。

磐田市アーチェリー協会

加盟人数 28名
代表者(会長) 河島 直明
創立年 昭和62年4月

【組織】

1. 協会の概要

磐田市アーチェリー協会は昭和62年4月に設立し、同時に磐田市体育協会、静岡県アーチェリー協会に加盟した。設立当初は7名の会員でスタートしたが、現在は28名を数えるに至っている。

練習場は、当初は東大久保運動公園の一面を借用して練習をしていたが、平成19年に磐田市営アーチェリー場が同運動公園内に完成し本格的な練習が出来るようになった。

また、設立当初から磐田市アーチェリー協会と称していたが、平成17年の磐南5市町村の合併を機に、市民へのより一層の普及と会員の増加を図るために、親しみやすい名称として磐田アーチェリークラブに変更した。その後、再度名称変更を行い、現在は磐田市アーチェリー協会と称している。

2. 協会の変遷

昭和62年 磐田市アーチェリー協会設立
磐田市体育協会・静岡県アーチェリー協会に加盟

63年 東大久保運動公園を練習場とし借用
静岡県4月例会開催（以後毎年開催）

平成4年 城山旧弓道場を短距離練習場とし借用

9年 設立10周年
倉西川調整池を長距離練習場とし借用

17年 磐田アーチェリークラブに名称変更
城山旧弓道場、倉西川調整池の練習場から退去

19年 設立20周年
磐田市営アーチェリー場完成

21年 磐田市アーチェリー協会に名称変更

3. 役員の変遷

	<会長>	<理事長>
昭和62年～平成10年	伊藤万司	伊藤寿彦
平成11年～平成13年	伊藤寿彦	半場久博
平成14年～平成16年	半場久博	会長兼務
平成17年～平成18年	河島直明	鈴木 勝
平成19年～	河島直明	半場久博

4. 主催の競技会

設立翌年の昭和63年4月より平成16年4月まで、

主管支部として東大久保運動公園のグラウンドにて静岡県アーチェリー協会の4月例会を開催してきた。

全日本選手権、国民体育大会の予選を兼ねた毎年のシーズン最初の月例会として好評を博してきたが、高校生を中心に参加人数が増加してきたことなどから、会場の都合により、現在は毎年6月にエコパのある小笠山運動公園多目的広場にて浜松市アーチェリー協会と共同にて6月例会を開催している。

また、磐田市内の競技会として毎年3月より12月まで磐田市月例会を開催している。

【現在の活動状況】

1. 競技の魅力

アーチェリーは、弓に矢をつがえて放すというもっとも簡単なスポーツの一つである。各人の体力にあわせて弓の強さを変えることで、老若男女を問わず、身障者も対等に競技することができる。また、始めてから2～3年でトップクラスになることができる比較的上達の早いスポーツでもある。

しかしながら、それだからといって楽なスポーツかというところもいえない。競技会になると、天候に関わらず大雨でも強風でも開催され、競技は一日中行われるため、肉体的にも精神的にもタフさが要求されるスポーツである。



2. 活動状況

(1)体験会

残念ながらアーチェリーは、マイナースポーツの一つであり、一般の市民が競技会や練習風景を見学したり、弓矢に触れたりする機会はほとんどない。そのため、平成17年より初心者講習会とは別に、誰でも気軽にアーチェリーに触れてもらえるように体験会を開催している。

体験会では協会が用意した初心者用の弓具を使用し、的の3～5m手前から実際に弓に矢をつがえ

射ってもらう。初めての方がほとんどであり、的に矢が当たるだけで感嘆の声が上がる。

参加者の募集は、磐田市の広報を通じて行っているため、体験会に参加し興味を持った人が、講習会に参加するようになり、講習会への参加人員の増加にもつながっている。

(2)初心者講習会

協会の設立以来、市民へのアーチェリーの普及と協会の会員拡大を目的に、毎年2回、春と秋に初心者講習会（初心者教室）を開催している。参加者の募集を磐田市の広報に掲載することにより市内へ幅広く声を掛けている。

講習会は、1回1時間30分を3日間行い、弓具は協会所有の初心者用を貸与し会員が指導にあっている。講習会は3日間と短期間のため、アーチェリーの基本的な内容を教えるにとどまっている。しかしながら、最終日の風船割りでは、自分が狙った風船に矢が当たった時は、アーチェリーの楽しさと爽快感を味わうことが出来る。

平成16年のアテネオリンピックにて、日本の山本博選手が銀メダルを獲得したことや翌年の磐南5市町村の合併を機に、講習会に参加する人数も飛躍的に増加しており、特に今年の春季講習会は予想を大幅に上回る17名もの参加があり、弓具の準備が間に合わないなど、うれしい悲鳴を上げている。

最近では特に小中学生の参加が増加しており、将来の会員増加が期待される。



(3)月例会

毎月会員を対象に月例会を開催している。

競技内容は、一般的には90m,70m,50m,30mを各36射、または50m,30mを各36射の合計点で勝敗を決めているが、初心者でも気軽に参加出来るように、30mを36射2回、冬場はインドアの競技内容に合わせて18mを30射2回行い、その合計点で勝敗を決めている。

最近では年配者が多くなり、本来の目的である会員の競技力向上よりも会員相互の親睦に重点が移っているようである。

3. 射場の確保

協会の設立当初は、市内に射場がなく、浜松の射場で練習をしていたが、昭和63年に東大久保運動公園の一面を借用し練習場とすることが出来た。

また、平成4年には城山球場北側の旧弓道場を短距離用とし、倉西川調整池を長距離用として借用することが出来たが、建物の老朽化および区画整理により両練習場とも使用が困難になった。特に旧弓道場は雨天でも練習が出来たため、この練習場を失ったことは非常に残念な出来事であった。

そこで、残った東大久保運動公園の練習場を恒久的な射場とすることを磐田市に働きかけてきたが、平成19年に念願が叶い、磐田市営アーチェリー場として整備していただいた。普段の練習はもとより、体験会や初心者講習会、毎月の月例会等大いに活用している。

4. 優秀選手の輩出

将来有望な選手として、現在浜松学芸高校2年の小笠原琢磨選手があげられる。

平成16年秋季初心者講習会に小学校6年で参加し、父親がアーチェリーの経験者ということもあり、めきめきと腕を上げ、平成18年の第1回日本キャデットアーチェリー選手権大会で優勝、翌年の第2回大会でも3位に入賞した。

また、昨年の大分国体では高校1年生ながら少年男子団体の一員として3位入賞に貢献、本年も少年男子団体の静岡県代表として選出され、東海ブロック大会に出場することが決まっている。

5. 今後の展望

設立以来すこしずつではあるが着実に進歩してきた磐田市アーチェリー協会であるが、多くの問題を抱えている。

その最も大きい問題は、ここ数年会員数が伸び悩み、また会員の高齢化が進んでいることである。

体験会や初心者講習会には小中学生を含む多くの市民に参加していただいているが、会員として残る方はわずかである。今後、あらゆる機会を通じ、今以上にアーチェリーの楽しさ、魅力を伝えていくと共に、会員のきめ細かな指導が欠かせないと考える。

また、この問題は磐田市に限らず、県内各市のアーチェリー協会も程度の差はあれ同様な問題を抱えている。そのため、静岡県アーチェリー協会、および各市の協会と連携し対応を図ることも必要である。

そして、数年後には会員数が飛躍的に増大し、その中から第2、第3の小笠原選手が生まれることを期待したい。

磐田ゲートボール協会

加盟チーム数 25チーム
加盟人数 146名
代表者 会長 城ノ崎 大島敏男
現在の会員数 153名

組織

平成16年一市二町一村旧磐田、旧竜洋、旧豊田、旧豊岡のゲートボール愛好者が新磐田市の合併協議会が設立され設立基金として各地域から16万円出し合って新磐田ゲートボール協会が設立された。今でもその基金は大切に保管されている。

役員

役員は、会長一名 副会長二名 監事二名 理事二十名 相談役二名で構成している。

最近の傾向 最近会員の減少と高齢化が進みゲートボールの魅力を探していますが、なかなか見当たらない。

毎年90歳以上の現役選手15名には長寿の記念品を贈っていますが、その中には岩田の松島さんは103歳で始球式に元気で参加しました。このほか、ご紹介したいことがあります。事業概要を参考にして下さい。



平成21年度 事業の概要

磐田市ゲートボール協会

月	日	曜	事業名	場所	記事
5	25	水	午前 会計監査 午後 役員会	見付公民館	
4	4	土	磐田袋井親善GB大会	中央公園	
4	28	火	物置移動(役員)	兜塚より中央公園西	
4	29	水	長藤マラソンスタッフとして参加	アミューズ豊田周辺	役員4名
5	8	金	平成21年度総会	見付公民館	13時30分より
5	15	金	西部連絡協総会	浜松市	正副会長3名
5	16	土	健やか長寿祭GB大会	草薙運動場	
6	22	月	体協杯GB大会	大久保グラウンド	
7	10	金	レディース大会	豊岡グラウンド	
9	26	土	世代交流ふれおいGB大会	浜松市海浜公園	
10	10	土	東海4県選手権大会	海浜公園運動場	
10	28	水	磐田袋井親善GB大会	袋井市高架下GB場	
10	31	土	静岡スポーツフェスティバルGB大会	大久保GB場	
11	4	水	友好姉妹都市駒ヶ根市GB大会	駒ヶ根市雨天GB場	8チーム対戦
	5	木			
11	14	土	全国選抜西部地区大会	浜北高園GB場	(レディース部門) 磐田Aチーム優勝

磐田市ラグビーフットボール協会

加盟人数 125名
代表者名(会長) 鈴木 亨司
設立年 平成10年

【組織】

1 協会の概要

設立当初の本協会は、ヤマハ発動機ラグビー部（前年国体準優勝・関西Aリーグ4位）を中心に数チームでの活動であった。平成15年よりトップリーグが始まり、ヤマハ発動機ジュビロは「スポーツのまち磐田」の象徴の一つとして、活躍が期待されているところである。

平成16年より市内小中学校の校庭の芝生化事業が始まり、東部小学校を中心にタグラグビーが導入された。同年、全国小学生タグラグビー選手権大会で準優勝の快挙をあげ、その後も、県・東海大会を制覇し全国大会に出場している。また、平成23年度から実施される小学校体育指導要領の解説書にタグラグビーが明記されたことから、各小学校においてその取組が大いに注目されている。

そこで、小学校におけるタグラグビーの普及を図りながら、スポーツのまちづくりの一端を担い、生涯スポーツの架け橋となることやラグビーフットボールの健全な発展を協会の目的として、新たな歩みをスタートさせたところである。ヤマハ発動機ジュビロの活躍を筆頭に、中・高校・ラグビースクール等と底辺の活性化、タグラグビーの普及活動を通してラグビー人口の拡大を願っている。

2 協会の変遷

平成10年 磐田ラグビーフットボール協会設立
磐田市体育協会・静岡県ラグビーフットボール協会に加盟
浜松ラグビー協会と連携し、県西部地域でのラグビー普及（主として社会人ラグビー大会主要試合開催運営）をサポート

平成14年 ヤマハラグビースクール開校（県西部地域小中学校ラグビー普及に寄与）

平成18年 ジュビロカップ第1回タグラグビー大会を開催
タグラグビー指導者講習会開催

平成19年 磐田市ラグビーフットボール協会に名称変更 規約改正
タグラグビー教室を開催

平成20年 個人会員の募集を開始

タグラグビー初心者用指導DVD作成
（全国小学校タグラグビー授業導入計画の先鞭となる）

平成21年 設立10周年

3 役員の変遷

	〈会長〉	〈理事長〉
平成10年度～	鷹取英史	山岸 至
平成13年度～	鷹取英史	登 剛志
平成14年度～	鷹取英史	山本純生
平成19年度～	鈴木亨司	松下 悟

【現在の活動状況】

1 競技の魅力

ラグビーは、楕円球を使うコンタクトゲームで、他の球技と違いパスを前に送ることができないのが大きな特徴になっている。近年、タグラグビーが注目され始め、新学習指導要領の解説書にも紹介され、学校体育の中にも広がりを見せている。ラグビー精神「ワンフォアオール・オールフォアワン」は、社会に必要な協力性や個を大切にす姿勢の育成に大きく役立つ物だと考えられる。

2 活動状況

(1)小中学校ラグビー普及活動

磐田市には、トップリーグ加盟チームであるヤマハ発動機ジュビロ、磐田市を拠点として活動している磐田クラブとヤマハ発動機ラグビースクールの3団体がある。毎年、ヤマハ発動機ジュビロホームゲーム開催時には、試合運営サポートをしている。また、磐田市内小中学校を中心にラグビー体験教室やいわたスポレクフェスティバルやジュビロ磐田メモリアルマラソンなどに参加し、ラグビー普及に努めている。

(2)タグラグビー教室

平成19年度より、大人を対象としたタグラグビー教室を開催した。小中学校やスポーツ少年団、子供会行事などで、子どもたちにタグラグビーを教えることのできる指導者を増やすために、まずは大人が体験してもらおうという目的で始めたものである。

平成19年、20年の2年間で12回、延べ379人の参加があった。平成21年度も5回の教室を計画している。過去2年間は体育館での実施であったが、今回は芝生のグラウンドで多くの人数でも対応できるようにしている。

(3) タグラグビー講習会講師派遣

タグラグビー教室に参加してタグラグビーに興味をもってくれた指導者の団体からの要請で、講師を派遣した。平成19年度は2回だったものが、平成20年度は15回に跳ね上がった。それだけタグラグビーに対する関心が高まったからであろう。講習会参加者も、幼稚園児から一般まで、幅広い年代に渡った。

(4) タグラグビー大会

平成18年度に、「ジュビロカップ第1回タグラグビー大会」をヤマハ発動機人工芝グラウンドで開催した。小学生の部38チーム、中学生の部18チームが参加し、熱戦を繰り広げた。

平成19年度の第2回大会は、第1日目の予選を磐田スポーツ交流の里ゆめりあで、第2日目の決勝をヤマハ発動機人工芝グラウンド、ヤマハスタジアム（磐田）で行った。小学生の部32チーム、中学生の部18チームを集めて、白熱した試合を繰り広げた。

平成20年度の第3回大会からは、一般の部が新設され、一般・中学生の部は男女別のカテゴリーとなった。

1日目の一般男子の部には10チーム、一般女子の部には3チーム、中学男子の部には16チーム、中学女子の部には5チームが参加した。

2日目の小学生の部には、39チームが参加をした。当日はインフルエンザの流行で参加できないチームも出てしまったが、遠く岐阜県や神奈川県からも参加があり、タグラグビーの広がりを感じた。



磐田スポレクフェスティバル
園児からお年寄りまで楽しんでくれました。
(H21. 10. 25)

(5) タグラグビー審判講習会

大会を運営していくに当たっての大きな課題が審判の育成である。第1回、2回大会では、県協会に依頼して審判を派遣してもらっていたが、第3回大会からは協会内で審判を行うことができるようになった。これも、平成20年度から行ってきた審判講習会の成果であろう。平成20年は3回の講習会を行った。平成21年度も5回の講習会を予定している。

【今後の展望】

2019年、ワールドカップが日本で開催されることになった。現在タグラグビーを体験している小学校高学年から中学校の子どもたちがまさに対象となる。このことから、スポーツのまち磐田から、日本代表選手が出ることを願い学校体育でのタグラグビーの普及により一層力を入れたい。また、子どもたちの発達段階を踏まえ、タグラグビーからラグビーへのスムーズな移行を図りラグビー人口の増加を図りたい。



ジュビロカップ 第3回大会 小学生の部
(H21. 1. 25)

磐田市グラウンドゴルフ協会

加盟人数 185名

代表者(会長) 鎌田要之助

創立年月 平成20年4月

【組織】

1. 協会の概要

磐田市グラウンドゴルフ協会は、平成20年4月に設立し、同時に磐田市体育協会、静岡県グラウンドゴルフ協会、日本グラウンドゴルフ協会に加盟した。

磐田市グラウンドゴルフ協会の前身である竜洋町体育協会グラウンドゴルフ部を設立し、新磐田市合併に伴い磐田市体育協会へ加盟し現在に至る。

磐田市グラウンドゴルフ協会は、竜洋、豊田、磐田、福田各地区の合計12のクラブ及び6のグループが加盟している。練習、競技会は、主として竜洋海洋公園で行われているが、各地区においても、日程を調整して各クラブ、グループが活動している。

役員は、協会規約により会長、理事長以下各役員を選出し、任期は3年となっている。年1回の総会と6回の理事会及び必要に応じて臨時会議を開催している。

2. 協会設立までのあゆみ

- H6 竜洋町グラウンドゴルフクラブを2グループ46名でスタート。
- H14. 4 竜洋町体育協会へグラウンドゴルフ部を設立し加盟。会員96名。
- H17. 4 新磐田市への合併に伴い、磐田市体育協会へグラウンドゴルフ部として加盟。会員124名。その後265名に増加。
- H20. 4 磐田市グラウンドゴルフ協会を設立し、磐田市体育協会に加盟している会員のうち185名が静岡県グラウンドゴルフ協会、日本グラウンドゴルフ協会へ加盟。

3. 主催の競技大会

〈協会設立後、初年度競技会4回開催〉

- H20. 5 第3回磐田市民グラウンドゴルフ大会 参加者272名
- 7 第4回磐田市磐竜グラウンドゴルフ大会 参加者252名
- 11 第6回磐田市風竜グラウンドゴルフ大会 参加者425名
- 12 第6回磐田市竜洋グラウンドゴルフ大会 参加者83名

〈主管の競技会(静岡県体育協会主催)〉

- H21. 9 第3回しずおかスポーツフェスティバル西部地域グラウンドゴルフ大会 参加者624名



【現在の活動状況】

1. 競技の魅力

グラウンドゴルフの歴史は他の競技に比べると発祥が昭和57年であるからまだまだ浅いが、最近5～6年で競技人口は急速に増加の一途を辿っている。その魅力はどこにあるのだろうか？

グラウンドゴルフは、ゴルフをアレンジしたスポーツで、子供も大人も、女性も男性も、障害者も健常者もいつでもどこでも、全く同じルールで楽しめるスポーツであり、ルールもやさしいので参加者はいつも明るい笑顔と歓声にあふれ、特に高齢者には心身とともに健康維持、推進に大いに役立っている。

グラウンドゴルフの魅力は、独自のルールで、ホールインワンが出た時、合計打数から3が引けるため、嬉しさが最高潮となり歓声のでるところである。

4. 活動状況

(1) 初心者教室

グラウンドゴルフは、一般的には高齢者スポーツとして行われているが、内容をよく知らない人からゲートボールと間違われることがしばしばある。初心者教室を全過程6回で、ルール、実技教習会を年3回程度実施している。これには小学生の参加も見られるが持続性がない。

一方高齢者は手近なグループに入り、見よう見まねで楽しんでいるが、認定された指導者から正規なルール、実技を受講したい希望者が多く市街住居者からも申し出がある。グラウンドゴルフは競技性よりレクリエーション的要素が多いが、楽しく行うにはルール、マナーが大切であることを理解してもらうことに重点をおき、初歩から指導している。



(2) 月例会

毎月会員を対象に月例会を開催している。会員185名のうち150名程度が参加している。競技内容は最近の参加者増に伴いホール数が多くなり、18ホール2ラウンド、合計36ホールの合計打数で競われる。ホールの長さは50m、30m、25m、15mの4種類の標準コースを組み合わせ設定する。毎月の成績を得点制にし、年度上・下半期でトータルし、得点・ホールインワン・バーディの部門別表彰をする。上位入賞者は新聞紙上「みんなのスポーツ」欄に毎月掲載し向上心の更なる高揚を図っている。

(3) 会場の確保

協会設立前にクラブ組織当時平成6～13年は練習会場が定期的に確保できず、各地の公園広場を探しながら確保に骨を折ったが、体育協会に加盟した平成14年以降は竜洋海洋公園を主要会場に定期的に練習・講習・大会に利用できるようになり、会員も安心して参加できるようになった。その他市内各地の公園等も利用している。

(4) 年間の活動状況表

月例会開催月	参加者数	月例会開催月	参加者数
H20. 10	127	H21. 4	138
11	126	5	143
12	131	6	151
H21. 1	136	7	152
2	138	8	152
3	134	9	144
H20下半期	792	H21上半期	877

練習日	回数	参加者	
H20下半期	週2～3回	6か月合計	延1,082
H21上半期	同	同上	延1,236
年間練習参加者			延2,318

(4) 今後の展望

協会の設立から1年6カ月と日は浅いが、会員数は増加している。会員には競技性を重視し、対外試合での上位入賞を目指している者も居り、西部大会、県大会で上位入賞を果たすものも多くいる。本年9月に北海道で開催された全国位大会に県代表として、1名が出場を果たした。今後も更なる飛躍を期待している。

また健康維持と仲間との親睦に楽しみを見出している者も多い。両者が和気あいあいと競技し、今後も協会が大いに発展することを願っている。

磐田アマチュアボクシング協会

加盟人数 83名

代表者 佐藤 文俊

創立年 平成14年4月

- 「協会の歩みと沿革」
- | | | | |
|-------|--|-------|---|
| 平成14年 | ・ 竜洋ボクシング教室としてボクシング教室を開始する。
・ わかふじ国体強化合宿を旧竜洋町で行う。 | | ボクシングC－BOX普及委員会を発足させる。
・ この年、第1回大会として委員長の池田宏一郎氏の協賛による池田杯が開催される。 |
| 平成15年 | ・ 練習場を竜洋体育センターに移動し、練習を開始する。
・ 元シドニー・アトランタオリンピックフライ級・バンダム級日本代表辻本和正を招き、特別指導・講習会を開催する。
・ わかふじ国体本大会に旧竜洋町から静岡県代表として、青島卓也がフライ級で出場する。
・ この年、正式に竜洋町体育協会へ加盟する。 | 平成18年 | ・ セーフティボクシング第1回磐田市長杯が開催される。
・ 通年ボクシング教室を開始する
・ 沖縄県アマチュアボクシング連盟と磐田アマチュアボクシング協会の親睦交流会を開催する。 |
| 平成16年 | ・ 競技の枠を越え、元体操選手で跳び箱世界記録保持者池谷直樹を招き体操教室を開催する。
・ 元WBA王者現日本テレビボクシング解説者セレス小林を招きボクシング教室、講演会を開催する。講演には、100人を越す人で大盛況だった。
・ 青少年健全育成に力を入れるべく、少年部を開設する。 | 平成19年 | ・ 地域奉仕活動の一環として、市内老人ホームや障害者施設を訪問し、ボクシングの運動を利用した健康運動を開始する。
・ 県秋季選手権大会で後藤選手が勝利する。 |
| 平成17年 | ・ 磐南5市町村合併に伴い、新磐田市体育協会へ編入し、磐田アマチュアボクシング協会として正式に発足した。
・ 市町村合併を記念し、磐田市総合体育館にて、県民スポーツ祭ボクシング競技が磐田市ではじめて開催される。
・ 岡山国体に旧竜洋町の薩川知成がライト級で、静岡県代表として本大会に出場し、見事第3位の成績を残す。
・ 元WBA世界ライトフライ級王者山口圭司氏が、特別指導者として、指導及び講習会を開催する。
・ 青少年健全育成をスローガンに青少年を対象としたボクシング競技を安全にゲーム的に面白く行える。セーフティ | 平成20年 | ・ セーフティボクシングC－BOX大会、第1回真中建設カップがスタートする。
・ 国体県選考会で、後藤選手が勝利するも選考会で落選する。 |
| | | 平成21年 | ・ 実業団日本選手権に石川、浅井選手が出場する。
・ 第4回市長杯C－BOX大会に5団体が出場する。 |
| | | 平成21年 | ・ 日本少年ボクシング大会で川井勇利が東海地区予選を勝ち抜き見事全国大会出場のキップを勝ち取る。 |

「現在の活動状況」

活動としては、青少年健全育成と共に選手育成強化を第一に考え、今後の日本をしょって立つ、幼児～中学生を対象に通年にて教室を開催している。また、体力増進、健康増進、美容を兼ね、一般の成人を対象にした教室も、通年にて同時開催している。

また、選手育成にも力を入れ、協会の展望としては、底辺を拡大しボクシング人口を増加させその中で、優秀な選手の発掘、そして強化を同時に進行し将来は、全国の主要大会、インターハイ、選抜、国体、全日本選手権でチャンピオンを輩出する事を最大の

目的とし、着実に徐々にではあるが、実績が出始めている。そして、選手育成、体力増進以外に、市に何か奉仕できる事はないかと地域奉仕活動にも力を入れている。体の不自由な方や、社会問題となっている引きこもりや、不登校者のいる施設を訪問し、ボクシングを利用した運動を通じて少しでも、勇気や自信、そして健康を維持できる活動をして行こうと協会として考え実行して行く所存です。



(社)日本3B体操協会

静岡県支部西グループ磐田

会 長 中島 康子

会 員 数 2教室32名

設 立 年 平成12年11月

◎3B体操とは？

3B体操は仲間同士で楽しみながら体験でき、心身をリフレッシュさせられる健康体操です。

ボール・ベル・ベルターという3つの手具を使い、音楽に合わせて身体を動かしたり、ダンスをしたり。時には複数の手具を組み合わせた。遊び感覚でさまざまな運動が楽しめます。



◎3B体操には対象者・目的別に7つのコースがあります。

① ベビーとお母さんの体操

乳幼児とお母さんで一緒に体験するコースです。音楽に合わせて優しく全身をマッサージしたり、赤ちゃんの運動を促すような動きを行います。子育てで家に閉じこもりがちな、お母さん同士のふれあいにも役立ちます。

② 親子体操

幼児期から未就学児の子どもと、お母さんが一緒に体験するコースです。音楽に合わせて一緒に遊びながら、全身を使った、さまざまな運動を行います。地域のお母さん同士、子ども同士のふれあいの場としても役立ちます。

③ ジュニア体操

主に小・中学生を対象としたコースです。学校やスポーツクラブなどと違い、誰からも強制されない、伸び伸びとした体操が楽しめます。遊びの要素をふんだんに取り入れた体操で、心も体も健やかな成長がはぐくめます。



④ 成人女性体操

成人女性向けのコースです。いつまでも健康で若々しく、美しくありたいというのは、すべての女性の願いです。音楽に合わせて、みんなで身体を動かすことで、運動不足を解消でき、ストレスも発散できます。



⑤ 中高年体操

中高年向けのコースです。メタボリック症候群が国民的な関心事になっている昨今、適度に身体を動かすことは、成人病の予防にも役立ちます。男性も女性も一緒になって、楽しくメタボを吹き飛ばしましょう。

⑥ 高齢者体操

主に60歳以上の方々のコースで、80代、90代の方々でも楽しめます。年を取ると、つい家にこもりがちですが、老年期の孤独は健康にとっても大敵です。お年寄り同士のふれあいの場としても役立ちます。

⑦ 障がいを持つ人の体操

障がいを持つ人向けのコースです。「知的障がい者向け」「身体障がい者向け」「リハビリ向け」の3つの体操が楽しめます。手具の助けをかりて運動ができるため、障がいによる機能回復に大きな効果が期待できます。

◎磐田での活動

県民スポーツリクリエーション祭3B大会を開催したり、ふれあいニュースポーツでも体験していただいています。

昨年は、10/4県スポ3B大会・10/24元気アップ親子セミナーをそれぞれアミューズ豊田・長野公民館で催しました。また、成人女性を中心に、4つのサークルがあり、どのサークルもいきいきと楽しくエクササイズしています。今後も、楽しく無理のない健康づくりのお手伝いをしていきたいと願っています。



特定非営利活動法人磐田剣道連盟

加盟人数 22団体 420名
代表者 会長 寺田 廣之
創立年 昭和30年4月

【組織】

・組織の概要

会長 1人、副会長 1人
理事長 1人 理事 3人以上20人以内
(会長、副会長、理事長含む)
監事 1人以上

・組織の変遷

昭和30年4月 磐田市、福田町、竜洋町、豊田町、
浅羽町のエリアで発足。
平成16年5月27日 NPO認証
平成16年6月2日 法人登記
平成19年4月 市町村合併による枠組み再編によ
り浅羽剣友会が袋井剣道連盟に編
入し、豊岡地区が磐田剣道連盟管
内に編入。

・役員の変遷

初代会長 山下 貢(昭和30年～昭和42年)
第2代会長 山内克巳(昭和43年～昭和51年)
第3代会長 齊藤亮一(昭和52年～昭和55年)
第4代会長 鈴木雪雄(昭和56年～平成2年)
第5代会長 堀田 周(平成3年～平成13年)
第6代会長 寺田廣之(平成14年～現在)

・加盟団体(主な活動場所)

造士館(城山中学校内)
尚道館(磐田農高内)
竜門館(長野公民館体育館)
錬武館(田原公民館体育館)
福田剣友会(福田中学校内)
竜洋剣友会(竜洋西小学校内)
豊田北部少年剣道クラブ(豊田北部小学校内)
豊田南部少年剣道クラブ(豊田南小学校内)
豊岡南剣道教室(豊岡南小体育館)
豊岡東剣道教室(豊岡東小体育館)
豊岡北剣道教室(豊岡北小体育館)
古寿母道場(大藤地区)
各中学校剣道部
各高等学校剣道部

【現在の活動状況】

・小学生の剣道

少子化の影響を受け、剣道人口も年々減少して

いる。平成20年度の剣道連盟登録人数では、造士館が最も多く48名、ついで豊田北が28名、福田剣友会が21名となっているが、少ないところは10名以下で活動しているところも増えている。各地域の指導者、保護者の剣道人口増への取り組みと剣道連盟自らの剣道の普及事業の推進が課題となっている。

・中学生の剣道

磐田地区の中学校剣道は、静岡県内ではレベルが高い。平成11年の城山中女子全国ベスト8以降、平成12年福田中女子、平成13年磐田一中男子、平成16年磐田一中男子、豊岡中女子、平成19年豊岡中女子が全国中学校剣道大会出場、平成21年豊岡中女子が全国3位の偉業、と全国大会に出場し入賞を果たしている。これも地域の道場や指導教諭の日々の研究努力の成果である。

しかし、一方で剣道部の無い中学も多く、また部が存在しても、部員が少なく活動も停滞している中学もある。中学から新たに剣道を始める生徒の確保がどこの中学も課題となっている。

・高校生の剣道

平成12年～13年磐田西高女子は魁星旗争奪高校剣道大会(秋田県)で連続優勝を果たす。同13年同校女子は選抜3位、平成15年の静岡国体では、男女磐田西高を中心としたチームで優勝。平成16年インターハイでは安富清香(磐田西高)2位。平成20年インターハイでは磐田西高が男女ともベスト8。主な成績でも全国大会入賞が多々あり、静岡県屈指の全国レベルである磐田西高校剣道の底力が伺えた。

また、それを追う磐田東高校など他の市内高校剣道部もレベルを上げてきているが、一方、剣道を継続して続ける生徒が減ってきているのが大きな課題となっている。

・一般の剣道

磐田西高校顧問坂本崇教諭、磐田東高校顧問内田勝之教諭が揃って平成20年11月3日の全日本剣道選手権大会に参加したのは、本連盟にとっても画期的なこと。また、平成19年9月の全日本女子選手権では、磐田市在住横須賀高校の内田さくら教諭が準優勝を果たした。

一般では、高校、大学を通して活躍した選手が管内に戻り稽古を続けているケースが増えてきているが、指導者の育成や裾野拡大の意味でも、女性剣士を含めた一般剣道人口の拡大が課題となっている。

【主要事業】

・磐田剣道大会

平成21年度で46回目となった磐田剣道大会は、県西部でも有数の大会として例年盛大に開催している。参加チームは、小学生から一般まで、130チームを数え、特に一般男子の参加が増えている。

指導者や親の剣道を子どもが真剣な眼差しで見しており、相互に気の抜けないいい意味での刺激のある大会となっている。



【道場建設に向けて】

磐田剣道連盟では、平成15年12月に旧見付（一番町）の道場を閉鎖して以来、道場建設が大きな課題でありました。

平成16年5月27日NPO法人の認証を受け、その後道場建設用地の確保をあらゆるところに働きかけ、最終的には、市のご好意により、市内中央町中央公園地内に土地を借り受けられることとなり、建設の目途が立ちました。

平成19年10月に基本構想、その後道場建設委員会を立ち上げ、平成20年6月8日には、基本計画を策定いたしました。その後、平成20年8月の磐田剣道大会以後、各方面に協賛金のお願いをし、財源の確保を進め、平成21年4月には実施設計を固めることができました。



道場完成予想図

【新道場の概要】

- ・ 建築場所 磐田市見付2988番地内
(中央町中央公園地内)
- ・ 建物面積 440.96㎡ (剣道場2面)
- ・ 1階平屋建て
- ・ 構造 鉄骨造
- ・ 総工費 約4,000万円
- ・ 工事の経過
平成21年7月15日 入札
8月1日 契約
8月5日 地鎮祭
9月25日 建方
12月20日 竣工



地鎮祭

【磐田剣道連盟の課題と剣道の振興】

平成22年1月には新道場がオープンし、剣道普及・振興の拠点としての活用が期待される。

特に、若手指導者の育成をはじめ、一般の稽古場所が確保されることとなり、生涯スポーツの場として、幅広く活用されることも期待できる。

少子化をはじめライフスタイルの多様化により、剣道人口が年々減少する中で、各道場は会員の確保に苦慮している。

剣道連盟として、総合的な普及振興策を今後進めていくことが大きな課題であり、そのために、新道場の完成は明るい材料となっている。

【終りに】

体育協会が60周年を迎え、スポーツ団体の総括として、ますますご発展することを祈念いたします。

【事務局】

特定非営利活動法人

磐田剣道連盟事務局 高林要則 宅

磐田市富士見台12-1

TEL (Fax) 0538-32-4514

豊田合気道クラブ

加盟チーム数 8チーム
加盟人数 154名
代表者 水野 恵助
創立年 平成15年4月

HP: www.shizuoka-yoshinkan.com

E-mail: aikido@shizuoka-yoshinkan.com

【組織】

〈組織の変遷〉

- 昭和50年 財合気道養神会より静岡県の正式支部として認可を受ける
- 平成06年 磐田道場（旧豊田道場）設立
- 平成09年 アメリカケンタッキー大学に国際合気道連盟認定道場設立
- 平成10年 磐田道場にて少年部スタート
- 平成15年 合気道養神館静岡支部の一団体として、旧豊田町に豊田合気道クラブを設立し、体育協会加盟
- 平成16年 豊田合気道クラブ創立一周年記念公開演武会開催
- 平成17年 磐南5市町村体育協会合併に伴い、活動の範囲を福田地区まで拡大
合気道養神館静岡支部三十周年記念演武大会（国内、海外から総勢300人参加）に協賛
- 平成18年 当クラブ主催静岡県西部地区養神館合気道少年少女大会スタート
- 平成20年 全国大会初出場（18名）

〈役員の変遷〉

師範 水野恵助

合気道養神館静岡支部支部長、1963年生まれ。18歳のときから大阪で合気道修行。大学卒業後地元の磐田に戻り、師匠の竹下登之助師範のもと養神館合気道の修行を開始。92年に指導者資格取得後、磐田市を中心に合気道普及活動を行う。96年より5年間、アメリカ合衆国ケンタッキー州に在住し、ケンタッキー大学にて合気道を指導、01年に帰国するも現在も尚アメリカ、カナダにおいて継続的に巡回指導を行っている。平成15年に豊田合気道クラブを設立し同時に旧豊田町体育協会に加盟、地元密着型の合気道クラブとして普及活動を行っている。

【現在の活動状況】

〈合気道の魅力〉

合気道は相手のことを考える武道である。相手がどのように考え、どうしたいかをいち早くキャッチ

し、相手の力（気持ち）を利用し制する。したがって力はほとんど必要とせず、老若男女誰でもでき、特に礼儀作法、健康維持、女性の為の護身術などに最適と言える。



水野恵助師範の模範演武

〈活動状況〉

豊田合気道クラブでは、親子のできる「ファミリーコース」、簡単な英語も一緒に学べる「イングリッシュコース」、小学生対象の「少年少女コース」、一般の大人の方対象の「一般コース」が設定されており、それぞれの目的に合わせた稽古が可能である。現在100名を超える小学生以下の子供たちが元気よく稽古に励んでいる。また50名を超える大人の方々も頑張っている。

〈静岡県西部地区養神館合気道少年少女大会〉

平成18年から当クラブ主催の少年少女合気道大会をスタートした。この大会は「静岡県西部地区養神館合気道少年少女大会」と称され、大会名の通り静岡県西部地区で開催される合気道大会としては、少年少女のみの競技として初めての大会となった。大会の目的は普段稽古を行っている少年少女たちの日ごろの稽古の成果を発表するとともに、子供たちに何か目標を持たせることで子供達自身の成長と養神館合気道の継続意識の向上につながってくればという事で企画された。



第3回静岡県西部地区養神館合気道少年少女合気道大会

〈親子体験教室〉

年一回、親子合気道教室を開催。対象は、幼稚園児とそのお父さんまたはお母さん。親子の絆を大切に、親子一緒になって稽古を行うことでお互いの気持ちを理解しあう優しさが身に付く。



〈護身術講座〉

合気道は、手を掴まれた、胸座を掴まれた、顔面を殴られそうになった、後ろから抱きつかれた、など、あらゆる状況からの対処法をできるだけ小さな力に対応できるよう稽古を行う。年一回護身術講座を開催し、毎年女性中心の人気講座となっている。



護身術講座

〈今後の展望〉

合気道は、人生における精神修行の一つと言っても過言ではない。普段あまり接することのないたくさんの子供たちと接し、いろいろな分野の大人の方々と稽古を行い、何かを感じ、それを一つのバネにし人生に役立てる、子供たちは学校生活、大人の方は社会生活における心の持ち方などについて、合気道を通じて少しずつ勉強し強い精神力を身につけられるよう日々切磋琢磨する。敵が来たら真っ向勝負ではなく、少し力を抜いて、相手の力をうまく利用し、自分自身の気持ちを落ち着かせ、何事にも平常心で対応する、このようなことができれば、平和で穏やかな世界となっていくであろう。豊田合気道クラブは、合気道を通じ地域のスポーツ発展および平和な地域社会を目指していく。

Aikido 養神館
of Shizuoka

少林寺拳法

支部会員数 30名

代表者 鈴木 和夫

設立年月日 1975年9月

〔概要〕

少林寺拳法部は、前道院長中村光良氏がわずか25歳という年齢で設立し、以来竜洋町体育協会の会員として活動してまいりました。

武道という性質上、怖いというイメージがついているのが一般的なとらえ方ですが、少林寺拳法は護身錬胆・健康増進・精神修養の三徳を備えた行ですので、格闘技という一面も備えておりますが、幼児からご婦人まで幅広く技の鍛練を楽しく行うことを目的としております。

《会員数》

30名

50歳代から保育園児まで年齢性別問わず幅広く活動しております。

5段	1名
3段	2名
2段	2名
初段	3名
1級から3級	10名
4級から8級	9名
見習い	3名



《年間の活動内容》

毎年1月より約1ヵ月間初心者教室を開催しております。

昨年度は12名参加されました。

年何度か行われる昇級・昇段試験に向けて各個人の技を修行しています。

《修練場所》

竜洋海洋センター体育館

毎週水・金曜日

午後7時より9時30分まで

《平成21年度活動報告》

6月 静岡県大会

本年は女子マスターズ部門において最優秀賞を受賞しました。

8月 武道館事業参加

県武道館での2日間のカリキュラムに参加、主内容は健康増進法と熱中症対策など

10月 全国大会

青森市

12月 支部演武会

支部員全員が父兄とともに演武を行います。

1月1日 新年寒げいこ

1月から2月 少林寺拳法教室

《少林寺拳法の沿革と創立》

少林寺拳法は、中国から伝わったものだという間違った伝え方をされる方がおられますが、1947年、開祖、宗道臣が日本で創始されました。

少林寺拳法は勝ち負けを目的とはしていません。技を通じて、自信と勇気と行動力を身につけ、慈悲心と正義感を持った本当に強い人間を育てるためのものです。

勝ち負けにこだわり、強い人間だけが勝ち組になるという指導をしたならば、ご婦人がたが健康のためと言って子供と一緒に続けて行くことは不可能でしょう。

竜洋支部の30代・40代は女性が子供と一緒に修練をしているという環境ですから、いかに健康に留意しているかが解ると思います。

少林寺拳法では、練習ではなく修練と呼び、各自を拳士と呼んでいます。

我々一般拳士が目指す人間像は確固たる信念を持って、自己の可能性を信じる生き方ができる人間、主体性を持った生き方ができる人間、他人の幸せを考えて行動できる人間、正義感と勇気と慈悲心を持って行動できる人間、連帯し協力しあう生き方ができる人間を目指しています。

そのための方法の一つが少林寺拳法の技であるのです。

ですから技のほとんどが護身術ですので、どなたにも出来ますし、そのような教え方になっております。

私自信も強くなりたくて入ったのに、技の種類が多すぎて覚えられない、突いたり蹴ったりだけならまだしもなんでこんなにたくさんの種類があるのだろうと、非常に疑問を感じたのですが、やっているうちにその魅力に引き込まれて20年近く経ちました。

少林寺拳法では子供の育成教育に最も力を入れて取り組んでおります。

礼儀作法は一般のスポーツでもごく当たり前に行われていますが、リーダーとなれる人間を一人でも多く育てることが、少林寺拳法では求められておりますので、指導者もそれなりの人間の資質が求められており、厳しいものがあります。

60歳からでも始められる少林寺拳法の魅力を一緒に経験してみたいかでしょうか。



磐田市柔道協会

会 長 西島 温行
 磐田市福田1168
 設 立 平成17年 8 月

磐田市柔道協会は平成17年 4 月に磐南 5 市町村の合併に伴い発足しました。発足に至る経過としては、七段西島温行氏が市内柔道クラブ、及び柔道関係各位に呼び掛けをしたところ一同の賛同をえてスタートに至りました。

我々の活動は広く磐田市内の幼児から一般を対象に、柔道の普及発展と青少年の健全育成を目的として年間 5 事業を実施しています。

当協会主催の過去 4 年間の事業は下記の通りです。

【柔道教室】

第 1 回 平成18年 9 月 9 日 (土)	
会 場	磐田市総合体育館武道場
参加人数 163名	小学生22名・中学生93名 高校生48名
第 2 回 平成18年10月21日 (土)	
会 場	福田中学校武道場
参加人数 121名	小学生24名・中学生64名 高校生33名
第 3 回 平成19年 5 月19日 (土)	
会 場	福田屋内スポーツセンター
参加人数 170名	小学生31名・中学生93名 高校生46名
第 4 回 平成19年10月27日 (土)	
会 場	福田屋内スポーツセンター
参加人数 138名	小学生 7 名・中学生91名 高校生22名・大学生18名
第 5 回 平成20年 5 月17日 (土)	
会 場	福田屋内スポーツセンター
参加人数 167名	小学生16名・中学生91名 高校生33名・大学生27名
第 6 回 平成20年10月25日 (土)	
会 場	福田屋内スポーツセンター
参加人数 133名	小学生23名・中学生65名 高校生27名・大学生18名
第 7 回 平成21年 5 月17日 (日)	
会 場	福田屋内スポーツセンター

参加人数 183名	小学生54名・中学生81名 高校生48名
--------------	-------------------------

第 8 回は、平成21年10月18日 (日) に実施します。柔道教室を実施した効果は中学生・高校生の競技力の向上に表れている。したがって今後も継続していきたい。

【磐田市はまぼう柔道大会】

磐田市内在住の体重別個人選手権で旧福田町から継続して実施しています。

第 6 回 平成18年 6 月 4 日 (日)	
会 場	福田中学校武道場
合併後最初の大会で出場選手は、67名と少人数でしたがなかなかの熱戦を繰り広げました。	
第 7 回 平成19年 6 月 3 日 (日)	
会 場	福田屋内スポーツセンター
第 7 回から、高校生の部を加えて出場選手は103名と多くなり、熱戦が繰り広げられました。	
第 8 回 平成20年 6 月29日 (日)	
会 場	福田屋内スポーツセンター
出場選手も増え一層の盛り上がりを感じる大会になりました。出場選手は112名でした。	
第 9 回 平成21年 6 月28日 (日)	
会 場	福田屋内スポーツセンター
地元出身で市外の高校に通うクラブOB・OGの参加を呼びかけて、一層の盛り上がった大会となった。出場選手は113名でした。	



試合成績の記録は紙面の都合上記載しませんが、大会本部に保存してあります。

第10回は、平成22年6月27日(日) 福田屋内スポーツセンターで開催予定です。

【磐田市民柔道大会】

磐田市内在籍の学校・クラブを中心の団体戦である。旧市内から継続実施している

第19回 平成19年11月17日(土)		
会 場	磐田市総合体育館武道場	
小学生の部	優勝	福田柔道クラブ
中学男子の部	優勝	福田中学校
中学女子の部	優勝	福田中学校
高校男子の部	優勝	磐田南高校
第20回 平成20年11月16日(日)		
会 場	福田屋内スポーツセンター	
小学生の部	優勝	福田柔道クラブ
中学男子の部	優勝	福田中学校
中学女子の部	優勝	南部中学校
高校男子の部	優勝	磐田南高校

第21回は、平成21年11月15日(日) 福田屋内スポーツセンターで開催予定です。

【ジュビロカップ争奪磐田市柔道錬成大会】

市町村合併に伴い、平成17年度(第28回大会)より名称をジュビロカップ争奪磐田市柔道錬成大会に改名した。

団体戦の部
①中学生の部 (1・2年生)
②小学生高学年の部 (5・6年生)
③小学生低学年の部 (3・4年生)

当大会は平成21年度で第32回を数え延べ110チーム1200名が参加する規模の大会にまで成長してまいりました。

県内はもとより、東京・神奈川・愛知・岐阜・三重・長野・京都の1都・1府・6県より参加者があり盛大に開催している。

【マーガレット杯女子柔道選手権大会】

マーガレットはキク科に属する花で、3月から7月頃に咲く花です。花言葉は<真実の愛>清純な花であり、寒い季節に路地でたくましく生きる花であると言いつたわれています。このマーガレットの花言葉にあやかりまして、健康で明るく、そして忍耐力を備えた女子柔道の普及、発展を目指し開催しています。

今年度は、第19回大会となります。

個人戦の部	小学3・4年生の部
	小学5・6年生の部
	中学1・2年生の部

【がき大将杯柔道大会】

早寝・早起き・朝ごはんを励行し、自立の出来る子供の育成の一環として開催しています。今年度は、第14回大会となります。

個人戦の部	小学1年生の部
	小学2年生の部
	幼児 基本練成の部

上記3大会は、磐田市福田屋内スポーツセンターで、同時に開催している。

試合成績の記録は紙面の都合上記載しませんが、大会本部に保存してあります。

今年度は、平成22年3月21日(日) 屋内スポーツセンターで開催予定です。

【磐田市柔道協会役員】平成21年4月

会 長	七段 西島温行
副会長	四段 清水 虔
事務局	○四段 寺田 光・四段 川島伸夫 四段 伊藤厚志・四段 金原雅樹
理 事	五段 西島寛行・四段 川島靖史 三段 青島俊彦・三段 加藤育朗 三段 寺田博之・三段 中村和久 三段 三石秀司・三段 太田浩司 三段 加藤勝巳

日本の伝統文化である武道としての礼節を遵守し、加えて柔道普及と青少年の健全育成を目的に努力していきます。

磐田市インディアカ協会

加盟チーム数 43チーム
加入人数 320名
代表者 渡瀬 訓孝
設立年 平成10年4月

【組織の概要】

磐田市在住在勤の社会人の女性チーム、男女混成チーム

【組織の変遷】

協会発足時に協会加盟チーム募集 21チーム、237名が登録。その後大会、練習、交流試合等を通じて次第にチーム数、参加人数が増えてきた。平成17年に磐南5市町村（磐田市、福田町、竜洋町、豊田町、豊岡村）の合併で磐田市も広域になって登録数も増加、現在では、市外のチームから登録依頼、大会への参加申し込みも増えている。

【役員の変遷】

磐田市体育指導委員代表者と磐田市内の各地区で活躍をしている代表者を中心に、協会設立準備委員会を創設後、協議を重ねて平成10年4月、協会設立総会を経て、会長1名、副会長2名、事務局1名、会計1名、監事2名にて発足。

平成14年度より渡瀬会長が引き継ぎ、役員も増え、21年度現在14名で運営している。

各役員それぞれ、総務部、運営部、審判部、広報部、渉外部のいずれかに所属して活動中。

【主催大会の紹介】

春に 会長杯大会
夏に 中日新聞杯大会
秋に 磐田市民大会
冬に 新春大会

【活動状況】

第1回大会を8月に磐田第一中学校体育館に於いて、女性の部11チーム、男女混成の部11チームの参加で開催。11月の第15回磐田市民インディアカ大会からは磐田市体育指導委員会より引き継ぎ当協会が主催することになった。

11年度より市民大会を含めて年3回の大会を開催している。

14年度より年間4回の大会を開催して現在に至る。

【競技の魅力】

当初は磐周地区の体育指導委員会で、『誰にも参加でき、楽しめて、体力、健康作りになる』というニュースポーツ、インディアカを採用。インディアカ普及のため磐周ルールが出来、各地区の体育指導委員を中心に各地区公民館において講習会を開催しながら普及させていった。

昭和59年に第1回磐田市インディアカ大会を開催し、その後年々参加、活躍するチーム数も増えていった。

協会設立と同時期に、静岡県統一ローカルルールが出来たので採用。新ルールの確認を兼ね、審判講習会を開催して各チームの審判員の育成に努めてきた。

これにより、自分たちでコート作りからゲームの進行、判定までが出来るようになった。

ゲームでは一人1回しか触れないルールのため、必ず役割がまわって来るから参加者全員が楽しめるのが魅力である。



長野体育館にて練習風景

【静岡県ローカルルールの紹介】

- *コートはバドミントン用コート、ダブルス外側のラインを使用。
- *ネットの高さは2.24m。
- *1チーム4名ずつコートに入り、羽球を一人1回限りのタッチで、必ず3回目に相手コートに返す。
- *男女混成の場合は、男子2名、女子2名ずつコートに入る。
- *男子に限りネット下より1.5mの所にアタックラインが有り、ジャンプアタックの場合は、これより後方でなければならない。
- *どちらかのチームが8点取った時点で両チーム共、必ず1名以上の競技者を交替させなければならない。
- *15点先取で勝敗を決める。



大会風景（磐田第一中学校体育館）

【今後の目標や展望】

当初協会登録加盟チームの条件が磐田市在住在勤の成人の男女チームのみの登録でしたが、近年、近隣チームからの大会参加希望が毎回多数有り、親睦と研鑽を兼ね、インディアカの尚一層の普及を図りたく、健康作り、体力作りに役立てて頂くために参加をして戴いております。

又、最近若い人たちの活躍が目立ちます。身長、ジャンプ力を活かしたゲームも多く、技術力も向上しており、また個人の体力、年齢に応じてそれぞれに楽しんでいただいています。

将来的には、クラス別とか年齢別に分け、年齢がいくつになっても楽しめるものになればと思います。

日本インディアカ協会公式ルールの大会も、最近各地で行われるようになってきており、当協会登録チームの中からも、十数チームが市外に出かけて、

それぞれに参加、活躍をしています。

いずれ、当協会でも公式ルールも採用していかなければならないでしょう。

県民スポレク大会他、市外各地区開催大会に積極的に参加して、沢山のチームと交流を重ね、意義のあるスポーツ活動をして行って欲しいと願います。

【役員紹介】

会長	渡瀬 訓孝	
副会長	浅井 静	広報部
副会長	南澤 友枝	運営部
会計	鈴木 健一	渉外部
事務局	楠本 能充	総務部
事務局	岩谷香代子	総務部
監事	森 辰夫	審判部
監事	鶴野 和彦	渉外部
理事	吉野 静男	審判部
理事	藤井 健司	審判部
理事	藤田 順朗	運営部
理事	小林 由美	広報部
理事	松永 勇二	運営部
理事	金原 智浩	運営部

【問い合わせ先】

TEL/FAX 0538-35-3090 渡瀬 訓孝
TEL/FAX 0538-37-1290 楠本 能充

磐田サーフィンクラブ

加盟人数 20名

代表者名 芦川 和美

設立年 平成19年6月22日

【年間行事】

ビーチクリーン・サーフィン大会・サーフィン体験教室・ビーチサッカー

【概要】

平成13年から、ビーチクリーンをはじめ自然・環境保全・サーフィン普及活動・生涯学習の観点から子供たちへの情操教育などをメインに、活動してきました。平成19年度からは、NPO法人マリプロジェクトと連携をはかり、積極的に活動しています。

【活動内容】

事業名	内容	時期	会場
磐田市長杯 Line-up cup	大会運営	7月	豊浜海岸
親子ビーチチャレンジ	サーフィン体験教室	8月	豊浜海岸
ビーチサッカー・ビーチバレー	他団体と協力	4月～10月	豊浜海岸
ビーチクリーン	海岸清掃 毎月第一日 曜日	2月～12月	豊浜海岸
AED・心配蘇生法講習会	講習会	7月と11月	豊浜海岸 今之浦公園

●磐田市長杯Line-up cup大会運営

1 大会目的

(1) マリンスポーツサーフィンを通じて自然とのふれあうなかで、青少年の健康な身体の育成及び技術の向上並びに普及振興をし、世代を超えて愛されるビーチづくり目的として開催します。

(2) 「ビーチクリーンをひろめる」を根底マリンスポーツの普及を図ると共に安全・安心して、楽しむことができるようにするため、地元住民・活動団体・企業・行政が一丸となりマリンスポーツの街づくりを推進し、自然保護・環境保全運動の活動拠点としても利用する多目的機能を備えたセンター設立の啓発を目的として開催します。

2 内容

①青少年健全育成

自然とのふれあうなかで、健全な青少年の育成と親子の親睦を深め世代を超えて愛されるビーチづくりを推進する。

②ビーチクリーンのPR

この素晴らしい海・景観を、次世代の子供達に残すための第一歩として、海岸清掃（ビーチクリーン）を広める為、会場入り口で、ゴミ袋を配布して多くの方に推進する。

③ルールとマナーの向上

海を安全に利用する為には、ルールを守らなくてはなりません。大会に来場された方に最低限のルールとマナーを掲示し推進する。

④サーフィン技術の向上

本年度より、他県との交流戦を行うことで選手の技術向上を推進する。

⑤サーフィンの普及啓発事業の展開

より多くの方に海やサーフィンを知って頂くため、会場にアトラクションを設けマリンスポーツサーフィンへの理解を推進する。

●ビーチサッカー大会&スクール

7月に開催 参加者：サーフィン教室40名
ビーチサッカー60名

●毎月第一日曜日にビーチクリーン（海岸清掃）を行います

毎月20名くらい参加





ビーチクリーン



AED講習会



ビーチサッカー



親子サーフィン教室

【競技の魅力】

子供から年配まで同じフィールドで波に乗り時間を共有出来る素敵なスポーツです。

サーフィンの魅力はただ海に来て波に乗るだけではありません。海に来て波を見たり、風を感じたり、今まで何気なく見ていた自然を違った視点で見るとなると、それがライフスタイルすべてを変えてしまうこともあります。日頃ストレスの多い仕事についている人も、サーフィンするために海に来て、そしてサーフィンレッスンで自然に触れることによりリフレッシュし、より健康になっていくことができます。これもサーフィンの魅力です。

【今後の目標や展望】

マリンスポーツの普及を図ると共に、安全・安心してマリンスポーツを楽しむことができるように地元住民・活動団体・企業・行政が一丸となりマリンスポーツの街づくりを推進し、自然保護・環境保全運動の活動拠点としても利用する多目的機能を備えたセンター設立の啓発を目的として開催します。

磐田ファミリーバドミントン協会

磐田市北島32-1

会 長 中津川年弘

設立年月日 平成19年12月1日

ファミリーバドミントンは、昭和63年に京都で開催された京都国体の「バドミントン競技会場地」となった長岡京市が、手軽にバドミントンを広く親しめる独自のニュースポーツとして考案されました。

バドミントンはスピードがあるため、広い年齢層では難しく、誰でも手軽にできるものはないか、とアイデアを出し合い、日本の遊びの原点でもある羽根つき遊びとミックスさせるという案が提案され考えられました。

用具の開発にあたっては、いろいろな実験を重ねた結果、ラケットはシャフトを短いものに、シャトルは最初トスバッティング用のスポンジボールとバドミントン用のナイロンコックをつけたものを作り、滞空時間を長くすることによって空振りを少なくし、目標としていた誰でもが手軽にできるスポーツになりました。

広く普及振興を図るため、ミズノ株式会社のご協力により用具の商品化にこぎつけ、今では全国のスポーツ用具店で取り寄せ購入できるようになりました。

子供からお年寄りまで、「誰もが、いつでも、どこでも、自分の好みや能力に合わせて、気軽に楽しめる」のが、ファミリーバドミントンの特徴であり、仲間との交流、家族とのふれあい、健康・体力づくりなど、さまざまな目的で楽しまれています。

長岡京市で誕生したファミリーバドミントンは、全国の体育指導委員や行政、スポーツメーカーのご協力により、開発当初の予想をはるかに上回る人々に楽しんでいただいております。

本会は、ファミリーバドミントンの普及振興に努め、会員相互の連帯と親睦を図ることを目指しています。



平成21年7月26日 第2回協会長杯集合写真

<協会の歩み>

- 平成19年12月 磐田ファミリーバドミントン協会設立
- 平成20年4月 設立総会
- 平成20年6月 平成20年度磐周リーグ（前期）
- 平成20年8月 第1回協会長杯
- 平成20年10月 平成20年度磐周リーグ（中期）
- 平成21年2月 第3種審判講習会
- 平成21年3月 平成20年度磐周リーグ（後期）
- 平成21年5月 平成21年度磐周リーグ（前期）
- 平成21年7月 第2回協会長杯

役員名簿（平成21年4月現在）

会 長	中津川年弘		
副 会 長	鈴木行雄		
総 務	中嶋英明		
会 計	半場まゆみ		
監 事	石野智康		
理 事	加藤孝男	金原元司	小澤 透
	高木辰佳	松本明美	
評 議 員	東 幹史	倉嶋 進	高坂 徹
	三井政幸	山本文明	寺田すず子
	村松孝悦	畠 明美	稲垣 徹
	平野晴美	佐藤洋子	山崎美由紀
	鈴木行夫	増井 潤	磯部英美子
	飯塚三華	伊東豊子	密岡 一
	藤田 朗	村松昌彦	島田 友季子
	高塚香枝	村松直司	登坂拓也
	鈴木秀美	中原繭子	

<大会記録>

○磐周リーグ (前期)

平成21年5月10日

一部リーグ

- ① 飯田COUPPY'S
- ② Vanquish S
- ③ Wing Fairy
- ④ 富丘FBC A
- ⑤ Vanquish ?
- ⑥ Cosiz
- ⑦ TBC I
- ⑧ GOGOパンチ

二部リーグ

- ① M2チューリップ
- ② TBC II
- ③ ミックスベリー A
- ④ 飯田パラゴダ. ブルプー
- ⑤ Vitz
- ⑥ Mint A
- ⑦ TEAM・ABBA
- ⑧ きらら

三部リーグ

- ① 富丘FBC B
- ② Wing Angel
- ③ ワンポイント・スーパードライ
- ④ アスカ
- ⑤ GLOW
- ⑥ fresh
- ⑦ Blossom
- ⑧ M2さくら

四部リーグ

- ① HRT風神
- ② 羽桜
- ③ Mint B
- ④ LAGER L
- ⑤ LAGER M
- ⑥ ファニーズ
- ⑦ YFBC
- ⑧ HRT雷神
- ⑨ ZERO
- ⑩ Team“愛”
- ⑪ ウィルドゥ

○第1回磐田ファミバド協会長杯

平成21年7月26日

1位トーナメント

- ① Cosiz

- ② Vanquish ?
- ③ Wing Fairy
- ④ Vanquish S
- ⑤ スマイル
- ⑥ サタデーズ

2位トーナメント

- ① レッドサンダー
- ② キャサリンズ
- ③ 小木の里FBC
- ④ 加古川FC
- ⑤ 天間
- ⑥ M2スマイル

3位トーナメント

- ① GOGOパンチ
- ② TEAM・ABBA
- ③ Mint B
- ④ 富丘東FBC
- ⑤ Wing Angel
- ⑥ きらら A

4位トーナメント

- ① TBC I
- ② メガトンMIX
- ③ メガトン
- ④ TBC II
- ⑤ ZERO I
- ⑥ BlossomH

5位トーナメント

- ① 羽桜
- ② HRT風神
- ③ INS
- ④ LAGER (L)
- ⑤ ひまわり
- ⑥ きらら B

6位トーナメント

- ① 飯田FBC
- ② ワンポイント・スーパードライ
- ③ GLOW F. B. T
- ④ 鷹岡
- ⑤ ミックスベリー
- ⑥ M2エンジョイ

7位トーナメント

- ① Vitz
- ② コス☆ベリー
- ③ LAGER (M)
- ④ Mint A
- ⑤ ファニーズ
- ⑥ HRT雷神

(財)日本少年野球連盟磐田支部

代 表 福重 俊二

部 員 数 24名

創 立 年 平成19年

磐田ボーイズ、創部3年目で、 悲願の全国大会初出場を決めた。

平成21年3月25日、大阪で行われたボーイズリーグ春の全国大会「第39回日本少年野球春季大会」(報知新聞社主催)に、創部3年目の磐田ボーイズが悲願の出場を果たした。残念ながら1回戦、埼玉県のオール春日部に延長戦の末敗退したものの、ハツラツとしたプレーにスタンドからは惜しめない拍手が送られた。この全国大会を決めた静岡県大会では、決勝戦で、一昨年全国ベスト4に入り、全国大会の常連チーム、フレイムズ浜松ボーイズを4-0で降し、準決勝では、やはり全国大会経験のある強豪、富士ボーイズに3-0と、準決勝、決勝を通じて得点を与えない堅守が、一部の新聞に、優勝候補の一角とまで書かした。投手陣は、準決勝で、ショートで主将の江間(4回)とサード、ショートで副将の福重(3回)のノーヒット、ノーランリレー。決勝ではエース和久田が巧みな投球で7回を投げきり完封する。野手陣は、俊足を生かしてホームを落とし入れるライトで好手の副将、鈴木。2度もファインプレーでピンチを救った二塁手の渥美。強肩の捕手、山本と大場。179cm、80kgの大砲、彦坂。ここ一番に打撃でチームを盛り上げる金子、戸塚、中尾、島。さらには、チームワークと元気さでも常に対戦相手を圧倒する。大きな掛け声と共に全力疾走と笑顔での攻守交替。ミスや凡打に終わったチームメイトに、「切り替えろ、皆で取り返してやる。」と、次へのプレーに集中させる姿。終始、磐田ボーイズの選手の声が対戦相手を圧倒して球場内に響く。これが、磐田ボーイズの神髄である。



磐田大会で優勝した磐田BYに賞状を読み上げる杉山会長

磐田といえば、サッカーのイメージが強い。全国大会の会場で、「磐田といえば、ジュビロの磐田?」と、声を掛けられた。その磐田ボーイズは、磐田の野球関係者の『磐田から甲子園に』という願いから、磐田市体育協会の後押しで2年前に創部した。今回全国大会の切符を手に入れた選手(1期生16名、2期生8名)の合言葉は、いつも『全国大会制覇』。内藤監督(静岡学園-東洋大-ヤマハ)の下、厳しい練習に耐えてきた。選手達はとにかくよく走った。砂浜でタイヤを引きながらのダッシュ、ダンベルを持っての持久走。巧みに走りを中心とした体力トレーニングが1年を通して取り入れられた。勿論、基本の習得にも余念が無い。ファインプレーは要らない。キャッチボール、バッティングの徹底した基本練習には時間を掛けた。この単純な練習の中でチームメイト同士を競わせ、そのポイントで、練習試合のスターティングメンバーを決めることもあった。こうして走、攻、守バランスの取れたチームに育った。1年目は静岡ジュニア大会で優勝。2年目、新人戦で準優勝。3年目、全国大会出場、その後の春の県大会でも優勝。岐阜で行われる第19回都府県

対抗大会の静岡県選抜チームには、磐田ボーイズから8名の主力選手を送る。

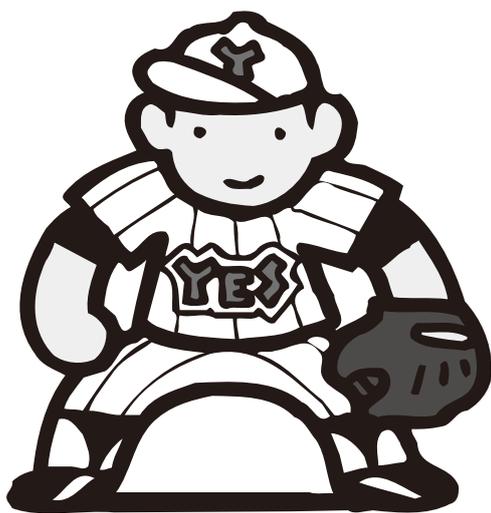
磐田ボーイズ出身の選手が甲子園で活躍する日は、それ程遠くはないだろう。



始球式をする杉山会長
杉山旗争奪（磐田大会）



磐田ボーイズ（全国大会を決めた静岡県予選にて）



—地区体育部—

長野地区体育委員会

長野地区体育委員会は12の自治会より選出された32名の委員と地区行事实行委員4名による委員で構成されている。

行事の企画、立案は長野地区自治会で決定し、体育委員会は実行部隊として、体育祭の細部にわたる企画、並び運営、各種大会では準備から審判員等幅広くその役割を担っている。

地区自治会からは体育委員長として1名がこの実行部隊を統括している。

各自治会より選出された委員の任期は1年、委員長、行事实行委員には複数年をお願いしている。

地区最大の体育行事は長野地区体育祭であり、毎年5月に地区民2,000人以上の方が参加している。この行事には体育委員、行事实行委員、ボランティア並び各自治会役員、組長等多くの人達の協力により運営されている。

体育祭の華は小学生による自治会対抗のリレー、また各層から選出された自治会対抗リレーである。この時が最高潮となり体育祭を盛り上げている。その他、4種の体育大会を実施している。

4種の大会とは、ソフトバレーボール大会、インディアカ大会、ファミリーバドミントン大会、バドミントン大会である。

自治会ごとにチームを組んで、対抗戦を行い優勝を争う。公開練習日には各チーム優勝を目指し練習に励んでいる。

これらの大会には100名近い方が参加している。より多くの地区民が参加され更に盛り上がることを期待している。

体育行事は地区民の健康と親睦、コミュニケーションの向上等を目標に行ってきたが、ここ数年にわたり、地区体育祭が形骸化し選手集め、運営について多くの意見が寄せられているのも実情である。

地域の人達のコミュニケーションの場でもある地区体育祭の活性化が急務であるとともに、これに変わるものの検討も考慮されている。

各種大会も参加者の固定化がみられ大会そのものが地区をあげての大会とは言いがたい状況でもある。

今後長野地区自治会、長野地区体育委員会としてこれらの問題に取り組み、地区全体の連帯感の維持、向上を如何に図るかを検討するとともに、他自治会の好事例、取り組み、運営方法等の情報収集を行い参考にするるとともに、地区民への幅広い企画提案を

求め、より良い方向づけを行いたい。

平成21年度長野地区体育行事計画

長野地区体育委員会	4月4日
体育祭準備	5月23日
長野地区体育祭	5月24日
ファミリーバドミントン担当者会議	6月6日
練習日	6月24日、25日、29日、30日
大会	7月5日
ソフトバレーボール担当者会議	7月4日
練習日	7月20日、21日、29日、30日
大会	8月2日
インディアカ担当者会議	10月16日
練習日	11月2日、3日、11日、12日
大会	11月15日
バドミントン担当者会議	11月21日
練習日	11月30日、12月1日、9日、10日
大会	12月13日



(文責 長野地区自治会長 松山捷利)

向笠地区体育委員会

【組織】

（組織の概要）

向笠地区の体育関係事業は、向笠地区自治会連合会の体育委員会が行っている。体育委員会は連合会組織の中にある防犯委員会や福祉委員会など9委員会の一つである。

（組織の変遷）

- 昭和45年に向笠地区体育クラブ発足、自治会と公民館が連携して(ア)ソフトボール (イ)バレーボール (ウ)水泳 (エ)陸上競技一般 (オ)卓球・庭球 (カ)剣道 の各事業を行っていた。
- 昭和51年に「体育委員会」と名称を変更し、向笠地区住民の親睦と心身の健全育成を目的として、(ア)ソフトボール (イ)バレーボール (ウ)陸上競技一般 (エ)卓球 の各事業を行うように改めた。
- 平成元年4月1日から「向笠地区自治会体育委員会」として再発足し、各種の体育事業は、向笠地区自治会連合会の事業として行うこととなった。また、事業の目的として会則の中に向笠地区のスポーツの振興を図り、地域住民の親睦と健康増進に資することが明記された。これに伴い体育委員会の位置づけと役割が明確になった。
- 会則が改められ平成11年4月1日から実施する事業が「体育祭」「ソフトボール大会」及び「バレーボール大会」の三事業に絞り込まれた。これに伴い前記の三事業に力を傾注して体育事業を行うことになった。
- 平成15年に体育委員会の専門部に関する別定事項が制定され、同年4月1日から体育委員会の中に「体育祭部会」「ソフトボール部会」及び「バレーボール部会」の三部会が設けられ、活動することになった。



平成19年9月2日サンボス完成式典

【現在の活動状況】

向笠地区の体育事業は向笠地区自治会連合会の体育委員会が、「体育祭部会」「ソフトボール部会」及び「バレーボール部会」の三部会を設けて実施しているが、各部会とも各自治会から1名ないし2名の推薦を受けた者によりメンバーを構成している。各部とも部長を選出し、その部長の下に何回もの会議を重ねて企画を練り、資料を作り、会場設営などの事前準備作業を行い、大会等を開催している。

毎年ソフトボール大会は5月中旬の日曜日に、バレーボール大会は6月20日前後の日曜日に、また、体育祭は9月の第1日曜日に開催しているが、部会員の努力でいずれの大会等も選手はもとより応援団としての地域住民の参加も多く、それぞれの競技を楽しんでいただいている。また、大会終了後には各自治会ごとに反省会と称して情報交換会（宴会）を開催して親睦を深めている。正にスポーツを通じての住民相互の親睦と健康増進に資するという目的が十分に達成できていると自負しているところである。

参考までに直近のそれぞれの大会の様態を申し上げますと、今年のソフトボール大会は5月17日と24日（予備日）の両日とも雨天のため、残念ながら中止となってしまったが、昨年は10チームが参加し熱戦を繰り広げた。なお、ソフトボール大会は以前、岩田地区の天竜川運動公園で実施していたが、長年の悲願が実り、向陽調整池の中に運動グラウンド「サンボス」が完成し、使用可能となったことから平成19年度から「サンボス」で実施している。

バレーボールについては、6月21日に向陽中学校体育館で開催され、16チームが参加し、手に汗を握る熱戦を繰り広げた。上位3チームは8月23日の向陽ブロック球技大会（向笠、大藤及び岩田の三地区合同のバレーボール大会）に向笠地区の代表として出場することになっている。

体育祭については、9月6日に開催することになっている。ちなみに昨年は9月7日に「サンボス」で開催し、13種目の競技を実施した。競技は子どもから高齢者まで楽しめるように工夫され、住民の半数近くが参加する盛大なイベントとなった。

体育委員会はこれ以外にもいろいろな体育事業を行っているが紙面の都合で割愛する。

このように各種の体育イベントが継続的に実施できるのは、役員やメンバーのやる気と責任感に負うところが大きであり、感謝している。今後も向笠地区の体育事業の発展に尽力してくれることを大いに期待しているものである。（連合会長 安間孝美）

大藤地区体育部

1 組織の概要

- ・名称 大藤地区体育委員会
- ・部員 40名
- ・構成 15自治会体育委員、体協社員、
体育指導員
- ・代表者 鈴木浩司
- ・創立年 昭和48年4月

2 組織の変遷

- ・昭和48年3月 大藤地区体育クラブを発展的解消し自治会に運営を移管する。
- ・昭和48年4月 大藤地区自治会体育部事業として出発する。

移管された当初は次の4種目が中心種目であった。

- (1) 婦人会バレーボール大会
- (2) 父親ソフトボール大会
- (3) 水泳大会
- (4) 体育祭

3 大会・種目の変遷

- ・婦人会バレーボール大会
昭和48年～平成9年（継続25年間）
- ・父親ソフトボール大会
昭和48年～現在
- ・水泳大会
昭和48年～平成4年（継続20年間）
- ・体育祭
昭和48年～現在
- ・駅伝大会
昭和49年～昭和58年（継続10年間）
- ・混成バレーボール大会
昭和50年～平成9年（継続23年間）
- ・年齢無差別ソフトボール大会
昭和51年～平成3年（継続16年間）
- ・卓球大会
昭和55年～平成9年（継続18年間）
- ・インディアカ大会
昭和61年～現在
- ・混成ソフトバレーボール大会
平成10年～現在
- ・ドッジボール大会
平成4年～平成9年（継続6年間）

4 現在の各種大会

- (1) 男女混合ソフトバレーボール大会
(開催日予定 6月第4日曜日)
- (2) 地区ソフトボール大会
(開催日予定 7月第4日曜日)
- (3) 大藤ふれあい体育祭
(開催日予定 9月第1日曜日)
- (4) 地区インディアカ大会
(開催日予定 2月第1日曜日)

各自治会から選出された体育委員が中心になって委員会を構成しスポーツを通して地域の活性化に努めています。



ふれあい体育祭 百足競走

西貝地区体育部

西貝地区は30年誌にも述べたとおり60年前は純農村で小学校（現西貝公民館）に赤松と楠の木の外を回って走る100mがやっとの運動場であった。その様な状態でも家族総出の運動会は現在と同様、随分にぎやかなものであった。地区民総出の勤労奉仕で運動場の改修が行われ、現公民館東側のグラウンドが出来上るまでの昭和20年代の歴史は、地域スポーツ振興をかけた西貝体育委員先輩諸氏による運動場造りの歴史であった。

これも昭和32年の小学校区再編成や磐田東高校の移転、運動場の宅地化等、幾たの遍歴を経て現在の公民館前のグラウンドとなった。

昭和47年に地域のコミュニティ施設として体育館が新設され、これを機に公民館活動の一環として細々と続いてきた体育部も一気に充実し、体育館を利用した婦人バレーボール、バドミントン、子供会によるミニバスケット、狭いながらも公民館グラウンドを利用した子供ソフト、父親ソフトが盛んに行われるようになった。

また、卓球大会が復活したのもこの頃であった。今までは体育祭が体育行事の中心であったが、体育館が併設されると同時に他地域との交流が盛んになり、田原地区、御厨地区、南御厨地区、城之崎地区、西貝地区の体育部長が集まり、東部地区大会が設置され現在も運営されている。

昭和50年代に入ると、小学生の数が減り、地区体育祭も競技はあるものの、人が集まらず体育委員が代わる代わる出場するといった苦勞の運営が続いた。そんな中、「地区民あげての体育祭参加」を合言葉に各地域内の防災テント利用や、弁当持参のコミュニティと称して競技中心の種目から楽しんでもらう競技や誰でもが参加できる種目への変換を図り、また地区旗作成、体育委員の地区2人制導入等、8年余りをかけスポーツを通じての現在の体育祭に仕上げられた。

昭和60年代公民館区の再編成により、昭和49年来続いてきた城之崎運動会は昭和62年第13回を最後に、西貝地区との合同の体育祭となった。これにより参加延人数は一気に2千人規模に拡大していった。

現在、平成に入り、公民館を中心に、磐田体育協会や体育指導委員会と協力し、生涯スポーツと地域をうまく調和させ、先輩たちの運動場造りの御苦勞を無にすることなく、地区民の健康や体力増進に力

を注ぎ、体育祭だけではなく、青年には青年の、老人には老人に合った運動を推進し、老人スポーツはもとより少年野球、少年サッカーの開催とウォーキング、ジュビロ磐田メモリアルマラソンへの参加等次の世代につなげるスポーツを地域とともに発展させている。

西貝地区体育部活動は現在も若い人に引き継がれ発展している。

（文責 磯部知明）



とんぼの里ウォーキングを入れる
ひょうたん池

見付地区体育部

見付地区は50年誌にも述べたとおり見付公民館の発足以来、見付地区の26自治会推薦により4専門部が組織され、体育振興部もその1つである。各専門部は公民館の活動を全面的に援助する目的で設立された公民館運営協議会直属の組織である。

見付地区は、市立の小学校2校・中学校1校を有し、約8千世帯の体力づくりと地区のスポーツ活動振興及びコミュニティづくりを図るべく、見付地区体育祭・グラウンドゴルフ大会・ウォークラリー大会が実施されており、今年で26回目を迎え歴史の重みを感じさせる。

①見付地区体育祭

見付地区26自治会（町）の就学前の幼児からお年よりまで幅広い年齢層の人約千名が参加しての、町内対抗の体育祭である。

26年の歴史を重ねるうちに幾多の変遷を経て現在は、球入れ・順送球・長縄飛びの三種目に固定されるようになった。

特別種目として、小学生以下200名を対象にしたパン喰い競争も行なわれている。

運営は体育振興部員によって行なわれるが数年前から城山中学生在がボランティアとして25名～30名が参加しており、地域の住民とのふれあいの場ともなっている。

体育振興部員が運営上最も留意している点は、26町内が一同に会する場は体育祭のみであり、勝敗よりも互いの情報交換と親睦を深め理解しあう場の提供である。



(平成20年度見付地区体育祭)

②ふるさと見付ウォークラリー大会

毎年5月上旬に行なわれる本大会は、ふるさとの歴史や文化を再発見し郷土愛を育むことを目的に開催されるようになった。

この大会は、広域で行なっており子供からお年よりまで家族単位・グループ及び個人参加も可ということで誰でも気軽に参加できるように配慮されている。また、本大会はタイム競争ではなく、指定されたポイントを地図を見ながら訪ね巡り、その場で出されたクイズを解く競技である。

この大会の運営には、参加者の安全を第一に考えて、青少年健全育成部と共催して行なっている。さらに城山中学生にも、ボランティアとして参加してもらい、参加者との交流を図ると共に、ふるさとを見直す機会になっている。



(平成20年度ウォークラリー大会)

③グラウンドゴルフ大会

各地で盛んに行われているグラウンドゴルフを見付公民館でも毎年6月に体育振興部主催で実施しており、住民の体力向上と親睦に寄与している。

参加者は60代～90代が主で、高齢化社会を実感させられるが、底辺を広める努力をして愛好家の増加を期待している。

④その他

現在見付公民館を基点として活動しているスポーツ団体は、41団体あるがスポーツが広域化する中、地域の活性化の為にスポーツ、また、趣味の多様化と高齢化社会を迎え、それに対応出来るニュースポーツの普及を今後考えていく必要があろう。

岩田地区体育部

現在この地区においては、自治会を主催に各地区より選出された男女各1名（16名）の体育委員の協力を得て、地区住民がお互いに親睦を深めるための大切な機会（場）として公民館附属体育館及びグラウンドにおいて主に4つの体育行事が行われている。

《男女混合ソフトバレーボール大会》

7月に行われる男女混合ソフトバレーボールにおいては6チーム約100名が参加し白熱したゲームの中でも勝ち負けを越えた和気あいあいとしたしあいが繰り広げられる。

上位2チームが出場資格を得て8月に行われる北部大会へ参加する。

《地区体育祭》

9月に行われる地区体育祭においては、10種目を延約900名の参加者により開催される。個々対抗の種目は取りやめ団体で楽しめる種目、65歳以上参加のゲートボールリレー、綱引き、パン食い競争、小さい子ども達と消防団員による未来の消防団集まれ！等幼児から老人まで幅広い年代の集う大会となっている。

地区一般住民はもとより中学生の協力を仰ぎ準備係、進行係、放送係等の活動に大変感謝している。



《地区球技大会》

10月に行われる球技大会は、グラウンドにおいては男子のソフトボール大会が4チーム約60名の参加者で熱戦が繰り広げられ同時に体育館においては男女混合ファミリーバドミントン大会が10チーム約70名により和やかに繰り広げられる。

名前のごとく家族での参加チームもありほのぼのとした雰囲気につつまれる。

主催する者にとっては大変な労働だが地区民のふれあい、親睦を深める場としてこの行事が継続されていく事を望む。



御厨地区体育部

加盟人数 100名
代表者 井口 高男

御厨地区の体育部は、御厨公民館運営協議会を核に文化部・福祉部・青少年育成部の4本柱で構成され、御厨地区の町おこしに貢献しております。

春に兎山公園にて開催する『わかばの集い』は、小学生児童を対象とした、青少年育成部の活動です。メインは、公園内に隠した三角くじの宝探しです。

夏に80歳以上の方々を対象に『暑中お見舞い』福祉部の活動です。お宅に訪問して、コミュニケーションを図ります。

そして、秋は体育部が柱となり『御厨地区体育祭』を、盛り上げます。各单位自治会ごとに得点を競い合います。まずは、人寄せ効果のある、テント張り競走で幕をあけます。次に小学生全員参加の100メートル走です。みんな家族の応援を背に元気よく走り抜けていきます。各学年男女別で5～7人で組み合わせます。敬老席のテントからもにぎやかな声援が、飛びかいますよ。孫を探しているうちにゴールしちゃったり（笑い）もします。



綱引きは各チームを挙げての応援合戦が、見どころです。選手の中には、力が入りすぎて、手に豆が出来それが爆ぜてしまう方も出てきます。3メートル程の距離から声援されるわけですから、力が入りますよね。

そんなけが人の手当をしてくれるのは、御厨地区保健会のみなさんで、地区行事には、必ず待機してください。けがや貧血など応急処置にすばやく対応して下さいます。大変心強い存在です。



終盤は、パン食い競走です。順調に1等でゴールする子も居れば、パンまでは1等だったのに、パンがなかなか口でとれず悪戦苦闘、半ベそでゴールする子も居ます。



体育祭の最後を飾るのは、やはりリレーです。小学生（低・高）2名から中学生1名・青年1名・大人3名合計7名で男子女子別々にチームを作ります。選手は、勝敗の懸かったレースですので、各チームの応援をプレッシャーに緊張した面持ちでスタンバイします。小さい順にスタートしますので、年の順にバトンタッチしていく姿は、次世代につながる何かと重なるような気がします。

100名以上のボランティアの役員さんによって、開催される行事を終える毎、このリレーのように地域発展に繋がっていくことでしょう。

冬に御厨公民館にて開催される『ふるさと広場』は、文化部の活動です。公民館で活動される、クラブ・サークル・教室のみなさんの、作品展示や舞台発表の場です。人気があるのは、餅投げ・チャリティーバザーです。



南御厨地区体育部

地区体育委員 26名
代 表 者 上間 毅

南御厨地区の体育部は、10の単位自治会の体育委員26人で構成されており、地区体育祭・球技大会そして東部ブロック球技大会を主管して活動しております。そのうちのメイン事業は何といても地区体育祭であります。幼稚園・小学校・中学校の運動会日程を考慮しながら9月初旬の日曜日開催が恒例となっております。まだ残暑が厳しい時期ではありませんが他の行事とのからみからこの時期しかないとして行っている事業であります。体育委員は5月頃よりプログラム検討や役割分担決定等の準備に入り、当日の運営には体育委員以外に地区の体育指導員、体協役員の方が加わります。又、地区在住神明中2年生ボランティアも競技審判等の貴重な戦力となっております。前日の準備は公民館運営協議会の理事の皆さんも一緒に行きます。

近年、少子高齢化の波が当地区にも押し寄せておりまして、平成21年度は地区対抗競技種目を減らし、高齢者向けの種目たとえばスプーン競争等を増やしました。又、最も盛り上がる最終種目の“子どもリレー”については、参加児童集めが困難地区が出てまいりまして本年度は2つの自治会で合同チームを編成して出場するという苦肉の策で対応いたしました。こうした子ども関係・高齢者関係種目については根本的な対応が迫られているのが実情であります。運営はこのように厳しくなっているのですが、南御厨地区の多くの方が集って自治会単位で競い、そして競技に参加して親睦を深めるような事業はこの体育祭しかありませんので、“意義ある事業は続けていく”精神で工夫・改善をして継続させていきたいと考えております。



綱引きの優勝だけは渡せない！
大型ブラジルパワーでのぞむ 県営チーム圧勝

その他の事業としては、地区球技大会として次の種目を自治会対抗の形式で行っています。

1. 10月初旬 地区ソフトボール大会
2. 1月中旬 地区ソフトバレーボール大会(混合)
3. 2月中旬 地区インディアカ大会(混合)

又、東部ブロック球技大会は、田原・西貝・御厨・南御厨の4地区の当番地区制により行っております。

1. 6月 親睦インディアカ大会
2. 7月 親睦ソフトボール大会
3. 8月 親睦婦人ソフトバレーボール大会

尚、高齢化と比例して盛んになっているグラウンドゴルフについては東部ブロック自治会主催による交流大会が平成20年度より行われており、第2回の本年度は120人が参加して12月2日(水)リバーサイドゴルフ場で行われましたことを添えさせていただきます。

“健康”はいつの時代であっても重要なテーマであり、体育部が主管する事業ではなくとも日々の公民館等を利用してスポーツにいそしむことは“健康づくり”として、また“親睦を深める”手段として大切なことですので、そうした活動を促進し協力してまいります。

田原地区体育部

田原地区の体育部の活動は、本地区の自治会（三ヶ野、明ヶ島、明ヶ島団地、東部台団地、八大団地、西島、玉越）の体育委員で構成される体育部と公民館、地区社会福祉協議会の三者が協力し合い、計画・準備・運営・評価などにかかわり、非常に良い状態で機能しています。

その顕著な例が三世代運動会です。親・子・孫が運動会に参加し、自治会対抗戦の形で競技を行っています。以前は競技ごとの順位に得点をつけ、最終的に総合得点を競っていたこともありましたが、少子高齢化が進み、自治会によっては年代別の参加選手を揃えることだけでも困難な状況になってきたため、総合得点を競うことはなくなりました。

田原地区の運動会の特徴として、次世代を担う中学生に積極的に三世代運動会に参加してもらうだけでなく、運動会を大人の体育委員らと共に運営してもらおうということが挙げられます。おじいちゃん、おばあちゃんの世代や、親の世代、更には自分たちより年齢が低い世代の人たちと主体的に関わってもらうことで、地域の構成員としての自覚を持ち、行事の運営を遂行することで責任感を養い達成感を感じてもらっています。

平成20年度は、体育部の中に実行委員会を作り、運動会を盛り上げようとする熱意が高まったことで大勢の参加者になりました。前日のリハーサルが功を奏しスムーズな進行がなされました。中学生は自分の担当を的確にこなし、特に放送担当の女子中学生は飛び入りダンス等で運動会を盛り上げてくれました。

競技の中でも「三世代リレー」は、年代を超えてバトンを受け継ぎ、地区対抗戦の形で走り抜く姿は圧巻でした。最近は前述のように少子高齢化、核家族化の影響でこのリレーは継続を難しくしていますが、時代が進んでも三世代運動会は田原の伝統であり、この名前はずっと継承されていくことでしょう。

体育部が関わる行事としては、各自治会住民の親睦を図るために参加しやすい自治会対抗形式の競技が長年いろいろと検討され、平成年代に入り以下のような内容にほぼ固定化されてきました。

- ①ソフトボール大会（男性）
- ②ソフトバレーボール大会（女性）
- ③インディアカ大会
- ④三世代運動会

- * 東部地区インディアカ大会
- 東部地区ソフトボール大会
- 東部地区バレーボール大会

* 御厨、南御厨、西貝塚、田原の4地区
更に平成21年度はグラウンドゴルフ大会、ミニサッカー大会を予定しています。

東部地区の各大会には①～③の成績上位チームに出場権が与えられるため、地区住民の親睦を大切にしながら、東部地区への進出を目指して、好成績を挙げようと選手も応援する人も熱く燃え上がります。そして地域の仲間の輪が広がり、技と根性が醸成され観客にも心打つものが生まれます。



平成20年度運動会でのウォーキング講習会

「スポーツクラブたはら」は昭和50年に「田原サッカースポーツ少年団」として発足し平成21年で34年目を迎えました。平成19年には日本体育協会認定の総合型地域スポーツクラブとなり多種目、多世代、多志向を目指すスポーツクラブに再編成されました。更に平成20年11月にはNPO法人を取得して従来以上の幅広い活動を展開することとなりました。

平成21年度の活動内容の一例としてシニア健康体づくりのプログラムがスタートし、ヨガ教室、健康体操、シニアナイターサッカー、健康相談会などが補助金を活用して無料で約半年間展開する予定となっています。磐田市委託のトレーニングマシンを備えたトレーニングハウスの利用者も多く、また5月からは活動の拠点となる地区のグラウンドが芝生化され、グリーンの濃さが日増しに強くなっています。併せてナイター照明も14灯になり夜間でのスポーツ活動も可能となり、健康で明るい地域社会を実現するための土台が整ってきています。

南地区体育部

- 1 サークル加盟チーム数 26サークル
・同上加盟人数 549名
- 2 南地区自治会体育部 16自治会
・部員52名(含指導員・専門部・本部)
・代表者 寺田 和弘
・創立年 昭和54年4月

3 組織

概要

(1) 種目別サークル数

(卓球6・インディアカ5・サッカー4・
バレーボール3・ファミバドミントン2
健康体操3・野球1・スポーツ吹矢1
バドミントン1)

(2) 南地区自治会体育部組織

- ①本部役員4(16自治会でのローテーション)
②体育協会理事1(南地区からの選出による)
③体育指導員(天竜地区2名・於保地区2名)
地区推薦により磐田市からの委嘱
④専門部(インディアカ2名・ソフトボール2名
卓球2名・バレーボール2名)
⑤各自治会部長(副部長)
天竜地区(10部長)・於保地区(6部長)
に加えて各自治会別に副部長。

(3) 各種会合

- ①総会(年度当初開催、役員・年度の事業計画承認)
②体育本部会(各種体育事業の事前打ち合わせ
大会準備・用具、会場等の確保等随時開催)
③部長会(南地区「体育のつどい」にかかわる事
前打合せ等)
④各種大会の抽選会(出場チームによる)
⑤役員全体反省会(年度末開催)
・年間の南地区体育活動の総括

4 現在の活動状況

※ 各種大会の紹介

① 「体育のつどい」H・21・5・24実施

南地区最大の体育イベントである「体育のつどい」は例年、9月第1日曜日に実施してきたが、昨年度と今年度は5月に実施した。

種目としては、パン食い競争・紅白玉入れ・綱引き・フォークダンス・防災リレー・順送球の6種目で実施し、得点種目等を競いあった。総参加選手数は988名、総役員数104名。

- ② 輪投げ大会
実施日・6月10日(日)
参加チーム・10チーム
優勝・千手堂・2位・上大之郷B
3位・北島
- ③ 男女混合インディアカ大会
実施日・7月8日(日)
参加チーム・16チーム
優勝・上大原B・2位・下岡田B
3位・上岡田
- ④ ソフトボール大会
実施日・10月28日(日)
参加チーム・10チーム
優勝・中野・2位・上大原
3位・北島
- ⑤ 卓球大会
実施日・11月18日(日)
参加人数・35名
成績優秀者・ブロック毎に優勝者表彰
- ⑥ ファミリーバドミントン大会
実施日・12月9日(日)
参加チーム・11チーム
優勝・大和田M I X
2位・上大原A・3位・上大原C
- ⑦ ソフトバレーボール大会
実施日・2月17日(日)
参加チーム・12チーム
ブロック毎の優勝者
1ブロック・豊島
2ブロック・浜部M
3ブロック・千手堂A

【註】実施会場は種目に応じて、南公民館
南部中学校・静岡産業大学にて実施。

・上記②以下は昨年度、南公民館耐震工事のため前年度実施分を記載。

『南地区「体育のつどい」』

「パン食い競争」の1スナップ



中泉公民館（自治会中泉地区）

磐田市中泉2404-1

- ・加盟チーム数 中泉地区 26町
- ・代表者 地区長 金原 一衛
- ・事務局 中泉公民館 山下 六機
- ・創立年 昭和59年

【組織】

昭和59年4月、中泉公民館新設オープン。

公民館運営のため中泉公民館振興会を組織し、コミュニティ推進部、青少年健全育成部、スポーツ振興部、文化振興部の各部を立ち上げた。

スポーツ振興部は、地区スポーツ活動の振興と体力づくりを目標とし、ソフトボール、バレーボール、ゲートボール等の大会を実施してきた。

平成3年には社会体育指導員4名、体育協会地区委員1名を中心に、各自治会より選出された体育部委員で組織を強化した。

平成5年、グラウンドゴルフ、インディアカ、ソフトバレーボール等のニュースポーツを普及させる為、大会も行ってきた。また、学校5日制に伴い、児童生徒が家族と共にスポーツを通じて触れ合える場として、バドミントン、卓球大会等も行ってきた。

平成7年には史跡巡り健康ウォーキングを実施し、地区内の史跡を巡り郷土の歴史や文化を見直す良い機会となったが、然し何れも徐々に参加者が少なくなり臆て中止となってしまった。

中止に伴い当初立ち上げた各組織も有名無実となり、臆て消滅してしまった。

【現在の活動状況】

現在活動推進の中心母体は、各自治会より1名ずつ選任されている「中泉地区活動推進員」により、スポーツ活動を中心に自治会の定例事業として実施、定着されている。

① ソフトボール大会

自治会毎のチーム構成で、例年8～10チームが参加している。

各チーム共人集めに苦労しているが、根強い愛好者も又多い。

② グラウンドゴルフ大会

高齢者を中心に愛好者が多く、成功裏に行われている。

従来、夏期夜間に開催されてきたが、高齢者の交通安全より秋の日中に変更していきたい。

昨年度は、61名が個人参加。

③ ソフトバレー大会

例年5～7チームが参加。

自治会単位の参加ではなく、同好者の混成チームで編集参加。



福田地区

(平成17年4月1日から現在)

平成17年4月の磐南5市町村の合併で福田町体育協会が発展的解消をし、NPO法人磐田市体育協会福田支部となり活動を開始、支部役員は、旧福田町体協役員が継続し、平成19年度まで同体制で対応いたしました。

- ・副会長 三ツ谷 金秋
- ・副理事長 相場 良造
- ・理事 田中 公仁
- ・理事 本間 郁朗
- ・理事 寺田 廣之

○ 福田支部活動

平成17年度

- ・第8回ジュビロ磐田メモリアルマラソンへの協力
- ・第25回福田駅伝大会主催
- ・他支部主催事業への協力

平成18年度

- ・第1回ふくてくウォーキング主催
- ・第9回ジュビロ磐田メモリアルマラソンへの協力
- ・第26回福田駅伝大会主催
- ・他支部主催事業への協力

*平成19年度より名称が支部から地区に変更し、福田地区となる。

○ 福田地区活動

平成19年度

- ・第2回ふくてくウォーキング主催
- ・第10回ジュビロ磐田メモリアルマラソンへの協力
- ・第27回福田駅伝大会主催
(磐田地区と合同開催)
- ・他地区主催事業への協力

平成20年度役員改選により、新体制となる。

- ・副会長 三ツ谷 金秋
- ・副理事長 西島 温行
- ・理事 大庭 常道
- ・理事 寺田 廣之

*平成21年4月 副理事長 西島温行が公職に就き辞任。新副理事長に寺田 光が就任した。

平成20年度

- ・第3回ふくてくウォーキング主催
- ・第11回ジュビロ磐田メモリアルマラソンへの協力
- ・他地区主催事業への協力

平成21年度 予定

- ・第4回ふくてくウォーキング主催
- ・第12回ジュビロ磐田メモリアルマラソンへの協力
- ・他地区主催事業への協力

平成21年度 福田地区 社員構成12名

以下の方々です。

- ・三ツ谷 金秋
- ・相場 良造
- ・寺田 廣之 (剣 道)
- ・大庭 常道 (ソフトボール)
- ・真田 章好 (ソフトボール)
- ・田中 公仁 (ソフトボール)
- ・大石 正之 (卓 球)
- ・本間 郁朗 (卓 球)
- ・鵜飼 知行 (卓 球)
- ・加藤 健次 (バスケットボール)
- ・寺田 明夫 (陸 上)
- ・落合 雄三 (サ ッ カ ー)

竜洋地区

「旧市町村の体育協会の合併」

「旧竜洋町」は、平成17年4月の1市3町1村の“平成の大合併”をもって、新しい「磐田市」となりました。

同様に各市町村の体育協会も4月1日付けをもって“対等合併”をして、新しく「NPO法人磐田市体育協会」となり、「竜洋町体育協会」も50年目ををもって発展的終焉を迎えました。

「17年度の竜洋支部」

体協組織の“合併協議”の中で、旧市町村の体育協会の組織的位置付けは「支部」とする、と決められており、旧竜洋町体育協会は「NPO法人磐田市体育協会竜洋支部」と生まれ変わりました。

「NPO法人磐田市体育協会竜洋支部」の役員としては、支部長 松下 孝、副支部長 山下安範・石田昌宏・大庭安一、そして社員として保科雅之、白井彰、上田靖彦、坂口弘和、大石成志、平田朗、古田政美、鈴木芳樹、大庭隆一、鷹野洋一、鈴木和夫、安達紘、深沢和彦、村井嘉平、鈴木達也、袴田真吉、佐藤文俊、鎌田要之助の22名が名を連ねました。

また、“竜洋支部”の組織としては、旧竜洋町時代の体協組織を踏襲して、竜洋地区内の地域スポーツ活動の実行部隊としました。

地域スポーツ行事として「第42回竜洋地区水泳大会」「第47回竜洋地区駅伝競走大会」、そして「健康マラソン」を開催しました。

「18年度の竜洋支部」

“地域スポーツ”は、運営する組織と費用が必要であるが、幸いにも竜洋支部としては「第43回水泳大会」や「第48回竜洋駅伝競走大会」を継続開催をする事が出来ました。

この年8月、磐田市は平成20年4月をもって「指定管理者制度」を導入し、市内スポーツ施設を民間業者に委託をする事が決まりました。

「19年度の竜洋地区」

「指定管理者制度」が導入された場合、竜洋地区内の地域スポーツ活動の中心的役割をもっていた“B & G 海洋センター”の機能が失われ、地域スポーツを支える母体が無くなる。

その問題に対処する為に、地域スポーツに関して

「体協竜洋支部」が実質的に全面に立つ事となりました。さらに地域スポーツを恒久的に運営する為に“総合型地域スポーツクラブ”を検討する事としました。

「20年度の竜洋地区」

平成20年4月、スポーツ施設の指定管理者が決まり、地域スポーツの歴史としては新しい時代を迎えました。

また、11月に正式に自治会連合会、学校関係、子供会、磐田市体協、磐田市、体育指導員、住民代表、体協竜洋地区、等の人達を迎えて「竜洋スポーツクラブ設立準備委員会」を発足しました。

豊田地区

【平成17年度から18年度】

平成17年4月、1市3町1村が合併し新しい磐田市が誕生しました。と同時に各市町村の体育協会も4月1日をもって対等合併をし、新しくNPO法人磐田市体育協会となり、旧豊田町体育協会も発展的な解散となりました。

そこで、27名の社員を募り5名の理事を推薦し新しい体育協会に参加、豊田支部に生まれ変わりました。これからの支部をどのように考えた末、今までであった会長氏名理事（総務委員会）と22行政区の体育部で対応することにしました。会長氏名理事を3つのグループに分け、体育部を1つのグループとし、4つのグループで活動を始めました。

当初は一気に合併ではなく、ゆるやかな合併がうたわれていたので、今までの自分たちの考え方を再確認しました。旧豊田町の体育協会には競技団体のための体協、町民のための体協という二つの顔がありました。競技団体は解散し、新しい競技団体に加盟したため、体協が主催してきた事業について考え、完全合併になるまでの間、今までの考え方で進めていくということを再確認しました。

主たる行事は元旦マラソン、長藤マラソン、車椅子ツインバスケットボール大会、豊田地区駅伝大会、熊野の里ウォーキング、スポーツスクールなどでした。ウォーキングについては平成18年よりいかまい磐田100^{キロ}ウォーキングとなりました。

【平成19年度から平成20年度】

平成19年度より今までの支部が「地区」に変更となりました。今までの地域色の濃い行事が整理されてきました。そこで今までの支部組織を見直すことにしました。

22あった行政区の体育部も自然解消し、かつてのように機能しなくなってしまい、組織の誠編成をせざるを得ないことになったわけです。

そこで、3人の副地区長をチーフとして会長指名理事を6つに分け、2グループを配置し、残り少なくなった体育部をひとまとめにし、地区所属の団体4つをまとめることにしました。

車椅子ツインバスケットボールも長藤マラソンも実行委員会ができ実施されるようになりました。豊田地区で行ってきた主な行事も新体協に受け継がれ盛んになってまいりました。

平成20年になり、各種行事に地区として対応する

のに問題が生じてきたのでお連絡網を新しく作り直し、現在に至っています。また豊田地区体協の拠点であったアミューズ豊田の新しい指定管理者が決まったことも再編成の要因ともなりました。アミューズ豊田のスポーツ施設の指定管理者は変わりましたが、今まで以上に親切に対応していただき深く感謝しております。

豊田地区長	鈴木 康之	
副地区長	水野 貞男	佐藤 康夫
	守屋 勝治	
地区長指名	清水 万大	寺田 悦
	佐川 正治	鈴木 光男
	八木 伸一	平野 勝典
	山下 一夫	雪嶋 省五
	松井 良子	寺田 晴男
	芥川 栄人	高橋 正巳
サッカー部	井上 隆志	
マラソン部	沢 昭夫	
グラウンドゴルフ部	鈴木 貢	
スポーツ少年団代表	高田 欣洋	
体育部代表	広幡喜代輔	
ソフトボール親睦会	和田 収介	
豊田卓球クラブ	大橋 寛二	
豊田健友クラブ	高田 静彦	
豊田バドミントンクラブ	深津 直宏	
バレーボール部	青島久美子	
ゲートボール部	永田 昭男	

豊岡地区

(平成21年8月現在)

加盟競技団体 13団体

加盟人数 550名

組 織

野球部会 剣道部会 ゲートボール部会 ソフト
ボール部会(本部加盟) インディアカ部会(本部
加盟) スポーツ少年団 野球部会(2部会) 剣道
部会(2部会) 豊岡MBC(女子ミニバスケット
部会) 磐田豊岡JFC(サッカー部会) 豊岡JV
C(女子バレーボール部会) 陸上教室部会

地区長 小出幸雄

理事 掛井鉄也

理事 佐藤智洋

理事 松島正司

主催大会の紹介

☆ 各競技団体の試合、大会

☆ 豊岡地区スポーツフェスタ新設(駅伝豊岡大
会終了)

☆ 平成18年度より、いかまい磐田100kmウォー
キング(とよおか里山ウォーク)

第32回まで続いた豊岡駅伝大会だが、平成21年度に
入り、少子高齢化に伴い自治会単位でのチーム編成
ができなくなり平成20年度を最後に終了となる。

豊岡地区スポーツフェスタが駅伝豊岡大会に変わる
行事とし、豊岡地区、各自治会代表者と立案。誰も
が参加できるスポーツ大会を実施。

いかまい磐田100kmウォークについて(各地区最長
20km×5=100km)

平成18年より旧5市町村をより良く知るために、
1年間を通して、ウォーキング大会を実施・5月
竜洋地区、9月福田地区、10月磐田地区、11月豊
岡地区、次年3月豊田地区、各地区6km 12km
20km 観光コース8km(各地区設定地発着)を開催。
豊岡地区は豊岡総合センター屋内競技場前発 →
〈各チェックポイント地点〉花咲乃庄 → 豊岡
駅 → 豊岡梅園 → 獅子ヶ鼻公園 → 敷地
駅 → 第2東名橋脚下 → 採れたて元気村
→ 豊岡総合センター屋内競技場着(平成21年現
在)というルートで実施。

特記 東海道400年祭～第1回静岡県市町村対抗駅
伝競走大会(平成12年)～に参加
県内各市町村相互のさらなる交流の促進、県
民意識の高揚、県民スポーツの振興をはかる
と同時に、国体選手の強化、本県長距離選手
の発掘・育成・強化を目的とする。
静岡県74市町村参加、県庁本館前をスタート
→静岡市清水の興津清見寺を折り返して県営
草薙陸上競技場のゴールをめざす42.195kmに
豊岡村出場。

第1回大会(平成12年11月23日)

町村の部 第6位 時間 2時間29分51秒

第2回大会

町村の部 第16位 時間 2時間30分20秒

第3回大会

町村の部 第15位 時間 2時間30分15秒

第4回大会

町村の部 第24位 時間 2時間30分50秒

第5回大会(平成16年12月4日)

町村の部 第5位 時間 2時間25分04秒

第6回大会(平成17年12月3日)

町村の部 第10位(磐田市豊岡)

時間 2時間28分05秒

第7回以降磐田市チーム出場

一般磐田市スポーツ少年団

富士見スポーツ少年団

団員数 28名
代表者 村田 将
創立年 1974年

【組織】

今年創立35周年。
静岡県軟式野球連盟磐田支部所属の少年野球チームです。

本球団は野球というスポーツを通して
「他を思いやる心、チームワークの大切さ」
「目標を持ち、それに向かって努力する厳しさと達成した時の喜び」
「何事にもへこたれない強い心身」
「野球の基本技術の向上」
を目指すことを目的に活動しています。

H21年度 役員紹介

会長	津川 成之
団長	村田 将
団長補佐	寺井 啓高
監督	大石 竹仁

【現在の活動状況】

練習場所 東大久保グラウンド
土曜日 7：45～12：30
日曜日 7：45～16：00

年間の主な公式戦は、上級生は春の磐田大会、各地区大会への遠征などで、この他にもオープントーナメント戦などにも出場しています。下級生はTボール大会やスーパージュニア大会などに参加し、楽しみながら野球を学んでいきます。

また団の親睦会として夏の遠足やクリスマス会、卒団式、卒団旅行なども行われています。



東大久保グラウンドにて
(H21年6月27日撮影)



文部科学省認可

磐田空手道スポーツ少年団

社団法人日本空手協会磐田支部

道場名称 志道館
 支部設立 1959年（昭和34年）
 所在地 438-0803
 磐田市富丘786-1
 磐田バイパス豊田東 I C 北側西200m
 0538-32-4325

稽古時間

火曜日 子供19:30~20:30一般継続~21:30

木曜日 子供19:30~20:30一般継続~21:30

日曜日 10:30~12:00

右上 故神谷副会長を囲んで

右中 スチーブン・J・ペラミー5段（UK）と故寺田指導員

右下 稽古風景



支部長



会長



指導部



支部役員

会 長 前島教次（県本部会長）
 顧 問 鈴木堅司 鈴木雅博
 支 部 長 密岡恭之
 副支部長 木村浩一
 事 務 局 永見基金
 指導部長 高橋征史
 指 導 部 細井憲一 寺田次伺
 今井政明 石野和幸
 鈴木泰史

磐田支部概要

昭和34年9月創立 同年11月磐田市体育協会加盟
現スポーツ少年団加盟

文部科学省認可 日本空手協会所属 武道空手
（松濤館流）稽古日（火）（木）（日）

現構成 指導員7名 一般会員10名 年長~中2
30名（うち女子8） 入会見学随時

新田野球スポーツ少年団

加盟人数 46名
代表者 佐藤 繁
設立年 昭和53年

チーム紹介

新田野球少年団は昭和53年、当時旧福田町新田地区で子供会ソフトボールの延長として少年野球チームを創設しました。

創設後31年経過しましたが、今では福田地区全域より46名（平成21年8月現在）小学1年生より6年生までの子供達が週2回の練習、試合と明るく楽しく元気よく活動しています。



初練習での全体写真

新田野球少年団では子供達は日々の練習や試合を通して技術の向上や心身の鍛練ばかりではなく、フェアプレイの精神や責任感を育て、チームワークの大切さを学ぶことをモットーとしています。



はましん杯準優勝での記念写真

また、他チームとの友情を深めるために交流会などを行っています。各種大会にも多く参加し、優勝めざして日々練習に努力しています。



福田支部交流運動会で

そして野球だけではなく、全団員参加の1泊の合宿、レクリエーション、食事会、卒団旅行なども実施しています。

活動は父母会を中心に行っており、親子共通の話題で家庭内での触れ合いも大切にしています。

活動場所は磐南聖苑グラウンドで土、日、祝日午前8：30から練習を行っております。

見付北クラブスポーツ少年団

監督 小林 茂樹

創立年 1976年（昭和51年）

見付SSとして創立

1992年（平成4年）

北星パワーズと合併し現在の名称となる

団員数 6年生 10名 5年生 5名

4年生 6名 3年生 6名

1年生 1名 合計28名

代表者 山下 雅弘

【スポーツ少年野球団組織】

スポーツ野球少年団は、将来の日本を担う青少年がスポーツを通じて健やかに、且つ調和の取れた「からだ」と「こころ」の成長を遂げられるように、1962年（昭和37年）に創設された組織です。

【野球の魅力】

プロ野球選手のほとんどが小さい頃から、取り組んでいます。

無限の可能性を秘めた子供達が野球の事を全く知らない状態で入団しても数年経てば試合で活躍しています。当団の練習は厳しいと思いますが、それは子供達が勝負の世界に身を置いているこそからです。イチロー選手等目指して、子供達は夢中になって白球を追い掛けて欲しいと思います。

【見付北クラブ紹介】

◇活動日 土曜日・日曜日 ※祝祭日も行う場合があります。

◇活動時間 AM 8時30分～PM 17時まで ※季節や日程により変更あり

◇活動場所

専用グラウンド又は磐田北小学校 ※専用グラウンドは桶ヶ谷沼北側グラウンド

◇会費 1・2・3年生 2,000円/月

4・5・6年生 3,000円/月

◇平成21年度戦績

春季大会 準優勝

学童磐田予選 準優勝

選抜中遠広域大会 優勝

選抜磐田大会 準優勝

◇今後の目標

野球をやっていく中で勝ち・負けは発生するけれど、その中でも勝った喜び、負けた悔しさをバネにして一人間としての成長をしていてもらいたいと思います。



第27回中遠広域少年野球大会



第31回選抜学童磐田大会集合写真

磐田スモールキング野球スポーツ少年団

団員数 28名
創立 昭和54年
組織 : 会長 (青島安宏)
: 団長 (鈴木俊夫)
: 監督 (竹下良道)
: コーチ (江塚 悟)
: コーチ (寺田克浩)
: マネージャー (佐山文彦)

●活動状況

- ・野球の経験のない子どもでも基本から丁寧に教えます。
- ・練習だけでなく大会や練習試合も経験できます。
(土)(日)
- ・(水)(木)は19:00~21:00までナイター練習。
- ・団員ならびに保護者相互の親睦を深めるため希望者対象に諸行事が計画されます。

●年間行事

- * 元旦のつどい (初練習)
- * 冬のレクリエーション
- * 夏のレクリエーション
- * プロ野球ナイター観戦
- * ボウリング大会
- * クリスマス会
- * 卒団式など



●近年の成績

低学年 (1~4年)、高学年 (5~6年)

学童少年野球静岡県下約300チーム

【平成19年】

高学年: 春季大会優勝、中遠広域大会準優勝、ジュニア県大会出場

低学年: 若鷹大会優勝、スーパージュニア県大会出場

【平成20年】

高学年: 春季大会優勝、JA共済県大会準優勝
黒潮旗県大会準優勝、ジュニア県大会優勝

【平成21年 (今年)】

高学年: 全日本学童県大会 3位

(8月に東海4県の大会に出場決定) 成績は一部です。



中泉クラブスポーツ少年団

団員数 38名
代表者 佐野 安紀
創立年 昭和54年5月

【組織】

役員

会長：佐野安紀
副会長：水野博人
相談役：金原市衛
企画：栗原義弘
事務局：勝田昌司
父母OB会長：鈴木喜文
母親の会会長：江間綾子
母親の会顧問：宮地真美
母親の会顧問：山下しほみ

監督・コーチ

監督：松井隆雄
コーチ：寺田成吉
コーチ：山中威人
コーチ：岩田雅史
コーチ：江間和人
コーチ：山下益且
父兄コーチ：京橋忠資

【活動状況】

- ・練習場所 かぶと塚G、農大G
- ・練習日時 毎週土曜日（8：00～13：00）
毎週日曜、祝祭日（8：00～15：00）
- ・ナイター練習 各学年毎あり
月曜～金曜 19：30～21：00

昨年、創立30周年を迎えました。

1979年に小学生の軟式野球クラブとして発足。プロ野球の広島東洋カープで活躍する林 昌樹投手を輩出するなど、卒団生は230人余りを数えるほどになります。

現在1～6年生、38名が所属し、かぶと塚公園グラウンドを中心に日々練習に励んでおります。

中泉クラブの野球は、感動野球です。野球を通じて、仲間を思いやること、仲間を信じること、礼儀など数多くの人として大切なことを教わり心と体を鍛えて、野球に取り組み子供たちのプレイする一瞬一瞬に感動する、素晴らしい野球チームです。

30周年を迎えて今後も伝統継承していきます。



浜の子パワーズスポーツ少年団

団員数 21名
代表者 伊藤 弘 (監督)
創立年 平成元年4月

【組織】

・組織の概要

〔指導者〕

- ◇団長：伊藤 正次
- ◇監督：伊藤 弘
- ◇ヘッドコーチ：浅井 哲
- ◇コーチ：伊藤 一晴 ほか12名
- ◇学年代表：(5年生・4年生以下)

〔父母会〕

- ◇会長1名 — 副会長2名 — 会計1名 — 事務局1名
- ◇母親の会 会長1名 — 副会長2名



【現在の活動状況】

・浜の子パワーズスポーツ少年団は、野球を通じて、礼儀を重んじ、健全なる精神の養成を図るとともに、野球の奨励発展と会員相互の親睦融和を図っています。

〔目的〕

- ①正しい野球の発展、向上を目的とする。
- ②健康で体力のある身体をつくる。
- ③何事も最後までやり遂げる心を育てる。
- ④お互いに協力しあう心を育てる。

〔事業と活動〕

上記目的達成のため次の活動を行っています。

- ①野球の技術向上と心身鍛錬のため、練習及び試合を行う。
- ②各連盟の主催する大会に参加する。
- ③その他、レクリエーション活動を行う。

・平成21年度活動状況

今年度は、人数こそ少ないチームですが、「あいさつのできる子」・「チームワークの大切さ」・「最後まで諦めない粘り強い子」を合言葉に活動を行なっています。

《主な戦績等》

- 5月 全日本学童県大会出場
- 6月 清水大会 第3位
- 7月 夏季合宿 (御前崎市)

・今後の目標や展望

現在の目標は、県大会 (黒潮) 出場権の獲得。

大会等を通じて野球の醍醐味を味わい、将来 (中学生以降) も野球を楽しめる野球少年を育成していきたい。また、同じ目標に向かって努力し、悔しい涙を流したり楽しく野球ができる仲間を増やしていけたらと思っています。

福田バレーボールスポーツ少年団

加盟人数 【2009年8月現在17名】

代表者名 【小野田孝好】

設立年 【1995年4月】

☆沿革

1995年4月

福田本町スポーツ少年団バレーボール部として発足。

1996年4月

静岡県小学生バレーボール連盟に登録。

1997年4月

福田バレーボールスポーツ少年団に改称。

創設以来、福田小学校と豊浜小学校の児童が入団。中学・高校で全国大会への出場を果たす卒団生多数。

☆主な戦跡

2001年 全日本小学生大会県大会ベスト8

2002年 全日本小学生大会県大会準優勝

東海小学生大会出場

県民スポーツ祭町村の部優勝

2004年 県民スポーツ祭町村の部3位



☆練習

- ・練習日…毎週月曜日、水曜日、(土曜日)
- ・時間…19:00～21:00 (8:30～12:00)
- ・会場…福田小学校、豊浜小学校他
- ・団員募集および入団受付…随時
- ・問い合わせ先…代表者(小野田)まで

☆福田大会の開催

団創立2年目に「団の立ち上げの際に、お世話になった近隣チームの皆さんへ恩返ししよう。」と開催した大会。現在では「選抜大会」として、全日本小学生西部予選でベスト8に入ったチームを中心に、団の運営や指導で見習うべき点の多いチームに集まっています。

参加チーム数は、16チームとし(5年生の部は8チーム)これ以上規模を大きくすることはせず大会レベルを高く保ちたいと考えています。選手に思う存分プレーしていただきたいとの思いから全試合3セットマッチで公式大会同様の競技進行を目指しています。

終了時間が遅くなることもありますが、参加チームの皆さんのご理解で、例年、熱戦が繰り広げられます。

(写真は2008年度大会6年生の部開会式)



☆団の方針

バレーボールを通して心身ともにたくましく礼儀正しい児童を育成するよう、指導者と育成会が一丸となって取り組む。

福田ベースボールクラブスポーツ少年団

加盟チーム数 1チーム
加盟人数 40名
代表者 杉浦 聖
創立年 平成8年4月

【組織】

当団は、少年スポーツの継続性の確保と中学生の健全育成を目標に、平成8年に発足し、この13年間で約170人の卒団生を輩出しました。

団発足と同時に父母会を組織し、団活動を支えてきました。父母会役員は、会長、副会長、会計からなり、それぞれ最終学年の父母が就きます。

また、団の代表者として、平成8年の発足以来、杉浦聖代表が就き、団活動を先導してきました。

当団が主管する大会は、クラブ交流中学野球福田大会で、本年度の大会で13回目を迎えました。その間、優勝5回、準優勝3回、第3位3回と優秀な成績を収めています。



第13回クラブ交流中学野球福田大会準優勝のメンバー

【現在の活動状況】

野球競技の魅力は、何といてもドラマ性にあると思います。

たった1球、あるいは1プレーで局面が変わり、ピンチになったりチャンスになったりします。また、誰でもヒーローになれるチャンスがあるのも野球という競技の特徴です。得点が余り入らない中学野球ではその傾向が顕著です。ルールが複雑で頭を使う競技でもありますね。

当団の活動状況は、週2回の夜間練習と休日昼間の練習試合あるいは練習が中心です。部活動と団活動は互いに協力関係しあって相互補完しています。

今年の成績は、7月4日現在で40勝23敗で勝率は0.635と健闘しています。現在、3年生最後の大会である中体連大会の県大会出場を目指して毎日汗を流しています。

特に目立った選手はいませんが、堅い守りと積極的な走塁で活路を開くのが当団の野球です。

当面の目標は、中体連大会の県大会出場ですが、大きな目標は、全国大会出場です。選手もその大きな目標に向かって日夜努力を重ねています。

団発足から14年目を迎え、年々活動内容も充実し、成績も上昇しつつあります。今後は、さらに組織を強化し、団の理念である「少年スポーツの継続性の確保と中学生の健全育成」を希求する中で、野球の楽しさ面白さを子供達に伝えていきたいと思っています。



磐田南クラブスポーツ少年団

加盟人数 14名
代表者 鈴木 孝佳
設立年 昭和56年

チーム紹介

昭和56年、南スポーツとして発足し、南クラブと名称変更してから13年目を迎える少年野球チームです。

団員は2年生から6年生まで全14人、「一致団結」「全力プレー」をモットーに練習に励んでいます。

今年度は1試合でも多く勝つことを目標に、打撃・守備・投手力それぞれの向上を図るべく日々練習に精を出しています。

また、練習ばかりではなく、お花見、バーベキュー、ボウリング大会、旅行などのレクリエーションも多数取り入れリフレッシュを図ることにより、より一層のチームワークの強化にも努めています。

練習は毎週土・日曜日の9:00から16:00（3年生以下の低学年は日曜午前中のみ）まで、主に磐田南小学校で行っています。



磐田南小にて



毎年恒例の初日の出（鮫島海岸）



新入団員を迎えて（入団式：磐田南公民館）



思い出の夏の旅行（富士山五合目）

NPO法人スポーツクラブたはら（田原フットボールクラブスポーツ少年団）

加盟人数 150名（50名）
代表者名 NPO法人スポーツクラブたはら
理事長 鈴木 莞爾
設立年月 平成20年10月
（昭和50年）

【組織】

スポーツクラブたはらは、昭和50年に設立したスポーツ少年団をスタートに、その後平成3年フットボールクラブとして再編成したサッカークラブを母体に、平成17年から2年間の準備期間を経て平成19年3月に総合型地域スポーツクラブを設立し、平成20年10月にはNPO法人を取得して現在に至っている。

磐田市の田原地域を中心に、地域スポーツの振興を図るとともに、青少年の健全育成、地域住民の親睦及び、心身の健康の維持・増進を図るため各種事業を行っている。

田原フットボールクラブは、スポーツクラブたはらの傘下でジュニアのサッカーチームとして、小学生2年から6年生を対象にサッカーを主体にスポーツ活動を行っている。



田原FC 低学年サッカー練習

【現在の活動状況】

平成21年7月現在

- 1) スポーツクラブたはら構成チーム
田原フットボールクラブジュニア
田原フットボールクラブジュニアユース
田原フットボールクラブ社会人
田原フットボールクラブレディース
田原フットサルクラブ
田原グラウンドゴルフクラブ
- 2) 活動事業
サッカー・フットサルクラブ活動
毎週土・日曜日
グラウンドゴルフクラブ活動
毎週火・木曜日
わんぱくサッカースクール
幼 隔週火曜日
小1・2年 毎週水曜日
小3・4年 毎週金曜日
小5・6年 毎週水曜日
卓球教室 毎月第1・3火曜日
(シニア体力アップステーション事業)
ヨガ教室 毎週水曜日
健康相談会 随時
(市委託事業)
トレーニングマシンを使った体力づくり事業
女子サッカー普及事業
- 3) 今後予定している事業
健康体操教室（シニア体力アップ事業）
タグラグビー教室

豊田ジュニアフットボールクラブスポーツ少年団

創 部 西暦2003
代 表 者 寺田 義則
コ ー チ 中場 英樹 村上 雄亮 佐野 伸男
梶原 輝紀 原 拓也

部員数 1年～6年 60名
チャイルド 7名
(男4 女3)
スクール 7名
ユース 7名

活動日 火曜日
・1年～3年 19時～20時
・4年～6年 20時～21時
土曜日
・チャイルド
9時～9時50分
・1年～3年
9時30分～10時30分
・4年～6年
10時30分～12時
スクール 木曜日
・チャイルド
15時～15時50分
・1年～2年
16時～17時
ユース 木曜日
(月4回～5回)
・19時～21時
都合により多少の変更あり

豊田ジュニアフットボールクラブは

- ① 子供達が楽しく真剣にサッカーができる環境
- ② 責任ある指導者による 質の高い練習環境
- ③ 父兄の皆様の負担を最小限に

この三つの考え方を柱に活動しているチームです



磐田北FC・POLARSTARスポーツ少年団

加盟人数 69名

代表者 瀬下 俊久

設立年 昭和56年7月

【年間行事】

- ① 全日本少年サッカー大会、とんぼカップ、トダックス杯U-10サッカー大会、HondaカップU-11サッカー大会等、各種大会への参加
- ② その他スポーツに関わるイベントへの参加

【活動紹介】

長年にわたり、スポーツを通じた青少年の健全育成を目的としたスポーツ少年団の理念に基づき、サッカーを中心とした活動を行っています。しかしながら、近年における生活環境の変化により、園児など低年齢層の運動能力の低下、成人のスポーツ実施率の低下や生活習慣病など、スポーツ離れによる健康への影響が心配される時代となりました。

そこで、2006年12月より総合型地域スポーツクラブを目指した『NPO法人スポーツコミュニティ磐田・ポーラスター』を設立し、地域のより多くの様々な人たちがスポーツを楽しめる環境づくりに取り組んでいます。

現在では、従来のスポーツ少年団活動の他に、幼稚園児から小学6年生までを対象としたサッカースクールや巡回サッカー教室。幼稚園児から中学生までを対象としたフットサルスクール。さらには、大人の個人参加型イベントや、家族みんなで楽しめるファミリー参加型のサッカー、フットサル、そしてビーチサッカーなどのイベントも開催しています。

また、サッカー以外のスポーツでは、タグラグビーを行っています。

今後は、多世代・多種目スポーツクラブとして新しいスポーツにもチャレンジし、大人から子どもまで全ての人が気軽にスポーツを楽しめる環境を目指して『サッカーのまちいわた』、『スポーツのまちいわた』としてスポーツ文化が発展するよう活動していきます。

これらの活動は、クラブ公式ホームページにて紹介しています。

HPアドレス <http://polarstar.jp/>



ヤマハジュビロSS磐田スポーツ少年団

会員数 1300名
代表者 田浦 美鶴
設立年 1984年

・組織の概要

ヤマハジュビロサッカースクール磐田（略称：ヤマハジュビロSS磐田）は、Jリーグに所属するジュビロ磐田を頂点に、強化・強化育成・普及育成の3部門からなり、ピラミッド型にクラブ組織が構成されています。そのクラブ組織の底辺である、普及育成を担当しているのがヤマハジュビロSS磐田です。

・主要大会の紹介

ジュビロカップ（中学生、春・夏・冬年3回）
U-12ジュビロカップ（冬 年1回）

・現在の活動状況

ジュビロSS磐田は、ジュニアユース（中学生）、ジュニア・キッズ（小学6年～年中）で構成され、一貫指導をしています。

子供たちにとって、サッカーの出会いの場所でもある当チームは、約25年の歴史を持ち、サッカーの普及・育成に努めてきました。多くの子供たちに、技術だけでなく、サッカーを楽しむ心と個性をはぐくむ指導をしています。

ジュビロSS磐田で育った選手が、やがてプロとしてJリーグや世界の舞台で活躍すること、そしてまた彼らが指導者や子を持つ親になったとき、サッカーやジュビロを愛する気持ちをその次の世代につなげてくれること。それが私たちの願いです。



豊岡JVCスポーツ少年団

代表者 新貝 洲一

豊岡JVCは創立10年目になる、バレーボールのスポーツ少年団です。

「バレーボールを通じた心と体の健全育成」を団の理念として、団活動を行っています。

チーム発足時は、なかなか勝てずにいましたが、近年は子供達や保護者の皆様の努力や頑張りで県大会出場や磐田市や西部バレー協会の大会で優勝出来るまでのチームへと成長しております。

豊岡JVCでは、西部トレセンに参加している、自分の能力をいかに発揮している選手もいますし、団員一人ひとりが仲間の為と皆で頑張り、団員一人ひとりがそれぞれに素晴らしい個性や能力を発揮してくれています。

しかしながら、ここ数年団員不足により、単独学年でチームを造ることが出来ませんが、6年生から3年生皆で力を合わせて頑張っています。

これからも、ますます地域に根ざした皆様に愛されるチーム作りを目指して行きたいと団員一同頑張っています。



磐田第一ジュニアフットボールスポーツ少年団

創 団 2001年4月
代 表 者 宮田 豊久

磐田西、中部小学区と市内の学区の幼稚園から6年生まで現在78名で磐田西小学校グラウンドにて4, 5, 6年中部小学校グラウンドにて幼稚園、1, 2, 3年の練習活動を行っています。中部小グラウンドは芝生です。

団員募集も随時募集も行っています。まずは体験練習を実施してから。

サッカーを親子で楽しんで。

問い合わせ

磐田第一ジュニアフットボールスポーツ少年団
少年団事務局 宮田 豊久

☎ 0538-32-4711
F A X 0538-33-5117
携 帯 090-3250-3598



ドリブル突破



やったー！！得点だ！



磐田東野球スポーツ少年団

団員数 37名

代表者 小池 桂三

設立 昭和62年9月6日
(1987年)

野球というスポーツを通じて、礼儀・挨拶の大切さ、仲間を大切に作る心を子供たちが身に着けています。

<年間行事>

・学童野球大会出場

6年生=県大会予選・各選抜大会

5年生=ジュニア大会・ライオンズ

4年生=スーパージュニア大会

ティーボール大会

・初日の出マラソン

・卒団旅行 など

<活動状況>

毎週土曜日・日曜日に東部小学校グラウンドを中心に練習

<優秀選手>

金原悠真 (横浜高校1年)

松下翔理 (掛川西高校1年)

後藤喬雄 (興誠高校1年)

<過去の成績>平成11年以降

平成12年 県民スポーツ祭県大会 優勝

平成12年 静岡県学童選手権大会 優勝

平成15年 県民スポーツ祭県大会 出場

平成16年 県民スポーツ祭県大会 出場

平成16年 黒潮旗県大会 出場

平成17年 学童県大会 出場

平成17年 JA共済県大会出場 準優勝

平成18年 JA共済県大会出場 出場

平成18年 県民スポーツ祭県大会 出場

平成18年 ティーボール県大会 3位

平成19年 設立通算400勝達成

<三つの言葉>

私たちは感謝の気持ちを忘れず礼儀あいさつをしっかりとします

私たちは練習は真剣に試合にはベストをつくして頑張ります

私たちは大きな声を出せる元気な子になります



磐田向陽スポーツ少年団

種 目 野球・バレー

代 表 者 森島 周一

創 立 年 1988年

男の子は野球・女の子はバレーボールとして設立

野球の概要

旧磐田市北部にある岩田小、大藤小、向笠小の校区で結成された少年野球チームです。

市町村合併に伴い旧豊田町からも入団してきていますが、少数精鋭でがんばっています。

設立20周年目の節目の年に「第5回JA共済トーナメント」県大会出場をなしとげ、2回目の県大会出場を目指し積極的な野球をモットーに日々努力しています。

「宣誓 僕たち選手一同は、野球が大好きで一生懸命練習してきました。その成果を十分に発揮し、勝ちたいという気持ちを忘れず、一戦一戦大切に戦っていくことを誓います。」

BY H20年度卒団生 寺田拓真

バレー部の概要

副団長・部長 伊藤滋朗

コーチ 佐藤 誠徳・高橋 和夫

高山 享子・秋元 富敏

年間行事

県大会予選大会、西部予選大会、市内大会年間10回前後大会が予定されていて過去には県大会へ10回出場を果たしています。

今後も部員一同県大会出場を目標に頑張ります。



テンマサッカークラブスポーツ少年団

加盟チーム数 1チーム
加盟人数 85名
代表者 金原 秀則
設立年 昭和59年4月

【組織】

名称 テンマサッカークラブ
ホームグラウンド 磐田市立富士見小学校
団員構成 小学校1年生～6年生
指導者数 20名
スポ少認定指導員 2名
JFA公認C級 4名
〃 D級 10名
JFA3級審判 2名
〃 4級審判 15名
父母会 父母会長、学年責任者、会計
以下団員の父兄で構成



【現在の活動状況】

[活動指針]：スポーツの楽しさを教え、子供達の心を豊に育てる

1. 試合の成績中心のスポーツ活動とは一線を画し、スポーツの楽しさを教えつつ、基礎体力、基礎技術の向上を図る。
2. 学業に影響を及ぼさないよう、無理なスケジュール、過激なトレーニングは避ける。
3. 礼節を重んじ、素直な心を育てる。
4. 出来る限り多くの父兄が参加し、子供達の活動を見てやり、共に汗を流し、健全な親子のあり方を研究する。

[練習日時]：毎週土日am8：30～am10：00
am10：30～am12：00

[対外試合]：

1. 加盟団体主催のサッカー大会には積極的に参加し、活動の励みにする。
2. 他少年団との練習試合に積極的に参加する。

[団活動]：

1. 地域貢献活動への積極的参加
2. サッカーだけではなく、奉仕作業、練習納め、合宿など指導者・団員・父母会が一緒に活動できる事業を行い、コミュニケーションを図っている

向陽F C（向陽フットボールクラブ）スポーツ少年団

団員数 34名

代表者 望月 衛

創立年 1993年6月

向陽F Cは、創立以来「地域の子供を地域で育てる」を理念として、サッカーを通じた活動を行っています。団員は、向陽中学校区の大藤小学校、向笠小学校、岩田小学校に通う1年生から6年生の子供たちと地元の幼稚園児で編成されています。

向陽F Cは、設立から5年間を大藤F Cとして大藤小学校を中心に活動してきましたが、児童数の減少に伴い、現在の向陽中学校区を対象とするようにしました。その際チーム名も向陽F Cに変更し、より地域に密着したチーム作りを目指すことにしました。

練習は、土曜日と日曜日の午前中に大藤小学校グラウンドで行っています。また、冬期以外は一月に2回程度ナイター練習も行っています。学年担当コーチ6名が、その学年にあった練習を楽しく行うことをモットーに進めています。チーム設立当時は、団員数も多く、大会上位を目指して活動してきましたが、近年は団員数が減ったことからサッカーの楽しさを伝え、生涯に渡ってサッカーを愛する子供の育成を目指すよう方向転換が進んでいます。そのために以下のような活動を行っています。



1 夏合宿の実施

毎年8月に実施しています。日中は練習試合を行い、夜は3年生以上の子供たちが寝食を共にし、チームワークや友情の醸成を図っています。

2 親子サッカー大会の実施

サッカーを通じた親子ふれあいの機会とし、学期に1回程度実施しています。父親・母親も交えたゲームは、好プレー珍プレーの続出で笑いが絶えません。気持ちの良い汗をかくことができ、保護者からも好評です。

3 各種大会への参加

磐田サッカー協会主催の大会や天竜東地区サッカー少年委員会主催の大会に参加しています。大会では、それまでの練習の成果を出せるよう、選手・コーチ・保護者が一体となって一人一人が全力で取り組んでいます。どんな大会であっても、選手全員が出場することを基本とし、大会に来て良かった、練習を頑張った良かった、これからもっと練習していこうと言う気持ちが持てるよう励ましています。

本チームには、磐田トレセンに参加している能力の高い選手もいます。一人一人に目標を持たせ、個を育てる指導を基盤に、底辺の拡大を図り、ますます地域に根ざしたチーム作りを進めていきたいと考えています。

A S K A サッカークラブスポーツ少年団

加盟チーム数、加盟人数

1 チーム加盟、15名登録

代表者名 伊藤 賢三

設 立 年 1995年

年間行事

日本サッカー協会主催大会への参加、及び地域スポーツイベントの開催。

活動状況等の紹介文

私たちは、21世紀を担う子供たちにサッカーを通じて夢と感動を与え、とともに子供たちが発育発達していく過程で身体面においても精神面においても健全で正しい成長ができることを願い、教育的立場に立ってA S K Aサッカークラブスポーツ少年団を創りました。社会的には民間スポーツクラブの立場から地元地域社会への貢献を目指し、社会体育教育の一助としての性格を旨に活動しています。



磐田南フットボールクラブスポーツ少年団

在籍 34名
代表者 密岡 浩昭
設立年 1999年4月1日

<年間行事>

- 4月 全日本サッカー大会参加
- 5月 とんぼカップ・ライオンズ杯参加
- 6月 トダックス杯参加
- 8月 イベント 合宿・ボウリング・プール等
南FC主催ふれあい大会
- 9月 NTT杯大会参加
- 10月 磐田ジュニア大会参加
- 11月 ホンダカップ参加
- 12月 イベント クリスマス会・父兄忘年会
- 1月 イベント 初蹴り
- 2月 JA杯参加
- 3月 卒団式



磐田南FCは父母会を中心として運営されています。

専属コーチ4名 父母会コーチ4名で
子供と親とのコミュニケーションを大切に、親子
サッカーを年数回開催し、家族とチームを盛り上げ、
地域の活動にも参加し、磐田南地区のスポーツを盛
り上げる活動をしています。



バディフットボールクラブスポーツ少年団

代表者 西尾 和孝
加盟人数 135名
設立年 平成5年

バディフットボールクラブ思い出と歴史

磐田市体育協会創立60周年おめでとうございます。
このような伝統ある体育協会の傘下で活動できることを光榮に思います。私達バディフットボールクラブは磐田市見付を拠点に幼児部・女子部・小学生部と合わせて140人の選手達が毎週土曜日の午前を中心に練習をしています。

バディフットボールクラブは平成3年に磐田市の国府台に保育園の遊びの一環として活動を開始しました。当時は5～6人でのスタートでした。まだまだ、サッカーと言えるものではなくユニフォームだけは全員揃いの物をそろえ公園の片隅で練習開始、しかし小学校のグラウンドで沢山の小学生が練習している所をうらやましく思ったこともありました。

平成6年にはフットボールクラブの母体であるバディ幼稚園が見付に移転、園児の数も少しずつ増えサッカー好きなお父さんも練習に加わって少しずつサッカーらしくなってきました。そして、平成8年に東京バディより、体育の先生として地元に戻って来た先生がバディ幼稚園に入社そしてサッカーの指導にも加わり幼児としては初めてのサッカー大会『ハッキミサワ杯』に出場するも惨敗、閉会式の時優勝したチームの子供達がニコニコしながら受け取っていたトロフィーを『いつかもらってみたいね』と帰途に着いたことも良い思い出です。

そして、バディフットボールクラブとして転機が訪れたのは小学生になった子供達の試合への参加、協会への登録をしなければ試合の参加が出来ないと言う事から子供達のこれからも考えて平成10年に協会への登録が完了。

登録当時は試行錯誤の日々、周りのチームの方々にも助けられ教えられ大会への参加も実現しました。そして、翌年には地区予選（天竜東地区）を第3位ながら初の県大会の出場権を獲得。

初出場の県大会では洗礼を浴び4対0の完敗で帰って来ました。こうした苦い経験を糧に、子供達の頑張り・コーチの適切な指導・保護者の応援もありチーム力を付けると共に幼稚園時代のサッカーの

子供達も小学生へと続き団員の数も増えていきました。

時には接戦の末、タイトルを逃し涙を流しながらベンチに戻ってくる子供達の姿や、力を出し切り疲れ戻ってくる子供・勝利に満面の笑顔で戻ってくる子供達など子供達の姿を見るたびに感動させられる事ばかりでした。

また、同学年の戦力が揃わなくて予選で敗退した時もありましたが、ここ最近毎年のように県大会に出場できるようになってきました。県大会においても初出場の時とは違い選手・コーチも冷静に試合に臨むことができるようになりました。

勝つことだけを目標にしてるのではなく、普段の練習・チームワーク・楽しく皆でやるサッカーの結果として各大会での成績として残っているものと思います。

これからも感動と涙を、そしていつまでもサッカーを楽しめる環境を作り少しでも多くの子供達の心身の育成、サッカー技術の向上を目指し私達指導者も勉強し子供達と共に成長していきたいと思いません。



修空会スポーツ少年団（全日本空手道連盟 和道会）

加盟人数 71名
代表者 大庭 信博
創立年 平成3年4月

【主要大会】

静岡県少年少女空手道大会
全国少年少女空手道大会
静岡県中学生空手道大会
全国中学生空手道大会
はまなす杯全国中学生空手道選抜大会
和道会県大会
和道会東海大会
和道会全国大会
西部地区交流空手道大会
杉浦錬成空手道大会

【年間行事】

キャンプ
寒稽古（元旦）



（競技の魅力）

肉体的な強さ（健康）だけでなく、精神面の向上を实践できることです。

また、挨拶など礼の心を日々学ぶことは、人格形成の成長期にある小中学生には絶好の環境と言えるでしょう。

（活動状況）

週4回の練習を行い、都度の各大会に参加しております。

（平成20年度主要大会成績）

静岡県少年少女空手道大会
4年男子組手優勝 石川泰市
（全国大会出場）
5年男子組手優勝 小田峻也
（全国大会出場）

和道会全国大会
4年男子組手3位 石川泰市
5年男子組手優勝 小田峻也
6年男子組手準優勝 石川恭平
中学1・2年空手道選抜大会
中学女子組手準優勝 磯部加奈子
（全国大会出場）

（平成20年度優秀選手）

小田峻也（左写真左） 石川恭平（左写真中）
石川泰市（左写真右） 磯部加奈子（右写真）



FC AZURI (エフシー アズური) スポーツ少年団

加盟人数 30名

代表者名 松原 真也(マツバラ シンヤ)

設立年 1994年

年間行事： 4月 全日本少年サッカー大会
5月 トダックス杯
8月 夏季合宿・遠征
9月 NTT西日本グループカップ
10月 HONDAカップ
その他 フェスティバル・練習試合

過去の活動状況

1994年 設立

1998年 NTT西日本グループカップ優勝

同年 県大会ベスト8

毎週火・木・金曜日に池田のフットサル場で練習を行っております。現在は人数が少ないものの、少数精鋭で大会の優勝を目指して頑張っています。



見付バレーボールクラブスポーツ少年団

団員 27名
代表者 戸塚 靖
事務局 岡村 邦男
創立年 1994年

指導者 戸塚 靖
岡村 邦男
今村 純
山鹿 かおり
斉藤 晃
首藤 正之

【指導者】



【部員】



【現在の活動状況】

*競技の魅力

バレーボールは誰でも楽しめる生涯スポーツです。小学生の低学年から始める事が出来、長く続ければ親子三代に亘って楽しむ事が出来ます。ネットを挟んで行う競技で、身長の高い人が有利と思われませんが、意外と身長の低い人でも自分の能力を活かし活躍されている人の方が多い様に思います。ビーチバレー、6人制、9人制、ソフトバレーと色々と分かれています。

自分の目標に向かって楽しむ事が出来ます。

*活動状況

見付バレーでは、小学生の1年生～6年生の男、女を週二回（水、土）の練習と、その他に4年生以上は大会に出ています。近年、大会に於いて子供達の目標でもある、県大会の出場も毎年叶うようになりました。子供達、指導者、父母の協力が、確かに実を結んできています。

練習会場の体育館では子供達の元気の良い声が響いていて、指導も子供達のレベルに合わせて指導者が考え行っています。練習だけでは無く夏は合宿、冬はクリスマス行事等のレクリエーションも行っています。

*優秀選手の紹介

多くの選手を中学に送りだしています。将来オリンピックに出場する選手が送り出せればと思っています。

*今後の目標や展望

子供達にバレーボールを通して、スポーツの楽しさ、基本の大切さ、チームワーク、礼儀等を今まで以上に教えて行きます。

試合では、県大会の出場は何とか出来るようになりました。更なるレベルアップを目指し全国大会出場を目標にしたい。

福田卓球スポーツ少年団

加盟人数 12名

代表者 大石 正之

創立年 S35年、スポーツ少年団としてはS46年に発足した

【組織】

・組織の概要

指導員 8名、団員12名、父兄育成会で構成されている。

・組織の変遷

東京オリンピック開催決定2年前、旧文部省と日本体育協会は全国市町村教育委員会を通じ小中学生に呼び掛けた。オリンピックの祭典前に各種スポーツ競技の中から生徒に各々を選択させ、そのグループ別の団体の中で、スポーツの楽しさ・苦しさ・喜びを体験させることだった。その上、各々グループの中で人には迷惑をかけない、ルールはしっかり守る等々、社会生活に必要な事柄をスポーツで楽しみながら、“心と体を鍛えよう”との大目標のスタートだった。スポーツには勝負は付きもの。多くの批判の中、現在でも続く“スポ少”は専門家の見識では異様と言われている。わが少年団は昭和46年卓球少年団の部で県下第1号としてスタートした。合併後、NPO法人磐田市体育協会福田支部に名称が変わり現在に至っている。

・役員の変遷

代表者は指導員内で4～5年の交代制を執っている。

・主催大会

毎年、体育協会長杯主催で秋に福田大会を開催している。会場は福田南島体育館で各スポーツ少年団、中学生の男女の参加があり、今年度33回大会を迎える。

・競技の魅力

卓球はスピード・回転・コースの3要素の組み合わせを追及する奥深いスポーツであり、老若男女を問わず室内で楽しむことができる。

・活動状況

毎週水・金曜日の2回、19時半から21時まで福田中学校の卓球場にて練習に励んでいる。現在中学生7名、小学生5名で、中学生は部活動後に参加して技術の向上に努め小学生は先輩を目標に練習をしている。

・優秀選手

過去県大会優勝者が全国大会に出場した実績がある。昨年は地区大会で入賞した団員もいる。

・今後の目標

昨年はスポーツ少年団規定の団員数に満たさず存続の危機もあったが、今年度新たに3名入団し練習にも活気が出てきている。現在団員は女子のみだが、男子も入団して新風を吹き込んでほしい。皆さん私達といっしょに卓球をしてみませんか。



福田サッカースポーツ少年団

現在の団員 小学1年～6年 90名
(女子2名含む)

代表者 栗田 正孝

創立年 昭和46年4月

サッカー協会登録 昭和52年4月

組織 団員と保護者会

指導者 12名

支える会 グラウンド管理協力者
審判協力者 合計5名

地域 旧福田町地区

主催大会の紹介

福田フットボールフェスティバル

通称 (はまぼうカップ)

毎年12月下旬の2日間

U-12 (6年生大会)

県外 (愛知・神奈川県) 他全16チーム

今年で12回目を迎える。

他の学年ごとの大会も開催



H21 トンボカップにて (5年生)



岐阜県茜部との交流の様子 (6年生)

現在の活動状況

練習日

土・日の午前2時間程度 はまぼう公園他

上級生は木曜日 ナイター 福田多目的G

10年前にU-15の日本代表に1名選出

今後の目標

「継続は力なり」、天竜東地区のサッカー少年団では最古参のチームである。

勝利を目指していることはもちろんですが、たくさんの子供がサッカーを楽しめることを目標にしています。

創立35年以上を経過し、卒団員の子供が入団したりしてきています。

最近では熟的なサッカークラブが誕生したり、少年団からクラブチームに変わったりしてきていますが、あえてスポーツ少年団という名にこだわっています。子供・保護者・指導者そして地域の方々と一緒になってサッカーというスポーツを楽しんでいけたらと考えています。

勝ったり負けたり、負けたり勝ったり、この繰り返しですが、子供たちや保護者が1つの目標を掲げ、その目標に向かって努力していきたいと思っています。

この少年団に入ってよかったといわれるような少年団を目指していきたいと考えております。

福田本町スポーツ少年団

団員数 33名
代表者 大竹 一夫
創立年 昭和49年10月

【組織】

役員の変遷

・代表者（団長）
初代 鈴木秀治（昭和50年～53年）
2 石川 勲（昭和54年）
3 夏目郁夫（昭和55年～平成元年）
草創期の団長から
現団長（8代）大竹一夫（平成18年～）
・父母会長
初代 加藤喜代次（昭和50年）
2 寺田平次郎（昭和51年）
各年度6年生の代表が会長を務め
現会長（35代）山口智也（平成21年）
・主催大会
選抜少年野球福田大会
（地元6チームにて共催）



JA共済静岡県少年軟式野球大会出場
於掛川球場（平成21年7月）

【現在の活動状況】

競技の魅力

軟式野球は、投げる・捕る・打つ・走ると全身を使い、練習でも試合でも、チームワークを大切に、周りに気配りできる心を養う。試合では投手対打者として一対一でがんばれる場面もある。そしてチームとして仲間と協力して攻撃し守備をする。また状況判断しプレーする。これらを成し遂げればチーム全体で達成感を味わえる。また勝利に結びつけば、試合に出る子、出ない子に関わらず親子で喜びあえる競技である。

活動状況

練習 3回／週（金・土・日曜日）
各種大会に参加（通年）
年間行事 総会・結団式・卒団式・
納会・合宿・奉仕活動
全国大会出場 3回
・全日本スポーツ少年団交流大会出場
（昭和63年、平成7年）
・全日本学童軟式野球大会出場（平成5年）
東海大会出場 4回
（昭和59、61、63年、平成7年）
県民スポーツ祭優勝 8回
各種県大会優勝 5回
《平成7年度、社会体育優良団体として文部大臣表彰を受ける》

今後の目標

スポーツ好き、野球好きな子供。野球を通して返事、挨拶のしっかり出来る子。体力の向上、仲間との協力、目標までの努力の大切さ、感謝の気持ちを持つ、心と身体を健康を第一に青少年を育成していく。学校や地域のご理解、先輩諸氏のご指導協力を得ながら、父母会の団結で団を運営、活動をして行きたいと思っております。

福田剣道スポーツ少年団

代表者 内山 覚

加盟人数 20名

昭和44年福田剣友会（伊東金平会長）少年部として発足、当時廃校となった旧福田小学校において活動を始める。昭和47年スポーツ少年団に加盟、団員は小学生のみで稽古に励む。

【組織の概要】

団長は内山覚、指導員は福田剣友会の会員10数名が務める。団員は小学生、中学生、高校生、一般人と多岐にわたる。又、指導員の半数以上は、認定指導員である。父母会が発足当時より積極的に指導員と子供達の為に、協力を惜みず、活動している。

【活動状況】

稽古日は週3日、月、水、金曜日

時間は19：10～20：30

場所は福田中学校体育館

なお、昇段審査等の時は18：30をオーバーすることがある。

【年間行事】

4月の入団に始まり、6月には指導員、父母会との懇談会、7月には合宿、10月にはレクリエーション等、年間6回程の行事を行っている。又、年間10回程程度の対外試合が組まれている。

【活動理念】

剣道においての基本、礼儀を重視した指導を行っている。そして技柄の上達を知る為に毎月1回団員同志で例大会を行っている。持ち回りの稽の争奪は迫力がある試合をすることで相手を思いやる心を養い人間形成をめざす。

【現在の環境】

巷間言われています。少子化、スポーツ離れは、我々の団にも影響があります。年々入団する子供は減っており、団の存続にすら危機感を持っています。剣道という精神性を求める独特の武道であるが為に、理解され難い点はありますが、平成24年の中学校新学習要領で中学校体育教科において武道領域が必修となります。その時のためにもいまが頑張りどころかと思えます。



【平成21年度7月合宿にて】



福田柔道クラブスポーツ少年団

師範 代表理事 西島温行

磐田市福田1168

設立 昭和51年4月

福田柔道クラブは、地域住民の熱い要望により昭和51年に創部されてから34年の歩みを続けて参りました。この間、練習場は福田中武道場をスタートして、福田屋内スポーツセンター武道場に移り現在に至っています。スポーツセンターは、旧福田町出身の水泳・柔道のオリンピックメダリストを記念し建設した施設です。柔道場は180畳の常設会場で、大会では360畳の試合場を確保出来る施設である。

◎各種大会出場記録を記載します。

【小学生の部】

	大会名	優勝	2位	3位
1	静岡県民スポーツ祭	6回	4回	7回
2	柔道祭 県大会	1回	1回	2回
3	県整復師会柔道大会	1回	-	1回
	第7回 (H12年度) 優勝し全国大会出場			
4	全日本少年柔道大会	-	-	1回

【中学生の部】

○全国中学校総合体育大会

第30回H11・3年川島靖史-55kg級第3位 福井
同上 女子団体 第9位
第31回H12 女子団体2年連続出場 大分
第32回H13・1年内之倉奈未-63kg級出場 島根
第33回H14・3年青山夏実-63kg級出場 兵庫
第34回H15・3年内之倉奈未-63kg級準優勝北海道
第37回H18・3年大石悠太-55kg級第5位 高知
第38回H19・3年鈴木悠仁+90kg級出場 山形
第39回H20・2年渡辺浩貴-90kg級出場 石川

○平成18年度全日本選抜少年柔道大会東京

中学男子団体の部 中部9県の第5位で出場

【高校生・一般の部】

○全国高等学校総合体育大会 (インターハイ)

第29回S56・3年 寺田雅信-71kg級出場 千葉
第35回S62・3年 田中征幸-60kg級出場 北海道
第51回H15 磐田東高校女子団体出場 長崎
第52回H16 磐田東高校女子団体出場 広島
同上 ・1年内之倉奈未-70kg級準優勝

○全国高等学校柔道選手権大会 <東京>

第11回H元・2年太田尚子-56kg級準優勝(池新田)
第24回H14・2年永手直美-63kg級出場(磐東高)
第25回H15・1年松本笑嘉-70kg級第3位(磐東高)
第26回H16・2年松本笑嘉-70kg級第9位(磐東高)
第28回H18・2年内之倉奈未-70kg級優勝(磐東高)

○国民体育大会

第39回S59星名正彦-55kg級(少年)(袋井高)
第52回H9西島寛行-60kg級(成年)(愛知県警)
第57回H14川島靖史-60kg級(少年)(磐北高)
第58回H15松本笑嘉-70kg級(少年)(磐東高)
第59回H16内之倉奈未-70kg級(少年)(磐東高)
同上 松本笑嘉+70kg級(少年)(磐東高)
第62回H19川島靖史-60kg級(成年)(静岡県)
同上 松本笑嘉-70kg級(成年)(静岡県)

○全日本ジュニア柔道体重別選手権大会

第35回H14高3川島靖史-60kg級出場 東京
第42回H21高3大石悠太-60kg級出場 埼玉

○世界サンボ選手権大会 <モスクワ>

H2 ジュニアの部 西島寛行 第5位

○オリンピック大会 溝口紀子

第25回バルセロナ大会-52kg級 銀メダル
第26回アトランタ大会-56kg級 出場

○『形』競技大会 (取) 七段 西島温行

東海大会 優勝6回H12・14・16・19・20 (愛知県武道館) H21 第2位 H18
全国大会 第3回H14「五の形」第3位 (講道館) 第9回H20「五の形」第8位 第10回H21「五の形」第4位

福田ミニバスケットボールスポーツ少年団

加盟人数 20名
代表者 鈴木 善恭
創立年 平成3年

【組織】

・組織の概要

少年団員は、磐田市（旧福田町）に住む小学1年生から小学6年生の女子

少年団の目的を達成するために指導者を置き、指導運営にあたっています。

監督 鈴木 善恭

コーチ 加藤 健次 他3名

審判 山中 正弘

【現在の活動状況】

・活動状況

練習…週4回 豊浜小学校体育館等

・年間活動状況

- ① 5月 会長杯
- ② 6月 シャンソンカップ西部大会
- ③ 7月 水窪招待大会
- ④ 8月 黒潮サマーカップ
浜北グリーンカップ
- ⑤ 9月 磐田バスケットボール選手大会
- ⑥ 10月 パナホームカップ西部大会
- ⑦ 11月 かぶと塚杯
- ⑧ 12月 ジュニア大会
- ⑨ 2月 理事長杯



豊田北部少年剣道クラブスポーツ少年団

磐田市剣道連盟加盟団体

加盟人員 25名

代表者 前田 秀明

創立年 昭和51年

【組織】

組織の概要

小学生の父母、小学生、剣道指導者の3者で構成され、クラブの運営、資金調達etc.は父母会の会則に則って父母中心に行われている。指導者7名、小学生18名。これに卒団した中学生6名も加わり、時には高校生も参加して稽古している。

稽古日 : 水、土曜日

時間 : 19:00~20:30

(小学生中心)

20:30~21:30

(中学生・高校・一般中心)

会費 : ¥2,000. /月

組織の変遷

初代代表者 : 齋藤亮一

2代代表者 : 渡辺達夫

3代代表者 : 青山為太郎

4代代表者 : 前田秀明



【活動状況】

剣道とは

もともと剣道は剣術であり、そのもつと昔は勢力争いを背景にした棍棒による叩き合いでありました。

江戸時代の平和な時代が訪れるに従い、剣術は人を殺す技術から武士としての人間形成を目指す「活人剣(かつにんけん)」へと昇華し、技術論のみでなく生き方に関する心法まで拡がりました。武士たちは剣道の稽古、修行を通じ日常生活は厳格質素で、才能を磨き、善悪を知り、一旦緩急があれば藩のため、国のために命を捧げる覚悟を持っていました。ここで生まれた武士道精神は日本人の心として現代も生きています。

剣道は防具を着用し竹刀を用いて一対一で打突しあう運動競技と見られますが、稽古を続けることによって心身を鍛錬し人間形成を目指す「武道」です。

活動状況

稽古 : 2~5回/週

納会 : 1学期ごと3回/年

試合 : 13~15回/年

昇段審査 : 3回/年

昇段審査・1級審査

左の写真は

平成20年度卒団の6年生の「千本打ち」の終了時の写真です。

「千本打ち」

その年度に卒団する小学6年生による正面を1,000本休みなく打ち続ける卒団記念の行事。

所要時間 : 1時間~1時間20分。

豊田南部少年剣道クラブスポーツ少年団

会 員 数 18名
代 表 者 木下 幸久
設 立 年 昭和51年5月

変遷

増田、斎藤両氏が豊田南小学校の体育館で指導を開始。

南小学校の体育館老朽化に伴い、道場を青城小学校へ移す。

そして現在に至る。



平成21年7月17日

1学期末納め会終了後、中学生、高校生も参加した集合写真

活動状況

敬愛の精神に基づき、幼稚園の年長から中学生まで毎週火・金曜日に青城小学校の体育館で稽古に励んでいます。

子供達は厳しい先生方の指導の元、真剣に練習に取り組んでいます。そして学期末には、日々の練習の成果を競う納め会を開催し、練習の成果を発揮します。また卒業した中学生、高校生も納め会に参加し、審判や運営の手伝いをしてくれます。最後に指導者、高校生、中学生と子供達を2チームに分け紅白試合をして親交を深め合います。

近隣市町村の合同稽古会、開催試合には積極的に参加して、自分たちの持っている力を発揮し、勝ち負けにこだわらず楽しく剣道に取り組んでいます。

一時、クラブ員も減って心配しましたが、ここ2年で人数も増え活気溢れるクラブとなってきました。

優秀選手の紹介

当クラブの卒業生には、現在も剣道を続けている人が多くいます。中でも静岡県警の大田泰代さんは、3年連続で全日本女子剣道選手権大会へ出場し、今年の大会でも活躍が期待されています。

今後の目標

子供達が楽しく剣道を継続し、試合で良い成績が残せるように、父兄一丸となってバックアップしていきたいと思えます。

豊田柔道スポーツ少年団

団員数 22名

(平成21年度登録人数)

代表者 鈴木 敏幸

創立者 樽林 行雄

顧問 村松 豊

監督 菊池 直樹、大杉 靖之

創立 昭和48年 豊田町柔道スポーツ少年団として設立

【団紹介】

◇活動日 火曜日・金曜日

◇活動時間 19:00～21:30

◇活動場所 豊田南中学校格技場

◇運営費 2,000円/月

※日曜日等に大会の参加あり。

※練習以外にも各種行事あります。

団の運営は父母会役員を中心に活動を行なっています。

【練習】

団員の上級生が中心となり、下級生の面倒を見ながら、練習を進めています。

卒団後、中学、高校、一般となっても、練習に参加したり、子供たちの指導をしてくれる卒団生がいっぱいいます。



練習風景 (みんな一生懸命稽古に励んでいます。)



練習前後は、きちんと座礼を行なう。

【基本方針】

『礼儀正しく、仲間を大切に、何にでも思いっきり頑張れる子』を目標に稽古に励んでいます。

我々、豊田柔道スポーツ少年団の基本方針として、第一優先の目的は、稽古を通して、子供たちの心身の健康を向上させること。ただ柔道の試合に勝つことが目的ではなく、柔道や運動等の得意な子・不得意な子もそれぞれの良いところを伸ばすことを心がけ、その過程で基礎体力や精神力の向上をはかることはもちろん、集団活動の中での個人の役割と行動・協力・協調・責任について、また努力の尊さ・礼節について教え向上させることであります。

これからも、日本の武道としての柔道の心を、多くの子供たちに伝えていきたいと思えます。

【団員募集】

随時 小学1年生～6年生

(幼稚園～大人まで可)

見学、入団を希望される方、興味のある方は練習日に直接、お越しください。

青城ジュニアフットボールクラブスポーツ少年団

代表者 大場 康文
団員数 78名
創立年 1981年

【組織】

1. 組織の概要

1-1 組織の目的

サッカーを通して協調しあい豊かな友情で結ばれる、心身ともに健全な子供の育成に努める。

1-2 組織と役割

組織は代表、会員（父母会）、指導部から構成されています。

代表は本クラブの運営に当たる。

指導部は実技指導および試合の指揮にあたる。

会員は指導部のもとに、基礎体力と技能の習得に努め、健全な精神と体力を図る。

2. 組織の変遷

2001年より青城サッカースポーツ少年から青城ジュニアフットボールクラブに改名（組織変更なし）

3. 役員の変遷

初代代表：神谷正巳（1981年～2000年）

2代目代表：赤堀好朗（2000年～2006年）

現代表：大場康文（2007年～）

4. 主催大会

青城カップ U-12

5. ブログURL：<http://seijyojfc.hamazo.tv/>

【現在の活動状況】

日本サッカー協会加盟

天竜東地区にて活動

練習日（週2回）

水曜日19：00～

土曜日 9：00～

会場

青城小学校

各年代

大会・招待試合などに参加

遠征

三重（東員） 8月（6年）

親子サッカー大会

年1回開催

初蹴り

元旦

2010年に創立30周年記念大会の開催予定

今後の展望

キッズ&女子の育成

多くの子供達に身体を動かすことの爽快さやスポーツの素晴らしさを体感してもらいながら、サッカーの普及・浸透さらには人材の育成を図る。



青城カップ U-12 2009 準優勝



エンブレム

豊田南サッカースポーツ少年団

団員数 52名
代表者 落合 茂
設立年 1977年

【年間行事】

- ・各学年の大会参加
- ・初蹴り（元旦）
- ・クリーン作戦
- ・親子サッカー
- ・バーベキュー
- ・キャンプ
- ・上木崎遠征（埼玉）



親子サッカー



キャンプ（キャンプファイヤー）

【団活動】

NPO法人磐田市体育協会設立60周年おめでとうございます。

豊田南サッカースポーツ少年団も設立32年になります。初代代表 竹林源助氏、二代目代表 前田晃氏と少年団活動を盛り上げて頂き現在にいたっております。

サッカー少年団でありますので、第一にサッカー技術の向上を目指しておりますが、“あいさつ”のできる子供になることも団の重要テーマとして活動をしています。

年間行事も父母会を中心に多数行っています。特に、さいたま市浦和の上木崎サッカー少年団との交流は、5月に上木崎少年団が豊田に来てホームステイをしながらとんぼカップに参加します。12月には、豊田南少年団が浦和に行きホームステイをしながらサッカー大会に参加するというのが20年も継続しております。父母は大変ですが子供達は良い思い出になっているようです。

これからもサッカーを通じて、いろいろな所に行き、いろいろな仲間とふれあい、いろいろな心を感じ、健全でたくましい子供に育つ手助けとなる様に活動していきたいと思っています。

今後ともよろしく願い申し上げます。



上木崎遠征

豊田グリーンズスポーツ少年団

代表者 鈴木 忠

静岡県磐田市を中心に活動している、創立26年目を迎えた小学生の軟式野球スポーツ少年団です。

野球を通して「心の力」「互いを助けあう力」「柔軟性に富む身体の力」の育成を目標に活動しています。

- 指導者：5名
- 団員：15名（平成21年7月現在）
- 代表：佐藤今朝男（監督）、鈴木忠（団長）
- 設立：1981年10月
- 行事：各地区軟式学童野球大会・県大会への参加。夏の夕べ、バーベキューなど懇親会。
- 活動：平成14年県民スポーツ祭
町村の部・県大会3位。
平成16年学童湖西大会3位。

●団員紹介

- ・6年生：井村 光貴（豊田北部小）
- ・6年生：小谷 昇一（豊田北部小）
- ・5年生：三谷 健人（豊田南小）
- ・5年生：岡本 拓也（豊田南小）
- ・5年生：佐々木 開（豊田青城小）
- ・5年生：渥美 光基（豊田南小）
- ・5年生：鈴木 宏武（豊田北部小）
- ・4年生：内山 颯介（豊田北部小）
- ・4年生：荒沢 光（豊田北部小）
- ・4年生：平出 幹人（豊田青城小）
- ・4年生：根津 遥貴（豊田北部小）
- ・4年生：金子 将大（豊田北部小）
- ・4年生：澤野 楓汰（磐田田原小）
- ・2年生：志賀 大暉（豊田北部小）
- ・1年生：山崎 晃貴（磐田長野小）



今期公式戦2勝目をあげた遠州大会初日



井村光貴 小谷昇一 三谷健人 岡本拓也



佐々木開 渥美光基 鈴木宏武 内山颯介



荒沢 光 平出幹人 根津遥貴 金子将大



澤野楓汰 志賀大暉 山崎晃貴

豊田グリーンズはいつでも

体験入団歓迎！！

0538-32-7012（鈴木忠）

豊田クラブスポーツ少年団

加盟人数 30名
代表者 大場 直一
創立年 昭和55年（1980年）

【組織】

昭和55年 初代監督：田宮定夫氏の下に旧磐田郡豊田町の小学生を中心に結成される。

昭和58年 飯田彦一氏に監督が引き継がれる。

昭和59年 第3代監督に大場直一氏が就任。

以後、現在に至るまで26期。
まだまだ現役続行中！！

【現在の活動状況】

活動日時 毎週土曜日 8時から12時
毎週日曜日 8時から17時

活動場所 加茂グラウンド
小学校グラウンド
(隔週で交互)

屋外の競技ですので、暑いときも、寒いときも、雨や雪の中での活動というときもあります。

また、練習時間が他の競技と比べ、長いので大変だと思われがちです。

ですが、子供たちは厳しい環境で、“我慢”を覚え、長い練習時間で“集中力の持続”を会得していくと思います。

何年か後には、卒団生からメジャーリーガーが出ることを夢見つつ、今後も活動を続けていきます。



監督と共に、笑顔満点、和気藹々!!

日本空手協会豊田支部スポーツ少年団

加盟人数 38名（'09年7月現在）

代表者 佐藤 賢

創立年 昭和62年3月

の中ではなかなか学ぶことが出来ないことが経験できるのが私たち町道場の利点ではないかと考えます。

【組織】

組織の概要

1987年3月に高田清貴氏により開設。

開設後22年が経過。

豊田南中学校体育館2F格技場にて水曜日と土曜日の週2回稽古を行っている。



私共豊田支部（徳志館）は開設後22年が経過します。22年という時間の経過の中、一時は週4回稽古を行ってきた時期もありましたが、現在は指導員の本業との時間の制約もあり週2回の稽古を行っています。

指導員たちも自己の仕事等で忙しい中、自己の技術の上達・若手の育成指導と日々精進を続けています。私たちは若手の指導をしていく中で礼儀を重んじるという点を特に大切にしています。礼儀というのはすべてのことに通じるものであり、技術が良だけでは人としての成長が未熟だと考えるからです。

私は、人の背中を見て学び、人として成長していくと考えます。

私たちの道場は町道場であり、規模的には大きいとはいえない道場です。

しかし、反面幅広い年齢層の人が稽古に励んでいます。

年長者の人から人としての礼儀や経験を学び、若手から生命エネルギーをもらう。最近の核家族社会



磐田豊田バレーボールスポーツ少年団

加盟人数 12名
代表者 市川 良一
創立年 平成5年4月

【組織】

バレーボールは他の球技と比べ、非常に分かりやすいルールと、チーム全員で連動するゲーム性で、老若男女に広く愛されているスポーツです。しかし、他の競技と比べ、インドアスポーツである事、コート、ネットの設営、優秀な指導者など、低年齢からゲーム参加できる環境が私たち地域にはありませんでした。そこで、子どもたちにバレーボールの面白さを教え、競技人口の拡大を目指して平成4年に前身である「豊田少年バレーボール教室」を立ち上げました。

翌平成5年に正式にスポ少に加入し、市町村合併を機に現在の「磐田豊田VSC」として創部18年、2度目の全国大会を目指し活動しています。

【VSC中学部】

月に2回程、少年団の卒業生や中学生からバレーボールを始めた子供達が集まり、活動しています。

チーム強化を目的として、少年団のコーチにサーブ・レシーブ・トス・アタックなど、基本的な事の指導を頂き、個人レベル底上げを目指し練習に励んでいます。



【現在の活動内容】

私ども磐田豊田VSCは平成16年、初めての東海大会出場を皮切りに平成18年には念願の県大会初制覇をし、全国大会に出場しました。東海大会初出場以来、常に県大会常連チームとなり、静岡県のトップランクチームとして県外にも「磐田豊田」の名を知らしめて来ていると誇りに思っています。また、18年の歴史の中育って行った子どもたちの中には、バレーボール競技者あこがれの「春高バレー」に男子3名、女子1名排出し、卒団後わずかの中学生でも県代表に複数選ばれて活躍するなど名選手を沢山育ててまいりました。

今年のチームは、レギュラー全員が6年生で、創部初めて春の選抜新人戦、夏の全日本小学生大会と2期連続県内優秀チームとして、東海大会に出場しました。

現在は数ある地区大会で優秀な成績を残しつつ、秋の県スポーツ少年団大会（会長杯）制覇と全国大会出場を目標に日々練習に励んでいます。



6年生8人、4年生4人のチームです！
練習はきついけど、でっかい夢に向かって
がんばってま〜す！

豊田町卓球スポーツ少年団

団員数 20名（平成21年登録）
対象 小学生～中学生
代表者 水谷 信雄
発足日 1994年4月1日

- ・年間行事 主に県内外の卓球の試合
ボウリング大会
クリスマス会 等
- ・練習場所 アミューズ豊田
- ・練習日 毎週 木・金曜日
- ・練習時間 19：30～21：15



水谷隼選手と高岡諒太郎選手

【過去の大会成績】

- ・平成8年度全日本選手権バンビの部2位
- ・平成9年度全日本選手権バンビの部優勝
- ・平成10年度全日本選手権カブの部3位
- ・平成11年度全日本選手権カブの部優勝
- ・平成12年度全日本選手権ホープス部3位
- ・平成13年度全日本選手権ホープス部優勝
- ・平成16年度全日本選手権ホープス部3位
- ・平成16年度全日本ホープスの部（団体）3位
- ・平成19年度全日本選手権バンビの部3位
- ・平成20年度全日本選手権バンビの部優勝
- ・平成21年度全日本選手権カブの部3位
- ・平成21年度全日本選手権バンビの部優勝

【活動内容】

私達のスポーツ少年団は、発足して15年を過ぎ16年目に入りました。

現在、男子12名、女子8名の団員がいます。

最近では、卓球経験のある二世の子供が多く在籍しています。

卓球経験のある親にはコーチになってもらい、多球練習によるフォア、バックの基本技術の習得に始まりフットワーク、飛びつき、上級になるに連れ、1球をミスしないようにラリー練習を多く行っています。

そして最後に必ず試合練習というのが主な練習の流れです。卓球経験のない親には球拾いをやって頂き、可能な範囲でお手伝いをお願いしています。

団員達は、常に全国で戦えるように高い目標を持ち日々頑張っています。

団の運営は、父母会があり父兄のご理解とご協力により団が機能しています。

団員には、卓球技術の向上も重要ですが感謝の気持ちを忘れないように注意しています。

特に練習場に入る（出る）場合は、大きな声で挨拶するようにしています。

卓球の試合も挨拶に始まり挨拶で終わりますから結果がどうであれ見ていて気持ちのいい選手になるよう指導しています。

この団から育った選手として、昨年北京オリンピックに出場した水谷隼選手や平成18年度全日本選手権ジュニアの部3位の高岡諒太郎選手がいます。昨年度は、全日本選手権バンビの部で伊藤美誠選手、本年度は桑原穂実選手が優勝とこのクラスで全日本2連覇を達成でき、後輩達も全国大会で頑張っています。

以上

竜洋野球スポーツ少年団

設立年 平成元年
加入連盟 静岡県野球連盟福田支部
ホームグラウンド 竜洋海洋公園野球場
問い合わせ先 0538-66-1872 鈴木啓之

指導者 監督 兼子 則夫
 コーチ 牧野 利夫
 竹内 孝彦
 大石 康義
 茂野 雅敏
 滑川 秋光
 牧野 克哉
 牧野 孝浩
 河西 一哲

団員構成 6年生 13名
 5年生 14名
 4年生 10名
 3年生 4名
 2年生 1名
 合計 42名

◆◇団員募集中◇◆

お気軽に練習見学にお越し下さい！



第27回中遠広域少年野球大会 準優勝記念

【活動状況など】

[練習日] 毎週木曜日と土曜日の2回
 土曜日練習（実践練習）
 時 AM 8：30～12：00
 於 竜洋海洋公園野球場
 木曜日練習（基礎練習）
 時 PM 7：00～8：45
 於 竜洋体育センター

[主な行事] 夏のレクリエーション交流会
 宿泊訓練
 六年生を送る会
 卒団旅行
 各種公式大会参加
 各種大会 祝勝会

[平成21年度の主な戦績]

第31回静岡県学童野球選抜富士大会
 ベスト8
第27回中遠広域少年野球大会
 準優勝

【チームの特徴】

竜洋野球スポーツ少年団は
「礼儀正しく、明るく、楽しく、思いっきり」
の指導のもと取り組んでいます。

三振しても思いっきり振ってくればよし。
エラーしても思いきりのプレーであればよし。
大きな声で全力プレーを！

大好きな野球をみんなで声を掛け合い、
全力でプレーしています。

竜洋ミニバスケットボールスポーツ少年団

団員数 男子14名 女子15名

計29名

代表者名 小栗 宏通

創立年 1992年4月

組織

創立18年目 過去卒団員 男女 約260名

私たち少年団は、母体は一つでその下に男女が、
個々に活動しています。

指導者紹介

	男子	女子
監督	田邊 修司	加藤 克巳
コーチ	寺田 信治	三谷 正昭
コーチ	次廣 大裕	喜多野ちづる
スポ少理事	小栗 宏通	

過去の成績

男子	県大会出場	3回
女子	磐田大会 優勝	1回
	準優勝	2回

写真は、平成19年度

雄踏ミニバス招待大会です。



練習

- ・練習日 男子 火曜日、水曜日、土曜日
女子 火曜日、金曜日、土曜日
- ・時間 18:30~21:00
- ・会場 竜洋各小学校、竜洋中学校
- ・団員募集および入団受付 随時
- ・問い合わせ先、代表者 小栗まで

年間行事

- ・西部選手権 年 2回
- ・磐田地区大会 年 4回
- ・遠征 年 2回 三重、清水
- ・各地区 ミニバス招待大会
- ・竜洋ミニバス招待大会では、お世話になった県内外の各チームの皆さんへ恩返ししようと、男女24チーム参加で、10年前から開催し、各チームと親睦を図っています。

指導者から子どもたちへの想い

- ・ミニバスケットボールを通じて心身ともにたくましく礼儀正しい児童を育成し、子どもたちの基礎体力の向上を図っています。
- ・バスケットボールは、生涯スポーツと考え、楽しさ、厳しさ、勝つことの嬉しさ、負けることの悔しさを、感じて中学、高校、一般とバスケットボールを楽しんでもらい、指導者として団に戻ってくれればと想っています。

父母会からのメッセージ

子どもと親と共に練習や試合の中で、楽しんだり、悔しんだりし、指導者と共に子どもたちの成長の姿を見守っていきたいです。

竜洋FCスポーツ少年団

加盟人数 71名
代表者 長谷川公男
創立年 平成12年4月

【組織の概要・変遷】

旧竜洋町の小学校3校で、約20年、小学校単位でそれぞれ活動していた少年団活動を平成12年に一本化して現在に至っている。

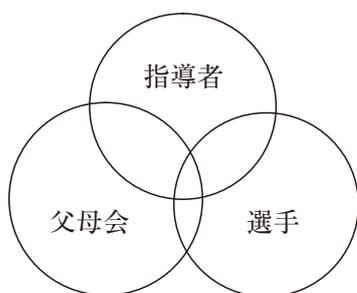
平成21年現在、指導者16名、団員71名で活動している。また、下部組織として幼稚園の年中・年長児を対象とした竜洋キッズも活動をしている。

【指導方針】

この少年団は、サッカーを通じて、下記のような心身の健全な育成に資することを目的としている。

- (1) 団員一人一人の知性・特性を高める。
- (2) 心身の鍛錬を目指し、スポーツの振興と安全教育の推進を図る。
- (3) 健全な家庭作りと地域学習により、文化の振興を図る。

また、上記の目的を果たすために、父母会が組織され、指導者、選手、父母会が三位一体となって、協力し合ってそれぞれの役割を果たして活動を行っている。



【活動状況】

週3回、小学校のグラウンドや近隣のグラウンドで活動している。

- 水曜日 19:00～21:00
- 土曜日 9:00～12:00
- 日曜日 9:00～12:00

【団主催の大会】

- 竜洋U7サッカー大会 (10月)
- 竜洋U10サッカー大会 (11～12月)

- 竜洋カップU11 (2月)

【過去5年間の大会での成績】

- 平成16年度
 - ・サークルK県大会出場 (4年生)
- 平成17年度
 - ・サークルK県大会ベスト8 (4年生)
- 平成18年度
 - ・静銀カップ県大会出場 (6年生)
- 平成19年度
 - ・静銀カップ県大会出場 (6年生)
 - ・全日本少年サッカー大会県大会優勝
 - ・全日本少年サッカー大会全国大会出場
 - ・NTT県大会出場
- 平成20年度
 - ・全日本少年サッカー大会県大会出場
 - ・NTT県大会出場



【平成21年度 6年チーム写真】



【団のシンボルマーク】

団の所在地「竜洋」の地名にちなんで、竜の絵柄をデザインして団のシンボルマークとしている。

このマークは、公式戦のユニフォームやオリジナルタオル等にデザインされ、団員や父兄に親しまれている。

シンボルマークには、赤・白・青の縦縞があるが、これは3つの小学校が一本化される前の3チームのユニフォームの色を表している。

竜洋西卓球スポーツ少年団

団員数 39名（平成21年度）
代表者 松下 孝
創立年 活動開始 昭和40年
 団創立 昭和56年

【沿革】

昭和41年5月に県下51番目のスポーツ少年団として「竜洋町スポーツ少年団」が誕生しました。

発足当時は各小学校（竜洋西・東・北小学校）を活動単位に、様々なスポーツや集団活動を行う「複合型」のスポーツ少年団でした。

“卓球”はその活動に先立ち卓球経験者の間で行われており、昭和40年には「第一回竜洋町卓球大会」が開催され、現在も45回竜洋卓球大会として続いています。

この「卓球大会」開催に先立ち、各単位団（小学校）毎に“卓球教室”が開催されていました。

その卓球教室の活動が基となり、卓球を中心に行う単一のスポーツ少年団として、昭和56年に「竜洋西卓球クラブ」が誕生しました。

その前後より相次いで誕生した浅羽・福田・新居・三ヶ日各町などの“卓球スポーツ少年団”とも盛んに交流を行い、各町の卓球大会へ参加などを通して友好を深めてきました。

平成2年、それまで小学校区単位に活動をしていましたが「竜洋北卓球スポーツ少年団」の解散に伴い、北小学校区の子供達を加えまして、新しい「竜洋西卓球スポーツ少年団」が誕生しました。



【競技の魅力】

殆どのスポーツが体格の大小や力の有無、性別や体重また年齢等がその勝敗の結果に大きく影響。その点、卓球は体力（強い体）の勝った方が有利になるスポーツです。つまり純粋に日常の基礎体力の練磨と技術向上の努力により、勝利が得られるスポーツという事です。

【団運営の方針】

- (1) 将来 どんなスポーツでも出来る“スポーツ好き”になって貰いたいと言う事で“基礎体力の育成”を重点的に行っています。
- (2) 挨拶や礼儀といった、団体行動や基礎的な社会ルールを重要視して、日常の活動の中で身に付ける様に指導をしています。
- (3) “卓球”を遊びではなく“スポーツ”として行っていますので、卓球技術の向上を目指し“練習”を重ねています。

【活動状況】

毎週土曜日の夕方六時半から八時まで竜洋西小学校体育館において練習活動をしています。“大会参加”は竜洋地区内の大会を始め、近隣の地区の大会に参加して、日頃の技量向上を確認しています。

【指導者】

団 長/ 松下 孝・副団長/ 佐久間秀夫
指導員/ 鈴木富貴子・佐久間民子・木村哲宏・
鈴木貴也・稲垣あや子・松下ふき子・川井宏文



竜洋空手スポーツ少年団

加盟チーム数 1チーム
加盟人数 19名
代表者 鈴木 善久
創立年 平成12年、スポーツ少年団として
平成15年に加入

【組織】

・組織の概要

指導員3名、団員19名、他学生・一般14名で活動しています。

・組織の変遷

平成12年に社団法人・日本空手協会の竜洋道場として出発しました。

稽古を重ねて平成15年に竜洋支部として正式に認可をいただき、同時にスポーツ少年団に加入して、現在地域に密着した道場を目指しています。

・組織の方針

現代の子ども達は、家庭では怒られること無く育てられ、物や情報に溢れる環境の中で、人に対する礼節が欠落しているように思われます。我が団では、稽古を通して、団員達に忍耐、礼儀、そして自分に負けないで努力する「心の強さ」を身に付けてもらい、団員の健全育成の一翼を担うことができたらと考えてながら取り組んでいます。

【活動】

・稽古状況

稽古は磐田市立竜洋中学校の武道場で、毎週月曜日と木曜日に夜7時から9時まで稽古をしています。

・稽古内容

日本空手協会の指導員が「基本」、「型」、「組手」の稽古とともに「あいさつ」をはじめ、礼儀を第一に指導しています。

・大会

毎年春に行われる日本空手協会の西部大会、県大会に参加し、勝ち進んだ選手が東海大会、全国大会に出場し、文部科学大臣杯を目指して頑張っています。

今年は、静岡県袋井市のエコパで第52回・小学生中学生全国大会が開催され、2名の選手が出場することができました。

・年間行事

正月には神社で稽古初め、春は豆まき、夏はバー

ベキュー、秋はお祭り等に参加し、みんなで楽しく活動しています。

・今後の目標

一人でも多くの人たちに空手道に触れていただきたいと思っています。ぜひ一度お気軽に見学にきてください。

【道場訓】

1. 人格完成に努むること
2. 誠の道を守ること
3. 努力の精神を養うこと
4. 礼儀を重んずること
5. 血気の勇を戒むること



テニス(硬式)スポーツ少年団

種 目 硬式テニス ドッチボール
他 軽スポーツ
団 員 16名(小学4年生～6年生)
代 表 者 山下 安範
設 立 年 平成17年4月1日
活動場所 竜洋B&G海洋公園内
竜洋リバーサイドテニスコート

設立の背景と試み

長女の小学校と中学校のPTA活動に長年携わり近年の少子高齢化に伴い、子供たちの人数が減り続け、更に子供たちが外で遊ぶ姿を見なくなった昨今、スポーツ少年団活動に新しい考えでの種目を取り入れようと考えました。多くの種目が少年団活動をしている中、静岡県内では、登録団数が少なく、県西部地区では初めての登録となる硬式テニスのスポーツ少年団を立ち上げスタートさせました。母集団活動を取り入れず、保護者に送迎以外の負担を掛けず、金銭的な負担も最小限に抑えるというものです。毎週の練習試合や大会参加をしない新しい試みで取り組む時代に合わせた感覚のスポーツ少年団を目指しています。



テーマは「みんなで遊ぼう」です。

団の目標も以下の3つを掲げ、子供たちの健全育成に取り組んでいます。

- 1 あいさつのできる子
- 2 やくそくを守る子
(ルールを守る子)
- 3 がまんのできる子
(団体行動のできる子)

練習風景

学年が違い、学校が違う子供たちの集団の中では、全員を平等で扱い、「友情」「思いやり」「やさしさ」「助け合い」「譲り合い」などを自然に養うことができるように子供の目線で言い伝え、考えて行動できるように指導しています。反面「いじめ」「仲間はずれ」「悪口」なども予想されますが、一つ一つ芽を摘み取る作業が必要になってきます。これらは、子供たちの名前を呼んで会話することにより子供たち同士の信頼関係が生まれ、成長、解決できると考えています。

活動中での人気メニューは「ドッチボール」です。練習開始から様々な遊びに取り組んでいます。少ない人数ですが、1年間欠席者が少なく、楽しく良い活動ができるのも、保護者の方の理解のおかげだと考えています。

今後も楽しい「遊び」に挑戦しようと思っています。

指導者資格

日本テニス協会公認指導員
日体協会公認ジュニアスポーツ指導員
日体協会公認スポーツ少年団認定育成員、体力測定判定員、障害者スポーツ初級指導員 日本テニス協会公認B級審判員、B級レフェリー

竜洋V S Cスポーツ少年団

部員 22名
代表 大庭 正明
創部 平成18年4月

年間活動

大会

全国大会 1回
県大会 2回
西部大会 2回
招待大会 2回
市大会 5回

行事

5月 お楽しみ会
7月 親子親睦会
11月 合宿
12月 クリスマス会

20年度の成績

つつじ杯

6年の部 第3位
5年の部 第3位
市民大会
5年の部 第3位

主な練習活動

場所 竜洋西小学校
日時 毎週 水・金
19時～21時
隔週 月・土

活動目標

バレーボールを通して、健全な体力向上と礼儀・マナーの勉強をしています。

バレーボールは、団体競技の為、うれしいことはみんなで分かち合え、辛いことはみんなでカバーし合い、素晴らしいスポーツです。

子ども達にとっては、指導者・保護者・体育設備等に対する感謝のこころを養い、また、先輩・後輩・仲間達との繋がり、他の家庭とのお付き合い等、社会にでてから必要な人間関係をも学べます。しかも、一致団結して、一つの目標に向かって取り組むことができます。

創部3年のひよこチームですが、県大会出場を目標に、元気に明るく練習に励んでいます。



豊岡野球スポーツ少年団

創立年 平成16年7月

加盟人数 33名

代表者 鈴木 東吾

<設立>

平成16年に創立したまだあたらしいスポーツ少年団です。

<組織>

代表者 鈴木 東吾

団員数 33名

6年 9名 5年 6名 4年 6名

3年 5名 2年 7名

指導者 監督 木藤 祐二

コーチ・顧問 10名

父母会 会長 1名

副会長 6名

会計 1名

所 属 天竜支部

その他組織 七夕会

(現役・OBの親で組織し少年大活動をサポートしている)

<現在の活動状況>

少年野球を中心にしたスポーツ少年団です。

団の活動・野球を通じて「元気で」「挨拶のしっかりできる」子供になれるよう活動をしています。

主たるホームグラウンドは豊岡東小で、毎週土・日曜日に9:00~17:00まで、練習と試合で汗を流しています。

練習内容は高学年はグラウンドで実践的に、低学年は天然芝のグラウンドで、野球を楽しみ基礎の習得をしています。

レギュラー・ジュニア(5年生以下)・スーパージュニア(4年生以下)で公式戦・練習試合を含めて年間80試合程度を行っています。

当面の目標は4大会ある公式戦で予選を勝ち抜き県大会出場を果たすことです。5年目を迎え、チーム力が向上してきた今年は目標をかなえるチャンスです。

野球以外の活動は、地域の行事へのチームでの参加、花見やバーベキュー等で、親睦を図っています。

少年団の卒団生も高校生となり現役の高校球児として7名が活躍をするようになりました。子供が野球が好きになり、中学・高校と続けてできるような指導を行い、近い将来甲子園に出場できるような選手の育成を目指しています。



磐田豊岡JFCスポーツ少年団

加盟人数 56名
代表者 佐藤 智洋
創立年 1994年4月

【組織】

概要

クラブ員：原則磐田市豊岡地区の小学校に在籍する
1学年～6学年の児童

指導者：代表及び渉外担当・・・1名
学年監督及びコーチ・・・6名

父母の会：会長、副会長、会計、書記

年間行事

各学年毎にチームを編成し、
静岡県サッカー協会4種委員会主催の大会への参加、
及び各クラブ主催の大会への参加

主催大会

U-10豊岡とれたて元気村杯サッカー大会



[チーム集合写真：豊岡多目的運動場にて]

【現在の活動状況】

私たちは、「サッカーを通じて、子供たちの健全な精神と肉体を育てる」を目的としたサッカー少年団です。磐田市豊岡地区を中心としたサッカー好きな子供たちと本クラブの趣旨に賛同した子供好きな指導者の方たちに支えられ創立16年目を迎えることが出来ました。

通常の練習は毎週土曜日と日曜日の午前中に豊岡総合運動場をお借りし各学年単位のグループに分かれてそれぞれの成長に見合った練習を行っております。

試合では、各学年の児童の数にバラツキがあり下の学年の子供たちにも参加してもらってのチーム編成になることが多く思うようなプレーが出来ない事ばかりですが、チーム全員で最後まであきらめず全力で走ってボールを追いかけています。

4年生～6年生には県大会まで通じる大会があり各学年とも県大会出場が目標ではありますが、試合に勝利することよりも大切なことをサッカーという競技を通じ、サッカーの理念であります

フェアプレー

リスペクト（尊敬）

あきらめないこと

を学んで自分で考え行動出来る子供たちなるような場であることを第一に今後も活動していきます。

竜洋東卓球スポーツ少年団

1、沿革

竜洋東卓球スポーツ少年団は、昭和50年頃当地域中平松在住の土屋久男氏によって創部され、竜洋東小学校の講堂を使用して活動を始めました。当初は、竜洋東小学校の講堂は傾斜があり卓球台を置くにも場所選びと工夫が必要でした。待望の体育館ができ、バレーボールクラブと一緒に活動を行いました。

大会は当初は、竜洋町卓球大会と県大会の2大会ぐらいでしたが、現在は各種大会も増え、団員の競技力向上と友愛・親睦を深めながら参加しています。

部員数は45名と単一小学校では県下有数の時代もありましたが、現在は12名と減少し、部員拡大に悩んでいます。

卓球は身近なスポーツですが、半面奥行きのある深いスポーツです。また体格は関係ないものの集中力が求められます。

2、指導目標

- ◎あいさつのできる子ども
- ◎思いやりのある子ども

あいさつがしっかりできる子は試合でも好成績を上げています。それは、あいさつを通じて練習にも気持ちを集中しているからだと思います。ボールを拾ってもらったとき「ありがとう」が素直にできる子どもに育てていきたい。

友達を求めての入部でも良いと思いますので、ワイワイ・ガヤガヤでもよしとしています。身近なスポーツであり、将来何かしらの形で楽しく続けられるよう活動を進めていきたいと思っています。

大会で良い成績を残していければ、子ども達の自信、楽しみにもなりますので技術の向上にも努力しています。

3、指導者の紹介

- 古田 政美 (東平松)
- 稲垣 克巳 (岡)
- 仲村 富男 (駒場)
- 鈴木 清也 (西平松)
- 川崎 陽平 (駒場)



向笠サッカー愛好会チームフレンドリースポーツ少年団

加盟人数 26名

代 表 井口 彰仁

創 部 年 平成19年5月

【組織】

主催大会なし

戦績なし

【現在の活動状況】

我々の サッカークラブ『フレンドリー』は、地元のグラウンド「サンポス」を拠点に活動しています。

クラブ設立から2年のまだまだ駆け出しのクラブで、下は、幼稚園から小学校5年生までの26人の極々、小さなクラブですが、男女混合（と言っても、女子は2名）のとても元気のあるクラブです。クラブ名通り、みんなで仲良く、ワイワイ・ガヤガヤやっています。



豊岡南剣道教室スポーツ少年団

加盟人数 20名
代表指導者 鈴木 信吾
創立年 昭和49年12月

市町村合併により天竜剣道連盟より脱退
磐田剣道連盟傘下団体となる
創立者は春田昌恵（旧姓佐藤）現豊岡中学校教諭
昭和50年11月に設立1周年記念大会を開催
現在も豊岡剣道大会を毎年開催継続中
本年度第35回大会に至る
活動は毎週木曜日と土曜日に稽古
教室の活動日以外にも積極的に他道場への出稽古にも参加しています。

〈競技の魅力〉

人とあったら挨拶をする
教えを受けたら感謝する
団体（組織）のなかでは他人を思いやる
くつをそろえる
といった当たり前のことを当たり前に行えることを
日常生活基本を重視した鍛錬ができる
設立当初より5つの誓いを掲げ稽古のあとには必ず
唱和をしています。

- 一、私たちは礼儀正しい子になります
- 一、私たちは心とからだをきたえます
- 一、私たちはすすんで勉強します
- 一、私たちはみんなのために働きます
- 一、私たちはだれとでも仲良く遊べます

〈教室出身者の活躍〉

豊岡中学校に進み県内外で活躍している
女子団体戦では本年度全国大会3位という輝かしい
実績を残しました。

旧豊岡村の小さな自治会内の少人数ながら日々稽古
に励むことにより大きな実績を挙げていることに、
やればできるということを見事に実践し、関係者や
後輩、親や地域の人たちにも大きな自信と誇りを与
えました。

高校に進んでも様々な方面で活躍しています。



磐田東部バレーボールクラブスポーツ少年団

加盟人数 30名
代表者名 団長 鳥居喜久雄
設立年 平成元年11月5日

年間行事

- 3月 入団式
- 4月～3月 磐田市バレーボール協会主催大会への出場
静岡県バレーボール協会主催大会への出場
西部小学生バレーボール連盟主催大会への出場
- 8月 夏季お楽しみ会
- 12月 冬季お楽しみ会（クリスマス会）
- 1月 新春初詣 初打ち会
- 3月 卒団旅行
卒団式



活動状況

『磐田東部バレーボールクラブ』は、平成21年の秋に創設20周年を迎えることとなりました。当クラブでは

- 願いやめあてを持ってプレーしよう
- 自分の良さをづくり、のびそう
- 友だちの良さを見つけよう
- 自分を振り返ろう
- ありがとうの心を持とう
- 自分たちでできることは自分たちで

活動の心構えとして、これまでに200名を超える子ども達にバレーボールの楽しさを伝えてきました。

当クラブが20周年を迎えることができましたのは、学校・地域・バレーボール協会・保護者・卒団生の皆様のご理解・ご協力をいただいていたからと考えております。

20周年を迎えるに当たっての記念事業として、平成21年5月3日に卒団生・スタッフなどによる親睦試合（神明中学校体育館）、記念式典（磐田グランドホテル）を開催するとともに、記念CDの作成を行いました。

昨今の少子化、スポーツの多様化などから、当クラブの団員もピークの時と比べますと若干少なくなっておりますが、磐田市立東部小学校、磐田市立田原小学校に通う子どもたちが地域の公民館の体育館や地元の小中学校の体育館を会場にして週2～3回の練習に励んでいます。

生涯を通して楽しめるスポーツとして、これからも地域の子供達にバレーボールの楽しさを伝えていけますようスタッフ一同頑張って活動していきます。



二之宮南ソフトボールスポーツ少年団

加盟人数 11名

代表者 河合 竜也

監督 高田 真孝 (2008年)

監督 安間 秀明 (2009年)

監督 菱田 義隆 (2010年)

【組織】

磐田駅南・二之宮南子供会 (磐田中部小学校校区)

・組織の変遷

二之宮南子供会は市子連・球技大会に向け、地区の参加希望者を募り、ソフトボールを40年以上にわたって継続して指導してきた。但し、毎年、球技大会までの期間限定の活動であった。2006年頃より子供達の中から、ソフトボールをもっと続けたい、試合をたくさんしてみたいとの声があがり、2007年に磐田秋季大会に参加した。

2008年4月、

二之宮南JSC (ジュニアソフトボールクラブ) 設立

2009年4月、

二之宮南ソフトボールスポーツ少年団設立。



(2009年中泉大会 優勝)



(第52回市子連・球技大会 第3位)

【現在の活動状況】

活動期間 通年 (10月の祭典期は休止)

活動場所 二之宮グラウンド

活動日 日曜日の午後2~3時間程度

主な大会

磐田春季大会 (3月)

磐田中泉地区大会 (7月)

市子連・磐田ブロック球技大会 (7月)

ドリームワールド杯磐田秋季大会 (11月)



(第4回ドリームワールド杯 準優勝)

活動はソフトボールだけでなく、定番のバーベQや、かき氷、流しそうめん、焼き肉など子供達に楽しんでもらえるイベントも多彩に実施しています。

試合に勝つという喜びを知って欲しい為に練習では厳しい指導もしますが、子供会が母体となって発足したチームですので、メンバーの兄弟姉妹も集い、楽しんで活動しています。



・サポートコーチ陣

永瀬 英一郎

酒井 一之

鈴木 恵是

仲田 潤

安間 勇人 (2007年度OB)

寺田 雄太郎 (2007年度OB)

磐田松涛館スポーツ少年団

加盟チーム数 市内4支部

(富士見・東部・福田・南部)

加盟人数 男子75名、女子76名

指導者 男子8名、女子3名

代表者名：池田 勝郊

富士見…池田 勝郊

東 部…田中 利治

福 田…池田 大祐

南 部…成島 真人

1982年創設

春…西部大会・秋…東海大会・年中期…松涛館大会

会訓は、「武道空手による躰」です。

子供達が大人になって、社会人として信頼される人間を育成したい。従って競技力中心ではなく、日頃の激しい稽古の中から、忍耐力をつけたり互いに尊重したりすることを学ばせる。そして何より『和』を大切にする。最近では、家族と一緒に稽古をする会員が増えています。これなどは、子育ての一つの方法ではないでしょうか。

また今年からスタートした松涛館気功は、無理の無い健康法として熟年の人達に普及しつつあります。



南みくりソフトボールスポーツ少年団

加盟人数 大人2名、小学生17名

代表者 近藤 泰典

創立年 平成17年8月

【組織】

磐田市南御厨地区およびその周辺地域の小学生1～6年生と指導者にて構成されています。

平成17年8月に南御厨子供会ソフトボールチームを引き継ぐ形で、本クラブが活動を開始しました。

小学生1～6年生の選手全員が学年の枠を越えて仲がよいチームです。

“楽しく真剣に”をモットーに、小学生たちの思い出に残る活動を目指しています。

最近では、浜松市の約50チーム参加の大会で連続3位入賞など、少しずつ結果も伴うようになってきており、活動にも活気が出てきています。

【現在の活動状況】

基本的に毎週土日午後の練習と月1回程度の大会参加を行っています。その他、食事会などの交流活動も行っています。

ソフトボールは、野球と似たスポーツですが、塁間が短いことなどから、よりスピード感があり、プレーひとつずつの正確性が求められるスポーツで、そこがまたソフトボールの面白さでもあります。

俊足巧打のキャプテン山下、3年生から登板経験を積んで6年生となったエース鈴木、4番で強肩キャッチャーの久留島を中心に、今年是小技あり長打ありのまとまったチームになりました。今年、全大会で上位進出を狙っています。

将来的には、県大会での優勝を目標としています。

その他、ソフトボール教室の開催、磐田秋季・春季大会の共同開催など、地域ソフトボールの活性化と青少年健全育成にも貢献できたらと考えています。



NPO法人 いわた体操クラブ

加盟人数 磐田市内在住

幼児・小学生・中学生 70名

代表者 山本新吾郎

創立年 平成18年10月1日

【設立について】

- ・近年、子どもたちの体力低下等、子どもたちを取り巻く環境も変化し、スポーツ活動を通しての青少年健全育成の大切さを痛感していました。そこで私たちは、スポーツ活動を通して子どもたちの運動能力向上及び健全育成を目的とし、多くの人に自らの身体を動かすことの楽しさを体験・経験してもらいたいと考え、平成18年10月に小学生を中心に体操クラブの活動を始めました。

(事業内容)

- ①体操・新体操に関する普及活動
- ②体操・新体操の選手輩出
- ③体操・新体操の指導者育成
- ④子どもの体力、運動能力向上のための体育教室事業
- ⑤成人の健康保持促進のための教室事業

【組織】

- ・平成18年10月に、器械体操・新体操の普及を目的として、静岡産業大学を中心に磐田市内小学校体育館を利用して、器械体操教室・新体操教室をスタートしました。当初は器械体操2教室、新体操教室1教室からのスタートではありましたが、現在は、器械体操4教室・新体操2教室となり、対象も小学生のみならず、中学生・幼児まで70人の子どもたちが楽しく元気に活動しています。



【現在の活動状況】

- ・クラブ設立から3年が経過し、競技力も徐々に向上してきました。中には競技として体操・新体操を続けて行きたいとの声も多くなり、選手コースを新設し県内外の大会競技会に出場できる子どもも増えてきました。また、新体操クラスでは静岡県体操祭新体操大会にて、徒手の部で準優勝・種具の部でも3位入賞などの成績をおさめるまでに成長してきています。



尚 道 塾 (空手)

所 属 社団法人日本空手道協会
 浜松南支部

代 表 田中 尚道

加盟人数 13名

本 拠 地 磐田市見付

活動場所 磐田北小、向笠小など

(活動状況)

正座、黙想をして心身を落ち着かせた後、大きな声を出して稽古を始めます。単に体を動かすだけでなく、考えながら行動するという点に注意して稽古しています。

基本の繰り返しも非常に退屈ですが、少しでも根気がつくよう、涙あり、笑いありで一生懸命頑張っています。

空手で稽古したことが、将来何かの形で生かされてくれればいいと思います。

体協創立60周年おめでとうございます。

記念誌掲載を感謝しますと共に、今後のご発展をお祈りいたします。

尚道塾はたくさんの後援者と地元見付地区の子供たちを中心に結成された伝統空手の団体です。まだ若く未熟な団体ですが、古くから空手道普及に尽力されてきた先生方のご意見なども頂きながら、元気に稽古させていただいております。

優しく魅力ある人間作りを目標に進んで行きたいと思っておりますので、ご指導よろしくお願い致します。

(選手紹介)

第52回社団法人日本空手道協会全国大会出場

－2009年開催－

・田中斗暉也（城山中3年）

・田中辰暉（磐田北小3年）

予選を勝ち抜き、静岡県代表になりました。

ご協力、ご声援本当にありがとうございました。

－来年はみんなで出場するぞー



正座、黙想。この時間を大切にします



10年後はどんな子になっているでしょうか（笑）

豊岡東剣道教室

代表者 稲葉 昌美
設立年 昭和59年
団 員 15名

昭和59年以前、豊岡東小学校に通い剣道を学ぶ多くの子供たちは、豊岡南剣道教室にお世話になっておりました。

夜間の稽古でもあり、又遠隔地で送迎も大変なことから父母・剣道愛好者から地元で行いたいとの声もあり、昭和59年4月に発足しました。

発足から一貫「心と身体を鍛え、我慢強い子になろう。」を掲げ、剣道を通じての人間形成を念頭に置き、剣道を楽しむ、剣道の基本を重点に活動してきました。

このような団体ですので基本を重視する「静岡県警察柔道・剣道練成大会」等々で入賞したこともあります。

最近は、剣道教室に通う小学生も少なく、小学生は南教室への出稽古、中学生も他の団体への出稽古で技を磨いています。



第39回全国中学校剣道大会 豊岡中学剣道部女子 団体戦第3位

豊岡東剣道教室に籍を置く豊岡中学校の剣道部員は、本年の中学校県大会に出場し女子個人戦で優勝、準優勝し、団体戦においても女子剣道部は優勝しました。更に8月20日～22日に人吉市で行われた、第39回全国中学校剣道大会に出場し、個人戦では二人がそれぞれ2回戦、4回戦（ベスト16）に駒を進めました。



団体戦でも、予選リーグを1位通過し、決勝トーナメント3回戦（準決勝）で本年度優勝校京都久御山中学校に接戦の末敗れました。

選手達は小学生時代基本の大技で大会に臨み結果を出せませんでした。

中学校に進みよき指導者（顧問）と巡り合い、剣の理法を説いていただいたことにより、全国大会第3位の結果を得たものと感じています。

豊岡東剣道教室は近隣の多くの剣道指導者に支えられ、地域の人達のご支援により活動してきました。

これからも発足当時と変わらぬ「心と身体を鍛え我慢強い子になろう」を掲げ活動が継続できたらなと思います。

豊岡ミニバスケットボールクラブ

創立年 平成9年6月9日

<練習日程>

月・水・金 19時～21時

<目的>

ミニバスを通じて、交友関係の勉強と体力づくりを図っています。

またモットーは「勝つことの喜びを知ること」で一生懸命練習に励んでいます。

<目標>

「楽しんで勝つ！」

※保護者も楽しみながらチームづくりをしています

<主な大会>

4月 会長杯

5月 春季西部大会

8月 磐田選手権

9月 秋季西部大会

11月 新人戦

11月 かぶと塚フレンドリー杯

1月 さわやかカップ

<組織>

代表者 大谷

コーチ 稲谷

大谷

鈴木

藤井

団員数 21名

5、6年 8名

4年生以下 13名



豊田ミニバスケットボールクラブ

代表者 齊藤 勉
設立 1994年
加盟人数 32名

年間行事

5月－会長杯 10月－西部大会
6月－西部大会 12月－ジュニア大会
9月－磐田選手権 2月－理事長杯

豊田地区の四つの小学校の1～6年生で構成しています。

学校も学年も違うメンバーですが、とても仲がいいです。

豊田ブルズ（男子）
コーチ 4名 部員 19名

昨年度は、公式戦で1勝もできなかった苦節の年でしたが、コーチの指導と子供たちの頑張りで今年度は西部大会に出場できました。

子供たちは、ミニバスを通じてたくさん怒られ、たくさん褒められ、一喜一憂しながら多くの事を学び、心身ともに成長しています。

豊田フレンズ（女子）
コーチ 3名 部員 22名

週2～3回の練習ですが、コーチの指導のもと、子供たちのやる気と頑張りで、昨年度のジュニア大会優勝と今年度の理事長杯4位、会長杯4位、西部大会出場という成績を残すことができました。

豊田の気質でしょうか、少々のんびりしている所がありますが、自分に負けるな！を目標にこれからも精進していきます。



御厨子供会ソフトボール倶楽部

加盟人数 17名
代表者 梅津 孝彦
創立年 平成21年4月

組織

私たちのチームは今年新たにスポーツ少年団として活動を始めました。

今までは、地域の子供会の活動の一環としてソフトボールを行っていましたが今後はよりスポーツを通して子供たちの体力の増進、協調性等を育てていこうといった趣旨で行っています。

クラブ員の構成は

6年生 3人
4年生 6人
3年生 4人
2年生 3人
1年生 1人
計 17人

と少人数で、役員等は正式には決まっておりませんが子供たちの親や地域の大人たちが積極的に手伝っていただきクラブを運営しております。



現在の活動状況

ソフトボールは大人から子供まで一緒に行える競技のため、日ごろの練習で子供たちと大人たちが一緒にキャッチボールや紅白戦をやることで親子のコミュニケーションがとれています。

今年初めての公式戦となった市子連東部地区大会においては3位という成績を収めることが出来、子供たちだけでなく親たちも一緒に喜びを感じました。

6年生が3人と少なく5年生がいないためチームとしてはこれからのチームなのですが、6年生3人が皆をリードしてチームを盛り上げております。



チームの切り込み隊長
1番ショートキャプテン 鈴木皓大



絶対的エース
4番ピッチャー 大石浩士



守備の要
5番キャッチャー副キャプテン 中崎帝

龍池舎（リュウチシャ）

団員数 42名
代表者 芥川 栄人
創立年 平成12年10月

【スローガン】

最高の瞬間を 最高の仲間と

【組織】

指導者：男性5名、女性2名
父母会：なし
O B：55名

【活動状況】

練習：2回／週（水・金曜日）
大会：協会主催の各種大会に参加（通年）
年間行事：書初め、節分、運動会や蕎麦打ちを実施

【主催大会】

豊遊杯 ゆやの里ドッジボール大会
（旧豊田町小学生クラス対抗戦）
平成14年度から学校週5日制の地域での受け皿として、毎年11月の最終土曜日に開催。
毎年600名超の小学生が参加。

【これまでの成績】

- ・東海大会出場（平成16～19年度）
平成17年度 ベスト8
- ・中部地区第5位で
イーストカップ（西日本大会）出場
- ・その他 県内大会 各部門で優勝多数
- ・平成13年度 地域コミュニティ優良賞受賞（静岡コミュニティづくり推進協議会）

【チーム名への思い】

スポーツ少年団に「龍池舎」という名前は不釣り合いかもしれませんが。明治初期に村人たちが新しい社会を担う子どもたちの教育のために「自分たちの学校は自分たちでつくる」と縄ない資金や寄附金を集め、地域に学校を作り、その校名を「龍池舎」と名付けました。現在の豊田北部小学校の前身でもあります。

先人たちの英知と偉業に敬意を表し、また「地域の子どもたちは地域で育てる」というわれわれの熱いがちょうど一致したのでチーム名にこの学校名をつけることにしました。

現在活動の中心にすえているドッジボールは、自分たちが描いている学校での体育活動であり、心身ともに健全な子どもの育成に努めています。そして子ども達の自主性を伸ばし、地域への愛着を持てるように保護者の方たちと一緒に「子ども達を地域の中で育てていきたい」との思いで活動しています。

【今後について】

龍池舎のOBがまもなく成人を迎えます。

地元に戻ってきた時に、彼らの活動の受け皿になればとも思っています。いつまでも同じ指導者が指導者としてではなく、チームとしての新陳代謝も必要です。

またドッジボールはスポーツの入り口としては男女関わりなく楽しむことができると同時にスポーツが少し苦手な子にとっても気軽に参加できる間口の広いスポーツです。ドッジボールを通じて誰もが気軽にスポーツをできる環境づくりも考えていきたいと思っています。



「始めの一步杯2009」（ゆめドームうえのにて）

体育賞に輝いた方々

(敬称略)

平成11年度

【功労者賞】

内山 毅	(磐田卓球協会)	大村晃司	(野球連盟磐田支部)
鈴木信好	(磐田卓球協会)	平野貴代子	(南地区)
藤田明弘	(野球連盟磐田支部)	松下好子	(向笠地区)
松下義雄	(磐田市スポーツ少年団)		

【優秀指導者賞】

阿部和彦	(南地区)	伊藤滋朗	(磐田市スポーツ少年団)
伊藤純夫	(磐田市スポーツ少年団)	金子忠義	(磐田市スポーツ少年団)
川島嘉享	(磐田市スポーツ少年団)	鈴木一夫	(磐田市スポーツ少年団)
鈴木邦彦	(磐田市バレーボール協会)	竹下良道	(磐田市スポーツ少年団)
津川成之	(磐田市スポーツ少年団)	丹生敬人	(磐田市水泳協会)
松井隆雄	(磐田市スポーツ少年団)	溝口賢二	(磐田市スポーツ少年団)
宮崎雅夫	(磐田市スポーツ少年団)	森島周一	(磐田市スポーツ少年団)

【優秀選手賞】

厚海実咲	(磐田市水泳協会)	柏木俊樹	(ボート)
白井秀尚	(磐田市水泳協会)	清水千尋	(磐田市水泳協会)
新村浩平	(磐田市水泳協会)	鈴木雄二	(磐田市水泳協会)
鈴木里奈	(磐田市水泳協会)	袴田好男	(磐田市ボウリング連盟)
山田和輝	(磐田市アーチェリー協会)	山中正三	(磐田市アーチェリー協会)
吉本 功	(磐田ゴルフ連盟)		
磐田南高等学校水泳部	(磐田市水泳協会)	MAGICAL	(磐田市ソフトボール協会)

平成12年度

【功労者賞】

杉山重好	(磐田市陸上競技協会)	松本 渉	(磐田市陸上競技協会)
倉島さだ子	(磐田市バレーボール協会)	尾高利男	(磐田卓球協会)
平間洋一	(磐田卓球協会)	稲葉敏男	(野球連盟磐田支部)
山下信好	(野球連盟磐田支部)	小林孝一	(磐田市空手道連盟)
堀内 豊	(磐田バスケットボール協会)	堀内昌文	(磐田バスケットボール協会)
那須 正	(磐田市ソフトボール協会)	大石正巳	(磐田市ソフトボール協会)
磯部克介	(磐田ゴルフ連盟)	神崎正和	(磐田市ソフトボール協会)

【優秀指導者賞】

金澤光雪	(磐田市陸上競技協会)	澤井猛英	(磐田市陸上競技協会)
伊藤直行	(スキー)	宮司佳則	(磐田サッカー協会)
萩原正男	(磐田バスケットボール協会)	鈴木勝則	(磐田バスケットボール協会)
池谷真理子	(磐田バスケットボール協会)	品川幸夫	(磐田市テニス協会)

【優秀選手賞】

村上奈穂	(磐田市陸上競技協会)	矢部小織	(磐田市陸上競技協会)
水谷 隼	(磐田卓球協会)	水谷茉央	(磐田卓球協会)
相津歩子	(特定非営利活動法人磐田剣道連盟)	宮地 緑	(特定非営利活動法人磐田剣道連盟)
三矢季美	(特定非営利活動法人磐田剣道連盟)	内藤未妃	(磐田市水泳協会)
白井秀尚	(磐田市水泳協会)	横山悠生	(磐田市水泳協会)
牧野充宣	(磐田市水泳協会)	木下敏行	(磐田市水泳協会)
柴田 剛	(磐田市水泳協会)	久野陽祐	(磐田市水泳協会)
村松美輪	(磐田市水泳協会)	清水千尋	(磐田市水泳協会)
内藤有美	(磐田市水泳協会)	山田和輝	(磐田市アーチェリー協会)
武田泰明	(ボート)	柏木俊樹	(ボート)

【奨励賞】

村松杏莉	(磐田市水泳協会)
------	-----------

平成13年度

【功労者賞】

儘下高育	(磐田卓球協会)	鈴木達二	(野球連盟磐田支部)
村松安彦	(野球連盟磐田支部)	安間正幸	(磐田市ソフトボール協会)
仁科良治	(磐田市アーチェリー協会)		

【優秀指導者賞】

松本 武 (磐田バスケットボール協会)

尾高俊行 (磐田市水泳協会)

【優秀選手賞】

石田達久 (磐田市陸上競技協会)

木下 剛 (磐田市陸上競技協会)

鈴木麻友 (磐田市陸上競技協会)

佐野知宏 (磐田市陸上競技協会)

中村太一 (磐田市陸上競技協会)

白井秀尚 (磐田市陸上競技協会)

村松美輪 (磐田市水泳協会)

清水千尋 (磐田市水泳協会)

横山悠生 (磐田市水泳協会)

磐田西高等学校剣道部 (特定非営利活動法人磐田剣道連盟)

N T N (株) 磐田製作所野球部 (野球連盟磐田支部)

【奨励賞】

原田拓也 (磐田市陸上競技協会)

小林実央 (磐田市陸上競技協会)

米田智美 (磐田市陸上競技協会)

水谷 隼 (磐田卓球協会)

内藤有美 (磐田市水泳協会)

磐田第一中学校剣道部 (特定非営利活動法人磐田剣道連盟)

磐田東高等学校サッカー部 (磐田サッカー協会)

平成14年度**【功労者賞】** 6名**【優秀指導者賞】** 1名**【優秀選手賞】** 7名、1団体**【奨励賞】** 4名**平成15年度****【功労者賞】**

ひょうたん池自然を考えよう会 (西貝地区)

【優秀指導者賞】

藤田愛美 (磐田市水泳協会)

浅井愛美 (磐田市水泳協会)

内藤有美 (磐田市水泳協会)

水谷 隼 (磐田卓球協会)

矢部小織 (磐田市陸上競技協会)

川口直哉 (磐田市陸上競技協会)

吉住普一 (磐田市陸上競技協会)

鈴木義啓 (磐田市陸上競技協会)

中村太一 (磐田市陸上競技協会)

小林実央 (磐田市陸上競技協会)

原田拓也 (磐田市陸上競技協会)

【優秀チーム】

神明中学校男子バレー部 (磐田市バレーボール協会)

ヤマハ発動機株式会社ラグビー部

平成16年度**【功労者賞】**

服部康夫 (野球連盟磐田支部)

鈴木延夫 (野球連盟磐田支部)

大庭正裕 (磐田卓球協会)

榎本行宏 (磐田バスケットボール協会)

鈴木淑文 (磐田ゲートボール協会)

井口高男 (御厨地区)

【優秀指導者賞】

鈴木晴彦 (南御厨地区)

川島嘉享 (南御厨地区)

山田辰正 (南御厨地区)

【優秀選手賞】

川口直哉 (磐田市陸上競技協会)

三浦研人 (磐田市陸上競技協会)

石川 徹 (磐田市陸上競技協会)

小栗有紀子 (磐田市陸上競技協会)

小林実央 (磐田市陸上競技協会)

中村太一 (磐田市陸上競技協会)

水谷茉央 (磐田卓球協会)

松島美智留 (磐田市テニス協会)

原田恵美 (磐田市テニス協会)

内藤有美 (磐田市水泳協会)

浅井愛美 (磐田市水泳協会)

厚海実咲 (磐田市水泳協会)

村松杏莉 (磐田市水泳協会)

黒野大地 (磐田市水泳協会)

山村 亮 (ヤマハ発動機株式会社ラグビー部)

【優秀チーム】

磐田農業高等学女子メドレーリレーチーム (磐田市水泳協会)

ヤマハ発動機株式会社ラグビー部

磐田市立東部小学校タグ・ラグビーチーム (磐田市ラグビーフットボール協会)

平成17年度

【功労者賞】

安部テル子	(磐田ゴルフ連盟)	磯部新市	(野球連盟磐田支部)
西島温行	(福田支部柔道)	兼子澄治	(大藤地区)
井口文雄	(磐田ゲートボール協会)	鈴木富貴子	(磐田卓球協会)
大石正之	(福田支部卓球)	本間郁朗	(福田支部卓球)
寺田せつ子	(磐田市バレーボール協会)	松下 孝	(磐田卓球協会)

【優秀指導者賞】

高橋寛二	(磐田卓球協会)	鶴飼知行	(福田支部卓球)
高橋尚久	(磐田市テニス協会)	中村志保	(磐田市ソフトボール協会)
松下美穂	(磐田市ソフトボール協会)	佐藤誠徳	(磐田市バレーボール協会)
山田和輝	(豊田支部アーチェリー)		

【優秀選手賞】

袴田好男	(磐田市ボウリング連盟)	川口直哉	(磐田市陸上競技協会)
天野 猛	(磐田市陸上競技協会)	小栗有紀子	(磐田市陸上競技協会)
坂口敦規	(磐田市陸上競技協会)	石川 徹	(磐田市陸上競技協会)
小山真一	(磐田市陸上競技協会)	牛尾桜子	(磐田市陸上競技協会)
厚海実咲	(磐田市水泳協会)	清水佑亮	(磐田市水泳協会)
中内美奈	(磐田市水泳協会)	薩川知成	(磐田アマチュアボクシング協会)
鈴木早緒美	(磐田市アーチェリー協会)	村田有香	(磐田市アーチェリー協会)
クライム	(野球連盟磐田支部)		
磐田南高等学校400mリレーチーム	(磐田市陸上競技協会)		
磐田南高等学校1600mリレーチーム	(磐田市陸上競技協会)		
磐田農業高等学校女子400mメドレーリレーチーム	(磐田市水泳協会)		

【奨励賞】

平松功至	(磐田市陸上競技協会)	尾崎優太	(磐田市陸上競技協会)
大城彩貴	(磐田市陸上競技協会)	太田雅章	(磐田市相撲連盟)
水谷茉央	(磐田卓球協会)	夏目脩平	(磐田市テニス協会)
中村彩乃	(磐田市テニス協会)	古橋弘章	(磐田市テニス協会)
新井正登	(豊田支部体操)	豊田町卓球スポーツ少年団	(磐田卓球協会)

【特別賞】

松島美智留	(磐田市テニス協会)	原田恵美	(磐田市テニス協会)
内之倉奈未	(磐田市柔道協会)		

平成18年度

【功労者賞】

池田勝郊	(テンマススポーツ少年団)
西貝地区体育部	(西貝公民館)

【優秀指導者賞】

大庭正裕	(磐田卓球協会)	平野勝典	(磐田市テニス協会)
西村良子	(南御厨公民館)	春田昌恵	(豊岡支部剣道)

【優秀選手賞】

尾上裕香	(磐田市陸上競技協会)	平松功至	(磐田市テニス協会)
牛尾桜子	(磐田市陸上競技協会)	坂口淳規	(磐田市陸上競技協会)
島津香織	(磐田市陸上競技協会)	矢部小織	(磐田市陸上競技協会)
鈴木義啓	(磐田市陸上競技協会)	清水佑亮	(磐田市水泳協会)
中内美奈	(磐田市水泳協会)	中村彩乃	(磐田市テニス協会)
原田恵美	(磐田市テニス協会)	村田有香	(豊田支部アーチェリー)
西島温行	(磐田市柔道協会)		

【奨励賞】

夏目脩平	(磐田市テニス協会)	古橋弘章	(磐田市テニス協会)
大石悠太	(磐田市柔道協会)	河辺準平	(磐田市柔道協会)
福田柔道クラブ	(磐田市柔道協会)	豊岡中剣道部	(特定非営利活動法人磐田剣道連盟)

【特別賞】

太田雅章	(磐田市相撲連盟)
------	-----------

平成19年度

【功労者賞】

飯田 實	(磐田市陸上競技協会)	河合 清	(豊岡地区)
山川雄市	(野球連盟磐田支部)	大場直一	(豊田クラブスポーツ少年団)
福慶一男	(野球連盟磐田支部)	加茂 弘	(豊田グリーンズスポーツ少年団)

【優秀指導者賞】

寺田十郎	(福田本町野球スポーツ少年団)
江塚 悟	(磐田スモールキングススポーツ少年団)

【優秀選手賞】

青山為太郎	(特定非営利活動法人磐田剣道連盟)	夏目脩平	(磐田市テニス協会)
坂本 崇	(特定非営利活動法人磐田剣道連盟)	川口直哉	(磐田市陸上競技協会)
内田勝之	(特定非営利活動法人磐田剣道連盟)	白澤領亮	(磐田市陸上競技協会)
内田さくら	(特定非営利活動法人磐田剣道連盟)	尾上裕香	(磐田市陸上競技協会)
清水佑亮	(磐田市水泳協会)	加藤由記	(磐田市陸上競技協会)
福田 隼	(磐田市水泳協会)	大城彩貴	(磐田市陸上競技協会)
萩田遼介	(磐田市水泳協会)	平松功至	(磐田市陸上競技協会)
中内美奈	(磐田市水泳協会)	中村真悠子	(磐田市陸上競技協会)
永井明慶	(磐田市相撲連盟)	清川将貴	(磐田市陸上競技協会)
中村彩乃	(磐田市テニス協会)	伊藤省二	(磐田市陸上競技協会)
磐田南高等学校水泳部水球チーム			(磐田市水泳協会)
磐田農業高等学校水泳部800mリレーチーム			(磐田市水泳協会)
磐田農業高等学校水泳部400mメドレーリレーチーム			(磐田市水泳協会)

【奨励賞】

太田雅章	(磐田市相撲連盟)	赤堀結衣	(磐田市陸上競技協会)
黒野大地	(磐田市水泳協会)	小笠原琢磨	(磐田市アーチェリー協会)
竹之隈一郎	(磐田市陸上競技協会)	伊藤美誠	(磐田卓球協会)
福田中学校柔道部 鈴木悠仁 鈴木隆宗	(磐田市柔道協会)		
豊田南中学校女子ソフトテニス部	(磐田市ソフトテニス協会)		
東部小学校ラグビー部	(磐田市ラグビーフットボール協会)		
城山中学校水泳部(水泳)	(磐田市水泳協会)		

【特別賞】

竜洋FCスポーツ少年団 (磐田サッカー協会)

平成20年度

【功労者賞】

中山 守	(磐田市テニス協会)	川合基之	(豊岡地区陸上)
太田英哉	(福田地区)	深田清次	(豊岡地区陸上)
新味善弘	(福田地区)		

【優秀指導者賞】

松井文孝	(磐田市バレーボール協会)	市村 智氏	(磐田市バレーボール協会)
竹下良道	(磐田スモールキングススポーツ少年団)	栗田正孝	(福田サッカースポーツ少年団)

【優秀選手賞】

平松功至	(磐田市陸上競技協会)	青島綾子	(磐田市陸上競技協会)
高木桃子	(磐田市陸上競技協会)	白澤領亮	(磐田市陸上競技協会)
中村真悠子	(磐田市陸上競技協会)	栗田晃任	(磐田市陸上競技協会)
加藤由記	(磐田市陸上競技協会)	鈴木詩織	(磐田市陸上競技協会)
中村彩乃	(磐田市テニス協会)	吉永有里	(特定非営利活動法人磐田剣道連盟)
清川将貴	(磐田市陸上競技協会)	金田有加	(磐田市水泳協会)
夏目脩平	(磐田市テニス協会)	小笠原琢磨	(磐田市アーチェリー協会)
中山亮介	(特定非営利活動法人磐田剣道連盟)		

【奨励賞】

長谷川新	(磐田市テニス協会)	高田晴揮	(磐田市テニス協会)
新村優理子	(磐田市テニス協会)	伊藤美誠	(磐田卓球協会)
太田雅章	(磐田市相撲連盟)		
磐田市立東部小学校ラグビー部	(磐田市ラグビーフットボール協会)		

編集後記

特定非営利法人磐田市体育協会が、創立60周年を迎えました。

多くの市民の皆様を支えられ、様々な出来事があった10年間です。今年度に入り60周年記念式典、記念誌の準備に取り掛かり、本日記念すべき式典の当日を迎えました。私たち実行委員の思いが詰まった記念誌も皆様のお手元にお届けすることが出来、大変うれしく思っています。幾度となく繰り返された実行委員会会議では、様々な意見交換が交わされ、多くの課題や準備作業に奔走する日々が続き、一年が過ぎて行きました。

創立60周年が、新しい歴史を作っていくステップとなり、これからの時代を担う磐田の子供たちにメッセージを残し、市民の皆様と共に次の10年に向かって一步一步進んでほしいと願っています。

平成22年2月7日

創立60周年記念誌 編集長 山下 安範



創立60周年記念
NPO法人磐田市体育協会 体育史
～合併からの飛躍～

平成22年2月7日 発行

編集・発行 特定非営利活動法人磐田市体育協会
制 作 創立60周年記念実行委員会
印刷・製本 松本印刷株式会社

